西山町文化財調査報告書第７集

新潟県刈羽郡西山町

宮ノ前遺跡発掘調査報告書

—県営ほ場整備事業北野地区に伴う発掘調査—

２００３年３月

西山町教育委員会

新潟県刈羽郡西山町

宮ノ前遺跡発掘調査報告書

—県営ほ場整備事業北野地区に伴う発掘調査—

2003年3月

西山町教育委員会

例　言

1．本書は、新潟県刈羽郡西山町大字北野字宮ノ前に所在する宮ノ前遺跡の発掘調査報告書である。

2．発掘調査は、県営ほ場整備事業北野地区に伴い西山町が柏崎農地事務所と費用負担契約を交わして実施した。

3．調査主体は西山町教育委員会であり、分布調査は新潟県教育庁文化行政課職員の派遣を受けて実施した。発掘調査は平成11年４月19日から同年10月８日までの延べ86日間行い、引き続き平成15年３月14日まで報告書作成を行った。

4．調査費用は90％を農政部局が、残りの10％を文化財保護部局が負担した。平成11年度保護部局負担のうち50％は国庫補助金、25％は県費補助金を受けた。

5．遺物の注記には遺跡の略称として「ミヤ」を用い、調査年度である99を付した。出土資料及び記録は西山町教育委員会で保管している。

6．本報告書の作成は中島義人の指示のもと整理作業員が行い、本文の執筆及び編集は中島が行った。

7．本文・図版中の北は真北を指す。磁北は真北より西偏約７度34分である。遺構表記中の方位は真北に対するものである。

8．遺物実測図の縮尺は１：３を基本とし、大型の甕や木製品などは適宜縮尺を変更した。

9．遺構番号は掘立柱建物を除き、通し番号とした。遺構の表記には以下の略号を用いた。
掘立柱建物…ＳＢ　井戸…ＳＥ　土坑…ＳＫ　柱穴・ピット…ＳＰ　溝…ＳＤ

10．遺構平面図の作成及び諸測量、空中写真の撮影は（株）朝日航洋に委託して行った。

11．現場の土色観察及び土器の色調観察には『新版標準土色帖』（小山・竹原1967）を用いた。

12．発掘調査においては北野集落の皆様の多大な御理解・御協力をいただきました。また、北野・大坪・妙法寺・内方・五日市・新保・坂田集落の皆様からは、調査作業員として御協力を賜りました。ここに厚くお礼を申し上げます。

13．発掘調査から報告書作成に至るまで以下の方々及び機関から御教示・協力を頂いた。記して感謝申し上げます。

宇野隆夫　尾崎高宏　春日真実　川村　尚　北野博司　北村　亮　田中　亨
笹沢正史　高橋　勉　田辺早苗　前川　要　望月精司　新潟県柏崎農地事務所
新潟県教育委員会文化行政課　刈羽村教育委員会

凡　例

土師器・青磁　須恵器・珠州焼　灰釉陶器
土器・木製品漆塗り　黒漆塗り　朱漆塗り
黒色処理　煤

目　　次

第Ⅰ章　調査経緯 …… 1

1．調査に至る経緯 …… 1

2．調査体制 …… 1

第Ⅱ章　遺跡の環境 …… 2

1．地理的環境 …… 2

2．歴史的環境 …… 2

第Ⅲ章　遺構と遺物 …… 6

1．遺構の概観 …… 6

2．遺物の概観 …… 6

a．土器・陶磁器 …… 6

i．古墳時代 …… 6

ii．奈良・平安時代 …… 6

iii．中世以降 …… 7

b．漆器・木器・木製品 …… 7

3．調査の方法 …… 7

4．遺構・遺物 …… 8

第Ⅳ章　まとめ …… 39

1．古墳時代の遺物 …… 39

2．平安時代の遺物 …… 40

3．中世の土器・陶磁器 …… 42

4．平安時代の宮ノ前遺跡 …… 43

《要　約》 …… 44

《引用・参考文献》 …… 45

表　目　次

掘建柱建物計測表 ……47
遺構一覧表 ……48
遺物観察表 ……50

挿図目次

第１図　宮ノ前遺跡と周辺の遺跡　（ｓ＝１：50,000）……3
第２図　発掘調査範囲図　（ｓ＝１：5,000）……4
第３図　グリッド設定図（ｓ＝１：750）……8
第４図　宮ノ前遺跡・畠田遺跡出土の古墳時代の須恵器 ……40
第５図　土師器無台碗法量散布図 ……41
第６図　古代土器の編年案 ……42

図版目次

図面図版

図版１　遺構全体実測図１　１：100
図版２　遺構全体実測図２　１：100
図版３　遺構全体実測図３　１：100
図版４　遺構全体実測図４　１：100
図版５　遺構全体実測図５　１：100
図版６　遺構全体実測図６　１：100
図版７　遺構全体実測図７　１：100
図版８　遺構全体実測図８　１：100
図版９　掘建柱建物実測図１（ＳＢ－１）　１：80
図版10　掘建柱建物実測図２（ＳＢ－２）　１：80
図版11　掘建柱建物実測図３（ＳＢ－３）　１：80
図版12　掘建柱建物実測図４（ＳＢ－４，ＳＫ－608，ＳＢ－５）　１：80
図版13　掘建柱建物実測図５（ＳＢ－６，ＳＢ－７）　１：80
図版14　掘建柱建物実測図６（ＳＢ－８，ＳＢ－９，ＳＢ－10）　１：80
図版15　掘建柱建物実測図７（ＳＢ－11，ＳＢ－12，ＳＢ－13）　１：80
図版16　掘建柱建物実測図８（ＳＢ－14，ＳＢ－15，ＳＢ－16，ＳＢ－17）　１：80
図版17　掘建柱建物実測図９（ＳＢ－18，ＳＢ－19）　１：80

図版18　掘建柱建物実測図10（ＳＢ－20，ＳＢ－21）　１：80
図版19　掘建柱建物実測図11（ＳＢ－22，ＳＢ－23）　１：80
図版20　遺構個別実測図１　（ＳＫ15，ＳＥ33，ＳＰ50，ＳＫ51，ＳＥ56，ＳＫ66，ＳＥ67）
図版21　遺構個別実測図２　（ＳＫ70，ＳＥ78，ＳＰ119，ＳＫ178，ＳＫ181，ＳＥ199，ＳＰ203，ＳＰ221，ＳＥ236）
図版22　遺構個別実測図３　（ＳＫ255，ＳＫ470，ＳＫ498，ＳＤ515）
図版23　遺構個別実測図４　（ＳＫ101，ＳＰ102，ＳＫ325）
図版24　遺構個別実測図５　（ＳＫ504）
図版25　遺構個別実測図６　（ＳＫ505，ＳＤ507，ＳＰ508）
図版26　遺構個別実測図７　（ＳＥ516，ＳＰ519，ＳＫ524，ＳＰ539，ＳＥ604，ＳＥ605，ＳＥ606）
図版27　遺構個別実測図８　（ＳＥ609，ＳＥ1092，ＳＰ632，ＳＫ614，ＳＫ722，ＳＤ812）
図版28　遺構個別実測図９　（ＳＥ873，ＳＥ875，ＳＫ896，ＳＰ966，ＳＰ979，ＳＥ1028，ＳＥ1052）
図版29　遺構個別実測図10　（ＳＫ1070，ＳＥ1071，ＳＥ1074，ＳＥ1075，ＳＥ1076）
図版30　遺構個別実測図11　（ＳＩ1073）
図版31　遺構個別実測図12　（ＳＥ1077，ＳＫ1081，ＳＥ1089，ＳＥ1090，ＳＫ1091，ＳＥ1096，ＳＫ1120）
図版32　遺構個別実測図13　（ＳＥ1097Ａ，ＳＫ1097Ｂ）
図版33　遺構個別実測図14　（ＳＫ1130，ＳＥ1149，ＳＫ1324，ＳＫ1332，ＳＥ1501）
図版34　遺構個別実測図15　（ＳＫ1502，ＳＫ1503，ＳＥ2258）
図版35　遺構個別実測図16　（ＳＫ1533，ＳＫ1532，ＳＫ1561，ＳＫ1557，ＳＥ1569，ＳＥ1564，ＳＥ1576，ＳＫ1595，ＳＥ1603）
図版36　遺構個別実測図17　（ＳＥ1618，ＳＫ1628，ＳＫ1623，ＳＫ1638，ＳＫ1639）
図版37　遺構個別実測図18　（ＳＫ1647，ＳＫ1709，ＳＫ1677，ＳＥ1711）
図版38　遺構個別実測図19　（ＳＫ1678，ＳＫ1679，ＳＫ2255）
図版39　遺構個別実測図20　（ＳＫ1729，ＳＫ1772，ＳＥ1801，ＳＫ2163，ＳＫ2167，ＳＫ2172，ＳＫ1844，ＳＫ2109）
図版40　遺構個別実測図21　（ＳＫ2222，ＳＫ2237，ＳＫ2238，ＳＤ1321，ＳＤ1083）
図版41　遺物実測図１　（ＳＢ１，ＳＢ３出土遺物）
図版42　遺物実測図２　（ＳＢ４，ＳＢ６，ＳＢ７，ＳＢ８，ＳＢ９，ＳＢ10，ＳＢ14，ＳＢ15，ＳＢ17，ＳＢ23，ＳＫ15出土遺物）
図版43　遺物実測図３　（ＳＥ33，ＳＰ50，ＳＫ51出土遺物）
図版44　遺物実測図４　（ＳＫ51出土遺物）
図版45　遺物実測図５　（ＳＫ51出土遺物）
図版46　遺物実測図６　（ＳＥ56，ＳＫ66，ＳＥ67出土遺物）
図版47　遺物実測図７　（ＳＫ70，ＳＥ78，ＳＰ119，ＳＫ178，ＳＫ181，ＳＥ199，ＳＰ203，ＳＰ221，ＳＥ236出土遺物）
図版48　遺物実測図８　（ＳＫ255，ＳＫ325出土遺物）

図版49　遺物実測図９　（ＳＫ470，ＳＫ498，ＳＫ504出土遺物）
図版50　遺物実測図10　（ＳＫ504，ＳＫ505出土遺物）
図版51　遺物実測図11　（ＳＫ505，ＳＤ507，ＳＰ508，ＳＰ519，ＳＥ516，ＳＫ524，ＳＰ539出土遺物）
図版52　遺物実測図12　（ＳＤ515，ＳＥ604，ＳＥ605出土遺物）
図版53　遺物実測図13　（ＳＥ606，ＳＫ608，ＳＥ609，ＳＫ614，ＳＰ632，ＳＫ722，ＳＤ812出土遺物）
図版54　遺物実測図14　（ＳＥ873，ＳＥ875，ＳＫ896出土遺物）
図版55　遺物実測図15　（ＳＰ966，ＳＰ979，ＳＥ1028，ＳＥ1052，ＳＫ1070出土遺物）
図版56　遺物実測図16　（ＳＫ1070，ＳＥ1071，ＳＩ1073出土遺物）
図版57　遺物実測図17　（ＳＩ1073，ＳＫ1074，ＳＥ1075出土遺物）
図版58　遺物実測図18　（ＳＥ1075出土遺物）
図版59　遺物実測図19　（ＳＥ1076，ＳＥ1077，ＳＫ1081出土遺物）
図版60　遺物実測図20　（ＳＤ1083，ＳＥ1089，ＳＥ1090出土遺物）
図版61　遺物実測図21　（ＳＥ1092，ＳＫ1091出土遺物）
図版62　遺物実測図22　（ＳＥ1096，ＳＥ1097Ａ，ＳＫ1097Ｂ出土遺物）
図版63　遺物実測図23　（ＳＫ1097Ｂ，ＳＫ1120，ＳＫ1130，ＳＥ1149，ＳＤ1321，ＳＫ1324，ＳＫ1332出土遺物）
図版64　遺物実測図24　（ＳＥ1501出土遺物）
図版65　遺物実測図25　（ＳＫ1503，ＳＥ2258，ＳＫ1532，ＳＫ1533出土遺物）
図版66　遺物実測図26　（ＳＫ1557，ＳＫ1561，ＳＥ1564，ＳＥ1569出土遺物）
図版67　遺物実測図27　（ＳＥ1576，ＳＫ1595，ＳＥ1603出土遺物）
図版68　遺物実測図28　（ＳＥ1618，ＳＫ1623，ＳＫ1628，ＳＫ1638，ＳＫ1639，ＳＫ1647出土遺物）
図版69　遺物実測図29　（ＳＫ1677，ＳＫ1678，ＳＫ1679出土遺物）
図版70　遺物実測図30　（ＳＫ2255，ＳＫ1709，ＳＥ1711，ＳＫ1729，ＳＫ1772出土遺物）
図版71　遺物実測図31　（ＳＥ1801，ＳＫ1844，ＳＫ2109，ＳＫ2163，ＳＫ2167出土遺物）
図版72　遺物実測図32　（ＳＫ2172，ＳＫ2222，ＳＫ2237，ＳＫ2238，ＳＰ2239，試掘，包含層出土遺物）
図版73　遺物実測図33　（包含層出土遺物）

写真図版

図版74　遺跡全景
図版75　遺跡遠景１・２
図版76　掘立柱建物群
図版77　遺構個別写真１（ＳＢ15～ＳＢ19，ＳＢ21，ＳＢ22，ＳＢ21－Ｐ１，ＳＢ１－Ｐ３，ＳＢ１－Ｐ４，ＳＢ１－Ｐ６，ＳＢ１周溝）
図版78　遺構個別写真２（ＳＢ５－Ｐ10，ＳＢ７－Ｐ７，ＳＢ８－Ｐ１，ＳＥ33，ＳＫ51，ＳＥ56，ＳＥ67）
図版79　遺構個別写真３（ＳＫ70，ＳＥ78，ＳＫ178，ＳＥ199，ＳＫ255，ＳＫ325，ＳＫ470）

図版80　遺構個別写真４（ＳＫ504，ＳＫ505，ＳＰ508，ＳＥ605）
図版81　遺構個別写真５（ＳＥ606，ＳＫ608，ＳＫ614，ＳＥ1092，ＳＥ873，ＳＥ875）
図版82　遺構個別写真６（ＳＫ896，ＳＥ1028，ＳＫ1070，ＳＥ1071，ＳＩ1073，ＳＫ1074，ＳＥ1075）
図版83　遺構個別写真７（ＳＥ1075，ＳＥ1076，ＳＥ1077，ＳＤ1083）
図版84　遺構個別写真８（ＳＥ1089，ＳＥ1090，ＳＫ1091，ＳＥ1096，ＳＥ1097Ａ）
図版85　遺構個別写真９（ＳＥ1097Ａ，ＳＫ1097Ｂ，ＳＤ1321，ＳＥ1501，ＳＫ1502，ＳＫ1503）
図版86　遺構個別写真10（ＳＫ1561，ＳＥ1576，ＳＥ1603，ＳＥ1618，ＳＫ1628，ＳＫ1638，ＳＫ1647）
図版87　遺構個別写真11（ＳＫ1677，ＳＫ1678，ＳＫ1679，ＳＫ2255，ＳＫ1709，ＳＥ1711，ＳＫ1729，ＳＫ1772，ＳＫ1844）
図版88　遺構個別写真12（ＳＫ1844，ＳＫ2109，ＳＫ2163，ＳＫ2167）
図版89　遺物写真１（ＳＢ１，ＳＢ３，ＳＢ４，ＳＢ６，ＳＢ７）
図版90　遺物写真２（ＳＢ８，ＳＢ９，ＳＢ14，ＳＢ15，ＳＢ17，ＳＥ33，ＳＫ51）
図版91　遺物写真３（ＳＫ51，ＳＥ56，ＳＫ66，ＳＥ67）
図版92　遺物写真４（ＳＥ78，ＳＰ119，ＳＫ178，ＳＫ181，ＳＥ199，ＳＰ203，ＳＥ236，ＳＰ221，ＳＫ255，ＳＫ325，ＳＫ470）
図版93　遺物写真５（ＳＫ498，ＳＫ504）
図版94　遺物写真６（ＳＫ505，ＳＤ507，ＳＰ508，ＳＰ519，ＳＤ515，ＳＥ516）
図版95　遺物写真７（ＳＫ524，ＳＰ539，ＳＥ604，ＳＥ605，ＳＥ606，ＳＫ608，ＳＥ609，ＳＫ614，ＳＰ632，ＳＫ325，ＳＤ812）
図版96　遺物写真８（ＳＥ873，ＳＥ875，ＳＫ896，ＳＰ966，ＳＰ979，ＳＥ1028，ＳＥ1052，ＳＫ1074）
図版97　遺物写真９（ＳＫ1070，ＳＩ1073）
図版98　遺物写真10（ＳＩ1073，ＳＥ1075，ＳＥ1076）
図版99　遺物写真11（ＳＥ1076，ＳＥ1077，ＳＤ1083，ＳＥ1089，ＳＥ1090，ＳＥ1092）
図版100　遺物写真12（ＳＫ1091，ＳＥ1096，ＳＥ1097Ａ，ＳＫ1097Ｂ）
図版101　遺物写真13（ＳＥ1097Ａ，ＳＫ1097Ｂ，ＳＫ1120，ＳＫ1130，ＳＤ1321）
図版102　遺物写真14（ＳＥ1501，ＳＫ1503，ＳＫ1532，ＳＫ1533）
図版103　遺物写真15（ＳＫ1561，ＳＥ1564，ＳＥ1576，ＳＫ1595，ＳＥ1603，ＳＫ1623，ＳＫ1628，ＳＫ1638，ＳＫ1639，ＳＫ6147）
図版104　遺物写真16（ＳＫ1628，ＳＫ1677，ＳＫ1678，ＳＫ1679）
図版105　遺物写真17（ＳＫ2255，ＳＫ1709，ＳＫ1729，ＳＫ1772，ＳＥ1081，ＳＫ1844，ＳＫ2172，ＳＫ2222，ＳＫ2237，ＳＫ2238，ＳＰ2239）
図版106　遺物写真18（包含層出土遺物）
図版107　遺物写真19
図版108　遺物写真20
図版109　遺物写真21
図版110　遺物写真22

第Ⅰ章　調査経緯

1．調査に至る経緯

西山町では農業の効率化と担い手の育成・確保と生活環境整備を目的に、北野地区において県営ほ場整備事業が計画され、新潟県柏崎農地事務所から西山町教育委員会に事業予定地内における埋蔵文化財に関する照会があった。これをうけて町教育委員会は新潟県教育庁文化行政課と協議し、工事範囲内に周知の遺跡はないが工事対象範囲が広大であることから、遺跡の有無を確認するため分布調査を行うこととした。町教育委員会は文化行政課に職員の派遣を要請し、職員の指導のもと事業計画地内の分布調査を平成10年３月に実施したところ、字畠田・宮ノ前・五十刈において古墳時代・古代の遺物が採集された。この結果をもとに町教育委員会と柏崎農地事務所で協議し、事業年度ごとに試掘調査を行い、当該工事範囲に遺跡が存在した場合、工事に先立って発掘調査を行うこととした。平成10年度は畠田遺跡が発見され、工事着工前に用排水路・揚水機場予定地で発掘調査を行った（西山町教育委員会2001）。平成11年度の工事地区は宮ノ前地区で、平成10年の稲刈りが終了してから試掘調査を行った。その結果、北野八幡社前の水田でピット・土坑などの遺構が見つかり、須恵器・土師器・灰釉陶器・珠洲焼などの遺物が出土した。この地区は過去のほ場整備により地形が改変されており、田面の低いところは遺構面まで削られている。遺構が残存する範囲でも遺構面の直上に耕作土が堆積するという状況であった。町教育委員会は遺構・遺物が確認された範囲を新発見の宮ノ前遺跡として新潟県教育長へ報告し、試掘調査の結果をもとに柏崎農地事務所と工事計画などについて協議した。その結果、工事において遺跡範囲での掘削は避けられないということとなり、記録保存のための発掘調査を工事に先立って行うこととなった。発掘調査面積は3,850㎡である。

柏崎農地事務所長は平成11年１月14日付け柏農地第3410号で文化庁長官へ文化財保護法第57条の３第１項の規定による通知を提出し、新潟県教育長は平成11年２月８日付け教文第1084号で柏崎農地事務所長へ発掘調査が必要である旨通知した。平成11年４月12日付けで、柏崎農地事務所と西山町が発掘調査の費用負担契約を交わし、西山町教育委員会が主体となって発掘調査を実施した。文化財保護法第98条の２による通知は、平成11年４月19日付け西教第111号によって西山町教育長から文化庁長官へ提出し、発掘調査に着手した。

2．調査体制

分布調査（平成10年３月12日～13日）

調査主体　西山町教育委員会（教育長　三嶋千穎）
総　　括　伊比弘毅（西山町教育委員会教育課長）
庶　　務　力間久代（　　〃　　主　　査）
調 査 員　村木　弘（新潟県教育庁文化行政課　主任調査員）
　　島田昌幸（　　〃　　文化財調査員）

試掘調査（平成10年10月５日、10日）

発掘調査（平成11年４月19日～10月８日）

調査主体　西山町教育委員会（教育長　三嶋千穎）

総　　括　伊比弘毅（西山町教育委員会教育課長）

庶　　務　力間久代（　　〃　　副参事）

調査担当　中島義人（　　〃　　主事）

第Ⅱ章　遺跡の環境

１．地理的環境

西山町は新潟県の海岸線の中央やや南よりの柏崎平野の北端に位置する中山間地域である。行政区域は東西15.47㎞、南北13.75㎞、面積56.63㎢である。出雲崎町・長岡市・刈羽村・柏崎市に囲まれ、西は日本海に面す。海岸沿いを走る西山丘陵は柏崎平野の海岸部の荒浜砂丘に端を発し、国上・角田・弥彦山へ海岸部を走る。この丘陵が海岸部を走ることから海岸線に砂浜は部分的にしか見られず、岩が露頭するところが多い。東頸城丘陵の北部に当たる曾地丘陵は標高300m～350m前後で北へ伸びる。西山・曾地丘陵は褶曲構造が発達し、この背斜軸に沿って形成された吉井・西山・関原などの油田・ガス田を古くから活用した形跡があり、近代石油産業の発祥の地のひとつに上げられる。

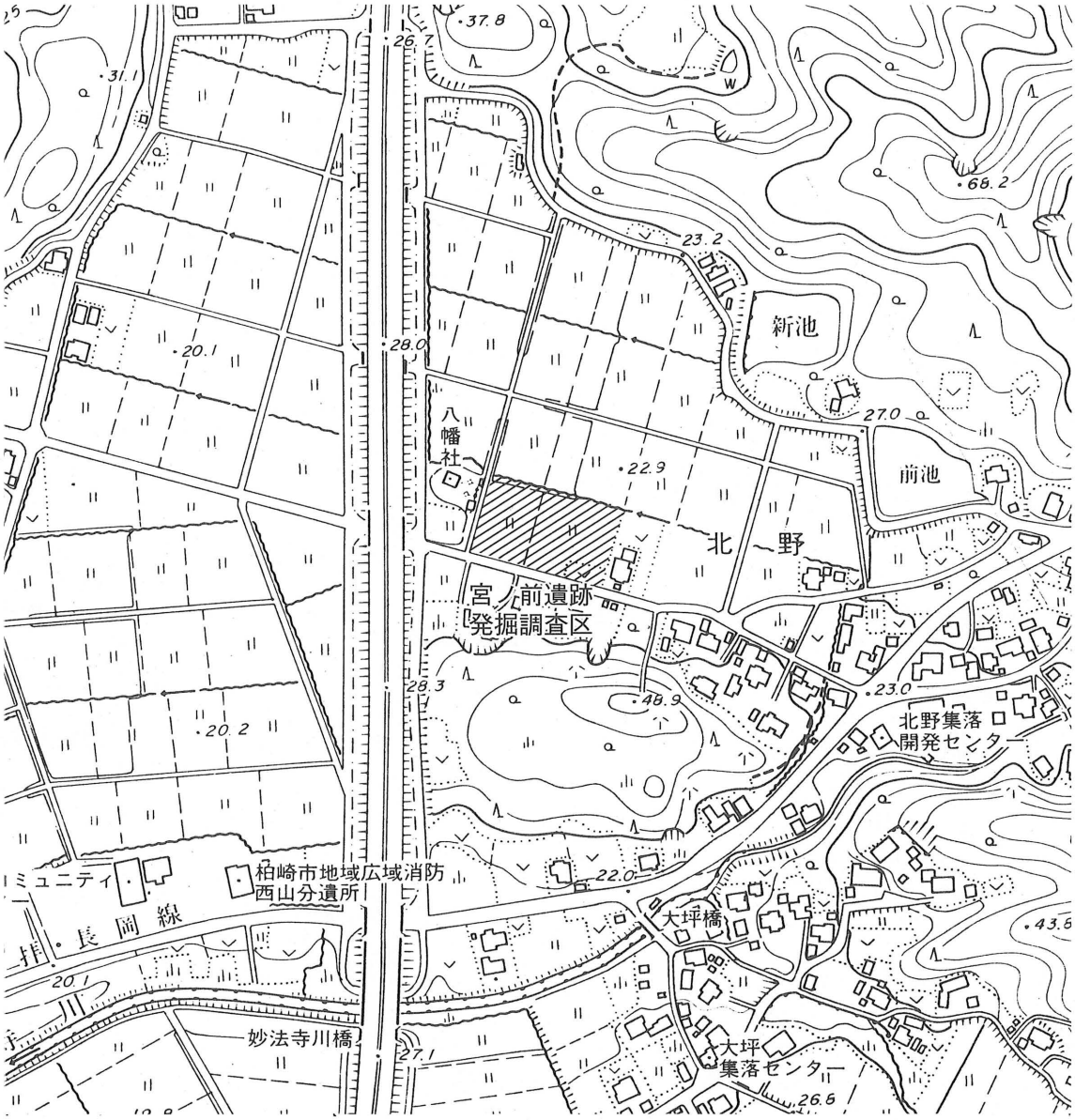
西山丘陵と曾地丘陵の間を別山川が南流する。西山町と出雲崎町の境を源流にするこの川は西山町・刈羽村を貫流して鯖石川に合流して日本海に流れ込む。町内の平野はこの別山川流域と、二つの丘陵に直行する支尾根の間に広がる。別山川の延長線上には新潟平野へ北流する島崎川があり、この両河川沿いは柏崎平野から新潟平野への重要な交通路として利用されたみられ、旧北陸道もこの河川沿いを通ると考えられる。別山川の両岸には所々に小規模な独立した段丘が形成され、この段丘上、もしくは周辺に多くの遺跡が存在する。

宮ノ前遺跡の所在する北野地区は西山町の南部地区で刈羽村との境界に近い。曾地丘陵から別山川に流れ込む妙法寺川の北岸、妙法寺峠越えで大積（現長岡市）に通じる道沿いに位置する。集落の西側には曾地丘陵の支尾根が迫り、遺跡の南方約250mには妙法寺川が流れる。遺跡の標高は約22mである。

２．歴史的環境

西山町は現在刈羽郡に属しているが、この名称は14世紀頃から私的に使われ始め、江戸時代から公式に用いられたとされる。それ以前は古志郡、９世紀初頭頃に分立して三嶋郡に属したとされる。古墳時代には越国、天武・持統朝の頃（680～690年頃）に越前・越中・越後に三分割された。分割当初の古志郡は越中国に属しており、８世紀初頭に頸城・魚沼・蒲原郡とともに越後国に編入された。三嶋郡には三嶋・高家・多岐の３郷の名が見られ、そのうち多岐郷が別山川流域

第１図　宮ノ前遺跡と周辺の遺跡（古墳時代・平安時代・中世）　（Ｓ＝１：50,000）



第２図　発掘調査範囲図（Ｓ＝1：5,000）

に比定されている。その他の地名では長橋庄・野崎保が町内に比定される。延喜式内社は二田物部神社・御島石部神社・石井神社・多岐神社の名が西山町に残る。

西山町で確認されている埋蔵文化財包蔵地は173件あるがその多くは塚で、塚が盛んに築かれる中越地方の特徴が表れている。遺物包含地・集落跡は18件、城館跡は11件である。縄文時代の遺跡には海岸部の高塩Ａ遺跡、仁位殿遺跡、大津遺跡と内陸部の多岐の脇遺跡・野崎遺跡・砂田遺跡・坪之内遺跡があり、前期から晩期までのものが確認される。弥生時代の遺跡には内越遺跡、坪之内遺跡、坂田遺跡、野崎遺跡がある。

古墳時代の遺跡の中で発掘調査が行われているものは高塩Ｂ遺跡、畠田遺跡である。高塩Ｂ遺跡は海岸部の砂丘上に立地する。住居跡などの遺構は確認されず、包含層から古墳時代前期及び後期の遺物が出土した。両時期の遺物はそれぞれ時期的なまとまりが認められる。古墳時代前期の遺物は小型丸底坩・小型器台・Ｓ字状口縁甕・鉢などがあり、畿内や東海などの影響がみられ

る（西山町教委1983）。畠田遺跡は宮ノ前遺跡に隣接する遺跡で竪穴住居３棟が検出された。ここでは、古墳時代の須恵器の出土量がやや多いのが目立つ。器種には蓋杯・高坏・瓿・甕があり、時期は５世紀末葉から６世紀前半とみられる（西山町教委2001）。

奈良・平安時代遺構の遺跡で発掘調査が行われたものに尾野内遺跡・井ノ町遺跡・坪之内遺跡などがある。尾野内遺跡は平安時代・中世の複合遺跡で、平安時代の竪穴住居、中世の土壙墓などが見つかった（新潟県教委1982）。井ノ町遺跡は奈良・平安時代の遺跡で、大型の柱穴を持つ掘立柱建物と河川跡が見つかった。また、包含層からは製鉄関連の遺物が多量に出土し、周辺の丘陵における製鉄が想定される（西山町教委2001）。坪之内遺跡は掘立柱跡１棟が検出され、須恵器・土師器などとともに緑釉陶器の皿が１点出土した。このほか奈良・平安時代以降の未調査の遺跡に坂田遺跡・野崎遺跡などがある。

中世以降の遺跡の調査例は少なく、尾野内遺跡で中世末期から近世初頭の土壙墓が検出されている。山城は町内各所にあり、海岸線沿いの鎌田城・大崎城・甲田城、別山川沿いの二田城・高内城が大きなもので、他に小規模な山城が各所に築かれる。尾頃部の館跡は土留めと段切りが見られる館跡で高内城との関連が想定される。

第Ⅲ章　遺構と遺物

1．遺構の概観

検出された遺構はすべて通し番号を付して調査を行った。掘立柱建物跡は別に通し番号を付けた。遺構の種別の標記には以下の略号を用いた。

掘立柱建物（ＳＢ）　建物内柱穴に通し番号を付け、Ｐ１、Ｐ２…と表す。建物軸は両梁の中央を結ぶ線の真北からの偏りで表す。

井戸（ＳＥ）　当遺跡で検出された井戸では、井戸側などの構造物が残存しているものはない。大型で深いもの、平面規模に対して深いものを井戸とした。

土坑（ＳＫ）　円形、楕円形、不定形、方形のものがある。浅いものが多い。

ピット（ＳＰ）　その多くは掘立柱建物などの柱穴であろうが、建物構成が確認できないものである。

竪穴状遺構（ＳＩ）　一基検出している。柱穴は検出されていない。

溝（ＳＤ）　雨落ち溝、遺跡を分断する区画溝などがある。

2．遺物の概観

a．土器・陶磁器

i．古墳時代

古墳時代の遺物には土師器・須恵器がある。遺構出土品もあるが、平安時代など後世の遺構に混入しているものが多い。

当期の遺物の出土量はそれほど多くないため、細分は行わない。須恵器には蓋杯・瑕が、土師器では高杯、甕がみられる。土師器高杯には黒色処理を施すものがある。

ii．奈良・平安時代

奈良時代の遺物は少量が出土している。平安時代の遺物は当遺跡で量が最も多い。須恵器・土師器・灰釉陶器・木製品などがある。実測図の掲載は遺構出土の遺物を中心に行った。

須恵器

器種は杯蓋・有台杯・無台杯・有台碗・鉢・瓶・広口瓶・横瓶・甕がある。

土師器

器種は無台碗・有台皿・甕・鍋がある。当期の土師器はロクロ成形によるものがほとんどであるため、特に断らない場合はロクロ土師器を指す。器種の細分は出土量の多い無台碗に行った。

無台碗

出土遺物の中でもっとも量が多い。底部の切り離し技法は回転糸切り無調整のものがほとんどである。口縁部形態でＡ１，Ａ２，Ｂ１，Ｂ２の４種に、法量ではⅠ（口径15cm以上）、Ⅱ（口径14cm前後）、Ⅲ（11cm～13.5cm）、Ⅳ（11cm以下）の４種に分類した。

Ａ１類…体部が丸く張り口縁部が内湾気味に収まる。

Ａ２類…体部が丸味を帯びて張り、口縁部もしくは口縁端部が外反する。

Ｂ１類…体部が直線的に開き、口縁部はやや内湾気味に収まる。

Ｂ２類…体部が直線的に開き、口縁部が外反する。

黒色碗

内面に黒色処理を施す碗である。無台碗のみが認められる。形態・法量分類は無台碗に倣った。

有台皿

長い高台を持ち黒色処理を行う。

甕

出土量はやや多いものの、全形を捉えられるものはない。

灰釉陶器

須恵器・土師器に比べると出土量は少ないが、定量出土している。有台碗・有台皿・耳皿・壷・瓶が出土している。器種ごとの細分は行っていない。

ⅲ．中世以降

中世以降には、珠洲焼・古瀬戸・青磁・カワラケ（土師器皿）などがある。

珠洲焼き

擂鉢・壷・甕がある。中世以降の陶磁器では最も多い。

古瀬戸

袴腰形香炉と小壷が各１点出土している。

青磁

碗・皿が出土した。皿には稜花皿が１点含まれる。

カワラケ

中世土師器皿である。煩雑となるためカワラケと称する。カワラケは手捏ね成形（Ｔ類）とロクロ成形（Ｒ類）に分ける。

ｂ．漆器・木器・木製品

土器類と共伴するものについては時代を限定できるが、単独で出土したものに時代が不明なものが多い。漆器には椀・皿、木器には曲物・箱物・折敷があり、その他の箸、杓子、匙、俎板、矢板、鍬、下駄、陽物等、用途不明の部材などを木製品とした。

３．調査の方法

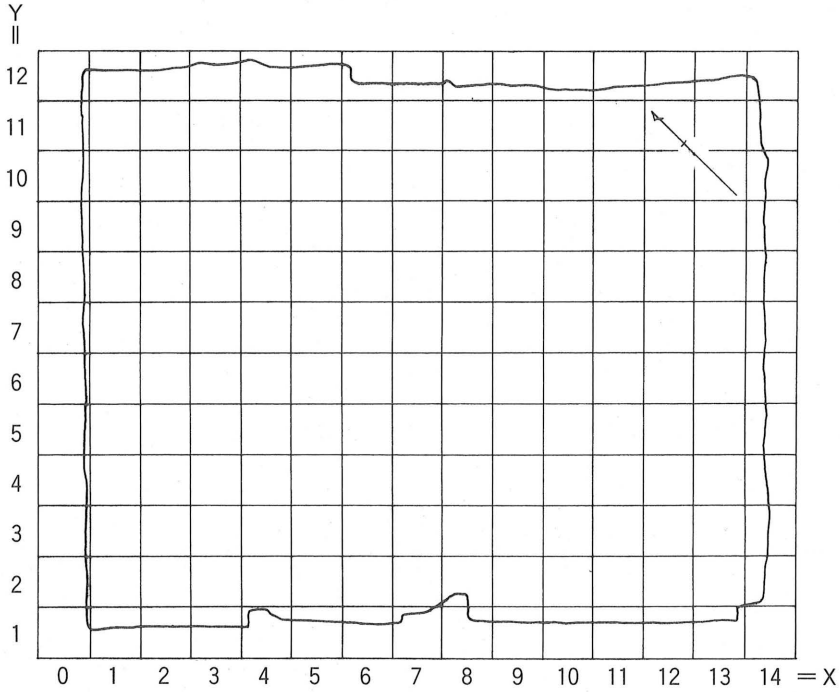
発掘調査はほ場整備事業により掘削が行われ遺跡が破壊される、約55m×70mの長方形の範囲に対して行った。グリッド設定は調査区の形状に合わせ、調査区の長辺をＸ軸、短辺をＹ軸とし

て5m毎に杭を打ち、それぞれ番号を付した（第３図）。Ｘ軸は真北から西偏約46度である。

遺跡は過去のほ場整備による掘削で包含層はほとんど残っておらず、表土・耕作土の直下に遺構面が検出された。耕作土の除去は調査員が立ち会いのもと、遺物の出土を確認しながらバックホウで行い、その後人力で遺構面の検出及び精査を行った。

包含層は削られており、残っているところでも厚さ数cm程度であることから、包含層と表土・耕作土中から出土した遺物の区別はほとんど出来なかった。遺構以外から出土した遺物はグリッド毎に取り上げを行った。

基準点測量・水準測量・遺構平面図作成・空中写真撮影は（株）朝日航洋に委託して行った。



第３図　グリッド設定図（Ｓ＝1：750）

４．遺構・遺物

ＳＢ１（図版９）

梁間２間（6.20m）、桁行６間（13.56m）で、面積は84.07㎡、主軸は西偏56度である。北・東・南面に雨落ち溝を持つ。柱穴のプランは方形に近く、径0.6～1.0mである。Ｐ２、Ｐ６、Ｐ９で柱根が遺存し、その他の柱穴では柱痕が確認された。Ｐ４からほぼ完形の灯明皿に転用された土師器無台碗が出土した。

ＳＢ１出土遺物（図版41）

23は須恵器杯蓋で、端部は粗縁で直線的に収まる。１・４・６・15は須恵器無台杯で、底部はいずれも回転ヘラ切り後ナデを行う。１の口縁端部は内湾気味に収まる。２・３・７～10・12～14・18～22が土師器無台碗である。８・９・18がＡ１類、７がＡ２類、12がＢ１類、14・21がＢ２類である。８は口縁部に煤が付着し、ほぼ完形に遺存する。16は灰釉陶器の皿で口縁端部は短く外反する。胎土は精良緻密で、外面のロクロ痕が顕著である。施釉は内面と外面体部上半に認め

られる。５・17は須恵器甕もしくは横瓶の体部破片である。５は外面擬格子叩き後にカキメを施す。24は土師器甕の口縁部で口縁部が短く外反し端部をつまみ上げる。11は灰釉陶器で、長頸瓶のミニチュア土器である。体部に白色もしくは無色の釉がかかる。底部回転糸切り痕が残る。25～27は柱根でＰ６、Ｐ９、Ｐ２から出土している。

ＳＢ２（図版10）

梁間２間（5.48m）、桁行６間（14.74m）で、面積80.78㎡、主軸は西偏54度である。柱穴平面形は円形で、直径0.4m前後で深度は0.1～0.2mと浅いものが多い。柱間はほぼ等間隔である。

ＳＢ３（図版11）

梁間４間（7.76m）、桁行７間（15.64m）で、面積121.37㎡、主軸は西偏58度である。柱穴平面形は円形に近く、直径0.4～0.7mである。柱穴深度は0.2～0.3mと浅い。

ＳＢ３出土遺物（図版41）

32は須恵器無台杯で、底部は回転ヘラ切り、体部外面はロクロナデによる段が明瞭である。28～30・33は土師器無台碗である。28・29はＡ１Ⅲ類である。31は須恵器甕の体部破片で外面は擬格子叩き、内面の当て具痕は平行と同心円である。

ＳＢ４（図版12）

梁間２間（4.36m）、桁行４間（7.32m）で、面積31.92㎡、主軸は東偏35度である。柱穴平面形は隅丸方形に近く、直径0.7～0.9mである。Ｐ７がＳＫ608を切る。

ＳＢ４出土遺物（図版42）

37は須恵器無台杯で底部と体部の境にロクロケズリを行う。34・38は土師器無台碗で、34はＡ１Ⅲ類である。36は須恵器甕の体部、35は土師器甕である。35の口縁部は内側に折れて収まる。

ＳＢ５（図版12）

梁間２間（4.36m）、桁行５間（9.32m）で、面積40.64㎡、主軸は西偏53度である。柱穴平面形は円形で直径0.5m前後である。ＳＥ255、ＳＥ607に切られる。

ＳＢ６（図版13）

梁間１間（4.04m）、桁行３間（6.72m）で、面積27.15㎡、主軸は西偏52度である。北東面に廂を持つ柱穴平面形は円形で直径0.5m前後である。柱間は桁行が平均2.24mに対し、梁間が4.04mと長い。廂の奥行きは1.2mである。

ＳＢ６出土遺物（図版42）

39は須恵器甕の体部破片で外面に平行叩き、内面に同心円当て具痕がある。

ＳＢ７（図版13）

梁間１間（2.16m）、桁行４間（7.72m）で、面積16.68㎡、主軸は西偏51度である。柱穴平面形は隅丸方形で、直径は0.5～0.8mである。Ｐ７・Ｐ８・Ｐ９で柱痕を確認した。

ＳＢ７出土遺物（図版42）

40は須恵器杯蓋で口径13.0㎝である。端部は素縁で面を持つ。41は須恵器無台杯である。口縁部は大きく開き、端部は内側に屈曲する。42・44・46・48は土師器無台碗である。44はＡ１Ⅲ類である。43は灰釉陶器碗である。口径15.0㎝、口縁端部はやや長めに外反する。やや暗い緑灰色の釉が内外面にかかる。47・49は須恵器甕の体部である。外面に平行叩き痕、内面同心円当具痕が残る。45は板状部材である。

ＳＢ８（図版14）

梁間１間（2.166m）、桁行３間（5.56m）で、面積12.01㎡、主軸は西偏54度である。柱穴平面形は円形で直径は0.4～0.6mである。

ＳＢ８出土遺物（図版42）

50は土師器黒色碗である。口径15㎝、底径5.0㎝、器高5.8㎝で、Ａ１Ⅰ類である。

ＳＢ９（図版14）

梁間１間（1.84m）、桁行４間（7.76m）で、面積14.28㎡、主軸は西偏56度である。柱穴平面形は隅丸方形に近く直径は0.7m前後である。ＳＥ199に切られる。

ＳＢ９出土遺物（図版42）

51は土師器甕である。口径15㎝、頸部で屈曲して口縁部が開き、口縁端部は上へ折れる。

ＳＢ10（図版14）

梁間２間（3.92m）、桁行４間（7.24m）で、面積28.38㎡、主軸は西偏58度である。柱穴平面形は円形で直径0.3～0.4mである。

ＳＢ10出土遺物（図版42）

52は土師器甕で、口径15㎝である口縁部は緩く外反して開き、口縁端部を丸く収める。

ＳＢ11（図版15）

梁間２間（1.56m）、桁行３間（4.52m）で、面積7.05㎡、主軸は西偏59度である。柱穴平面形は円形で、直径0.4m以下である。

ＳＢ12（図版15）

梁間１間（2.12m）、桁行３間（4.92m）で、面積10.43㎡、主軸は西偏53度である。柱穴平面形は円形で、直径0.6～0.4mである。

ＳＢ13（図版15）

梁間２間（3.36m）、桁行４間（6.96m）で、面積23.39㎡、主軸は西偏59度である。柱穴平面形は円形で、直径0.3m前後である。

ＳＢ14（図版16）

梁間２間（2.80m）、桁行３間（4.48m）で、面積12.54㎡、主軸は西偏51度である。柱穴平面形は円形で、直径0.4～0.3mである。

ＳＢ14出土遺物（図版42）

53はカワラケＲ類で、口径7.0㎝、底径4.8㎝、器高1.7㎝、外底面に回転糸切り痕が残る。ほぼ完形に遺存する。口縁部内面に煤が、外面体部下半に漆が付着する。

ＳＢ15（図版16）

梁間２間（3.72m）、桁行３間（6.72m）で、面積25.00㎡、主軸は西偏46度である。柱穴平面形は円形で、直径0.5m前後である。Ｐ１から柱根が出土した。

ＳＢ15出土遺物（図版42）

54は柱根である。下端はやや傾くが、平坦に仕上げる。55は須恵器壷蓋である。口径11.0㎝である。口縁端部を丸く収める。

ＳＢ16（図版16）

梁間１間（2.12m）、桁行３間（4.24m）で、面積8.99㎡、主軸は西偏43度である。柱穴平面形は円形で直径0.4m前後である。

ＳＢ17（図版16）

梁間１間（2.36m）、桁行３間（4.32m）で、面積10.20㎡、主軸は西偏65度である。柱穴平面形は円形で直径0.4m前後である。Ｐ３から柱根が出土した。

ＳＢ17出土遺物（図版42）

56は柱根である。太さ18㎝前後、残存長61.0㎝である。底面はやや尖り気味に成形する。

ＳＢ18（図版17）

梁間２間（4.48m）、桁行３間（4.80m）で、面積21.50㎡、主軸は西偏44度である。柱穴平面形は円形で、直径0.4m前後である。

ＳＢ19（図版17）

梁間３間（5.00m）、桁行３間（5.00m）で、面積25.00㎡、主軸は東偏32度である。柱穴平面形は円形で、直径0.4m前後である。

ＳＢ20（図版18）

梁間１間（1.08m）以上、桁行４間（3.72m）で、面積4.02㎡、主軸は西偏43度である。柱穴平面形は円形で、直径0.3m前後である。

ＳＢ21（図版18）

梁間２間（3.52m）、桁行６間（11.20m）で、面積39.42㎡、主軸は東偏33度である。柱穴平面形は円形で、直径0.2m前後である。間仕切りが３カ所ある。

ＳＢ22（図版19）

梁間２間（2.04m）、桁行３間（3.48m）以上で、面積7.10㎡、主軸は東偏57度である。柱穴平面形は円形で、直径0.7～0.6mである。

ＳＢ23（図版19）

梁間１間（1.76m）、桁行２間（3.76m）で、面積6.62㎡、主軸は西偏55度である。柱穴平面形は隅丸方形で、直径0.8～0.7mである。

ＳＢ23出土遺物（図版42）

57・58は須恵器杯蓋である。口径はいずれも13.0㎝、口縁端部の断面形は丸である。59・60は土師器無台碗である。61は土師器黒色碗Ａ１Ⅲ類である。62は土師器甕で、口径12.0㎝である。口縁部は頸部で折れて開き、口縁端部は短く上へ折れる。

ＳＫ15（図版20）

長径3.0m、短径2.4m、深さ0.2mの隅丸長方形の浅い土坑である。底部は細かい凹凸が多い。

ＳＫ15出土遺物（図版42）

63は灰釉陶器碗である。口径14.0㎝、口縁端部は外側へ引き出すようにやや強く屈曲する。釉は内面淡緑色、外面青緑色でやや厚くかかる。藁灰釉と見られる。

ＳＥ33（図版20）

長径1.4m、短径1.2m、深さ1.2mの素掘りの井戸である。井戸側などの構造物は確認されなかった。

ＳＥ33出土遺物（図版43）

64～78は箸である。最長のものは64で、長さ21.9㎝である。４～６面の面取りを行い、断面形は長方形や多角形で、扁平のものが多い。両端を細く尖らせる。

ＳＰ50（図版20）

直径0.4m、深さ0.4mのピットである。構成する建物跡は確認できなかった。

ＳＰ50出土遺物（図版43）

79はカワラケＲ類で、口径9.4cm、底径7.2cm、器高2.0cmである。外底面に回転糸切り痕が残る。口縁端部は厚く、丸く収める。80は珠洲焼き擂鉢の底部ある。残存部に卸目は見られない。底部切り離しは静止糸切りによる。内外面が二次焼成により黒化する。

ＳＫ51（図版20）

長径2.2m、短径2.0m、深さ1.4mのほぼ円形の井戸である。底部はやや平らな面を持ち、徐々に広がりながら、確認面に達する。

ＳＫ51出土遺物（図版43）

81は土師器無台碗Ｂ１Ⅳ類である。焼成は良好で、調整痕が明瞭に残る。82は灰釉陶器皿である。口径13cm、口縁端部は弱く外反し、灰白色の釉が内外面とも体部上位から口縁部にかけて刷毛塗りされる。83は曲物底板で直径約18cmである。片面に漆が塗られる。84は曲物の底板である。直径40cm、径２～３㎜の穴が不規則に多数開くが、人為的に開けたものか、根などにより、後に開いたものかは判断できない。側面には側板を固定するための木釘の穴をほぼ等間隔に設ける。85は蒸籠の底板である。残存部の形状から隅丸方形のものとみられる。細かい穴が不規則に開けられ、側板と結束するための穴と樹皮が一ヶ所残存する。86・87は厚手の板状部材である。88～91は箱物の部材である。底板・側板ともに細かい刃物傷が付く。92～103は矢板である。井戸底部に投げ込まれたように折り重なって出土した。最長のもので103の61.9cm、幅は10cm前後のものが多く、厚さ１cm前後である。先端はやや鋭角にとがる。

ＳＥ56（図版20）

長径1.7m、短径1.0m、深さ1.0mの卵形の井戸である。ＳＢ１－Ｐ16を切る。西側の中位にテラスがある。埋土は西から流れ込むように堆積し、8層に分層される。

ＳＥ56出土遺物（図版46）

104はカワラケＲ類である。底部の糸切り痕は丁寧にナデ消す。胎土には大粒の礫を含む。焼成は良好で堅緻である。105は曲物の底板である。側板との結束のための穴などは確認できない。106～108は板状部材である。109・110は矢板である。先端はやや鋭角に尖らせる。

ＳＫ66（図版20）

長径2.4m、短径2.0m、深さ0.2mの土坑である。西側をＳＥ67に切られる。東側は徐々に浅くなり途切れる。底部はほぼ平坦である。埋土は単層で粘質の黒色シルトである。

ＳＫ66出土遺物（図版46）

111・112は板状部材である。111は厚さ1.3cm、長さ25.0cm、一端を丸く成形する。112は細かい刃物傷が多く付く。

ＳＥ67（図版20）

直径1.7m、深さ1.3mの不正円形の井戸である。ＳＫ67を切る。埋土はほぼ水平に堆積する。中位よりやや上で珠洲焼き・礫などが出土した。

ＳＥ67出土遺物（図版46）

113は珠洲焼き甕の口縁部、114は珠洲焼き擂鉢の底部である。114の底部は静止糸切りで、内底面には幅９㎜４条の卸目がほぼ隙間無く施される。115は刀子である。刃部は欠損しており、茎と柄が残る。柄は長さ14.2㎝、幅1.8㎝、厚さ0.6㎝の２枚の板で茎をはさむ。柄は刃部から約１㎝の所に溝状の彫り込みを巡る。出土時には植物性の紐が緩く巻き付いていた。目釘は無い。116は曲物底部である。117は羽子板形の木製品である。身幅6.5㎝、柄幅4.5㎝である。

ＳＫ70（図版21）

直径0.8m、深さ0.3m、円形の土坑である。埋土下層は炭化物を含む。第４層上面から青磁碗が出土した。

ＳＫ70出土遺物（図版47）

118は青磁碗の底部である。高台径7.0㎝、釉調は淡緑色である。外面の施釉は高台底面より施される。体部外面に連弁紋が、内底面に草花様模様が施される。高台内側に墨痕が付く。

ＳＥ78（図版21）

直径1.4m、深さ0.9m、不正円形の井戸である。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。下層は腐植した植物質を多く含む黒色シルト層が堆積し、その上の壁面には地山の崩落土が入り込む。

ＳＥ78出土遺物（図版47）

119・120は箸である。119は全形が残り、長さ19.5㎝である。断面形は扁平な方形である。121～123は板状部材で、用途は不明である。

ＳＰ119（図版21）

直径0.3m、深さ0.4mのピットである。構成する建物などは確認できなかった。

ＳＰ119出土遺物（図版47）

124は須恵器碗である。口径15.0㎝、口縁部は内湾して大きく開く。125は板状部材で、根板とみられる。

ＳＫ181（図版21）

長径0.7m、短径0.6m、深さ0.3mの長方形の土坑である。底部はほぼ平坦である。

ＳＫ181出土遺物（図版47）

130は須恵器無台杯で、口径12.0㎝、底径7.6㎝、器高3.5㎝である。底部ヘラ切り痕を丁寧にナ

デ消す。底部は厚く、体部との境に稜をもつ。胎土に海面骨針を含む。

ＳＰ203（図版21）

長径0.5m、短径0.3m、深さ0.6mのピットである。

ＳＰ203出土遺物（図版47）

136は須恵器長頸瓶である。頸部と肩部の接合部は内面に頸部の下端が出る。肩部は丸味をもつ。

ＳＰ221（図版21）

直径0.2m、深さ0.2mのピットである。

ＳＰ221出土遺物（図版47）

137は土師器無台碗Ｂ２Ⅲ類である。口縁部の一部に煤が付着する。

ＳＫ178（図版21）

長径1.2m、短径1.0m、深さ0.1mの土坑である。ほぼ中央を直径0.4mのピットが切る。テラス状部分から遺物が出土した。

ＳＫ178出土遺物（図版47）

126～128は須恵器無台杯である。いずれも口径13cm前後、器高３cm前後、形態・胎土も類似する。126・128は底部のヘラ切り痕をナデ消し、126は内底面に仕上げナデを行なう。129は土師器甕である。口径22.4cm、底径10.2cm、器高17.4cmである。口縁部は直線的に開き、端部に面をもつ。体部外面は縦方向のヘラケズリを、体部内面には横方向のヘラナデを行う。体部外面下半に煤が付着する。胎土に礫・海面骨針を含む。

ＳＥ199（図版21）

直径1.1m、深さ0.9mの円形の井戸である。確認面から0.3mまでは徐々に狭くなり、そこから垂直に掘り込まれる。底面は平坦である。第１層から礫及び土器類が、第３層から木製陽物が出土した。

ＳＥ199出土遺物（図版47）

131は土師器無台碗Ａ１Ⅲ類で、口縁端部内側に面を持つ。132は須恵器甕の体部で外面に擬格子叩き、内面に同心円当具痕が残る。133は灰釉陶器皿で、口径19.0cm、口縁端部は玉縁状で、灰白色の釉が内外面に刷毛塗りされる。134は折敷底部である。角を丸く仕上げる。135は木製の陽物もしくは形代で、長さ41.9cmである。先端部はえぐりを入れて頭部を成形し、基部には側面から貫通する穴が開く。断面は先端部が扁平で、軸は円形である。

ＳＥ236（図版21）

長径1.3m、短径1.0m、深さ0.9mの井戸である。壁面は緩く傾斜して立ち上がる。

ＳＥ236出土遺物（図版47）

138は珠洲焼き壷である。口径18.0cm、口縁部は外反し、口縁端部は面をもつ。139は箸で、長さ18.9cmである。

ＳＫ255（図版22）

長径2.6m、短径1.8m、深さ1.1m、不正長方形の土坑である。底部は狭く平坦で、壁面はやや開き気味に立ち上がる。埋土はほぼ水平に堆積し、地山土がブロック状に混入する。

ＳＫ255出土遺物（図版48）

140はカワラケＴ類で、口径12.6cm、底径9.0cm、器高3.0cm、口縁部に横ナデ、内面にナデを施す。底部外面に指頭圧痕が残る。141は珠洲焼き擂鉢で口径33.0cm、内面に幅17mm８条の卸目を施す。142は珠洲焼き甕で外面に平行叩きを行う。胎土に黒色吹出が多い。143は木製鋤先である。長さ23.9cm、幅14.0cm、最大厚2.4cmで、刃先は薄くなる。中央やや基部寄りに柄を取り付けるための方形の穴が開く。鉄製の刃先を取り付けた痕跡は確認できなかった。144は折敷底部である。表面に径５mm程度の焦げ痕が随所に付く。145・146は板状部材である。

ＳＫ325（図版23）

長径3.4m、短径2.6m、深さ0.4mの楕円形の土坑である。上面ほぼ中央ににぶい黄褐色の地山土に似た層が堆積することから倒木痕とも考えられる。底面には細かい凹凸が多い。下層の埋土は地山土ブロックを含む黒褐色シルトである。埋土中から珠洲焼きや木製品が出土した。

ＳＫ325出土遺物（図版48）

147はカワラケＴ類で口径12.0cm、底径8.0cm、器高2.6cmである。ヨコナデによる段は認められない。148は珠洲焼き擂鉢で、口縁端部の面は外傾する。幅23mm14条の卸目を施す。149は珠洲焼き壷で、口縁部は外反し、肩部に径1.4cmで９葉の押圧による花紋を３個一組で施し、体部外面下半にロクロケズリを行う。底部の切り離しは静止糸切りで、内面の体部から底部にロクロナデによる段が明瞭に残る。150・151は棒状部材で太さ４cm前後である。152は刳物椀の未製品で、一部欠損しているが、断面台形、体部は放射状に面をとって、碗の外形を成形する。

ＳＫ470（図版22）

直径1.2m、深さ0.8mの円形の土坑である。底部は細く尖り気味である。埋土はほぼ水平に堆積する。

ＳＫ470出土遺物（図版49）

153は須恵器杯蓋である。口縁端部は内側に面を持ち、先端は尖る。外面の天井部と口縁部の境ににぶい稜と凹線が巡る。口縁部から天井部にかけて丸味を帯びる。

ＳＫ498（図版22）

長径1.7m、短径1.4m、深さ0.5mの土坑である。底部は平坦である。

ＳＫ498出土遺物（図版49）

154は須恵器有台碗で、口径12.6cm、底径5.8cm、器高4.8cmである。口縁部はやや内湾気味に開く。高台は断面三角形で、底部と体部の境近くに貼り付ける。155はカワラケＴ類で、口径12.4cm、底径5.6cm、器高3.2cmである。底部外面中央は窪み、口縁部は短く直線的に開く。

ＳＫ504（図版24）

長径4.4m以上、短径3.2m、深さ0.3mの長円形の土坑である。埋土はほぼ水平堆積で、炭化物を多量に含む。確認面から緩やかに深くなり、底面には細かい凹凸がある。遺構確認面から中位に及ぶまで多量の遺物を包含する。遺物は細片が多く、完形に復元できる物は少ない。器種は土師器碗が多数を占めるが、須恵器鉢・甕、土師器鍋など多岐にわたる。

ＳＫ504出土遺物（図版49，50）

156・157は須恵器杯蓋で、156は口径12.0cm、端部は断面形丸である。157は口径13.0cm、口縁端部は素縁である。158は須恵器有台杯で口径12.0cmである。159・160は須恵器無台杯で、口径はいずれも12.0cmである。161は須恵器有台碗で、口径13.0cm、口縁部は大きく開く。162～180、182～184は土師器無台碗である。162～172、175、177、184がＡ１類、176・179・180・182・183がＡ２類、173・174がＢ１類、178がＢ２類である。法量は162がⅣ類、184がⅠ類、他はⅢ類である。168・169・178は口縁部に煤が付着する。181は土師器黒色碗である。Ａ２Ⅲ類である。内外面にヘラミガキを行う。185・186は土師器有台皿である。185は口径12.4cm、底径5.4cm、器高4.2cmで、口縁部は直線的に大きく開き、黒色処理を行う。186は底径7.6cm、高台はやや太く、直線的に開く。黒色処理を行う。187は灰釉陶器皿で、口径13.8cmで、口縁端部が強く屈曲する。無色の釉が口縁部内面に刷毛塗りされる。外面体部下半にロクロケズリを行う。胎土に黒色吹出を多く含む。188は須恵器有台鉢で、口径27.0cm、底径14.0cm、器高14.1cmである。口縁部は外へ折り曲げ、端部に面を持つ。高台は太く断面方形の両端接地である。体部外面下半にヘラケズリを行う。189・192は須恵器甕、190・191は長頸瓶の口縁部である。189の口縁端部の面に沈線が巡る。192は口径64.4cm、外面に2条の波状紋とそれぞれの下端に１条ずつの沈線が巡る。193は土師器甕の底部で、底部に回転糸切り痕が残る。体部外面に煤が付き、内面は黒化する。194は土師器鍋で、口径32.0cmである。口縁部は頸部で折れて外側へ開き、口縁端部は内側へ曲げる。体部外面に平行叩き痕、内面に平行当具痕が残る。注口が付く。195・196は鉄滓で、重量はそれぞれ110ｇ、120ｇである。197は炭化した棒で、長さ71.8cm、太さ6.0cm前後である。一端を尖らせる。198はで磨製石斧の基部で、石材は砂岩である。

ＳＫ505（図版25）

長径2.9m、短径2.3m、深さ1.2mの土坑である。ＳＤ507に切られる。上面は長楕円形を呈し、

深さ0.7～0.8mにテラスをもち、東側に横穴状に広がる。覆土には地山土ブロックが多量に含まれる。

ＳＫ505出土遺物（図版50，51）

199～211は須恵器無台杯である。口径は11.0cm～13.0cm、器高は2.9cm～3.6cmである。202・203・206～209は底部ヘラ切り痕をナデ消す。212・213は土師器無台碗である。212はＡ１Ⅳ類、213はＡ１Ⅲ類である。214は土師器黒色碗で、外底面・体部外面下半にロクロケズリを行う。215は須恵器甕の体部破片で、外面は平行叩き後にカキメを施す。216～222は土師器甕である。216・220～222は口縁部が緩く外反し、217・218の口縁部は外反して、端部を内側に折る。調整痕が見られる216・219・220・221・222の外面は縦方向のハケメを施す。223・224は土製品支脚である。224は長さ10.7cm、太さ７cm弱になる。両端が太くなる。

ＳＤ507（図版25）

ＳＢ１雨落ち溝であるが、浅い土坑と切り合っており、上部が削弊されているため識別ができない。

ＳＤ507出土遺物（図版51）

225～227は須恵器有台杯である。225は口径13.0cm、226は口径14.0cmである。226の体部に２条の沈線が巡る。227の高台は断面方形で外端で接地する。228～231は須恵器無台杯である。口径は12.0～13.0cmである。230・231の底部外縁にロクロナデを施す。232は土師器甕の底部で外面に縦方向のヘラケズリを行う。

ＳＰ508（図版25）

長径1.3m、短径1.0m、深さ0.1mのピットである。ＳＫ505に切られる。上面から須恵器杯が出土した。

ＳＰ508出土遺物（図版51）

233は須恵器無台杯である。口径11.6cm、底径6.4cm、器高4.3cm、底部は丸味を持ち、外面体部下端にロクロケズリを、内底面に仕上げナデを行う。７世紀代の杯Ｇの流れをくむ器種とみられる。

ＳＤ515（図版22）

幅2.1m、深さ0.1mの溝である。東西は徐々に浅くなり途切れており、確認した長さは3.5m程である。

ＳＤ515出土遺物（図版52）

239～242は土師器甕である。239は口径14.8cm、底径4.2cm、器高19.4cmである。口縁部は短く外反し、横ナデを施す。体部はややふくらみを持ち、体部最大径はほぼ中位である。外面に縦方向のハケメ、内面に横方向のヘラナデを施す。外面下半は二次焼成により橙色に変色・劣化し、

中位から上位に煤が付着する。240は口径17.0㎝、頸部は緩く湾曲し、口縁端部を丸く収める。241は口径15.0㎝、体部から頸部は屈曲し、口縁部は外反する。口縁部と体部の境の内面に稜ができる。242は口径17.0㎝、口縁部は外反する。体部は大きく膨らむ球形を呈する。

ＳＥ516（図版26）

直径2.0m、深さ0.9m、円形の井戸である。壁面は徐々に開きながら立ち上がる。

ＳＥ516出土遺物（図版51）

234は須恵器無台杯で口径12.0㎝である。口縁部は緩く内湾する。

ＳＰ519（図版26）

直径0.6m、深さ0.3mのピットである。

ＳＰ519出土遺物（図版51）

235は土師器高杯で、口径15.0㎝、内湾する体部に外反する口縁部が付く。内面の口縁部と体部の境に稜ができる。内外面にヘラミガキを行い、黒色処理を施す。口縁部内面に横位のハケメが薄く残る。

ＳＫ524（図版26）

長辺1.6m、短辺1.2m、深さ0.3m、長方形の土坑である。東側を井戸に切られる。

ＳＫ524出土遺物（図版51）

236は須恵器甕の口縁部で、口径は約60㎝である。口縁端部は上下に広がり、外側に稜を持つ。

ＳＰ539（図版26）

直径0.8m、深さ0.5mのピットである。

ＳＰ539出土遺物（図版52）

237は土師器碗Ａ１Ⅲ類で、口径12.0㎝、底径5.6㎝、器高3.7㎝である。238は灰釉陶器碗である。口径15.0㎝で、口縁端部は弱く外反する。灰白色の釉を刷毛塗りする。

ＳＥ604（図版26）

直径0.7m、深さ0.9m、円形の井戸である。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。

ＳＥ604出土遺物（図版52）

243は漆器椀の底部である。総黒漆で内底面に朱漆で模様を描く。244は板状部材で、幅1.5㎝、深さ0.4㎝の切れ込みを持つ。245は箸で両端を欠損する。246は板状部材で幅3.5㎝、厚さ1.3㎝、表面は丸味を持ち、裏面は平坦である。径0.4㎜の穴が２ヶ所確認できる。

ＳＥ605（図版26）

直径1.2m、深さ0.8mの井戸である。底面は西側がやや高い段になる。埋土はほぼ水平に堆積する。第3層壁面から完形のカワラケが、底面から曲物底部が、その他、埋土中から刀子などが出土した。

ＳＥ605出土遺物（図版52）

247・248はカワラケＴ類である。247は口径8.2cm、底径6.3cm、器高1.7cmの完形品である。248は口径14.0cmである。249は土師器甕で口縁端部が外側に垂下する。250・251は棒状部材である。側面を削り断面方形である。先端を細く削る。252は曲物底部で直径約24cmである。253は刀子で、残存長14.2cm、幅4.6cmである。

ＳＥ606（図版26）

直径1.1m、深さ1.0m、円形の井戸である。底部は丸味をもつ。埋土は水平堆積で4層に分けられる。第4層上面から完形のカワラケ、珠洲焼きの甕、礫が出土した。

ＳＥ606出土遺物（図版53）

254はカワラケＲ類で、口径7.7cm、底径4.2cm、器高2.5cmである。口縁部は外反気味に伸び、底部に回転糸切り痕が残る。外底面に焼成時のひびが入る。255は珠洲焼き甕の底部である。底径18.6cm、内底面に不定方向のナデを行う。

ＳＫ608（図版12）

長径1.7m、短径1.1m、深さ0.3mの長楕円形の土坑である。ＳＢ４柱穴を切る。埋土は水平堆積で５層に分けられる。第１・２層から土師器・須恵器の細片が出土した。

ＳＫ608出土遺物（図版53）

256～258は土師器碗である。256・258がＡ1類、257がＡ２類、法量は256・257がⅢ類、258がⅠ類である。258の外面体部下端にロクロケズリを行う。259は灰釉陶器碗である。口径14.0cmで、口縁端部はやや強く外反し、内外面に淡緑色の釉がかかる。

ＳＥ609（図版27）

長径2.3m、短径2.0m、深さ0.8mの井戸である。堆積はレンズ状で、東側から流れ込む。

ＳＥ609出土遺物（図版53）

260は須恵器有台碗である。底径9.0cm、高台は太く、断面方形で外に開き両端接地である。261・262は土師器無台碗である。いずれもＡ２Ⅲ類である。263は灰釉陶器碗である。口径15.0cmで、口縁端部は弱く外反し、内外面に淡緑色の釉がかかる。264は曲物底部である。直径16.0cm、厚さ0.6cmである。

ＳＫ614（図版27）

長径3.7m、短径1.9m、深さ0.2mの土坑である。床面はほぼ平坦である。東側の底部は炭化物が広がる。この炭化物の上面から多量の遺物が出土した。

ＳＫ614出土遺物（図版53）

265・266は須恵器有台杯で、いずれも高台は外へ開き外端接地である。267は須恵器有台碗で高台は外反して開き内端接地である。268は須恵器無台杯である。口径13.0cmで、口縁部は直線的に開く。269～276は土師器無台碗である。272がＡ２類、270がＢ２類、他はＡ１類である。法量はいずれもⅢ類である。276は底部回転糸切り後にナデを行う。277は古墳時代の土師器高杯で口縁部が外反する。内面にヘラミガキ、外面口縁部にハケメ、黒色処理を行う。

ＳＰ632（図版27）

直径0.5m、短径0.3mのピットである。

ＳＰ632出土遺物（図版53）

278はカワラケＴ類である。口径11.0cm、口縁部と体部の境にヨコナデによる太く浅い凹線が巡る。

ＳＫ722（図版27）

長径1.6m、短径1.0m、深さ0.4mの土坑である。

ＳＫ722出土遺物（図版53）

279は須恵器無台杯の口縁部である。口径13.0cm、ロクロナデ痕が明瞭である。

ＳＤ812（図版53）

幅0.2m、長さ3.6m、深さ0.2mの溝である。

ＳＤ812出土遺物（図版53）

280は土師器鍋である。口径33.0cmである。口縁端部が上下に広がる。

ＳＥ873・ＳＥ875（図版28）

ＳＥ873がＳＥ875を切る。ＳＥ873は直径1.0m、深さ0.9mの井戸である。埋土はレンズ状に堆積する。底部付近から折敷底部が出土した。

ＳＥ875は直径0.9m、深さ0.7mの井戸である。埋土は北側から流れ込むように堆積する。底部からカワラケが出土した。

ＳＥ873出土遺物（図版54）

281・282は折敷である。281は底板で、破損しているが一辺26.0cm前後、厚さ0.4cmである。縁から約1.0cmの所に６ヶ所の穴が確認できる。282は折敷側板で、長さ27.5cm、幅5.2cm、厚さ0.6cmである。

ＳＥ875出土遺物（図版54）

283はカワラケＴ類である。口径13.0cm、底径8.0cm、器高3.8cm、口縁部にヨコナデ、内外底面には指頭圧痕が明瞭に残る。

ＳＫ896（図版28）

直径1.0m、深さ0.8m、円形の土坑である。埋土はレンズ状に堆積し、９層に分けられる。埋土中に地山土がブロック状に混入する。第８・９層から木製品が出土した。

ＳＫ896出土遺物（図版54）

284は珠洲焼き擂鉢である。口径30.0cmで、幅24mm12条の卸目を入れる。285～289は板状部材である。いずれも用途は不明である。288はほぼ中央に径２mmほどの穴が開く。290は炭化した棒である。

ＳＰ966（図版28）

直径0.4m、深さ0.3mのピットである。

ＳＰ966出土遺物（図版55）

291は土師器黒色碗である。底径5.0cm、内面にヘラミガキ、外底面と外面体部下端にロクロケズリを行う。黒色処理を行い、焼成は良好で堅緻である。

ＳＰ979（図版28）

直径0.5m、深さ0.6mのピットである。

ＳＰ979出土遺物（図版55）

292・293は土師器無台碗である。いずれもＡ２Ⅲ類である。

ＳＥ1028（図版28）

直径1.3m、深さ0.7m、円形の井戸である。底面は平坦である。埋土はほぼ水平に堆積する。埋土中に地山土がブロック状に混入する。

ＳＥ1028出土遺物（図版55）

294は須恵器甕の口縁部で、口径17.0cmである。口縁端部は外傾する面をもつ。295は漆器椀である。口径14.0cm、底径8.6cm、器高3.1cmである。296は板状部材、297は棒状部材である。298は刀子である。全長27.2cm、刃部長18.1cm、刃部幅2.1cm、茎長9.1cm、茎幅1.6cm、厚さ0.4cmである。刃部先端は欠損する。茎の中央からやや刃部寄りに目釘孔が開く。

ＳＥ1052（図版28）

長径1.1m、深さ0.8m、円形の井戸である。底面は平坦で、壁面は垂直に立ち上がる。埋土は水平に堆積する。

ＳＥ1052出土遺物（図版55）

299は漆器皿である。口径9.2㎝、底径6.6㎝、器高2.3㎝である。300は棒状部材で用途は不明である。側面は面取りを行っており、先端は太くなる。

ＳＫ1070（図版29）

長径1.8m、短径0.9m深さ0.8m、不正長楕円形の土坑である。埋土はレンズ状に堆積する。

ＳＫ1070出土遺物（55，56）

301・302は箸である。断面は隅丸長方形で両端を尖り気味に仕上げる。303は曲物底部である。直径約16㎝、厚さ1.2㎝である。片面に漆が塗られる。304・305は棒状部材である。いずれも用途は不明である。306～308は折敷部材である。306・307は径２㎜ほどの結節のための穴が開く。

ＳＥ1071（図版29）

直径1.5m、深さ1.3mの井戸である。底部は平坦である。下半の壁面は垂直に立ち上がり、上半はやや広がり気味である。埋土はレンズ状に堆積する。

ＳＥ1071出土遺物（図版56）

309・310は棒状の木製品である。309は全長29.4㎝で、側面を削り、先端を尖らせる。310は全長30.5㎝、側面を削り断面はやや扁平である。311・312は碗形滓である。311は330ｇ、312は555ｇである。313は板状部材である。厚さは一定ではなく、一方に向かい徐々に薄くなる。314・315は箸である。断面は正方形に近い。316・317は棒状部材である。316の側面は細かく削られる。317の側面は四面に面取りをしており、断面長方形である。両端は丸味を帯びる。

ＳＩ1073（図版30）

長径5.5m、短径2.8m以上、深さ0.4mの竪穴状遺構である。北側は一段高くなる。床面には細かい凹凸がある。北側に長径2.7m、短径1.2m、深さ0.2m程の窪みがあり、炭化物を多く含む層により埋まる。柱穴などは確認できない。

ＳＩ1073出土遺物（図版56，57）

318は須恵器有台杯で、底径8.0㎝である。高台はやや内湾して端部は丸味を帯び、外端接地である。319～324は須恵器無台杯である。口径はいずれも12㎝前後である。321・323・324は底部ヘラ切り後ナデを行う。325～327・329～341は土師器無台碗である。325・326・333・338・340がＡ１類、他はＡ２類である。325は法量Ⅳ類で、底部の糸切り痕をナデ消す。326～336は法量Ⅲ類である。326は底部糸切り後にロクロ削りを行う。333は内外面にヘラミガキを行う。337～341は法量Ⅱ類である。328・342は土師器黒色碗である。328はＡ１Ⅲ類で、内面にヘラミガキを行う。343は灰釉陶器碗の口縁部である。口縁端部が弱く外反する。淡緑色の釉が残存部では内面全体、外面は体部中位より上に薄くかかる。344・345は灰釉陶器皿の底部である。344の高台は細い三日月高台で、外面下方に稜を持ち、内面は強く湾曲する。高台端部は細く尖る。底部切

り離し後にロクロ削りを行い、高台を貼り付ける。施釉は外面は高台外面から体部にかけて行われ、内面は見込み以外に行い、釉調は淡緑色である。内底面に輪状に重ね焼き痕が残る。345の高台は太く短い三日月高台で、外側の稜は中位にあり、内側の湾曲は弱い。内外面体部に無色の釉をかける。346は長頸瓶である。肩部は丸く頸部の付け根は直立に伸びる。347は長頸瓶の口縁部で、口縁端部に面を持つ。348・349は須恵器甕の口縁部である。348は直立気味に口縁部が伸び、端部は外側に肥厚する。350～354は土師器甕である。350～354は土師器甕である。350の口縁端部は内側に巻き込むように収める。351は口縁端部が内湾する。352の底部切り離しは回転糸切りで、体部外面に薄く煤が付く。353・354の口縁端部は内外に肥厚する。355は土師器有台鉢の脚部である。

ＳＫ1074（図版29）

直径0.8m、深さ0.1mの土坑である。

ＳＫ1074出土遺物（図版57）

356は土師器甕である。口径13.3㎝、底径6.8㎝、器高10.3㎝である。口縁部は外湾し、端部を丸く収める。

ＳＥ1075（図版29）

直径2.6m、深さ1.1mの井戸である。底面は丸味をもつ。堆積はレンズ状である。西壁面に一部地山土の崩落が見られる。

ＳＥ1075出土遺物（図版57，58）

357・358は須恵器有台杯である。357は両端接地、358は外端接地である。359は曲物側板の破片である。360は棒状部材で、用途は不明である。361～363は刳物椀の未製品である。361は内部を刳り抜く。362・363は外形のみを削りだす。364は札状の木製品である。長さ29.1㎝、幅3.2㎝、厚さ0.5㎝である。長辺側縁辺は薄く、中央が厚くなる。表裏は削りの面が明瞭に残る。上下端を丸く仕上げる。365～367は板状部材である。厚さは１㎝前後である。368は棒状部材である。用途は不明である。

ＳＥ1076（図版29）

直径2.4m、深さ1.2m、楕円形の井戸である。底部は直径0.7mの平坦面を持ち、0.3m立ち上がった後大きく碗状に開く。埋土は西から流れ込むように堆積する。上層から完形に近い土師器碗が多量に、底部の窪み上面から須恵器横瓶が出土した。

ＳＥ1076出土遺物（図版59）

369～382・384は土師器無台碗である。370・379・381がＡ１類、他はＡ２類である。369は法量Ⅳ類である。370～379は法量Ⅲ類で、373は底部切り離し後ナデを、377はロクロ削りを行う。380～382は法量Ⅱ類である。382は底部切り離し後ナデを行う。383・385は土師器黒色碗である。

383はＡ１Ｉ類で底部切り離し後ロクロ削りを行う。386は須恵器横瓶である。ほぼ中央で割れた半分が出土した。口径10.4㎝、器高20.7㎝である。口縁部は素縁で端部に面を持ち、面のほぼ中央に凹線が巡る。体部側面に閉塞円板が貼り付けられる。外面に擬格子叩き痕、内面に擬格子当具痕が残る。内面閉塞部付近は絞り込みの痕が見られる。閉塞円板の外面にはロクロナデを施す。井戸跡からの出土のため、釣瓶等への転用が想定されたが、縄などを縛り付けた擦痕等は確認できなかった。387は須恵器瓶である。体部外面に縦方向のヘラ削りを行う。内底面にアバタ上の剥離がある。

ＳＥ1077（図版31）

直径1.9m、深さ1.1mの井戸である。底面は平坦で、緩く開きながら立ち上がる。

ＳＥ1077出土遺物（図版59）

388～392は須恵器無台杯である。390は薄手でやや深身のものである。391は外底面に墨痕が残る。392は外底面に墨書が認められるが文字は不明である。393は土師器甕である。口径18.0㎝、ロクロ成形され、口縁端部は外傾する面を持つ。

ＳＫ1081（図版31）

直径0.9m、深さ0.8mの土坑である。底面は狭く平坦で、開き気味に立ち上がる。

ＳＫ1081出土遺物（図版59）

394は折敷底部板である。各所が欠損しており、原形は不明であるが、円形もしくは隅丸のものとみられる。側縁部に結束のための穴がある。

ＳＤ1083（図版40）

幅0.9m、深さ0.3m、断面Ｕ字形の溝である。底面はやや平坦である。北壁から南へ2.5mで西へ曲がり途中で２条に分かれていずれも北へ折れて調査区外へ向かう。

ＳＤ1083出土遺物（図版60）

395は須恵器有台杯である。底径7.0㎝で、高台は太く外へ拡がり外端接地である。396・397は須恵器無台杯である。396の口縁部は直線的に広がる。398は土師器無台碗Ａ１Ⅲ類である。399は灰釉陶器碗である。底径8.2㎝、三日月高台を持ち、高台外側中位よりやや下に稜を持ち、内側は弱く湾曲する。内底面と高台外面に淡緑色の釉がかかる。400は須恵器甕の底部破片である。外面に擬格子叩き痕が、内面に平行当具痕が残る。

ＳＥ1089（図版31）

直径1.8m、深さ1.0mの井戸である。底部から大きく開き、底部は丸味をもつ。埋土はレンズ状に堆積し、地山土ブロックを多量に含む。炭化した植物繊維を多く含む。

ＳＥ1089出土遺物（図版60）

401は珠洲焼き四耳壺の肩部である。肩部から口縁部は緩く屈曲して開く。肩部に貼り付けによる耳が付く。402は土師器甕である。口径22.0㎝、ロクロ成形され、口縁部はやや内湾気味に開き、口縁端部に外傾する面を持つ。403は曲物側板の小片である。404・405は板状部材である。用途は不明である。

ＳＥ1090（図版31）

直径1.5m、深さ1.2mの井戸である。底部はやや平坦で、ほぼ垂直に壁が立ち上がる。埋土は水平に堆積する。第６層から第８層に腐植した植物繊維を多く含む。

ＳＥ1090出土遺物（図版60，61）

406は曲物である。底板直径は21.3㎝のほぼ正円である。側板は高さ16.0㎝で、側板の始点は樹皮により２列で止められる。側板と底板の固定方法は不明である。407は曲物底部で、直径34.3㎝である。木目に沿って側縁が破損する。側板を固定する木釘が２ヶ所残存する。408は鉄製刀子である。刃部のみが遺存する。

ＳＥ1092（図版31）

長径1.8m、短径1.3m、深さ1.2mの井戸である。底部は平坦で、壁は弱冠開き気味に立ち上がる。埋土の堆積はレンズ状で、床面よりやや上で板状部材が出土した。

ＳＥ1092出土遺物（図版60，61）

409～411は板状部材である。いずれも最大厚５㎝前後で、側縁に向かってやや薄くなる。片面はほぼ平坦で、もう一方は細かい削りにより成形される。

ＳＫ1091（図版31）

直径0.7m、深さ0.7mの土坑である。底部は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。埋土は７層に分層され、水平に堆積する。第２層の中央に大型の礫とそれに潰されたように珠洲焼きの甕の下半が散乱するように出土した。第２層には地山土のブロックが多量に混ざる。

ＳＫ1091出土遺物（図版61）

412は珠洲焼き甕である。外面に平行叩き、内面に底部から体部下半にナデを行う。413は礫で、412に乗る状態で出土したものである。自然面は丸味を帯びているため川原石と見られ、各所が割れている。414は石製品の破片とみられる。表裏が擦られ、滑らかである。

ＳＥ1096（図版31）

直径1.1m、深さ1.3mの井戸である。底部は狭く丸味を帯び、やや開き気味に壁が立ち上がる。埋土はレンズ状に堆積し、３層に分層される。第３層に炭化した植物質を多く含む。

ＳＥ1096出土遺物（図版62）

415・416は板状部材である。いずれも破損が著しいため、原形・用途ともに不明である。

ＳＥ1097Ａ（図版32）

長径2.9m、短径2.5m、深さ1.0mの楕円形の井戸である。ＳＫ1097Ｂに切られる。底部は平坦で、壁が開き気味に立ち上がる。埋土はほぼ水平に堆積し、大きく４層に分けられる。底部付近から完形に近い須恵器無台杯が３個体出土した。

ＳＥ1097Ａ出土遺物（図版62）

417～422は須恵器無台杯である。口径は12.0～13.0㎝、器高３㎝前後でほぼ均一である。底部が残存するものはいずれも底部ヘラ切り後ナデ調整を行う。

ＳＫ1097Ｂ（図版32）

長径6.7m、短径4.2m、深さ0.2mの土坑である。ＳＥ1097Ａを切る。埋土は大きく２層に分けられる。２層上面から完形品を多く含む土師器碗などが一括して出土している。

ＳＫ1097Ｂ出土遺物（図版62，63）

423は須恵器無台杯である。底部切り離し後にナデ調整を行う。424～432・434～446・448～452は土師器無台碗である。424・428・429・435・436・438・439・442・445・448・449がＡ１類、他はＡ２類である。法量は447～450がⅡ類、451がⅠ類、他はⅢ類である。425は底部糸切り後ナデ調整を行う。440は底部糸切り後ロクロ削りを行う。451は内面にヘラミガキを行う。433・447は土師器黒色碗である。447はＡ１Ⅱ類である。453は灰釉陶器碗である。口径14.0㎝で、口縁端部はやや長く外反する。淡緑色の釉が内面残存部の全体と外面体部上位にかかる。454～456は土師器甕である。454は口径21.0㎝で、口縁端部は面を持ち外側に肥厚する。455・456は底部で、いずれも底部回転糸切りである。外面に煤が付く。457は砥石である。使用痕は２面に確認できる。

ＳＫ1120（図版31）

長径1.0m、短径0.8m、深さ0.1mの土坑である。底部はほぼ平坦である。

ＳＫ1120出土遺物（図版63）

458は土師器鍋である。口径31.0㎝、体部から口縁部が屈曲して大きく開く。体部調整は確認できない。

ＳＫ1130（図版33）

長径1.1m、短径0.8m、深さ0.4mの土坑である。西側で別の土坑を切る。上部は水田のＵ字溝に壊される。第１層から板状木製品が出土した。

ＳＫ1130出土遺物（図版63）

459は板状木製品である。残存部から直径30cm前後の円形であったと見られる。ほぼ中央に幅１cmほどの切り込みがある。

ＳＥ1149（図版33）

直径1.1m、深さ1.0mの井戸である。底部は平坦でやや開き気味に立ち上がる。

ＳＥ1149出土遺物（図版63）

460は漆器椀である。口径14.0cm、底径7.8cm、器高3.7cmである。内面に朱漆、外面黒漆が塗られ、外面に朱漆で模様が描かれる。

ＳＤ1321（図版40）

幅3.6m、深さ0.3mの溝である。Ｙ軸に沿って伸びる。溝の南北は重機による攪乱により壊される。底面は大きな凹凸がある。埋土は大きく２層に分かれ、下層は砂が多く混ざる。

ＳＤ1321出土遺物（図版63）

461は須恵器蓋杯である。口径10.0cmである。口縁部は内傾気味に長く伸び、端部内側に面を持つ。先端はやや鋭く尖る。受け部は短くやや上向きに伸びる。463～468は土師器無台碗である。465・466がＡ２類、他はＡ１類である。法量は468がⅡ類の他はⅢ類である。463は内外底面を除き被熱しており、口縁部に一部煤が付く。462は土師器黒色碗でＡ１Ⅲ類である。内面にヘラミガキを行う。469～471は土師器甕である。469・470は体部から口縁部が緩く屈曲し、端部は尖り気味に収まる。471は底部破片である。底部はやや突出し、狭い平底である。体部は大きく開く。

ＳＫ1324（図版33）

直径0.7m、深さ0.4mの土坑である。

ＳＫ1324出土遺物（図版63）

472は長頸瓶である。口径20.0cmである。口縁部はラッパ状に大きく開き、口縁端部は外側に窪みがある面を持つ。

ＳＫ1332（図版33）

長径1.4m、短径1.1m、深さ0.2mの土坑である。

ＳＫ1332出土遺物（図版63）

473・474は須恵器無台杯である。いずれも口径12.0cmで、474は体部が緩く張り、口縁部が若干開き気味に外反する。

ＳＥ1501（図版33）

長径3.1m、短径2.5m、深さ1.2mの井戸である。底部は広い平坦面を持ち、壁はやや開き気味

に立ち上がる。埋土は上層が暗褐色で、下層が黒褐色、両方に地山土の小ブロックが含まれる。

ＳＥ1501出土遺物（図版64）

475・476は扇子の骨である。細い板状で一端は幅が広くもう一端は細い。太い方の端部付近に径４㎜前後の穴が開く。477・478は板状部材である。479～486は棒状部材で、断面長方形で、両端は薄くなる。480・481は丸太状の木材を割った部材である。482～484は丸太状の部材で、農具などの柄に使われたものとみられる。485は板状部材で一端の片面が広く炭化している。487は棒状部材で、ほぼ中央に二方向から深さ5㎜ほどの切れ込みを入れる。488は板状部材で、一面は樹皮が残る。489は曲物側板の一部で、木目にほぼ直行して筋がほぼ並行に入れられる。490は木製下駄で、台部と歯部を一木で作る。側縁がほぼ残る側の鼻緒穴は、側縁から１㎝ほどの位置に長径2.5㎝、短径1.5㎝ほどの前後に長いものである。歯の高さは約3.5㎝である。

ＳＫ1502（図版34）

長径2.5m、短径2.0m、深さ0.5m、楕円形の土坑である。ＳＫ1503を切る。底部は丸味を帯び、壁は大きく開く。埋土は大きく２種に分けられ、上層は褐灰色の地山土が中心となり、下層は黒褐色シルトである。

ＳＫ1503（図版34）

直径5.8m、短径4.8m、深さ0.3m、楕円形の土坑である。ＳＫ1502に切られ、ＳＥ2258を切る。埋土は黒褐色シルトの単層である。遺構上面から古瀬戸袴形香炉が、埋土中から珠洲焼きの破片等が多数出土した。

ＳＫ1503出土遺物（図版65）

491はカワラケＴ類である。口径12.0㎝、底径7.0㎝、器高3.2である。外底面に刷毛状工具痕が残る。492は古瀬戸袴形香炉である。体部はやや強く張り、口縁部は体部最大径より細く直立して伸び、口縁端部が短く外反する。外底面に回転糸切り痕が残る。脚部は粘土粒の貼り付けで指頭痕が残る。濃緑色の釉が内面口縁部と外面体部中位以上にかかる。493～495は珠洲焼き擂鉢である。493は口径24.0㎝で、口縁端部は外傾する面を持つ。残存部に卸目は確認できない。494は内底面に卸目が一部残存し、外底面に静止糸切り痕が残る。495は内面に幅24㎜15状の卸目を密に施し、外底面に静止糸切り痕が残る。496は古瀬戸小壷である。口径2.8㎝で肩部は強く張り、口縁部は肩部から狭まる形で、口縁端部が短く上へ伸びる。体部外面に縦位の筋状模様を多く施す。淡緑色の釉を内外面にかけ、口縁端部は釉が剥がれ落ちる。497は珠洲焼き長頸壷の頸部である。498は珠洲焼き壷の口縁部である。緩く開く口縁部に口縁端部は外側へ巻き込むように収まる。499・500は珠洲焼き甕である。口縁部は短く外へ巻き込み、体部外面に平行叩き具痕が残る。501は樋状部材である。細い角材状の部材の内側を刳り抜き、外側は先端を尖らせるように削る。左右対になるように径２㎜ほどの穴が４ヶ所確認できる。502は棒状部材である。断面は不正五角形である。503は板状部材である。長方形で角はやや丸味を帯びる。表面に黒い付着物

が付く。504は砥石である。断面は長方形で使用により一端はやや薄くなる。滑石製である。

ＳＥ2258（図版34）

直径1.2m、深さ1.3mの井戸である。底部は平坦で壁は垂直に立ち上がる。ＳＫ1503に切られる。

ＳＥ2258出土遺物（図版65）

505は棒状部材である。

ＳＫ1532（図版35）

直径0.7m、深さ0.4mの土坑である。西側を土坑に切られる。埋土はレンズ状に堆積する。

ＳＫ1532出土遺物（図版65）

506は珠洲焼き擂鉢である。口径28.0cmで、口縁端部に内傾する面を持つ。残存部に卸目は確認できない。

ＳＫ1533（図版35）

直径0.8m、深さ0.6mの土坑である。底部は平坦で、壁はやや開き気味に立ち上がる。

ＳＫ1533出土遺物（図版65）

507は土師器碗Ａ２Ⅲ類である。内面にヘラミガキを行う。508は曲物側板である。509・510は部材である。

ＳＫ1557（図版35）

直径0.7m、深さ0.6mの土坑である。底部は平坦で壁はやや開き気味に立ち上がる。

ＳＫ1557出土遺物（図版66）

511は漆器皿である。口径9.6cm、底径6.6cm、器高1.7cmである。内外黒漆で低い高台を削り出す。

ＳＫ1561（図版35）

直径0.8m、深さ0.3mの土坑である。東側を土坑に切られる。底部は平坦である。埋土は水平に堆積する。底部やや上から板状木製品が出土した。

ＳＫ1561出土遺物（図版66）

512は折敷底部で、残存長30.0cm、各辺中央がやや膨らむ隅丸方形になる。側板と結束するための穴が４ヶ所、結束のための樹皮が２ヶ所遺存する。片面に細かい刃物痕が多く残る。513は曲物の底部である。残存部の径37.3cmである。側板と結束のための穴が４ヶ所確認できる。514は一辺30.0cmの折敷底部である。側板との結束のための穴が５ヶ所確認でき、うち１ヶ所に結束のための樹皮製紐が残る。片面に細かい刃物痕が密に残る。515は板杓子である。身の先端は丸

く成形され、身幅7.5㎝、柄幅3.7㎝である。

ＳＥ1564（図版35）

直径0.8m、深さ0.9mの井戸である。底部は平坦で壁は垂直に立ち上がる。壁面に地山崩落土が堆積する。

ＳＥ1564出土遺物（図版66）

516は珠洲焼き甕の体部で、外面に平行叩き具痕が残る。517は曲物底板である。

ＳＥ1569（図版35）

長径1.2m、短径0.9m、深さ1.0mの井戸である。底部は平坦で壁は垂直に立ち上がる。埋土はレンズ状に堆積する。

ＳＥ1569出土遺物（図版66）

518は棒状部材である。

ＳＥ1576（図版35）

長径1.6m、短径1.1m、深さ1.0mの井戸である。底部は狭い平坦面を持ち、壁は開きながら立ち上がる。埋土は上層に地山土ブロックを多く含む。底面から漆器皿が出土した。

ＳＥ1576出土遺物（図版67）

519は青磁碗である。口径16.4㎝、底径5.2㎝、器高6.7㎝である。体部は張り、口縁端部が外側へ屈曲して開く。高台端部を削って尖り気味に仕上げる。内底面に草魚様文様が印刻され、明緑灰色の釉がかかる。内面に漆が付着する。520は須恵器長頸瓶の口縁部である。口縁端部は外側に面を持ち、凹線が巡る。521は漆器有台椀である。高台は削り出しで太く短い。内底面に模様を描く。522は木製部材である。

ＳＫ1595（図版35）

直径1.0m、深さ0.5mの土坑である。底部は平坦で壁は若干開き気味に立ち上がる。埋土は水平に堆積する。

ＳＫ1595出土遺物（図版67）

523は珠洲焼き甕である。口径46.0㎝である。体部外面に平行叩き具痕が残る。内面に漆が付着し、外面に煤が付く。

ＳＥ1603（図版35）

長径1.7m、短径1.5m、深さ1.0mの井戸である。底面は平坦で、西側の壁は垂直気味に立ち上がり、東側の壁は開き気味に立ち上がる。埋土は東から流れ込むように堆積する。

ＳＥ1603出土遺物（図版67）

524は珠洲焼き擂鉢である。口径23.0cm、口縁端部は外傾する面を持つ。内外面に焼成時のものとみられる亀裂および剥離が顕著である。525は漆器有台椀である。口径15.0cm、底径8.8cm、器高4.0cmである。高台は短く削り出す。526は板状部材である。側縁が炭化する。527は曲物側板である。一方の側縁付近に結束用とみられる穴が２ヶ所確認できる。528～534は炭化木材である。いずれも丸木状で、成形・調整痕は確認できない。

ＳＥ1618（図版36）

直径1.1m、深さ1.0mの井戸である。底部は平坦で若干開き気味に壁が立ち上がる。埋土は下半で水平堆積、上半で流れ込みが見られる。底面から漆器皿が出土した。

ＳＥ1618出土遺物（図版68）

535は漆器有台椀である。口径15.6cm、底径8.6cm、器高5.2cmである。短く外側へ開く高台を削り出す。

ＳＫ1623（図版36）

直径0.8m、深さ0.7mの土坑である。壁はやや開き気味に立ち上がる。

ＳＫ1623出土遺物（図版68）

536は曲物底板である。直径9.2cm、厚さ0.6cmである。結束のための穴などは確認できない。

ＳＫ1628（図版36）

直径2.5m、深さ0.9mの土坑である。底面は西側が低く、西側の壁は垂直気味に立ち上がり、東側は大きく開く。埋土のは西側下半が先に堆積し、上半は東から流れ込むように堆積する。第１層から須恵器瓹が出土しているが混入品である。第8層から完形の土師器無台碗がまとまって出土した。

ＳＫ1628出土遺物（図版68）

537は須恵器無台杯である。底径6.2cm、底部回転糸切り無調整である。538～545は土師器無台碗である。538がＡ2類、他はＡ1類である。法量はいずれもⅢ類である。541は内外面に二次焼成を受ける。546は須恵器瓹である。頸部は短くやや太い。体部中位よりやや上に最大径を持つ。外底面にロクロ削りを行う。体部中位にカキメと波状文を巡らす。体部の穴は文様を切って開けられる。頸部に幅広の波状文が巡る。口縁部内面と肩部外面に自然釉がかかる。547は須恵器横瓶である。口径10.4cm、外面に擬格子叩き具痕、内面に同心円当具痕が残る。548は須恵器甕の口縁部である。口縁部外面に波状文が２段確認できる。

ＳＫ1638（図版36）

直径0.9m、深さ0.8mの土坑である。底部は平坦で、壁は若干開き気味に立ち上がる。埋土はレンズ状に堆積し、第１層は地山土の小ブロックを多量に含む。

ＳＫ1638出土遺物（図版68）

549～550は土師器無台碗である。いずれもＡ２類で、法量は549がⅢ類、550がⅡ類である。551は土師器黒色碗である。552は珠洲焼き壷である。外面にロクロ削りを行う。

ＳＫ1639（図版36）

東西2.9m以上、南北3.2m、深さ0.2mの土坑である。底部は細かいピットが少量あるがほぼ平坦である。

ＳＫ1639出土遺物（図版68）

553は古墳時代の須恵器杯蓋である。外面天井部にロクロケズリを行う。胎土は精良で焼成は堅緻である。554～556は土師器無台碗である。554はＡ１Ⅲ類、555はＡ２Ⅰ類である。555は外面に二次焼成を受ける。557は灰釉陶器皿である。底径8.0cm、高台は太い三日月高台で、外側の下方に丸味を帯びた稜が付き、内側はほとんど湾曲しない。残存部に釉は確認できない。558は須恵器甕の体部片である。外面に擬格子叩き痕、内面に同心円当具痕が残る。

ＳＫ1647（図版37，86）

長径3.7m、短径2.7m、深さ0.3mの土坑である。底面は凹凸が多い。北側をピットに切られる。

ＳＫ1647出土遺物（図版68）

559は須恵器無台杯である。口径12.0cmである。560・561・563は土師器無台碗である。560はＡ1Ⅲ類である。562は土師器黒色碗である。

ＳＫ1677（図版37）

長径2.4m、短径1.8m、深さ0.5mの土坑である。底部は平坦で、壁は開き気味に立ち上がる。埋土はレンズ状に堆積する。

ＳＫ1677出土遺物（図版69）

564・565は須恵器無台杯である。いずれも口径12.0cmである。566～573・575～577は土師器無台碗である。566・569・571・572・573・577がＡ1類、567・568・570がＢ１類である。法量は575がⅡ類の他は、いずれもⅢ類である。568～571はほぼ完形である。570は二次焼成を受けており、口縁部に煤が強く付着し、内底面中央が二次焼成による劣化のためか窪んでいる。573は二次焼成を受けており、外底面が剥離する。574は土師器黒色碗である。Ａ２Ⅱ類で、内面にヘラミガキを行う。578・579は須恵器甕体部片である。外面叩き具痕は578が擬格子、579が平行、内面当て具痕はいずれも同心円である。580は土師器甕である。大きく安定した平底で、外底面中央はやや上がる。

ＳＫ1678（図版38）

長径5.2m、短径2.4m、深さ0.3mの不正楕円形の土坑である。底面は小さい凹凸が多い。埋土

はレンズ状に堆積し、地山土の極小さいブロック、炭化物を多く含む。

ＳＫ1678出土遺物（図版69）

581～583は須恵器無台杯である。581は外面に二次焼成を受ける。583は底部回転ヘラ切り後ナデ調整を行う。584～585・587・588は土師器無台碗である。584・585はＡ２Ⅲ類である。586は土師器黒色碗である。589は土師器有台皿である。内面に黒色処理を行う。590は灰釉陶器皿である。底径8.0㎝、高台は三日月高台で、外側は中位よりやや下に稜を持ち、内側の湾曲は弱い。

ＳＫ1679（図版38）

長径3.2ｍ、短径2.0ｍ、深さ0.3ｍの楕円形の土坑である。底面は全体に凹凸が広がる。ＳＫ2255を切る。埋土はレンズ状に堆積し、炭化物を多く含む。

ＳＫ1679出土遺物（図版69）

591は須恵器無台杯である。口径12.4㎝、口縁部が直線的に開く深身のものである。592・593は土師器無台碗である。いずれもＡ１Ⅲ類である。593は内面に二次焼成を受ける。594は須恵器有台鉢である。口径27.0㎝である。体部は緩く内湾して開き、口縁部は外側へ屈曲する。口縁端部は中央が窪んだ面を持つ。595は土師器甕である。口径16.0㎝で、口縁部は内湾して収まる。

ＳＫ2255（図版38）

長径1.8ｍ、短径1.4ｍ、深さ0.5ｍの土坑である。底部はやや尖り気味で狭い。ＳＫ1679に切られる。埋土は西側から流れ込むように堆積する。

ＳＫ2255出土遺物（図版70）

596は須恵器蓋杯である。口径14.0㎝、口縁端部内側に面を持ち、先端は尖る。口縁部は内傾して立ち上がり、受け部は斜め上方に伸びる。597～600は土師器無台碗である。599はＡ２類、他はＡ１類である。法量は597・598はⅣ類、599・600はⅢ類である。

ＳＫ1709（図版37）

直径1.0ｍ、深さ0.8ｍの土坑である。底部は丸味を帯び、壁は垂直に立ち上がる。埋土は水平に堆積し、大きく3層に分けられる。上層は地山土の小ブロックと炭化物が混じる。中層は地山土の大きいブロックがほとんどを占める。下層は腐植した植物繊維を多く含む黒褐色シルトである。

ＳＫ1709出土遺物（図版70）

601は漆器椀である。内外面黒漆に朱漆で模様を描く。602・603は板状木製品である。604は棒状部材である。605～612は箸である。直径５～８㎜で断面は不正形である。先端を細く仕上げる。

ＳＥ1711（図版37）

直径1.1ｍ、深さ1.4ｍの井戸である。底部は平坦で壁は若干開き気味に立ち上がる。埋土は上

半に地山土のブロックが多量に混ざる。

ＳＥ1711出土遺物（図版70）

613は漆器有台椀である。口径15.0㎝、底径8.0㎝、器高7.8㎝である。内外総黒漆塗りで、朱漆で模様を体部外面、高台面、内底面に描く。

ＳＫ1729（図版39）

長径1.5m、短径1.1m、深さ0.6mの南側が窪んだ楕円形の土坑である。埋土はレンズ状に堆積し、上層は地山土のブロックを含む。

ＳＫ1729出土遺物（図版70）

614は珠洲焼き擂鉢である。口径29.0㎝、口縁端部は外傾する面を持つ。幅21㎜に14条の卸目を持つ。

ＳＫ1772（図版39）

直径1.0m、深さ0.9mの土坑である。底部はやや平坦で西側の壁はほぼ垂直に、東側の壁は開き気味に立ち上がる。埋土は東側から流れ込むようにレンズ状に堆積する。埋土は大きく３層に分けられ、上層は暗褐色シルト、中層は黒褐色シルトに地山土ブロックが多く含まれ、下層は黒褐色シルトに植物質の炭化物を多く含む。

ＳＫ1772出土遺物（図版70）

615は棒状部材である。やや屈曲する。農具等の柄とみられる。616は折敷底板である。縁部付近に結束のための穴が２ヶ所確認できる。中央に幅８㎜前後の切れ込みが入る。

ＳＥ1801（図版39）

長径1.9m、短径1.7m、深さ1.2mの井戸である。底部は平坦で、壁は開き気味に立ち上がる。

ＳＥ1801出土遺物（図版71）

617は木製匙である。一木で作る。身幅6.5㎝、身長11.0㎝、柄幅1.8㎝で、柄は途中で破損する。身は表面を削り凹面を作る。618は俎板である。長辺29.8㎝、短辺18.4㎝、厚さ0.5㎝である。表面は細かい刃物傷が多量に付き、裏面には少量付く。表面の一端に径5㎜ほどの焦げ痕が４ヶ所確認できる。

S.K 1844（図版39）

直径0.8m、深さ0.5mの土坑である。底部は平坦で壁は垂直に立ち上がる。埋土の堆積は水平で、礫・炭化物・腐蝕した植物繊維・地山土ブロックを多く含む。

ＳＫ1844出土遺物（図版71）

619・620は青磁碗である。619は底径5.0㎝、内底面に花文様を印刻する。内面全体と外面体部から高台外側に淡緑色の釉をかける。620は底径7.2㎝で、濃緑色の釉をかける。621・623は漆器

有台椀である。621は口径8.0cm、底径4.6cm、器高2.1cm、内外総黒漆、内底面に朱漆で模様を描く。623は口径19.4cm、底径8.4cm、器高6.0cm、口縁部は緩く外反する。622は円形曲物底板である。624は板状木製品である。

ＳＫ2109（図版39）

直径0.9m、深さ0.6mの土坑である。底面は平坦で、壁は若干開き気味に立ち上がる。埋土は東から流れ込み、下層には腐植した植物繊維を多く含む。底面から青磁片が出土した。

ＳＫ2109出土遺物（図版71）

625は青磁碗である。底径5.8cmである。内底面に薄く草花文様を印刻する。

ＳＫ2163（図版39）

直径0.6m、深さ0.3mの土坑である。底部はやや丸味を帯び、壁は垂直に立ち上がる。埋土は北側から流れ込むように堆積する。

ＳＫ2163出土遺物（図版71）

626は漆器有台椀である。底径4.6cmである。627は板杓子である。身幅８cm以上、身長21cm、柄幅3.5cm以上の大型のものである。628は折敷底板である。一辺は丸味をもつ。結束のための穴が一ヶ所確認できる。

ＳＫ2167（図版39）

長径3.2m、短径1.2m、深さ1.1mの長楕円形の土坑である。埋土は黒褐色シルトに地山土ブロックが多量に含まれる。上層から青磁稜花皿が出土した。

ＳＫ2167出土遺物（図版71）

629は青磁稜花皿である。口径13.2cm、底径5.8cm、器高2.9cmである。明緑色の釉がかかり、内底面及び高台端面は釉を削り取る。内面体部下位に草花文様を印刻する。

ＳＫ2172（図版39）

直径0.7m、深さ0.5mの土坑である。底部は丸味を帯び、壁は垂直気味に立ち上がる。

ＳＫ2172出土遺物（図版72）

630は曲物側板である。方形曲物もしくは折敷のものとみられる。

ＳＫ2222（図版40）

長辺1.9m、短辺1.7m、深さ0.1mの長方形の土坑である。埋土は単層で、地山土ブロックと暗褐色シルトブロックが混ざる。南西角から珠洲焼き壷の底部が出土した。

ＳＫ2222出土遺物（図版72）

631は珠洲焼き壷である。底径9.0cm、底部切り離しは静止糸切りである。体部外面にロクロケ

ズリを行う。

ＳＫ2237（図版40）

直径1.3m、深さ1.0mの土坑である。底部は平坦で壁は若干開き気味に立ち上がる。東側は土坑に切られる。埋土は水平に堆積する。

ＳＫ2237出土遺物（図版72）

632は曲物底板である。直径19.0cm、厚さ1.3cmである。633は杭である。太さ3.6cm、残存長32.8cm、先端は片面を削り尖らせる。

ＳＫ2238（図版40）

直径0.7m、深さ0.8mの土坑である。底部は東側に横穴状に広がり平坦である。壁は垂直に立ち上がる。埋土の堆積は水平で下層は腐植した植物繊維を多く含む。

ＳＫ2238出土遺物（図版72）

634は珠洲焼き擂鉢である。口径31.0cm、口縁部と体部の境は薄くなる。内面に幅29mm10状の卸目を入れる。口縁端部の面は水平である。

ＳＰ2239（図版40）

直径0.2m、深さ0.2mのピットである。構成する建物などは確認できなかった。

ＳＰ2239出土遺物（図版72）

635は珠洲焼き擂鉢である。口径28.0cm、口縁端部は内傾する面を持つ。口縁端部は破損が著しいが、一部波状文が残る。

試掘調査出土遺物（図版72）

636は灰釉陶器皿で試掘調査で出土した。口径15.0cm、口縁端部は短く外に屈曲する。外面体部下半にロクロケズリを行い、口縁部内外面に灰白色の釉を刷毛塗りする。

包含層出土遺物（図版72，73）

637～639は須恵器蓋杯である。口径はいずれも12.0cm、637の口縁部は直立して立ち上がり、端部内側に丸味を帯びた面を持つ。受け部は横に伸びる。638の口縁部は内傾して立ち上がり、受け部は横に伸びる。639の口縁部は内傾して立ち上がり、受け部はやや上方に伸びる。640は須恵器有台杯の蓋で口径18.8cm、擬宝珠形のつまみを持つ。口縁部内面に短いカエリを持つ。外面天井部にロクロケズリを行う。641～644は須恵器無台杯である。口径は11.8～13.4cm、器高３cm前後、いずれも底部回転ヘラ切り後ナデ調整を行う。645・646は土師器無台碗で645はＡ１類、646はＡ２類、法量はいずれもⅢ類である。647～651は灰釉陶器碗の口縁部破片である。口縁端部はいずれも短く外反する。652～657は灰釉陶器皿である。653は口縁端部が極短く外反し、

655・657の口縁端部は強く外へ折れ曲がる。その他は短く外反する。658・659は灰釉陶器碗の底部破片である。658の高台は屈曲の弱い三日月高台で、659は細く高い三日月高台である。660～663は灰釉陶器皿の底部破片である。660の高台は短く退化した三日月高台である。661の高台は直立気味のものである。662・663の高台は細く湾曲する。662の内底面に重ね焼きによる高台痕が残る。664は灰釉陶器耳皿である。底部は回転糸切り無調整で、薄緑の釉をかける。665は灰釉陶器長頸瓶の頸部破片である。頸部径4.8cm、内面上位と外面全体に淡緑色の釉がかかる。666は灰釉陶器短頸壷である。口径12.0cm、口縁部は短く直立し、肩部は大きく広がる。口縁部内面から外面全体に淡緑色の釉がかかる。667は灰釉陶器の壷の肩部破片、668は体部破片である。669・670は灰釉陶器壷の底部破片である。いずれも太く短い外端接地の高台を持つ。671は青磁碗である。底径5.0cm、高台端面及び高台内面にケズリを行う。内底面に草花文様を印刻する。672は磨製石斧の刃部である。石材は蛇紋岩である。673は土師器皿の柱状高台である。底径6.8cm、底部に回転糸切り痕が残る。

第Ⅳ章　まとめ

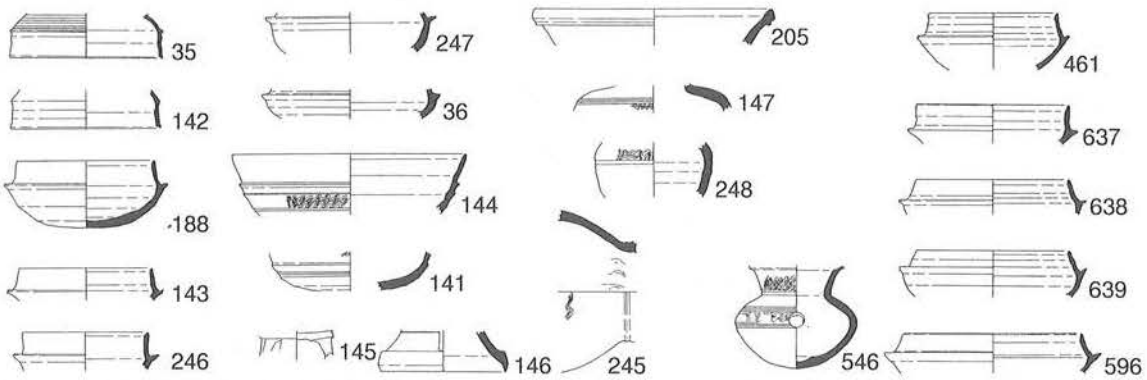
1．古墳時代の遺物

宮ノ前遺跡と畠田遺跡の古墳時代の出土遺物は似た様相を呈し、北陸自動車道を挟んで隣接していることから、同一の集落跡であったと考えられる。ここでは両遺跡の古墳時代の年代観について考えたい。畠田遺跡では古墳時代の竪穴住居が4棟確認されたが、宮ノ前遺跡では古墳時代の住居は見つかっていない。遺物の出土量も調査面積に反して宮ノ前遺跡の方が少ないことから古墳時代集落の中心が畠田遺跡にあったみられる。

柏崎平野周辺を中心とした古墳時代の土器編年は品田高志氏がまとめている（品田 1990, 1999)。ここで、中期後半にあげられる戸口遺跡Ｂ地区の土器群は甕の口縁部の屈曲が緩くなり、内面調整にヘラ削り状のものが目立つ。食膳具の碗が出現するが黒色処理は認められず、口縁部は短く外反する。後期前半の戸口遺跡Ａ地区の土器群では碗類の黒色処理が増加し、後期後半の高塩Ｂ遺跡では高杯を含めたほとんどの食膳具に黒色処理が行われる。碗の外反する口縁部は長くなる。中・大型の甕は徐々に体部の張りが弱くなり、長胴化へと向かう。

宮ノ前・畠田遺跡の土器群では杯の多くに黒色処理が行われ、高杯にも定量の黒色処理が認められる。甕の頸部から口縁部への屈曲は緩く、体部はやや強く張る。宮ノ前遺跡で確認される古墳時代の遺構はＳＤ515で、土師器甕が一括して出土している。239は宮ノ前遺跡で唯一全形が確認できる甕である。これは広くはないが安定した平底を持ち、体部はやや張りがある。口縁部は緩く「く」字状に曲がる。240～242は体部上半から上が残るが、頸部は緩く湾曲するか折れ曲がり、口縁端部は丸く収まる。241はやや長胴になる。その他の遺構では小片が少量出土するものや、後世の遺構に混入したものが見られる。杯・高杯には黒色処理を行うものが多い。杯の形態は体部が丸味を帯び、口縁部が外反して直線的に開くものが主体で、他に全体が丸味を帯び、口縁部が内湾気味に収まるものがある。高杯の脚部は太い棒状の脚柱部に大きく開く裾が付くもの、徐々に開く円筒状の脚注部のもの、杯底部から大きく脚注部が開くものがある。杯部は口縁部が外反する杯と同様の形態のものが多い。畠田遺跡でも同様の様相が見られるが、黒色処理を行わない高杯がやや多く認められた。また、甕の口縁端部に面を持つものや、端部を肥厚させるものがある。これらを品田氏の編年に対比してみると、高杯に対する黒色処理の頻度、杯・高杯の形態、甕の体部・口縁部の特徴から、戸口遺跡Ｂ地区より新しく、高塩Ｂ遺跡に先行、後期前半の戸口遺跡Ａ地区に併行すると考えられる。

宮ノ前・畠田遺跡では須恵器の出土量が当時期にしては多いことが特徴である。当期の須恵器は在地では生産されていないため、他地域から搬入されたことは確実とみられる。その流通量は少なく希少性が認められる。蓋杯は２個体確認され、いずれも口縁端部に内傾する面を持つ。畠田遺跡34・35は同一個体で、天井部外面にカキメを行う。天井部と体部の境の稜も鋭く、ＴＫ47型式以前の特徴を持つ。畠田遺跡142の稜はやや鈍く、新しい様相を呈す。杯身は口縁端部に内傾する面をもち、口縁部の立ち上がりは垂直に近いものが多い。口径が大きいものには内傾する



第４図　宮ノ前遺跡・畠田遺跡出土の古墳時代の須恵器

ものも見られる。無蓋高杯の全形は窺えないが、杯部では鋭い稜と波状文が巡り、脚部には方形の透かしが入る。瑳は体部に波状文を巡らす。宮ノ前546の頸部はやや太く、沈線と波状文を巡らせる。畠田245は樽形瑳であるが、陶邑窯跡群ではＴＫ208型式まで存続が確認される器種である。これらの須恵器の型式は畠田245の樽形瑳を除き、ＴＫ47型式からＴＫ10型式に比定される。前出の土師器編年では後期初頭の土器群にＴＫ47型式の須恵器が、後期前半の土器群にＭＴ15形式の須恵器が伴う。なお、畠田245の樽形瑳のみが年代を古く捉えられるが、特殊な器形であることから伝世したことも想定される。以上のことから宮ノ前・畠田遺跡の古墳時代の遺物は６世紀初頭頃もしくは５世紀末から６世紀中頃のものが主体となると考えられる。

２．平安時代の遺物

柏崎平野周辺を含め、新潟県における古代土器の編年は坂井秀弥氏、春日真実氏、品田高志氏らを始め、多くの研究が行われている。宮ノ前遺跡の調査では土坑・井戸などから平安時代の資料がまとまって出土した。ここでこれら一括出土資料を中心に宮ノ前遺跡の平安時代土器群の変遷について春日氏の編年を基に検討を加える。宮ノ前遺跡の平安時代の土器群を食膳具の形態を中心に分類し、以下のように３期に分けた。

宮ノ前Ⅰ期：ＳＢ1・ＳＫ51・ＳＫ539・ＳＫ609・ＳＰ979・ＳＥ1075・ＳＥ1077

食膳具における須恵器の比率が高く、須恵器有台杯・有台碗も一定量存在する。この段階ですでに須恵器食膳具のほとんどが佐渡小泊窯産のものとなっており、在地産のものはほとんどみられない。須恵器無台杯は底径が大きく、口縁部の開きはそれほど大きくない。底部は厚手に作られる。底部の回転ヘラ切り痕をナデ消すものが多く、内底面に仕上げナデを行うものもある。土師器無台碗は口径に対して底径が大きく、浅めのものが主体となる。体部から口縁部は内湾気味に立ち上がるものが多い。径高指数が低いものが多い。

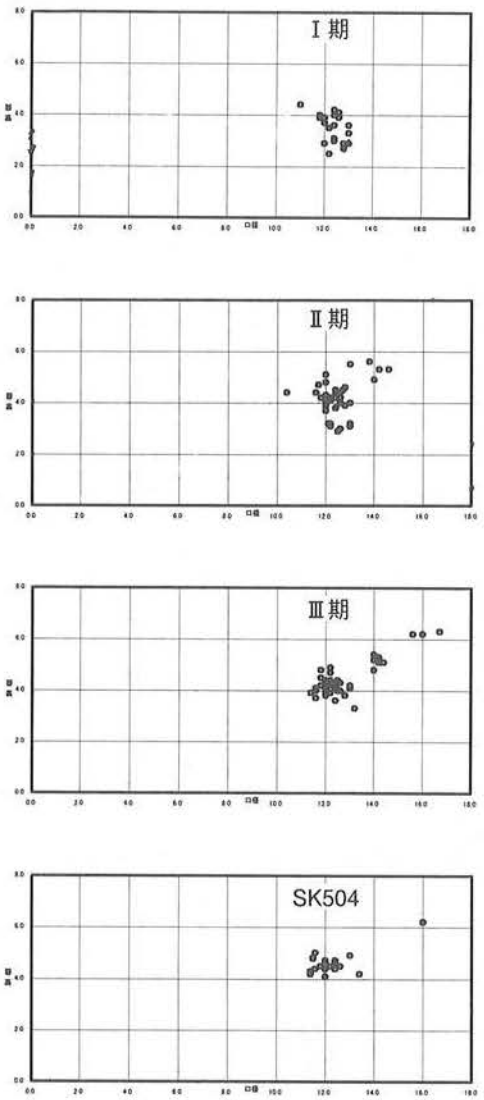
宮ノ前Ⅱ期：ＳＢ3・ＳＢ7・ＳＫ178・ＳＥ199・ＳＫ614・ＳＩ1073・ＳＥ1097Ａ・ＳＤ1321・ＳＫ1677・ＳＫ1679

食膳具に占める須恵器の比率が大きく減少する。須恵器無台杯は口径・器高ともにＩ期と変わ

らないが、底径がやや小さく、口縁部の開きが大きいものが増える。土師器無台碗は底径が縮小し、体部中位がやや張りをもつ。口縁端部はやや外反するものが増える。口径はⅠ期と変わらないが、深身のものが多くなる。

宮ノ前Ⅲ期：ＳＫ504・ＳＫ608・ＳＥ1076・ＳＫ1097Ｂ・ＳＫ1628・ＳＫ1678

食膳具における須恵器の比率はさらに下がり、良好な残存状況を示すものはみられない。黒色有台皿が出現する。土師器無台碗は調整が粗雑となり、ロクロナデによる段が明瞭に残るものが多い。体部の張りもみられなくなり、緩やかに内湾しながら開く。出土量が多いⅢ類の口径はⅡ期に比べ縮小するが器高はそれほど変わらない。



第５図　土師器無台碗法量散布図

春日氏の新潟県古代土器編年ではⅥ期に在地産須恵器が減少し、佐渡小泊産須恵器と土師器・黒色土器が食膳具の大半を占める。小泊産須恵器ではⅥ１期にカメ畑窯が、Ⅵ２～３期に江ノ下窯が比定される。Ⅶ期には須恵器が大幅に減少し、土師器・黒色土器の作りが粗雑になり、一過性の食器の性格を帯びることが指摘される。宮ノ前遺跡ではⅠ期からⅢ期にかけて全体的に黒色処理を行うものが少なく他地域の遺跡と差異が見られるが、宮ノ前Ⅰ期は小泊産須恵器が食膳具のほぼ半数を占め、そのほとんどが無台杯である。また、須恵器無台杯の形態はカメ畑窯段階とみられ、春日編年のⅥ１期に比定できる。宮ノ前Ⅱ期の須恵器無台杯が江ノ下窯段階のものとみられることから春日編年のⅥ２期～Ⅵ３期に比定される。宮ノ前Ⅲ期では須恵器食膳具がほとんど見られないが、土師器無台碗が縮小化・粗雑化することからⅦ１期と考えられる。春日氏はⅥ期を９世紀後半～10世紀初頭前後、Ⅶ期を10世紀前葉前後～11世紀前葉に比定し、Ⅶ期を３小期に区分することから、宮ノ前Ⅰ期～Ⅲ期は９世紀後半から10世紀中頃までと考えられる。

宮ノ前遺跡では灰釉陶器が多数出土した。いずれも破片で包含層からの出土が多い。器種は碗と皿が主体で、碗は大型のものが多い。碗・皿の施釉方法はいずれもハケ塗りとみられるものが多く、高台は定型化した三日月高台である。口縁端部は外へ引き出すもの、緩く外反してナデを行うもの、玉縁状を呈するものがみられる。これらは猿投窯編年の黒笹90号窯式、併行する光ヶ丘１号窯式段階のものと捉えられる。当時期は猿投窯以外にも灰釉陶器の生産地が存在し、流通経路も含め産地の確定は重要な問題と考えられる。宮ノ前遺跡の灰釉陶器は胎土の特徴から美濃

窯産のものが主体で、少量の猿投窯産や篠岡窯産が混じると考えられる。実年代は９世紀後半～10世紀前半頃に比定され、前記の土器編年で導き出した年代観に概ね一致すると考える。

このほかに宮ノ前遺跡ではＳＫ505・ＳＤ507などからＩ期に先行するとみられる遺物も確認されるが、遺構上部が削られており、他時期の遺構に混入していることから厳密な抽出はできなかった。出土量も少ないため、Ｉ期に先行して集落形成がなされたと想定する以上の考察は加えられなかった。

<table>
<tr><th>宮ノ前</th><th>田嶋
1988</th><th>出越出越
1997</th><th colspan="2">越後春日
1999</th><th>佐渡坂井
他1991</th><th>猿投齋藤
他1995</th><th>東濃齋藤
他1995</th><th>三島郡
品田2001</th><th>古志郡</th><th>宮ノ前遺跡遺構</th><th>井ノ町
遺跡</th></tr>
<tr><td></td><td>Ｖ１</td><td>Ｉ－１</td><td rowspan="2">Ⅴ</td><td>１</td><td rowspan="2">下口沢</td><td></td><td></td><td></td><td rowspan="7">八幡林Ｉ地区下層
八幡林Ｉ地区上層
八幡林Ｃ地区
門新外割田
門新SD－152</td><td></td><td rowspan="2">SK12</td></tr>
<tr><td></td><td>Ｖ２</td><td rowspan="2">Ｉ－２
～
Ｉ－４</td><td>２</td><td></td><td></td><td rowspan="2">前掛り</td><td></td></tr>
<tr><td>Ｉ</td><td>Ⅵ１</td><td rowspan="4">Ⅵ</td><td>１</td><td>カメ畑</td><td>Ｋ－90</td><td>光ヶ丘</td><td>SB1/SK51//SK539/SK609/SE1075/SE1077/</td><td rowspan="3">SK272
SK338</td></tr>
<tr><td>Ⅱ</td><td>Ⅵ２</td><td rowspan="2">Ⅱ－１</td><td>２</td><td rowspan="2">江ノ下</td><td rowspan="2">宮田SD－346
宮田SD－378a</td><td rowspan="2">SB3/SB7/SE199/SK178/SK614/SI1073/SE1097A/SD1321/SK1677/</td></tr>
<tr><td></td><td>Ⅵ３</td><td>３</td><td rowspan="2">Ｏ－53</td><td rowspan="2">大原２</td></tr>
<tr><td>Ⅲ</td><td>Ⅶ１</td><td>Ⅱ－２古</td><td rowspan="2">Ⅶ</td><td>１</td><td>高野</td><td>深町ＳＸ－33</td><td>SK504/SK608/SE1076/SK1097B/SK1628/SK1678/</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td>Ⅶ２
古</td><td>Ⅱ－２新
Ⅱ－３</td><td>２</td><td></td><td>Ｈ－72</td><td>虎渓山</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>

第６図　古代土器編年案

３．中世の土器・陶磁器

宮ノ前遺跡で出土した中世の遺物の多くは木製品で、これに少量の土器（カワラケ）・陶磁器・漆器が混ざる。カワラケには手づくね成形のものとロクロ成形のものが見られる。手づくね成形のものでは、口縁部に強いヨコナデを行う「刈羽・三島型」が見られ、これは畿内系の技法のものが在地で独自の変遷過程をたどったものとされる（品田 1999)。越後では12世紀中頃に畿内系の手づくね成形のカワラケが流入し始め、15世紀にロクロ成形関東系のものに変わるまで存続した。宮ノ前遺跡出土の「刈羽・三島型」カワラケはヨコナデによる段が弱いもの、もしくはヨコナデによる段がみられないもので、13世紀後半から14世紀に比定される。ロクロ成形のものは底部の切り離し方法が回転糸切りによるもので、口縁部が外反気味に長く伸びるものと、短く直線的に伸びるものがあるが、手づくね成形のものに比べ少ない。673は柱状高台を持つ皿で11世紀代のものである。

珠洲焼きには壷・甕・擂鉢がある。古いもので吉岡編年Ⅱ期に遡るものがみられるが、多くはⅢ期からⅣ期に比定され、Ⅴ期まで下るものが若干見られる。青磁では118（ＳＫ70）が蓮弁紋を施す碗で14世紀後半に位置づけられる。その他の青磁碗も14世紀後半のもので、ＳＫ2167出土の稜花皿（629）が15世紀後半以降のである。古瀬戸はＳＫ1503出土の２点のみである。496の小壷は14世紀代、遺構上面出土の香炉（492）は16世紀代のものである。

以上、雑駁に宮ノ前遺跡出土の中世遺物の年代について述べたが、宮ノ前遺跡では11世紀代から15世紀代までの遺物が確認され、13世紀後半から14世紀に土器・陶磁器・漆器の出土量が充実する。

４．平安時代の宮ノ前遺跡

宮ノ前遺跡の発掘調査では2,000基を超える遺構が検出されたが、本報告書では遺物が出土した遺構を中心に掲載したため、掘立柱建物23棟、溝５条、井戸34基、土坑54基、竪穴状遺構１基、ピット12基を報告できたにすぎない。これらの中でも時期を限定できないものが多く、集落の展開については不明な点が多い。ここでは平安時代の集落について若干の検討を加えたい。

宮ノ前遺跡の検出した掘立柱建物の中で平安時代のものと考えられるものはＳＢ1・ＳＢ2・ＳＢ3・ＳＢ4・ＳＢ5・ＳＢ7・ＳＢ8・ＳＢ9・ＳＢ22・ＳＢ23である。このうちＳＢ22以外は区画溝と考えられるＳＤ1321の西側に集中する。ＳＤ1321は幅2.5m前後で覆土から古墳時代・平安時代の遺物が出土している。

ＳＢ１・ＳＢ２・ＳＢ３は当遺跡で中心になると考えられる大型の建物で、主軸方位が大きく変化することなく、ほぼ同位置で建て替えが行われる。これらに付属するようにＳＢ４・ＳＢ５が建てられる。ＳＢ１・ＳＢ２は面積80㎡を超え、ＳＢ3は120㎡を超える。これは、新潟県内で確認されている平安時代の掘立柱建物の中でも大型の部類である。そして、他の平安時代の建物とＳＤ1321は大型建物と主軸方位がほぼ同じか、直交して建てられる。また、柱穴掘方に類似性が認められるＳＢ１・ＳＢ７・ＳＢ９・ＳＢ23は柱筋も概ね一致しており、計画的な配置がうかがえる。ＳＢ７・ＳＢ９は１間×４間という特殊な形態で、住居や倉庫とは考えがたい。あえて性格を想定すれば厩が挙げられるが、これを裏付ける遺物などは出土していない。

調査中、大型建物の検出や灰釉陶器の出土量の多さから官衙・荘園などに関係する遺跡ではないかと想定した。しかし、文字資料が墨書土器１点のみで、これを裏付けることはできなかった。ここでは、９世紀後半から10世紀頃に活発化したとされる新田開発を手がけた開発領主の居宅などの存在を想定したい。

《要　　約》

1．宮ノ前遺跡は新潟県刈羽郡西山町大字北野字宮ノ前に所在する。遺跡は柏崎平野の北部、曾地丘陵西麓の沖積地に立地する。標高は約22m、現況は水田である。

2．発掘調査は県営ほ場整備事業北野地区に伴って、平成11年に実施した。調査面積は約3,850㎡である。

3．調査の結果、縄文時代・古墳時代後期・奈良時代・平安時代・中世の遺構・遺物を発見した。主体は平安時代・中世である。

4．古墳時代後期は隣接する畠田遺跡との関連が強く、同一の集落と考えられる。宮ノ前遺跡では当時のものと限定できる遺構はほとんど見つからず、集落の中心は畠田遺跡側と見られる。両集落からはＴＫ47～ＴＫ10型式の須恵器蓋杯・高杯・瓶などが多く出土しており、当遺跡の特殊性がうかがえる。

5．平安時代の遺構には掘立柱建物・井戸・土坑・溝・ピットがある。掘立柱建物の最大のものはＳＢ３の４間×７間（121.37㎡）で、これとほぼ同位置に大型の建物が3回建てられる。ＳＢ７・ＳＢ９は１間×４間で厩などの用途が想定できる。遺物で注目されるのは灰釉陶器の出土量の多さである。遺構外出土のものが多く、細片となっているものばかりであるが、大型建物のあり方と遺物から見て、開発領主層などの存在が想定される。遺物の年代は９世紀後半から10世紀前半のものが多く確認された。

6．中世の掘立柱建物と限定できるものは確認できない。井戸・土坑から遺物が出土しているが、土器・陶磁器は少ない。井戸から多くの木製品が出土しており、陶磁器類が伴わないものの多くは中世に属するものとみられる。

《引用・参考文献》

宇野隆夫　1989　『考古資料にみる古代と中世の歴史と社会』真陽社

宇野隆夫　1991　『律令社会の考古学研究』桂書房

加賀真樹　1997　「第１節　珠洲窯」『中・近世の北陸－考古学が語る社会史－』

柏崎市教育委員会　1997　『前掛り』

柏崎市教育委員会　2001　『宮ノ下遺跡群』

春日真実　1994　「越後における８世紀中葉の画期について」『北陸古代土器研究』第４号

春日真実　1995　「古代集落の展開－越後を事例として－」『研究紀要』㈶新潟県埋蔵文化財調査事業団

春日真実　1997　「越後・佐渡における９世紀中葉の画期」『北陸古代土器研究』第６号

春日真実　1997　「越後における10・11世紀の土器様相」『北陸古代土器研究』第７号

春日真実　1998　「西頸城地域における古代土器様相」『研究紀要』第２号　新潟県埋蔵文化財調査事業団

春日真実　1999　「第２節　土器編年と地域性」『新潟県の考古学』高志書院

金子拓男　1990　「三嶋郡の分立」・「交通と交通路」『柏崎市史』上巻　柏崎市史編さん室

刈羽村教育委員会　1995　『枯木Ａ遺跡』

刈羽村教育委員会　1998　『払川・山ノ脇遺跡』

刈羽村教育委員会　1999　『払川遺跡』

川村浩司　1999　「２　須恵器の様相」『新潟県の考古学』高志書院

斎藤孝正　1994　「１　東海地方の施釉陶器生産－猿投窯を中心に－」『古代の土器研究－律令的土器様式の西・東３－』古代の土器研究会

斎藤孝正・後藤建一　1995　『須恵器集成図録　第３巻　東日本編Ⅰ』

坂井秀弥　1984　「今池遺跡群における奈良・平安時代の土器」『上新バイパス関係遺跡発掘調査報告Ⅰ今池遺跡・下新町遺跡・子安遺跡』新潟県教育委員会

坂井秀弥　1989　「新潟県の黒色土器－６～８世紀を中心に－」『東国土器研究』第２号

坂井秀弥　1990　「越後平安期土器編年素描－西南部頸城地方を中心にして－」『東国土器研究』第３号

坂井秀弥　1997　「第５節　中世集落の展開と城館の動向」『中・近世の北陸－考古学が語る社会史－』

坂井秀弥　1997　「第５節　中世集落の展開と城館の動向」『中・近世の北陸－考古学が語る社会史－』

坂井秀弥・鶴間正昭・春日真実　1991　「佐渡の須恵器」『新潟考古』

品田高志　1990　「越後における古墳時代土器の変遷－柏崎平野の中期～後期を中心に－」『柏崎市立博物館報№４』柏崎市立博物館

品田高志　1994　「古代三島郡と古代土器の様相－柏崎平野における古代史理解に向けて－」『柏崎市立博物館報№８』

品田高志　1997　「第２節　越後国における土師器の変遷と諸相」『中・近世の北陸－考古学が語る社会史－』

品田高志　1999　「３　柏崎平野の土師器編年」『新潟県の考古学』高志書院

品田高志　1999　「第１項　中世土師器」『新潟県の考古学』高志書院

田嶋明人　1988　「古代土器編年軸の設定－加賀地域にみる７世紀から11世紀頃にかけての土器群の推移－」『シンポジウム北陸の古代土器研究の現状と課題（報告編）』石川考古学研究会・北陸古代土器研究会

田辺昭三　1991　『須恵器大成』角川書店

田村浩司　1999　「第３項　漆器」『新潟県の考古学』高志書院

中世土器研究会編　1995　『概説　中世の土器・陶磁器』真陽社
出越茂和　1997　「北陸古代後半における椀皿食器（後）」『北陸古代土器研究』第７号　北陸古代土器研究会
新潟県教育委員会　1979　『狐山塚群』
新潟県教育委員会　1982　『埋蔵文化財発掘調査報告書　尾野内遺跡・芦ヶ崎砦跡』
新潟県教育委員会　1983　『内越遺跡』
新潟県教育委員会　1984　『今池遺跡・下新町遺跡・子安遺跡』
新潟県教育委員会　1989　『山三賀Ⅱ遺跡』
新潟県教育委員会　1994　『上越市春日・木田地区発掘調査報告書Ⅳ一之口遺跡東地区』
新潟県考古学会編　1999　『新潟県の考古学』高志書院
西山町　1963　『西山町史』
西山町　1970　『西山町の民俗と文化財』
西山町　1980　『続西山町史』
西山町教育委員会　1983　『高塩Ｂ遺跡発掘調査報告書』
西山町教育委員会　1985　『多岐の脇遺跡発掘調査報告書』
西山町教育委員会　1991　『二塚・甲田城跡発掘調査報告書』
西山町教育委員会　1994　『野崎遺跡発掘調査報告書』
西山町教育委員会　2001　『畠田遺跡発掘調査報告書』
西山町教育委員会　2001　『井ノ町遺跡発掘調査報告書』
日本考古学協会新潟大会実行委員会　1993　『東日本における古墳出現課程の再検討』
藤澤良祐　1995　「〔1〕古瀬戸」『概説中世の土器・陶磁器』真陽社
北陸古代土器研究会　1997　『シンポジウム北陸の10・11世紀代の土器様相』
北陸中世土器研究会編　1997　『中・近世の北陸－考古学が語る社会史－』桂書房
宮田進一　1995　「５．北陸」『概説中世の土器・陶磁器』真陽社
山下峰司　1995　「４．灰釉陶器・山茶碗」『概説中世の土器・陶磁器』真陽社
四柳嘉章　1995　「14．漆器」『概説中世の土器・陶磁器』真陽社
四柳嘉章　1997　「第３節　北陸の中世漆器」『中・近世の北陸－考古学が語る社会史－』
和島村教育委員会　1991　『八幡林遺跡』
和島村教育委員会　1993　『八幡林遺跡』
和島村教育委員会　1994　『八幡林遺跡』
和島村教育委員会　1995　『門新遺跡』
和島村教育委員会　1996　『門新遺跡　外割田地区』

別表１　掘立柱建物計測表

建物番号	面積㎡	グリッド	桁間	梁間	長軸m	短軸m	桁平均cm	梁平均cm	面積㎡	主軸	備考
ＳＢ１	84.07	1,6	6	2	13.56	6.20	226.00	310.00	84.07	N－56°－W	雨落溝（ＳＤ503）
ＳＢ２	80.78	1,6	6	2	14.74	5.48	245.67	274.00	80.78	N－54°－W	
ＳＢ３	121.37	2,6	7	4	15.64	7.76	223.43	194.00	121.37	N－58°－W	
ＳＢ４	31.92	5,6	4	2	7.32	4.36	183.00	218.00	31.92	N－35°－E	
ＳＢ５	40.64	2,5	5	2	9.32	4.36	186.40	218.00	40.64	N－53°－W	
ＳＢ６	27.15	1,9	3	1	6.72	4.04	224.00	404.00	27.15	N－52°－W	北東面に庇
ＳＢ７	16.68	2,4	4	1	7.72	2.16	193.00	216.00	16.68	N－51°－W	
ＳＢ８	12.01	3,4	3	1	5.56	2.16	185.33	216.00	12.01	N－54°－W	
ＳＢ９	14.28	2,2	4	1	7.76	1.84	194.00	184.00	14.28	N－56°－W	
ＳＢ10	28.38	5,2	4	2	7.24	3.92	181.00	196.00	28.38	N－58°－W	
ＳＢ11	7.05	5,3	3	2	4.52	1.56	150.67	78.00	7.05	N－59°－W	
ＳＢ12	10.43	5,3	3	1	4.92	2.12	164.00	212.00	10.43	N－53°－W	
ＳＢ13	23.39	5,3	4	2	6.96	3.36	174.00	168.00	23.39	N－59°－W	
ＳＢ14	12.54	6,3	3	2	4.48	2.80	149.33	140.00	12.54	N－51°－W	
ＳＢ15	25.00	11,2	3	2	6.72	3.72	224.00	186.00	25.00	N－46°－W	
ＳＢ16	8.99	11,2	3	1	4.24	2.12	141.33	212.00	8.99	N－43°－W	
ＳＢ17	10.20	11,1	3	1	4.32	2.36	144.00	236.00	10.20	N－65°－W	
ＳＢ18	21.50	12,2	3	2	4.80	4.48	160.00	224.00	21.50	N－44°－W	
ＳＢ19	25.00	12,2	3	3	5.00	5.00	166.67	166.67	25.00	N－32°－E	
ＳＢ20	4.02	7,2	4	1	3.72	1.08	93.00	108.00	4.02	N－43°－W	
ＳＢ21	39.42	7,6	6	2	11.20	3.52	186.67	176.00	39.42	N－33°－E	
ＳＢ22	7.10	7,7	3	2	3.48	2.04	116.00	102.00	7.10	N－57°－E	
ＳＢ23	6.62	4,4	2	1	3.76	1.76	188.00	176.00	6.62	N－55°－W	

別表２　遺構一覧表

遺構								出土遺物			
	時代	平面形	平面規模		深度	実測図	写真	実測図	写真	遺物No.	備考
SK15	古代	楕円	2.28	3.26	0.28	20		42		63	灰釉碗
SE33	中世	楕円	1.22	1.42	1.20	20		43		64－78	箸
SP50	中世	丸	0.46	0.56	0.38	20		43		79－80	カワラケ，珠洲
SK51	古代	丸	1.86	2.28	1.38	20	78	43～45		81－103	灰釉皿，木製品，矢板
SE56	中世	楕円	1.14	1.68	1.00	20	78	46		104－110	カワラケ，木製品
SK66	中世	不正形	2.50	2.56	0.18	20		46		111，112	木製品
SE67	中世	丸	1.52	1.68	1.28	20	78	46		113－117	珠洲，木製品
SK70	中世	丸	0.84	0.86	0.32	21	79	47		118	青磁碗
SE78	中世	丸	1.02	1.22	0.84	21	79	47		119－123	箸，板
SK101		楕円	2.14	2.70	0.16	23					
SP102		丸	0.68	0.72	0.52	23					
SP119	古代	丸	0.28	0.36	0.42	21		47		124，125	須恵器碗
SK178	古代	楕円	1.02	1.38	0.38	21	79	47		126－129	須恵杯，土師甕
SK181	古代	長方形	0.62	0.72	0.28	21		47		130	須恵杯
SE199	古代	丸	1.14	1.26	0.70	21	79	47		131－135	灰釉皿，陽物
SP203	古代	楕円	0.28	0.82	0.62	21		47		136	須恵長頸瓶
SP221	古代	丸	0.20	0.22	0.16	21		47		137	土師碗
SE236	中世	楕円	1.02	1.28	0.92	21		47		138，139	珠洲甕，箸
SK255	中世	楕円	1.92	2.42	1.16	22	79	48		140－146	カワラケ，珠洲擂鉢，鍬
SK325	中世	楕円	2.52	3.72	0.46	23	79	48		147－152	カワラケ，珠洲擂鉢・壺，刳り物
SK470	古墳	丸	1.14	1.16	0.96	22	79	49		153	須恵杯蓋
SK498	古代	楕円	1.42	1.72	0.46	22		49		154，155	須恵碗，土師杯
SK504	古代	不正形	2.80	(3.40)	0.32	24	80	49,50		156－198	須恵蓋・杯・鉢,土師碗・皿・鍋,灰釉皿
SK505	古代	楕円	2.24	2.88	0.24	25	80	50,51		199－224	須恵杯
SD507	古代	溝	2.52	4.84	0.84	25		51		225－232	須恵杯
SP508	古代	丸	1.04	1.34	0.32	25		51		233	須恵杯
SD515	古墳	不正形	2.16	4.44	0.12	22		52		239－242	土師甕
SE516	古代	正方形	2.12	1.88	0.84	26		51		234	須恵杯
SP519	古墳	丸	0.56	0.62	0.24	26		51		235	土師杯
SK524	古代	長方形	1.56	(1.20)	0.34	26		51		236	須恵甕
SP539	古代	不正形	0.80	1.36	0.50	26		51		237，238	土師碗
SE604	中世	丸	0.64	0.84	0.90	26		52		243－246	漆器
SE605	中世	丸	1.24	1.06	0.80	26	80	52		247－253	カワラケ，刀子
SE606	中世	丸	0.96	1.08	0.92	26	81	53		254，255	カワラケ，珠洲甕
SK608	古代	不正形	0.66	2.30	0.22	12	81	53		256－259	灰釉碗，土師碗
SE609	古代	楕円	1.96	2.46	0.74	27		53		260－264	須恵碗，土師碗
SK614	古代	楕円	1.86	3.68	0.32	27	81	53		265－277	須恵碗，土師杯
SP632	中世	正方形	0.64	0.58	0.26	27		53		278	カワラケ
SK722	古代	楕円	0.96	1.64	0.36	27		53		279	須恵杯
SD812	古代	不正形	0.26	(4.12)	0.16	27		53		280	土師鍋
SE873		丸	0.92	1.04	0.88	28	81	54		281・282	折敷
SE875	中世	丸	0.90	0.88	0.72	28		54		283	カワラケ
SK896	中世	丸	0.90	1.00	0.98	28	82	54		284～290	珠洲擂鉢，木製品
SP966	古代	不正形	0.72	0.78	0.32	28		55		291	土師碗
SP979	古代	丸	0.46	0.48	0.62	28		55		292・293	土師碗
SE1028	古代	丸	1.32	1.48	0.74	28	82	55		294～298	須恵甕，漆器碗，刀子
SE1052		不正形	1.10	1.32	0.80	28		55		299・300	漆器
SK1070		不正形	0.88	1.84	0.72	29	82	55,56		301・312	箸，折敷，碗型滓
SE1071		長方形	1.42	1.72	1.24	29	82	56		313～317	箸
SI1073	古代	長方形	(3.16)	5.46	0.58	30	82	56,57		318～355	灰釉皿，須恵杯，土師碗
SK1074	古代	丸	0.80	0.84	0.12	29	82	57		356	土師甕
SE1075	古代	丸	2.52	2.54	1.08	29	82,83	57,58		357～368	須恵杯，木製品，刳り物
SE1076	古代	楕円	1.92	2.54	0.92	29	83	59		369～387	土師碗，須恵横瓶
SE1077	古代	丸	1.80	1.84	1.16	31	83	59		388～393	須恵杯（墨書），土師甕
SK1081		丸	0.90	0.92	0.82	31		59		394	木製品
SD1083	古代	溝	0.92	(5.20)	0.38	40	83	60		395～400	灰釉皿，須恵杯，土師碗
SE1089	中世	丸	1.64	1.76	1.02	31	84	60		401～405	珠洲耳付壺，土師甕
SE1090		丸	1.64	1.64	1.12	31	84	60		406～408	曲物
SK1091	中世	丸	0.84	0.90	0.52	31	84	61		412～414	珠洲甕，大礫
SE1092	古墳	楕円	1.12	1.52	1.16	27	81	61		409～411	土師甕

遺構								出土遺物			
	時代	平面形	平面規模		深度	実測図	写真	実測図	写真	遺物No.	備考
SE1096		丸	1.26	1.40	1.28	31	84	62		415・416	木製品
SE1097A	古代	楕円	2.24	3.02	1.06	32	84,85	62		417～422	須恵杯
SK1097B	古代	不正形	5.24	7.52	0.26	32	85	62,63		423～457	土師碗
SK1120	古代	楕円	0.80	1.02	0.16	31		63		458	土師甕
SK1130		不正形	0.80	(0.56)	0.46	33		63		459	木製品
SE1149		楕円	1.10	1.44	1.02	33		63		460	漆器碗
SD1321	古代	不正形	3.10	(3.10)	0.32	40	85	63		461～471	土師碗，須恵蓋杯
SK1324	古代	丸	0.74	0.76	0.46	33		63		472	須恵広口瓶
SK1332	古代	楕円	1.10	1.52	0.24	33		63		473・474	須恵杯
SE1501		丸	2.52	2.92	1.16	33	85	64		475～490	下駄
SK1502	中世	楕円	2.14	2.36	0.52	34	85				
SK1503	中世	丸	4.72	5.56	0.38	34	85	65		491～504	カワラケ,古瀬戸小壺・香炉,珠洲擂鉢・甕
SK1532	中世	楕円	0.76	1.28	0.42	35		65		506	珠洲擂鉢
SK1533	古代	丸	0.78	0.90	0.56	35		65		507～510	土師碗，木製品
SK1557		丸	0.72	0.76	0.54	35		66		511	漆器皿
SK1561		楕円	0.82	(0.62)	0.50	35	86	66		512～515	折敷
SE1564	中世	丸	0.84	0.86	0.86	35		66		516・517	珠洲甕
SE1569		楕円	0.94	1.24	1.00	35		66		518	木製品
SE1576	中世	楕円	1.04	1.56	1.08	35	86	67		519～522	青磁碗，漆器碗
SK1595		丸	0.86	1.00	0.56	35		67		523	
SE1603	中世	正方形	1.36	1.48	1.00	35	86	67		524～534	珠洲擂鉢，漆器，炭化棒
SE1618		丸	1.06	1.08	0.94	36	86	68		535	漆器碗
SK1623		丸	0.72	0.84	0.72	36		68		536	木製品
SK1628	古代	丸	2.48	2.48	0.92	36	86	68		537～548	須恵杯(糸切),土師碗,須恵ハソウ・甕・横瓶
SK1638	古代	丸	1.04	1.04	0.76	36	86	68		549～552	土師碗・甕
SK1639	古代	不正形	3.22	(2.96)	0.24	36		68		553～558	灰釉碗，土師碗，須恵杯蓋
SK1647	古代	不正形	2.60	3.76	0.20	37	86	68		559～563	須恵杯，土師碗
SK1677	古代	楕円	1.76	2.32	0.58	37	87	69		564～580	須恵杯，土師碗
SK1678	古代	不正形	1.96	5.12	0.36	38	87	69		581～590	灰釉皿，須恵杯，土師碗
SK1679	古代	不正形	3.16	(2.06)	0.28	38	87	69		591～595	須恵杯，土師碗，須恵鉢
SK1709	中世	丸	1.04	1.06	0.78	37	87	70		601～612	漆器，箸
SE1711		丸	1.14	1.14	1.38	37	87	70		613	漆器
SK1729	中世	不正形	1.12	1.52	0.64	39	87	70		614	珠洲擂鉢
SK1772		楕円	0.98	1.18	0.84	39	87	70		615・616	木製品
SE1801		楕円	1.70	2.02	1.20	39		71		617・618	匙，折敷
SK1844	中世	丸	0.82	0.86	0.48	39	87,88	71		619～624	青磁碗，漆器碗
SK2109	中世	丸	0.88	0.90	0.56	39	88	71		625	青磁碗
SK2163		丸	0.64	0.66	0.28	39	88	71		626～628	漆器
SK2167	中世	楕円	0.56	0.82	1.14	39	88	71		629	青磁輪花皿
SK2172		楕円	0.62	0.70	0.54	39		72		630	木製品
SK2222	中世	正方形	1.68	1.94	0.12	40		72		631	珠洲壺
SK2237		楕円	0.76	0.96	0.96	40		72		632・633	木製品
SK2238	中世	丸	0.88	0.88	0.84	40		72		634	珠洲擂鉢
SP2239	中世	楕円	0.20	0.30	0.20	40		72		635	珠洲擂鉢
SK2255	古代	不正形	1.90	2.20	0.52	38	87	70		596～600	土師碗，須恵蓋杯
SE2258		丸	1.10	1.16	1.22	34		65		505	木製品

別表３　遺物観察表

図版番号	出土遺構	層位	種類	器種	細分	法量分類	口径長	底径幅	器高厚	残存	調整	色調	胎土	焼成	備考
1	SB1-P1		須恵器	無台杯			12.0			3.4	底・ヘラ切り後ナデ	暗青灰	チャート	還硬	
2	SB1-P1		土師器	碗			0.0	5.0	0.0			にぶい橙		軟質	
3	SB1-P1		土師器	碗			0.0	6.4	0.0			浅黄橙	小礫少	軟質	
4	SB1-P3		須恵器	無台杯				7.6			ヘラ切り後荒いナデ	暗青灰		還硬	
5	SB1-P3		須恵器	甕							外・擬格子叩き・カキメ、内・同心円当具	暗灰	黒色吹出	還硬	
6	SB1-P4	堀方	須恵器	無台杯				7.6			底部外ナデ	灰白	小礫、白色粒	還元やや軟質	
7	SB1-P4		土師器	碗	A2	Ⅲ	12.0		0.0	7.5		にぶい橙		普	
8	SB1-P4	上面	土師器	碗	A1	Ⅲ	12.0	5.2	3.9	30.7		浅黄橙	礫多、海骨	良	口縁部煤付着、摩耗なし
9	SB1-P4		土師器	碗	A1	Ⅲ	12.6		0.0	5.2		浅黄橙	礫多、海骨	普	
10	SB1-P4	堀方	土師器	碗				5.2	0.0			橙	粗、礫	良	
11	SB1-P4		ミニチュア	長頸瓶							回転糸切り、外面ナデ	灰白	精良	良	
12	SB1-P5	堀方	土師器	碗	B1	Ⅲ	13.0		0.0	3.2	ロクロナデによる段明瞭	橙		良	
13	SB1-P5	堀方	土師器	碗				5.4	0.0			黄褐	小礫	普	
14	SB1-P9	柱痕	土師器	碗	B2	Ⅲ	12.4	5.0	3.6	8.0		浅黄橙		普	
15	SB1-P10		須恵器	無台杯				7.0			ヘラ切り後丁寧なナデ	暗灰		還硬	
16	SB1-P10	柱痕	灰釉陶器	皿			14.0			0.2	ツケガケ	灰白		良	釉調：無色
17	SB1-P11		須恵器	甕							外・擬格子叩き、内・放射当具	灰	黒色吹出	還硬	
18	SB1-P12		土師器	碗	A1	Ⅲ	12.4	5.4	4.2	5.0		にぶい橙	礫、海骨、赤色粒	普	
19	SB1-P12		土師器	碗				4.6	0.0			にぶい橙	小礫、雲母	普	
20	SB1-P12		土師器	碗				5.0	0.0			浅黄橙		良	
21	SB1-P13		土師器	碗	B2	Ⅲ	12.4	4.6	4.0	4.0		橙		良	
22	SB1-P13		土師器	碗				5.0	0.0			にぶい橙		良	
23	SB1-P14		須恵器	杯蓋			13.4			2.1		暗灰		還硬	
24	SB1-P15		土師器	甕			18.0			3.5		浅黄橙	小礫	良	
25	SB1-P6		柱根				27.5	24.5	23.3						
26	SB1-P9		柱根				13.6	8.5	6.8						
27	SB1-P2		柱根				10.5	19.7	14.1						
28	SB3-P5	柱痕	土師器	碗	A1	Ⅲ	13.0	6.0	4.0	13.0		にぶい黄橙	礫少		
29	SB3-P5	堀方	土師器	碗	A1	Ⅲ	12.2	5.4	4.1	12.0		橙	礫多		
30	SB3-P5	堀方	土師器	碗				6.6	0.0			浅黄橙	雲母、チャート		
31	SB3-P5	堀方	須恵器	甕							外・擬格子叩き、内・平行後同心円当具	暗灰	白色小礫		
32	SB3-P17		須恵器	無台杯				7.0			ヘラ切り後ナデ	灰		還硬	
33	SB3-P19		土師器	碗	A1	Ⅲ	11.8		0.0	12.0		にぶい橙	海骨、雲母	普	
34	SB4-P1		土師器	碗	A1	Ⅲ	12.0		0.0	3.0		橙	雲母、チャート		
35	SB4-P1		土師器	甕			11.2			4.0		橙			
36	SB4-P3		須恵器	甕							外・擬格子叩き、内・同心円	灰		還硬	
37	SB4-P11		須恵器	無台杯				7.0				青灰	白色粒	還硬	
38	SB4-P12		土師器	碗				5.0	0.0			橙	小礫、雲母		
39	SB6-P5		須恵器	甕							外・平行叩き、内・同心円当具	灰		還硬	
40	SB7-P1		須恵器	杯蓋			13.0			2.5		灰		還硬	
41	SB7-P1		須恵器	無台杯			13.0			4.0	内外ロクロ痕明瞭	灰		還硬	
42	SB7-P1		土師器	碗				6.0	0.0			橙	雲母、白色礫		
43	SB7-P2	掘方	灰釉陶器	碗			15.0			3.0		明るい灰白	やや粗	良好	釉調：やや暗い緑灰色
44	SB7-P3		土師器	碗	A1	Ⅲ	13.0		0.0	3.5		橙			
45	SB7-P3		木製品	板			7.1	3.2	0.5						
46	SB7-P6		土師器	碗				5.0	0.0			浅黄橙	海骨、チャート、雲母		
47	SB7-P6		須恵器	甕							外・平行叩き、内・同心円当具	灰		還硬	
48	SB7-P9		土師器	碗				5.0	0.0			浅黄橙	精良	良	
49	SB7-P9		須恵器	甕							外・擬格子叩き、内・擬格子当具	灰		還硬	
50	SB8-P7		土師器	黒色碗	A1	Ⅰ	15.0	5.0	5.8	6.2		にぶい黄橙	海骨、チャート	普	内黒処理
51	SB9-P2		土師器	甕			15.0			5.0		浅黄橙	小礫	良	
52	SB10-P1		土師器	甕			15.0			5.6		橙		普	
53	SB14-P3		土師器	カワラケ	R		7.0	4.8	1.7	31.0	底・回転糸切り	明褐	雲母多・チャート	良	口縁部内面(欠損部含む)煤付着外面に漆付着
54	SB15-P1		柱根				36.0	17.4	16.8						
55	SB15-P2		須恵器	壷蓋			11.0			2.0		灰白	黒色吹出少量	還硬	
56	SB17-P3		柱根				61.0	18.6	16.6						
57	SB23-P3		須恵器	杯蓋			13.0			2.2	端部断面丸	灰		還硬	
58	SB23-P3		須恵器	杯蓋			13.0			3.5	端部断面丸	暗灰		還硬	
59	SB23-P3		土師器	碗				6.0	0.0			浅黄橙	海骨・雲母	良	
60	SB23-P3		土師器	碗				5.2	0.0			にぶい橙	雲母、チャート	普	
61	SB23-P3		土師器	黒色碗	A1	Ⅲ	12.0		0.0	3.8		浅黄橙	雲母	良	
62	SB23-P5		土師器	甕			12.0			8.0		橙		良	
63	SK15		灰釉陶器	碗			14.0			3.3		灰白		良	釉調：淡緑
64	SE33		木製品	箸			21.9	0.8	0.4	完形					
65	SE33		木製品	箸			21.2	0.5	0.5	ほぼ完形					
66	SE33		木製品	箸			21.2	0.6	0.5	ほぼ完形					
67	SE33		木製品	箸			19.8	0.8	0.5	ほぼ完形					
68	SE33		木製品	箸			17.1	0.7	0.4	ほぼ完形					
69	SE33		木製品	箸			11.8	0.6	0.5	2/3					
70	SE33		木製品	箸			11.3	0.8	0.5	1/2					
71	SE33		木製品	箸			12.0	0.6	0.6	2/3					
72	SE33		木製品	箸			14.5	0.7	0.5	2/3					
73	SE33		木製品	箸			12.5	0.6	0.6	2/3					
74	SE33		木製品	箸			12.1	0.6	0.4	2/3					
75	SE33		木製品	箸			9.8	0.7	0.4	1/2					
76	SE33		木製品	箸			7.4	0.6	0.4	1/3					
77	SE33		木製品	箸			8.3	0.6	0.5	1/3					
78	SE33		木製品	箸			8.8	0.6	0.4	1/3					
79	SP50		土師器	カワラケ	R		9.4	7.2	2.0	3.0	底・回転糸切り	浅黄橙	海骨・チャート	軟質	

図版番号	出土遺構	層位	種類	器種	細分	法量分類	口径長	底径幅	器高厚	残存	調整	色調	胎土	焼成	備考
80	SP50		珠洲	擂鉢				15.0			底・静止糸切り	暗灰	海骨	還硬	内外被熱で黒化
81	SK51		土師器	碗	B1	Ⅳ	11.0	4.0	4.4	13.7		橙	海骨・雲母・チャート・小礫	良	調整痕明瞭に残る・堅緻
82	SK51		灰釉陶器	皿			13.0			3.0	ハケ塗り	灰白		良	釉調：灰白
83	SK51		木製品	曲物	底板		18.6	18.0	1.2						
84	SK51		木製品	曲物	底板		40.0	19.3	1.2						
85	SK51		木製品	蒸籠	底板		53.6	10.0	1.2						
86	SK51		部材	板			26.5	9.1	1.6						
87	SK51		部材	板			26.9	8.8	1.8						
88	SK51		木製品	箱物	側板		25.3	5.1	0.4						
89	SK51		木製品	箱物	底板		27.0	23.8	0.8						
90	SK51		木製品	箱物	側板		28.8	7.5	0.4						
91	SK51		木製品	箱物	側板		29.6	7.2	0.6						
92	SK51		木製品	矢板			36.6	6.5	0.9						
93	SK51		木製品	矢板			36.7	6.5	0.9						
94	SK51		木製品	矢板			44.6	13.5	1.7						
95	SK51		木製品	矢板			46.2	7.5	1.5						
96	SK51		木製品	矢板			46.7	7.2	1.3						
97	SK51		木製品	矢板			49.5	6.1	0.7						
98	SK51		木製品	矢板			52.8	3.2	0.6						
99	SK51		木製品	矢板			54.3	6.0	1.0						
100	SK51		木製品	矢板			53.5	9.8	1.1						
101	SK51		木製品	矢板			58.8	6.8	1.1						
102	SK51		木製品	矢板			58.8	12.4	1.3						
103	SK51		木製品	矢板			61.9	10.7	0.8						
104	SE56		土師器	カワラケ	R		9.4	8.2	1.5	4.8	底部ナデ	にぶい黄橙	礫	良	
105	SE56		木製品	曲物	底板		19.3	5.2	0.9	1/4					
106	SE56		部材	板			15.7	4.5	0.3						
107	SE56		部材	板			13.3	6.8	0.3						
108	SE56		部材	板			19.3	5.1	1.0						
109	SE56		木製品	矢板			26.3	5.3	1.2						
110	SE56		木製品	矢板			37.2	6.7	1.3						
111	SK66		部材	板			25.0	2.9	1.3						
112	SK66		部材	板			24.4	6.1	0.6						
113	SE67		珠洲	甕			33.0			2.5		暗灰	礫	還硬	
114	SE67		珠洲	擂鉢				11.6			底・静止糸切り、9㎜に4条の卸目	青灰	粗	還硬	
115	SE67		鉄製品	刀子			14.2	1.8	1.4	ほぼ完形					
116	SE67		木製品	曲物	底板		21.5	6.9	0.6	1/3					
117	SE67		木製品	板			26.6	6.7	0.6						
118	SK70	第2層	青磁	碗				7.0			高台底面まで釉、連弁紋、内底・草花様模様、外低菊花紋	灰	密		
119	SE78		木製品	箸			19.5	0.7	0.5	ほぼ完形					釉調：淡緑、底部外面に墨痕
120	SE78		木製品	箸			10.4	0.8	0.4	1/2					
121	SE78		部材	板			9.6	0.9	0.5						
122	SE78		部材	板			9.2	2.4	0.2						
123	SE78		部材	板			10.4	9.3	0.6						
124	SP119		須恵器	碗			15.0			3.5		灰	白色礫	還硬	
125	SP119		部材	板			7.1	6.8	1.7						
126	SK178		須恵器	無台杯			12.6	7.8	3.0	30.0	底：ヘラ切り痕ナデ消す、仕上げナデ	灰	白色礫・黒色吹出・小白色粒	還硬	
127	SK178		須恵器	無台杯				7.0				灰	白色礫・黒色吹出・小白色粒	還硬	
128	SK178		須恵器	無台杯			13.0	7.6	3.1	9.0	底：ヘラ切り痕ナデ消す、仕上げナデ	灰	白色礫・黒色吹出・小白色粒	還硬	
129	SK178		土師器	甕			22.4	10.2	17.4	12.0	口端：面取り、体外：右下ケズリ、体内：ヘラナデ	にぶい橙	海骨・雲母・礫	良	
130	SK181		須恵器	無台杯			12.0	7.6	3.5	1.8	底：ヘラ切り痕ナデ消す	灰	海骨	還硬	外面煤
131	SE199		土師器	碗	A1	Ⅲ	12.0		0.0	2.0		橙		良	
132	SE199	第19層	須恵器	甕							外：擬格子叩き、内：同心円当具	灰		還硬	
133	SE199	第3層	灰釉陶器	皿			19.0			3.5	ハケ塗り	灰白	緻密	還硬	
134	SE199		木製品	折敷			31.8	5.8	0.5						釉調：灰色（ほぼ透明）、光ヶ丘1号窯式
135	SE199		木製品	陽物			41.9	2.3	2.5						
136	SP203		須恵器	長頸瓶								灰		還硬	
137	SP221		土師器	碗	B2	Ⅲ	13.0	5.2	4.1	4.5		にぶい黄橙	海骨・礫	普	
138	SE236	下層	珠洲	壺			18.0			2.8	口端：面	暗灰	白色礫	還硬	口縁部に煤少量付着
139	SE236		木製品	箸			18.9	1.0	0.6	ほぼ完形					
140	SK255		土師器	カワラケ	T		12.6	9.0	3.0	13.4	口：横ナデ、内：ナデ、底外：指頭痕	灰黄褐	礫	良	
141	SK255		珠洲	擂鉢			33.0			3.7	17㎜に8条の卸目	暗オリーブ灰		還硬	
142	SK255		珠洲	甕							外：平行叩き	灰	黒色吹出	還硬	
143	SK255		木製品	鉢			23.9	14.0	2.4	ほぼ完形					
144	SK255		木製品	折敷			29.2	6.0	0.6						
145	SK255		部材	板			7.7	3.2	0.3						
146	SK255		部材	板			9.8	1.5	0.3						
147	SK325		土師器	カワラケ	T		12.0	8.0	2.6	4.0	手捏ね、口：横ナデ	黄橙	雲母	良	
148	SK325		珠洲	擂鉢			27.0			4.6	23㎜に14条の卸目	暗灰	海骨・礫	還硬	
149	SK325		珠洲	壺			9.0				底：静止糸切り、外体下半：ロクロケズリ	灰	海骨	還硬	
149	SK325		珠洲	壺				8.4		3.2	口端：丸味帯びる	暗灰		還硬	

図版番号	出土遺構	層位	種類	器種	細分	法量分類	口径長	底径幅	器高厚	残存	調整	色調	胎土	焼成	備考
149	SK325		珠洲	壺							肩部：押圧による径14mm9葉の花紋	暗灰	海骨・礫・黒色吹出	還硬	
150	SK325		部材	棒			12.9	3.8	3.1						
151	SK325		部材	棒			33.8	4.4	4.0						
152	SK325		剝物	椀	未製		15.5	9.3	6.3						未完成品
153	SK470	南側埋土	須恵器	杯蓋			13.0			4.0	端部：内側に面、外：天井と体部境に稜	暗青灰	礫少量	還硬	
154	SK498	第1層	須恵器	有台碗			12.6	5.8	4.8	10.1	底：ヘラ切り後ナデ	灰（やや青）	粗、白色礫多	還元やや軟質	
155	SK498	上面	土師器	カワラケ	T		12.4	5.6	3.2	24.0		橙	粗、礫	やや軟	二次焼成により劣化
156	SK504	第4層	須恵器	杯蓋			12.0			3.5	端：丸味帯びる	灰	白色礫	還硬	
157	SK504		須恵器	杯蓋			13.0			2.6	素縁	暗灰	白色流	還硬	
158	SK504		須恵器	有台杯			12.0			2.0		灰	礫	還硬	
159	SK504	第4層	須恵器	無台杯			12.0			3.7		灰	礫	還硬	
160	SK504		須恵器	無台杯			12.0			2.6		灰白		還硬	
161	SK504		須恵器	有台碗			13.0			3.4		暗灰	黒色吹出	還硬	アバタ状の剥離
162	SK504		土師器	碗	A1	Ⅳ	11.0		0.0	8.0		浅黄橙	礫	普	
163	SK504	第5層	土師器	碗	A1	Ⅲ	11.4	4.0	4.2	20.5		黄橙	海骨・雲母・チャート・赤色粒	普	
164	SK504	第4層	土師器	碗	A1	Ⅲ	11.4	4.2	4.3	11.8		橙	海骨・チャート・礫・赤色粒	やや軟	
165	SK504		土師器	碗	A1	Ⅲ	11.6	4.6	4.4	5.6		橙	海骨・雲母・チャート	不良（軟質）	
166	SK504		土師器	碗	A1	Ⅲ	12.0	5.0	4.4	36.0		にぶい橙	長石・礫	良	
167	SK504	第2層	土師器	碗	A1	Ⅲ	12.0		0.0	5.0		にぶい黄橙	海骨	普	
168	SK504	1第2層	土師器	碗	A1	Ⅲ	11.5	4.8	4.8	8.0		浅黄橙	海骨	普	内面口縁部～体部煤付着
169	SK504	第2層	土師器	碗	A1	Ⅲ	11.6	5.0	5.0	36.0		にぶい橙	海骨	良	口縁部に煤（4カ所）
170	SK504	第3層	土師器	碗	A1	Ⅲ	12.0		0.0	5.7		にぶい黄橙	海骨・礫	普	
171	SK504	第1層	土師器	碗	A1	Ⅲ	12.0	5.6	4.4	1.5		浅黄橙	礫	普	
172	SK504		土師器	碗	A1	Ⅲ	11.8	4.6	4.5	30.2		にぶい黄橙	海骨・チャート・礫	普	
173	SK504	第2層	土師器	碗	B1	Ⅲ	12.4	5.4	4.6	18.0		浅黄橙	海骨・チャート・長石	普	
174	SK504		土師器	碗	B1	Ⅲ	12.0	4.6	4.1	14.4		橙	雲母・チャート	良	
175	SK504	上面	土師器	碗	A1	Ⅲ	12.4	6.0	4.4	4.0		浅黄橙	雲母	良	上面
176	SK504		土師器	碗	A2	Ⅲ	12.2	5.2	4.5	4.3		橙	礫	普	
177	SK504	第2層	土師器	碗	A1	Ⅲ	12.0	5.0	4.7	15.3		浅黄橙	礫	良	摩滅著しく、歪みも大きい
178	SK504		土師器	碗	B2	Ⅲ	12.6	5.8	4.5	31.5		浅黄橙	礫	良	
179	SK504		土師器	碗	A2	Ⅲ	12.4	5.0	4.7	7.4		浅黄橙	礫	良	口縁部に煤
180	SK504		土師器	碗	A2	Ⅲ	13.0		0.0	6.0		黄橙	礫	良	
181	SK504	第4層	土師器	黒色碗	A2	Ⅲ	13.0		0.0	5.2	内外面ヘラミガキ	にぶい黄橙	礫	良	内黒処理（フセ）
182	SK504		土師器	碗	A2	Ⅲ	13.0	5.6	4.9	8.0		黄橙	礫	良	
183	SK504	第5層	土師器	碗	A2	Ⅲ	13.4	7.0	4.2	7.0		浅黄橙	礫	普	
184	SK504		土師器	碗	A1	Ⅰ	16.0	6.0	6.2	11.7		にぶい橙	雲母・礫	やや軟	
185	SK504		土師器	黒色有台皿			12.4	5.4	4.2	20.7	内面ヘラミガキ	浅黄橙	礫		内黒処理
186	SK504		土師器	黒色有台皿				7.6			内面ヘラミガキ	にぶい橙	雲母・礫	普	内黒処理
187	SK504	第4層	灰釉陶器	皿			13.8			2.1		灰白		良	釉調：薄緑
188	SK504		須恵器	有台鉢			27.0	14.0	14.1	8.7	外面下半ヘラケズリ	灰	チャート・雲母・礫	還硬	
189	SK504	第2層	須恵器	甕			26.4			2.0	口縁端部の面に凹線	灰	チャート	還硬	
190	SK504		須恵器	長頸瓶			17.0			3.3		灰	黒色吹出	還硬	
191	SK504	第3層	須恵器	長頸瓶			17.0			4.2	内外面自然釉	灰	黒色吹出	還硬	
192	SK504		須恵器	甕			64.4			2.4	外面：波状紋2段、沈線2条	灰	礫	還硬	
193	SK504	第2層	土師器	甕				5.2				浅黄橙	雲・チャート	良	内面黒化
194	SK504	第2層	土師器	鍋			32.0			4.7	外：平行叩き、内：平行当具、口端：内側に巻き込む	にぶい黄橙	小礫	良	
195	SK504		金属製品	鉄滓			3.9	5.2	4.0						110g
196	SK504		金属製品	鉄滓			6.2	8.2	2.3						120g
197	SK504		部材	棒			71.8	5.3	6.0						炭化
198	SK504		石器	磨斧			8.2	5.2	4.3						石材：砂岩
199	SK505	第1層	須恵器	無台杯			12.0			3.0		灰	白色粒	還硬	
200	SK505	上層	須恵器	無台杯			13.0			2.3		青灰	白色粒	還硬	
201	SK505	第1層	須恵器	無台杯			13.0			9.0		灰	白色粒	還硬	
202	SK505	上層	須恵器	無台杯			12.0	7.0	2.9	9.0	底：ヘラ切り後ナデ	灰	白色粒	還硬	
203	SK505	上層	須恵器	無台杯			12.4	7.4	3.0	11.4	底：ヘラ切り後ナデ	灰	白色粒	還硬	
204	SK505	第1層	須恵器	無台杯				7.8				灰白	礫	還硬	
205	SK505	上層	須恵器	無台杯			12.4	6.4	3.1	23.5		灰	白色粒	還硬	
206	SK505	下層	須恵器	無台杯			12.4	8.2	3.6	10.8	底：ヘラ切りナデ	灰		還元軟質	
207	SK505	上層	須恵器	無台杯			13.0	9.0	2.9	12.0	底：ヘラ切りナデ	暗灰	白色粒	還硬	
208	SK505	上層	須恵器	無台杯			13.0				底：ヘラ切りナデ	灰	白色粒	還硬	
209	SK505	上層	須恵器	無台杯			13.0	8.0	3.3	11.5	底：ヘラ切りナデ	灰	チャート	還硬	
210	SK505	下層	須恵器	無台杯			11.0			4.3		灰		還硬	
211	SK505	上層	須恵器	無台杯			12.0			3.2	口端：巻き込み	灰	チャート	還元軟質	
212	SK505	上層	土師器	碗	A1	Ⅳ	11.0		0.0	6.5		黄橙	チャート		
213	SK505	第3層	土師器	碗	A1	Ⅲ	13.0	6.2	3.6	13.0		浅黄橙	チャート・赤色粒		
214	SK505	上層	土師器	黒色碗				5.3	0.0		底、体下半：ロクロケズリ	にぶい黄橙	チャート		内黒処理
215	SK505	上層	須恵器	甕							外：平行叩き後カキメ、内：同心円当具	灰	白色礫	還硬	
216	SK505	下層	土師器	甕						2.5	外：ハケメ	橙	雲母		
217	SK505	下層	土師器	甕			14.0			4.0		にぶい黄橙			
218	SK505		土師器	甕			17.2			2.7		浅黄橙			

図版番号	出土遺構	層位	種類	器種	細分	法量分類	口径長	底径幅	器高厚	残存	調整	色調	胎土	焼成	備考
219	SK505	下層	土師器	甕				7.6			外：ハケメ（縦）、内：ハケメ（横）	浅黄橙			
220	SK505	下層	土師器	甕			20.0			10.0	外：ハケメ（縦）	浅黄橙	チャート・雲母		
221	SK505	下層	土師器	甕			30.0			8.0	外：ハケメ（縦）	橙	礫		
222	SK505	下層	土師器	甕			34.4			1.6	外：ハケメ（縦）	浅黄橙	雲母・礫		
223	SK505	上層	土製品	支脚				6.4		3/1		橙	礫		
224	SK505	第12層	土製品	支脚			10.7	6.8		2/3		橙	チャート・礫		
225	SD507		須恵器	有台杯			13.0			3.4		灰		還硬	
226	SD507		須恵器	有台杯			14.0			1.5	外：沈線２条	灰		還硬	
227	SD507		須恵器	有台杯				8.2			底：ヘラ切りナデ、高台：外端接地	灰	礫	還硬	
228	SD507		須恵器	無台杯			12.0			3.0	ロクロ痕明瞭	青灰		還硬	
229	SD507		須恵器	無台杯			12.2	7.6	3.5	16	底：ヘラ切りナデ	灰	白色礫	還硬	
230	SD507		須恵器	無台杯			12.8	8.0	2.9	15.5	底：ヘラ切り後縁部ナデ	灰	白色粒	還硬	
231	SD507		須恵器	無台杯			13.0	7.2	3.3	28.0	底：ヘラ切り後縁部ナデ	灰	チャート・雲母	還元やや軟質	
232	SD507		土師器	甕				5.0			外：ヘラケズリ（縦）、底：ナデ	にぶい黄橙	チャート・雲母・礫	良	
233	SP508	上面	須恵器	無台杯			11.6	6.4	4.3	27.5	外体下端：ロクロケズリ、内底：仕上げナデ	灰	小礫少	還硬	見込みマメツ・歪み大
234	SE516		須恵器	無台杯			12.0			3.7		灰	チャート	還硬	
235	SP519		土師器	高杯			15.0			2.5	内外：ヘラミガキ、口内：ハケメ（横）	浅黄橙	雲母	良	内黒処理
236	SK524		須恵器	甕			60.0			4.4		暗灰	チャート・礫・白色粒	還硬	
237	SK539		土師器	碗	A1	Ⅲ	12.0	5.6	3.7	11.0		浅黄橙	チャート・礫	普	
238	SK539		灰釉陶器	碗			15.0			0.7	ハケ塗り	灰白		良	釉調　灰白色
239	SD515		土師器	甕			14.8	4.2	19.4	16.0	口：横ナデ、外：縦ハケメ、内：横ヘラナデ	浅黄橙	海骨・チャート・雲母・礫	良好	外下半:比熱で橙に変色し劣化、外中位・上位：煤強く付着
240	SD515		土師器	甕			17.0			5.0		橙	礫		
241	SD515		土師器	甕			15.0			30.0	外：ハケメ(縦)、内：ヘラナデ	浅黄橙	骨針・チャート・礫	良	外面体部上位まで煤付着
242	SD515		土師器	甕			17.0			22.0	外：ハケメ(縦)、内：ヘラナデ	浅黄橙	上:骨針,中下:骨礫,やや粗	普	外中：煤、外体：剥落
243	SE604		漆器	椀											黒漆に朱の模様
244	SE604		部材	板			13.3	2.5	2.2						
245	SE604		木製品	箸			11.8	0.6	0.5						
246	SE604		部材	板			13.0	3.5	1.3						
247	SE605		土師器	カワラケ	T		8.2	6.3	1.7	36.0	手捏ね、口：横ナデ	灰黄褐	石英・海綿・礫	良	完形
248	SE605		土師器	カワラケ	T		14.0			4.5	手捏ね、口：横ナデ	灰黄褐		良	
249	SE605		土師器	甕			20.0			1.5		にぶい黄橙	礫	良	
250	SE605		部材	棒			14.5	2.3	1.8						
251	SE605		部材	棒			18.3	2.3	2.3						
252	SE605		木製品	曲物	底板		24.5	23.5	1.1						
253	SE605		金属製品	刀子			14.2	4.6	1.2						45g
254	SE606		土師器	カワラケ	R		7.7	4.2	2.5	36.0	ロクロ成形、底：回転糸切り	浅黄橙	赤色粒	良	
255	SE606		珠洲	甕				18.6				灰	やや粗	還硬	
256	SK608		土師器	碗	A1	Ⅲ	12.2	5.0	4.9	9.8		黄橙	海骨・チャート	良	
257	SK608		土師器	碗	A2	Ⅲ	12.6	4.8	4.3	12.5		にぶい黄橙	雲母	良	
258	SK608		土師器	碗	A1	Ⅰ	15.6	6.0	6.2	3.5		にぶい黄橙	雲母・チャート	良	
259	SK608		灰釉陶器	碗			14.0			1.0		灰白		良	釉調　薄緑
260	SK609	上部	須恵器	有台碗				9.0			高台：両端接地	灰白		還元やや軟質	
261	SK609	上部	土師器	碗	A2	Ⅲ	11.8	5.0	3.9	7.5		にぶい黄橙	チャート	普	
262	SK609		土師器	碗	A2	Ⅲ	11.8	4.8	4.0	36.0		橙	チャート・礫	良	完形
263	SK609	上層	灰釉陶器	碗			15.0			3.5		灰白		良	釉調：淡緑
264	SK609		木製品	曲物	底板		16.0	14.4	0.6						
265	SK614		須恵器	有台杯				8.0			高台：外端接地	灰		還硬	
266	SK614		須恵器	有台杯				7.0			高台：外端接地	灰		還硬	
267	SK614		須恵器	有台碗				8.0			高台：内端接地	灰		還硬	
268	SK614		須恵器	無台杯			13.0			4.0		灰白		還元軟質	
269	SK614	炭面直上	土師器	碗	A1	Ⅲ	12.0		0.0	5.0		浅黄橙			
270	SK614	炭面直上	土師器	碗	B2	Ⅲ	12.0		0.0	3.5		浅黄橙			
271	SK614		土師器	碗	A1	Ⅲ	12.0		0.0	4.0		浅黄橙			
272	SK614	炭面直上	土師器	碗	A2	Ⅲ	13.0		0.0	3.0		浅黄橙	雲母		
273	SK614		土師器	碗	A1	Ⅲ	12.0	4.8	4.8	9.3		浅黄橙	雲母		
274	SK614		土師器	碗	A1	Ⅲ	12.0	5.0	4.3	5.2		浅黄橙			
276	SK614	炭面直上	土師器	碗	A1	Ⅲ	12.7	4.7	4.5	10.5	底：回転糸切り後ナデ	浅黄橙			
277	SK614		土師器	高杯			18.0			4.3	内：ヘラミガキ、口外：ハケメ	にぶい黄橙		良	内黒処理
278	SP632		土師器	カワラケ	T		11.0			2.0	手捏ね、外：口縁部と体部境に凹線	浅黄橙	雲母	良	
279	SK722		須恵器	無台杯			13.0			4.5	ロクロナデ痕明瞭	青灰		還硬	
280	SD812		土師器	鍋			33.0			3.0	口端：内に巻き込み	にぶい橙	雲母・長石・海骨・赤色粒	良	
281	SE873		木製品	折敷			26.0	20.4	0.4						
282	SE873		木製品	折敷			27.5	5.2	0.6						
283	SE875		土師器	カワラケ	T		13.0	8.0	3.8	15.5	口：ヨコナデ、外内底：指頭痕	にぶい橙	海骨・雲母・礫	良	
284	SK896		珠洲	擂鉢			30.0			2.8	幅24mmに12条の卸目	暗灰	海骨	還硬	
285	SK896		部材	板			17.5	6.2	0.7						
286	SK896		部材	板			31.8	15.6	1.1						
287	SK896		部材	板			23.3	16.7	1.3						
288	SK896		部材	板			5.8	4.6	0.6						
289	SK896		部材	板			15.3	9.0	1.0						
290	SK896		部材	棒			22.3	2.8	3.0						炭化
291	SP966		土師器	黒色碗				5.0	0.0		外底・体下端：ロクロケズリ、内：ヘラミガキ	浅黄橙	雲母	良	内黒処理
292	SP979		土師器	碗	A2	Ⅲ	12.6	5.4	3.9	13.5		にぶい橙	海骨・石英	良	

図版番号	出土遺構	層位	種類	器種	細分	法量分類	口径長	底径幅	器高厚	残存	調整	色調	胎土	焼成	備考
293	SP979		土師器	碗	A2	Ⅲ	12.6	6.0	4.1	11.4		にぶい橙	海骨・雲母・礫	良	
294	SK1028		須恵器	甕			17.0			5.5		灰		還硬	
295	SK1028		漆器	椀			14.0	8.6	3.1	1/6					
296	SK1028		部材	板			9.6	17.1	2.0						
297	SK1028		部材	棒			23.3	2.4	1.2						
298	SK1028		鉄製品	刀子			27.2	2.1	0.4						
299	SK1052		漆器	皿			9.2	6.6	2.3	2/3					内側・側面が黒色
300	SK1052		部材	棒			17.0	3.3	1.8						
301	SK1070		木製品	箸			20.3	0.8	0.4						
302	SK1070		木製品	箸			21.8	0.5	0.3						
303	SK1070		木製品	曲物	底板		16.2	16.5	1.2	完形	片面漆塗り				
304	SK1070		部材	棒			7.8	3.1	2.9						
305	SK1070		部材	棒			13.0	1.7	0.7						
306	SK1070		木製品	折敷			15.6	4.8	0.3						
307	SK1070		木製品	折敷			16.1	4.8	0.5						
308	SK1070		木製品	折敷			20.8	3.5	0.5						
309	SE1071		木製品	棒			29.4	1.3	0.8						
310	SE1071		木製品	棒			30.5	2.3	1.2						
311	SE1071	第2層	鉄滓	碗形滓			9.7	11.2	3.0						333g
312	SE1071	第2層	鉄滓	碗形滓			9.2	11.6	5.0						555g
313	SE1071		部材	板			18.6	10.5	1.4						
314	SE1071		木製品	箸			18.3	0.8	0.6						
315	SE1071		木製品	箸			15.8	0.4	0.5						
316	SE1071		部材	棒			9.9	1.2	1.0						
317	SE1071		部材	棒			14.3	0.8	0.5						
318	SI1073	上面	須恵器	有台杯				8.0			外端接地	灰		還硬	
319	SI1073		須恵器	無台杯			12.0			1.8		青灰		還硬	
320	SI1073		須恵器	無台杯			12.0			3.0		灰		還硬	
321	SI1073		須恵器	無台杯			12.2	7.0	3.2	17.4	底：回転ヘラ切りロクロナデ	灰		還硬	
322	SI1073	上層	須恵器	無台杯			12.2	7.0	3.1	2.5		灰	雲母	還元やや軟質	
323	SI1073		須恵器	無台杯			12.2	7.2	3.1	11.2	底：回転ヘラ切りロクロナデ	青灰		還硬	小泊
324	SI1073		須恵器	無台杯				7.0			底：回転ヘラ切りロクロナデ	灰		還硬	
325	SI1073		土師器	碗	A1	Ⅳ	10.4	4.6	4.4	4.0	底：糸切り痕ナデ消す	浅黄橙	雲母	普	歪み大きい
326	SI1073		土師器	碗	A1	Ⅲ	12.0	5.2	3.7	2.6	底：糸切り後ロクロケズリ	暗赤褐	雲母	普	
327	SI1073		土師器	碗	A2	Ⅲ	11.8	4.6	4.2	9.5		にぶい橙		普	
328	SI1073		土師器	黒色碗	A1	Ⅲ	12.0	4.6	5.1	5.5	内：ヘラミガキ	浅黄橙		良	内黒処理
329	SI1073		土師器	碗	A2	Ⅲ	11.8		0.0	6.2		橙		良	
330	SI1073		土師器	碗	A2	Ⅲ	12.0		0.0	6.4		にぶい橙		普	
331	SI1073		土師器	碗	A2	Ⅲ	12.4	4.6	4.4	31.0		橙	海骨、礫	普	略完形
332	SI1073		土師器	碗	A2	Ⅲ	12.6	5.0	4.2	36.0		にぶい橙	礫	良	
333	SI1073		土師器	碗	A1	Ⅲ	13.0		0.0	5.0	内外：ヘラミガキ	にぶい黄橙	海骨	良	
334	SI1073		土師器	碗	A2	Ⅲ	13.0		0.0	7.0		にぶい黄橙		普	
335	SI1073		土師器	碗	A2	Ⅲ	13.0		0.0	6.0		橙		普	
336	SI1073		土師器	碗	A2	Ⅲ	13.0	4.6	5.5	4.0		橙		良	
337	SI1073		土師器	碗	A2	Ⅱ	14.0		0.0	3.5		橙		普	
338	SI1073		土師器	碗	A1	Ⅱ	13.8	5.4	5.6	1.8		にぶい黄橙		普	
339	SI1073		土師器	碗	A2	Ⅱ	14.0		0.0	10.0		にぶい橙		普	
340	SI1073		土師器	碗	A1	Ⅱ	14.2	6.0	5.3	18.0		浅黄橙	海骨、雲母、赤色粒	普	
341	SI1073		土師器	碗	A2	Ⅱ	14.6	5.4	5.3	10.0		橙	海骨	普	
342	SI1073		土師器	黒色碗				5.2	0.0			にぶい黄橙	海骨	良	内黒処理
343	SI1073		灰釉陶器	碗			14.0			1.5		灰白	やや粗	良	釉調：淡緑、薄く均一にかかる
344	SI1073		灰釉陶器	皿				8.8			底：切り離し後ケズリ、内底：釉無し、三日月高台	灰白		良	釉調：淡緑、高台外側までかかる
345	SI1073		灰釉陶器	皿				7.2			外体：釉、三日月高台	灰白		良	釉調：灰白（無色）
346	SI1073		須恵器	長頸瓶								灰	黒色吹出	還硬	
347	SI1073		須恵器	長頸瓶			20.0			3.3	口端：面に凹線	灰	黒色吹出	還硬	口内：自然釉
348	SI1073		須恵器	甕			20.0			3.0		暗灰	白色礫	還硬	
349	SI1073		須恵器	甕			28.0			2.9		灰		還硬	
350	SI1073		土師器	甕			12.0			13.0	口端：内に巻き込み	にぶい橙	海骨、雲母	普	内頸：よごれ
351	SI1073		土師器	甕			13.0			5.8		にぶい褐	海骨	普	
352	SI1073		土師器	甕				8.0			底：回転糸切り	浅黄橙		良	外：薄く煤付着
353	SI1073		土師器	甕			20.0			2.2		にぶい黄橙		普	
354	SI1073		土師器	甕			24.0			0.5		浅黄橙	海骨	良	
355	SI1073		土師器	鍋				19.0		3.3		橙	海骨	良	
356	SK1074		土師器	甕			13.3	6.8	10.3	8.0	口端：外巻き込み、底：回転糸切り	浅黄橙	海骨、赤色粒	普	
357	SE1075		須恵器	有台杯				7.0			高台：両端接地	暗灰		還硬	
358	SE1075		須恵器	有台杯				7.2			高台：外端接地	灰白		還硬	
359	SE1075		木製品	曲物	側板		4.4	13.9	0.5						
360	SE1075		部材	棒			25.4	4.5	4.0						
361	SE1075		木製品	刳物	未製		15.1	6.5	6.2	1/2					
362	SE1075		木製品	刳物	未製		16.6	15.5	6.7						
363	SE1075		木製品	刳物	未製		16.1	16.5	5.6						
364	SE1075		木製品	札			29.1	3.2	0.5						
365	SE1075		部材	板			20.8	5.1	0.8						
366	SE1075		部材	板			22.7	8.6	1.1						
367	SE1075		部材	板			21.5	6.5	1.1						
368	SE1075		部材	棒			12.6	2.9	2.4						
369	SE1076		土師器	碗	A2	Ⅳ	11.0		0.0	3.0	にぶい黄橙	海骨、雲母、チャート	普		
370	SE1076		土師器	碗	A1	Ⅲ	11.4	4.4	3.9	13.4	浅黄橙	礫	普		
371	SE1076		土師器	碗	A2	Ⅲ	11.6	4.0	3.7	8.5	浅黄橙	海骨	良		

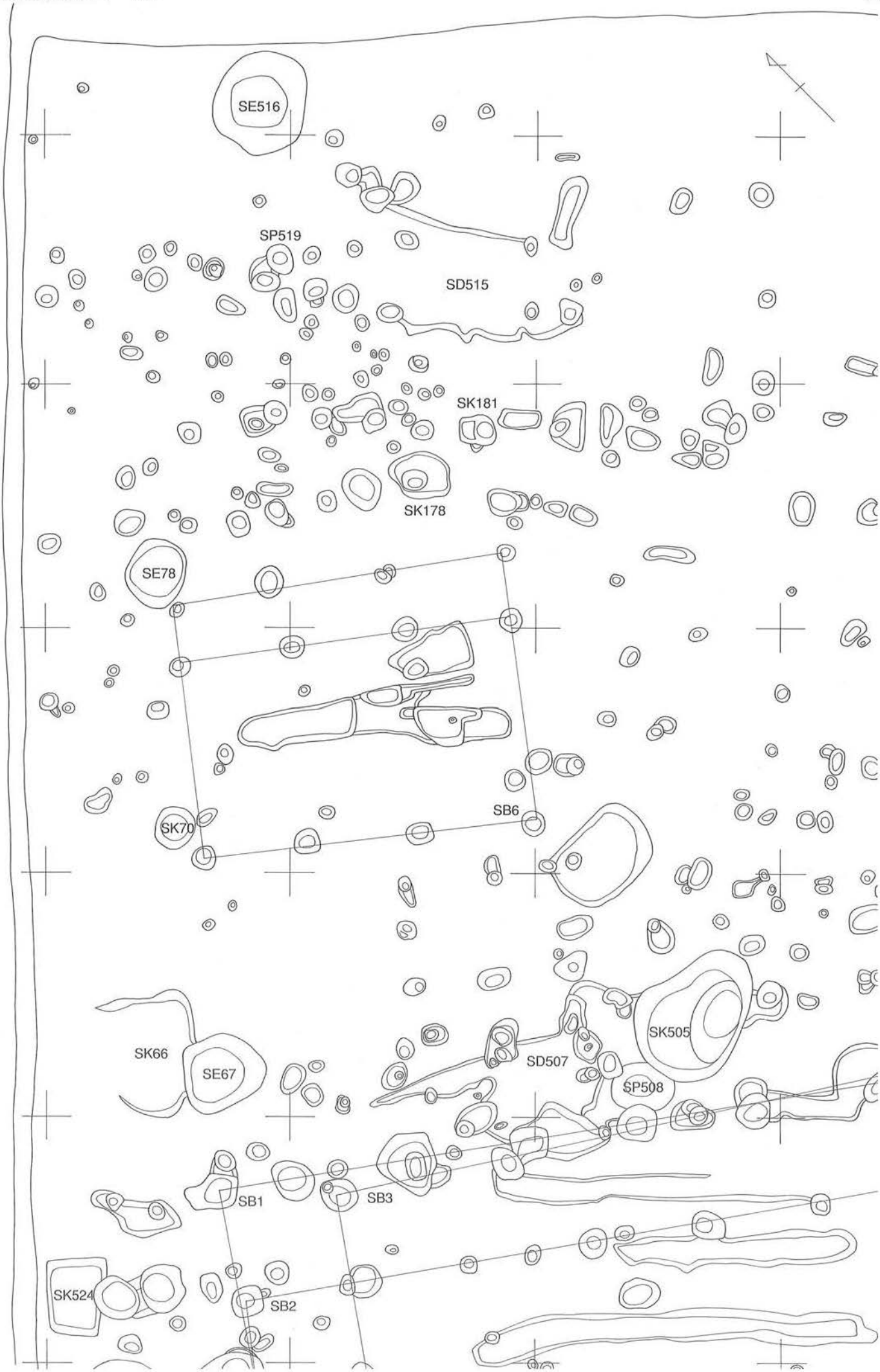
図版番号	出土遺構	層位	種類	器種	細分	法量分類	口径長	底径幅	器高厚	残存	調整	色調	胎土	焼成	備考
372	SE1076	中層	土師器	碗	A2	Ⅲ	12.0	4.4	4.2	10.0		浅黄橙	海骨,雲母,チャート	良	
373	SE1076	中層	土師器	碗	A2	Ⅲ	12.0	4.6	4.3	11.0	底：回転糸切り後ナデ	にぶい黄橙	海骨、雲母	普	
374	SE1076		土師器	碗	A2	Ⅲ	12.2	4.2	4.2	20.5		にぶい黄橙	海骨、雲母、礫	普	
375	SE1076		土師器	碗	A2	Ⅲ	12.2	3.6	4.2	36.0		にぶい橙	海骨、礫	普	完形
376	SE1076		土師器	碗	A2	Ⅲ	12.2	3.8	4.3	36.0		にぶい橙	海骨	普	完形
377	SE1076		土師器	碗	A2	Ⅲ	12.4	4.0	3.6	16.5	底：回転糸切り後ケズリ	浅黄橙		普	
378	SE1076		土師器	碗	A2	Ⅲ	12.4	5.8	4.1	12.4		にぶい橙	海骨	普	
379	SE1076		土師器	碗	A1	Ⅲ	13.0	5.0	4.2	5.2		にぶい橙	海骨	普	
380	SE1076	中層	土師器	碗	A2	Ⅱ	14.4	6.4	5.1	25.0		にぶい橙	海骨・雲母	良	
381	SE1076		土師器	碗	A1	Ⅱ	14.0	5.2	5.4	36.0		にぶい黄褐	海骨・雲母	良	
382	SE1076		土師器	碗	A2	Ⅱ	14.2	4.8	5.3	31.0	底：回転糸切り後ナデ	にぶい橙	海骨	良	
383	SE1076		土師器	黒色碗	A1	Ⅰ	16.0	6.2	6.2	1.0	底：回転糸切り後ケズリ	浅黄橙	海骨・雲母	普	内黒処理
384	SE1076	中層	土師器	碗				5.8	0.0			にぶい黄橙	海骨・雲母	普	
385	SE1076		土師器	黒色碗				5.4	0.0			浅黄橙	海骨	普	内黒処理
386	SE1076	第28層	須恵器	横瓶			10.4		20.7	7.0	外：擬格子叩き、内：擬格子当具、閉塞円板	青灰	雲母・チャート・黒色吹出	還硬	
387	SE1076	中層	須恵器	瓶				9.0			外：ケズリ、内：ロクロナデ	灰		還硬	
388	SE1077		須恵器	無台杯			12.2	8.2	2.5	8.7	底：ヘラ切り後ナデ	灰		還硬	
389	SE1077		須恵器	無台杯			12.8	6.4	2.7		底：ヘラ切り後ナデ	灰		還硬	
390	SE1077		須恵器	無台杯			11.8			3.0		暗灰		還硬	
391	SE1077		須恵器	無台杯				7.0			底：ヘラ切り後ナデ	暗灰		還硬	
392	SE1077		須恵器	無台杯				5.6			底：ヘラ切り後ナデ	暗灰		還硬	底部外面墨書
393	SE1077		土師器	甕			18.0			1.8	口端：外頗面	黄褐	海骨	良	
394	SK1081		木製品	折敷			23.8	7.5	0.7						
395	SD1083	上層	須恵器	有台杯				7.0			高台：外端接地	灰		還硬	
396	SD1083		須恵器	無台杯			12.0			28.0		灰		還硬	
397	SD1083		須恵器	無台杯				6.4			底：ヘラ切り後ナデ	灰		還硬	
398	SD1083		土師器	碗	A1	Ⅲ	12.0		0.0	4.0		浅黄橙		普	
399	SD1083	上層	灰釉陶器	碗				8.2			内底・外高台：釉	灰白		良	釉調：淡緑
400	SD1083	上層	須恵器	甕							外：擬格子叩き、内：平行当具	暗灰		還硬	
401	SE1089		珠洲	四耳壺							把手：張り付け	灰	黒色吹出	還硬	
402	SE1089		土師器	甕			22.0			4.0	口端：外頗面	橙	海骨	良	
403	SE1089		木製品	曲物	側板		1.9	7.3	0.4						
404	SE1089		部材	板			7.7	3.2	1.5						
405	SE1089		部材	板			11.3	1.3	1.2						
406	SE1090		木製品	曲物	側板		16.0	22.8	0.9	完形					
406	SE1090		木製品	曲物	底板		21.3	21.3	1.3	完形					
407	SE1090		木製品	曲物	底板		34.3	17.0	1.5	1/2					
408	SE1090		金属製品	刀子			12.7	1.6	0.4						13g
409	SK1092		部材	板			40.3	27.3	4.6	3/4					
410	SK1092		部材	板			35.9	33.0	4.5	ほぼ完形					
411	SK1092		部材	板			31.0	25.6	5.3	3/4					
412	SK1091		珠洲	甕				19.2			外：平行叩き、内：ナデ・ケズリ	灰白	海骨	還硬	
413	SK1091	第2層	礫				24.4	39.7	18.3						
414	SK1091		石製品	石臼			14.7	14.1	7.4						
415	SE1096		木製品	板			10.7	5.0	1.0						
416	SE1096		木製品	板			11.3	4.2	0.5						
417	SE1097-A	中層	須恵器	無台杯			12.0			3.0		灰	黒色吹出	還硬	
418	SE1097-A	中層	須恵器	無台杯			12.5	7.4	2.9	36.0	底：ヘラ切り後ナデ	灰		還硬	
419	SE1097-A	中層	須恵器	無台杯			12.1	6.2	3.2	25.5	底：ヘラ切り後ナデ	灰	礫	還硬	
420	SE1097-A		須恵器	無台杯			12.0			2.9		灰	黒色吹出	還硬	
421	SE1097-A		須恵器	無台杯			12.0			2.8		青灰		還硬	
422	SE1097-A	中層	須恵器	無台杯			13.0	7.4	3.2	35.1	底：ヘラ切り後ナデ	灰	海骨	還硬	
423	SK1097-B		須恵器	無台杯			13.2	8.4	3.3	4.6	底：ヘラ切り後ナデ	青灰	礫	還硬	
424	SK1097-B		土師器	碗	A1	Ⅲ	11.6	5.2	4.0	21.0		橙	海骨	やや軟	
425	SK1097-B		土師器	碗	A2	Ⅲ	11.6	4.6	4.1	14.3	底：糸切り後ナデ	にぶい黄橙	海骨	良	
426	SK1097-B		土師器	碗	A2	Ⅲ	11.8	5.2	4.8	15.5		にぶい黄橙		普	
427	SK1097-B		土師器	碗	A2	Ⅲ	12.0	5.0	3.8	4.3		にぶい黄橙	海骨・雲母	普	
428	SK1097-B		土師器	碗	A1	Ⅲ	12.0	4.1	4.3	8.4		浅黄橙		普	
429	SK1097-B		土師器	碗	A1	Ⅲ	12.0	4.8	4.1	3.0		にぶい黄橙	海骨・雲母	良	
430	SK1097-B		土師器	碗	A2	Ⅲ	12.0	4.6	4.2	36.0		にぶい黄橙	海骨・チャート	普	略完形・表面ほぼ剥落
431	SK1097-B		土師器	碗	A2	Ⅲ	12.0	5.0	4.4	32.5		にぶい黄橙	海骨	良	
432	SK1097-B		土師器	碗				6.4	0.0			橙	海骨・小礫	良	
433	SK1097-B		土師器	黒色碗				5.0	0.0			浅黄橙		普	内黒処理
434	SK1097-B		土師器	碗	A2	Ⅲ	12.0	4.6	4.2	35.0		浅黄橙	海骨・雲母	普	略完形・表面ほぼ剥落
435	SK1097-B		土師器	碗	A1	Ⅲ	12.0	5.2	4.2	20.0		浅黄橙	海骨・雲母	普	
436	SK1097-B		土師器	碗	A1	Ⅲ	12.0	5.0	4.3	17.0		にぶい橙		普	
437	SK1097-B		土師器	碗	A2	Ⅲ	12.0	4.4	4.2	12.0		にぶい橙	雲母	普	
438	SK1097-B		土師器	碗	A1	Ⅲ	12.2	5.0	3.9	12.0		浅黄橙	海骨・雲母	普	
439	SK1097-B		土師器	碗	A1	Ⅲ	12.2	4.4	4.4	20.0		にぶい黄橙		還硬	
440	SK1097-B		土師器	碗	A2	Ⅲ	12.4	4.2	4.2	17.5	底：糸切り後ケズリ	浅黄橙	海骨・雲母	良	
441	SK1097-B		土師器	碗	A2	Ⅲ	12.5	5.1	4.0	12.0		橙		普	
442	SK1097-B		土師器	碗	A1	Ⅲ	12.8	5.0	3.8	7.5		にぶい黄橙	雲母	普	
443	SK1097-B		土師器	碗				4.6	0.0			浅黄橙	海骨	普	
444	SK1097-B		土師器	碗	A2	Ⅲ	12.5	4.2	4.4	20.0		浅黄橙	チャート	普	
445	SK1097-B		土師器	碗	A1	Ⅲ	12.6	5.0	4.0	29.3		浅黄橙	海骨	良	
446	SK1097-B		土師器	碗	A2	Ⅲ	13.0	6.0	4.1	5.0		にぶい橙	礫	普	
447	SK1097-B		土師器	黒色碗	A2	Ⅱ	14.0	5.0	4.8	5.7		にぶい黄橙	海骨	普	内黒処理
448	SK1097-B		土師器	碗	A1	Ⅱ	14.0	5.2	5.2	20.0		浅黄橙		良	
449	SK1097-B		土師器	碗	A1	Ⅱ	14.2	5.2	5.1	6.4		にぶい黄橙	雲母	普	
450	SK1097-B		土師器	碗	A2	Ⅱ	14.2	6.0	5.2	7.0		浅黄橙	海骨・雲母	普	
451	SK1097-B		土師器	碗	A2	Ⅰ	16.7	7.0	6.3	21.0	内：ヘラミガキ	にぶい橙～橙	海骨・雲母	普	

図版番号	出土遺構	層位	種類	器種	細分	法量分類	口径長	底径幅	器高厚	残存	調整	色調	胎土	焼成	備考
452	SK1097-B		土師器	碗				6.7	0.0			灰白～浅黄橙	雲母・礫	普	
453	SK1097-B		灰釉陶器	碗			14.0			2.6	口外・内全：釉	灰白		良	
454	SK1097-B		土師器	甕			21.0			3.7	口端：外に肥厚	橙	礫	普	釉調：淡緑
455	SK1097-B		土師器	甕				6.1			底：回転糸切り	にぶい橙	海骨・礫	普	外下半：煤
456	SK1097-B		土師器	甕				5.6			底：回転糸切り	にぶい橙	海骨・礫	普	外：煤
457	SK1097-B		石製品	砥石			9.3	3.8	4.2						石材
458	SK1120		土師器	鍋			31.0			3.9		橙	礫	良	
459	SK1130		木製品	底板			28.2	8.0	0.6						
460	SE1149		漆器	椀			14.0	7.8	3.7	3.0					内側朱漆・外側黒漆に朱の模様
461	SD1321		須恵器	蓋杯			10.0			1.5	口端：内傾面（凹線）	灰（やや青）	白色礫	還硬	
462	SD1321		土師器	黒色碗	A1	Ⅲ	12.0		0.0	9.2	内：ヘラミガキ	浅黄橙	チャート		内黒処理
463	SD1321		土師器	碗	A1	Ⅲ	12.0	6.0	4.3	13.0		浅黄橙	海骨		内外：底面を除き被熱、口縁：一部煤
464	SD1321		土師器	碗	A1	Ⅲ	12.0	5.4	4.1	8.8	体部張る	浅黄橙	礫		
465	SD1321		土師器	碗	A2	Ⅲ	12.0	5.7	3.9	23.7		浅黄橙	雲母・礫		
466	SD1321		土師器	碗	A2	Ⅲ	12.2	4.3	4.1	24.0		浅黄橙	海骨・雲母・礫		
467	SD1321		土師器	碗	A1	Ⅲ	12.4	4.3	3.8	10.0		浅黄橙	雲母・チャート		
468	SD1321		土師器	碗	A1	Ⅱ	14.0		0.0	6.0		浅黄橙	海骨・赤色粒		
469	SD1321		土師器	甕			16.0			8.0		橙	海骨・赤色粒		
470	SD1321		土師器	甕			16.4			12.4		橙	海骨		
471	SD1321		土師器	甕				5.0				にぶい橙	礫		外：二次被熱
472	SK1324		須恵器	長頸瓶			20.0			6.0		灰	白色礫	還硬	
473	SK1332		須恵器	無台杯			12.0			5.9		灰		還硬	
474	SK1332		須恵器	無台杯			12.0			4.0		暗灰		還硬	
475	SE1501		木製品	扇子			16.6	2.0	0.4						
476	SE1501		木製品	扇子			29.6	1.8	0.4						
477	SE1501		部材	板			14.2	3.5	0.6						
478	SE1501		部材	板			16.7	4.6	0.6						
479	SE1501		部材	棒			24.3	1.6	0.8						
480	SE1501		部材	棒			14.1	3.0	2.2						
481	SE1501		部材	棒			16.8	4.8	3.0						
482	SE1501		部材	棒			15.7	3.0	2.9						
483	SE1501		部材	棒			33.6	2.4	2.1						
484	SE1501		部材	棒			21.8	1.9	1.9						
485	SE1501		部材	棒			10.3	5.6	2.5						
486	SE1501		部材	棒			8.3	2.8	1.5						
487	SE1501		部材	棒			14.0	2.8	2.0						
488	SE1501		部材	板			43.8	7.0	1.8						
489	SE1501		木製品	曲物	側板		7.4	8.0	0.3						
490	SE1501		木製品	下駄			17.8	12.0	6.2	ほぼ完形					
491	SK1503	上層	土師器	カワラケ	T		12.0	7.0	3.2	6.0	外底：ハケ状工具痕	にぶい黄橙	海骨・雲母・礫		
492	SK1503	上面	古瀬戸	香炉			10.0	7.0	4.5	9.8	底：回転糸切り、脚：貼り付け	灰白		良	袴腰形香炉、釉調：濃緑
493	SK1503	上層	珠洲	擂鉢			24.0			3.0	口端：やや外傾する面	灰	海骨・チャート	還硬	
494	SK1503	上層	珠洲	擂鉢				10.0			底：静止糸切り、卸目一部遺存	灰	海骨・礫	還硬	
495	SK1503	下層	珠洲	擂鉢				13.0			底：静止糸切り、24mmに15条卸目	灰	海骨・チャート・礫	還硬	
496	SK1503	上層	古瀬戸	小壺			2.8			6.0	外：縦位に筋状模様	灰白	礫	良	釉調：淡緑、口端：釉剥がれる
497	SK1503	上層	珠洲	長頸瓶								灰		還硬	
498	SK1503	下層	珠洲	壺			20.0			2.0		灰	礫	還硬	
499	SK1503	下層	珠洲	甕							外：平行叩き	灰	黒色吹出	還硬	
500	SK1503	下層	珠洲	甕							外：平行叩き	暗灰		還硬	
501	SK1503		部材	楔状			20.5	3.6	0.7						
502	SK1503		部材	棒											
503	SK1503		部材	板			9.1	2.2	0.5						
504	SK1503	上面	石製品	砥石			7.2	2.7	2.0			灰白(オリーブ)			石材滑石
505	SE2258		部材	棒			15.2	3.4	3.1						
506	SK1532		珠洲	擂鉢			28.0			2.5	口：内傾する面	青灰	海骨・礫	還硬	
507	SK1533		土師器	碗	A2	Ⅲ			0.0	6.0	内：ヘラミガキ	黄橙	海骨・チャート・長石	良	
508	SK1533		木製品	曲物	側板		2.7	7.8	0.3						
509	SK1533		部材	棒			11.2	5.8	0.9						
510	SK1533		部材	棒			11.2	3.4	2.5						
511	SK1557		漆器	皿			9.6	6.6	1.7	1/3					
512	SK1561		木製品	折敷	底板		30.0	9.5	0.2						
513	SK1561		木製品	曲物	底板		37.3	9.7	1.1						
514	SK1561		木製品	折敷	底板		30.0	14.5	0.2						
515	SK1561		木製品	杓子			21.9	7.5	0.6						
516	SE1564		珠洲	甕							外：平行叩き	灰	黒色吹出	還硬	
517	SE1564		木製品	曲物	底板		18.3	5.1	1.0						
518	SE1569		部材	棒			35.1	8.4	8.2						
519	SE1576		青磁	碗			16.4	5.2	6.7	9.2	内底面：文様	明灰	密	良好	釉調：明緑灰、内：漆様付着物
520	SE1576		須恵器	長頸瓶			18.0			2.3		灰	黒色吹出	還硬	
521	SE1576		漆器	椀				6.8		底部					
522	SE1576		木製品				16.3	3.9	2.1						
523	SK1595		珠洲	甕			46.0			1.9	外：平行叩き	灰白	海骨	還硬	外体：煤、内面・外口：漆
524	SE1603		珠洲	擂鉢			23.0			2.7		暗灰	中礫	還硬	内：亀裂・剥離多い（焼成時）
525	SE1603		漆器	椀			15.0	8.8	4.0						
526	SE1603		部材	板			19.4	10.5	1.4						

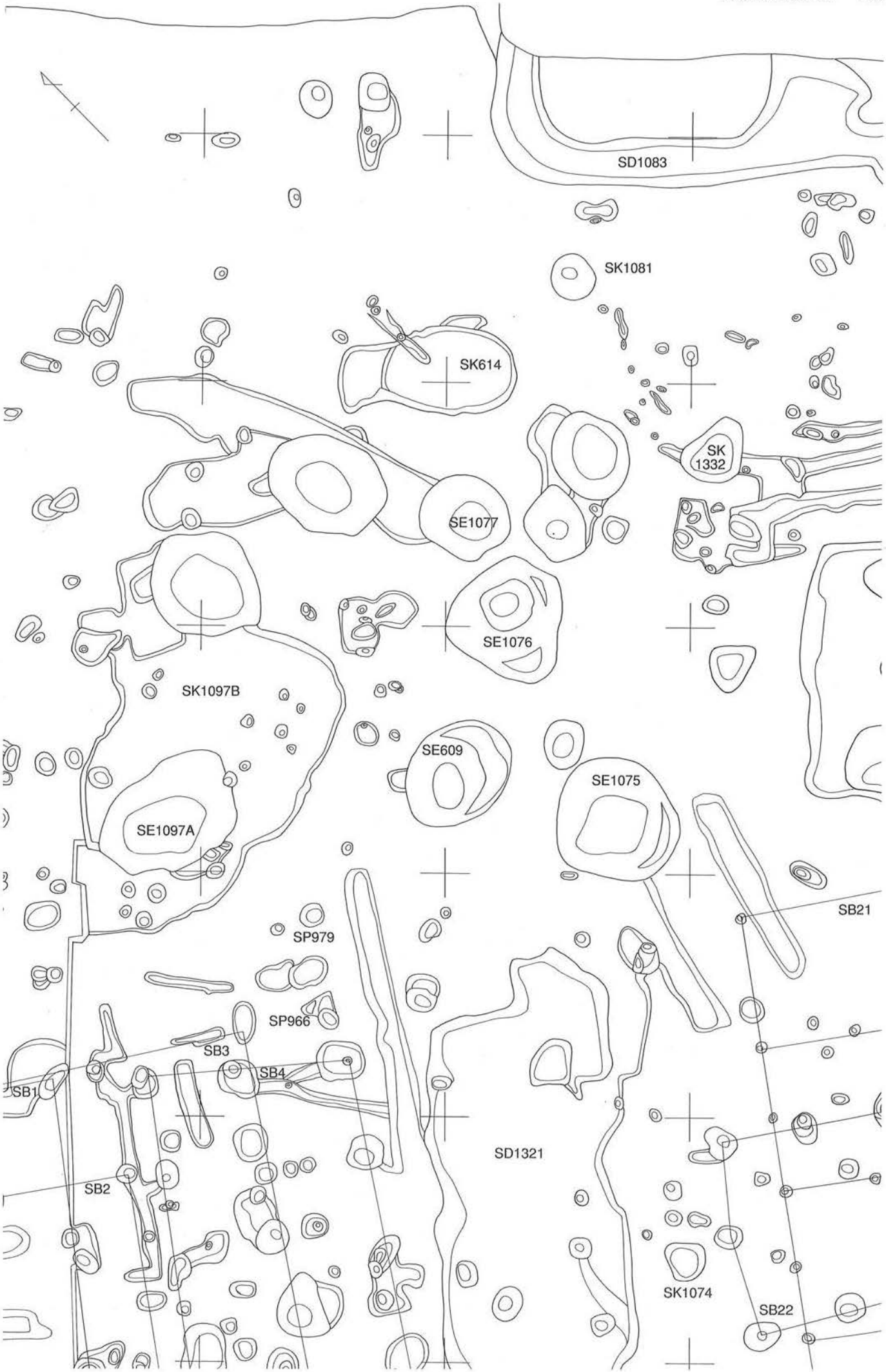
図版番号	出土遺構	層位	種類	器種	細分	法量分類	口径長	底径幅	器高厚	残存	調整	色調	胎土	焼成	備考
527	SE1603		木製品	曲物	側板		6.3	10.8	0.4	極一部					
528	SE1603		部材	棒			45.5	2.2	2.1						
529	SE1603		部材	棒			101.5	5.1	2.3						
530	SE1603		部材	棒			86.7	6.0	5.9						
531	SE1603		部材	棒			40.4	5.3	5.0						
532	SE1603		部材	棒			28.7	3.8	3.7						
533	SE1603		部材	棒			18.4	6.5	6.1						
534	SE1603		部材	棒			33.8	4.4	4.3						
535	SE1618		漆器	椀			15.6	8.6	5.2	2/3					
536	SK1625		木製品	曲物	底板		9.2	9.2	0.6						
537	SK1628	上層	須恵器	無台杯				6.2			底：回転糸切り	灰	礫	還硬	
538	SK1628	上層	土師器	碗	A2	Ⅲ	12.0		0.0	3.8		橙	精良	良	
539	SK1628	褐灰層	土師器	碗	A1	Ⅲ	11.8	4.6	4.5	21.0		にぶい橙	海骨	良	
540	SK1628	褐灰層	土師器	碗	A1	Ⅲ	11.8	4.8	4.2	36.0		にぶい橙	海骨・礫・長石	良	完形
541	SK1628	褐灰層	土師器	碗	A1	Ⅲ	12.0	5.0	4.2	7.8		にぶい橙	海骨・雲母・石英	普	内外：二次焼成
542	SK1628	褐灰層	土師器	碗	A1	Ⅲ	12.0	4.8	3.9	32.2		橙	海骨・礫・雲母	良	完形
543	SK1628	上層	土師器	碗	A1	Ⅲ	12.2	4.0	4.7	25.8		にぶい橙	海骨・雲母	普	略完形
544	SK1628	中層	土師器	碗	A1	Ⅲ	12.2	4.6	4.2	34.5		にぶい黄橙	海骨・雲母	良	完形
545	SK1628	上層	土師器	碗	A1	Ⅲ	12.2	5.4	4.2	25.5		橙	礫	良	略完形
546	SK1628	上層	須恵器	甕							頸・肩：波状文、外底：ロクロケズリ、内口・外肩：自然釉	灰白	白色礫	還硬	TK23～MT15まで下らず
547	SK1628	上層	須恵器	横瓶			10.4			16.0	外：擬格子叩き、内同心円当具	青灰		還硬	
548	SK1628	上層	須恵器	甕						－	外口：波状文２段	灰	礫	還硬	
549	SE1638		土師器	碗	A2	Ⅲ	12.0		0.0	4.0		橙		不良	
550	SE1638		土師器	碗	A2	Ⅱ	14.0		0.0	5.0		橙	海骨・チャート・礫	良	
551	SE1638		土師器	黒色碗				3.8	0.0			浅黄橙	礫	普	内黒処理
552	SE1638		珠洲	壺				10.8			外：ケズリ	青灰		還硬	
553	SE1639		須恵器	杯蓋							外天：ロクロケズリ	灰		還硬	
554	SE1639		土師器	碗	A1	Ⅲ	12.0		0.0	5.0		浅黄橙		普	
555	SE1639		土師器	碗	A2	Ⅰ	15.0		0.0	5.0		浅黄橙		良	外：二次焼成
556	SE1639		土師器	碗				4.8	0.0			にぶい黄橙	海骨・チャート	良	
557	SE1639		灰釉陶器	皿				8.0			三日月高台	灰白		良	
558	SE1639		須恵器	甕							外：擬格子叩き・カキメ、内同心円当具	灰		還硬	
559	SK1647	上層	須恵器	無台杯			12.0			3.0		暗灰		還硬	
560	SK1647	上層	土師器	碗	A1	Ⅲ	12.0		0.0	1.8		橙		普	
561	SK1647		土師器	碗				4.4	0.0			にぶい橙	チャート	普	
562	SK1647	上層	土師器	黒色碗				5.8	0.0			浅黄橙		良	内黒処理
563	SK1647		土師器	碗				5.0	0.0			浅黄橙		良	
564	SK1677	黒褐色	須恵器	無台杯			12.0			1.5		灰白		還硬	
565	SK1677	黒褐色	須恵器	無台杯			12.0			1.6		灰		還硬	
566	SK1677		土師器	碗	A1	Ⅲ	12.0	4.1	4.0	6.0		浅黄橙	雲母・チャート	普	
567	SK1677		土師器	碗	B1	Ⅲ	12.2	4.6	4.2	1.2		橙	雲母・礫	普	
568	SK1677		土師器	碗	B1	Ⅲ	12.6	4.8	4.4	29.0		橙	礫	普	略完形
569	SK1677		土師器	碗	A1	Ⅲ	12.4	5.5	4.2	31.0		橙	礫	普	略完形
570	SK1677		土師器	碗	B1	Ⅲ	12.4	4.8	4.5	34.3		橙	礫	普	略完形、二次焼成、口縁：煤、内底面中央に窪み
571	SK1677		土師器	碗	A1	Ⅲ	12.8	5.5	3.9	4.3		黄橙	礫	普	略完形
572	SK1677		土師器	碗	A1	Ⅲ	12.8	4.7	4.6	17.0		浅黄橙	礫	普	
573	SK1677		土師器	碗	A1	Ⅲ	13.0		0.0	5.0		にぶい黄橙	海骨・長石	普	二次焼成・外底面剥離
574	SK1677		土師器	黒色碗	A2	Ⅱ	14.0	5.8	4.9	14.5	内：ヘラミガキ	浅黄橙	雲母	良	内黒処理
575	SK1677		土師器	碗				4.8	0.0			浅黄橙	礫	普	
576	SK1677		土師器	碗				5.4	0.0			浅黄橙	海骨・雲母	普	
577	SK1677		土師器	碗	A1			5.4	0.0			浅黄橙	雲母	普	
578	SK1677		須恵器	甕							外：擬格子叩き、内：同心円当具	灰	白色粒	還硬	
579	SK1677		須恵器	甕							外：平行叩き、内：同心円当具	灰		還硬	
580	SK1677		土師器	甕				10.0				浅黄橙	礫	普	
581	SK1678		須恵器	無台杯			13.0			3.5		灰	礫	還硬	外：二次焼成
582	SK1678	第1層	須恵器	無台杯			14.0			3.0		灰		還硬	
583	SK1678		須恵器	無台杯				7.4			底：ヘラ切り後ナデ	灰		還元やや軟質	
584	SK1678		土師器	碗	A2	Ⅲ	12.0	5.0	4.0	3.5		にぶい橙	海骨	普	
585	SK1678		土師器	碗	A2	Ⅲ	12.0	5.0	3.9	6.5		にぶい黄橙	雲母	普	
586	SK1678		土師器	黒色碗				4.4	0.0			にぶい黄橙	雲母	普	内黒処理
587	SK1678		土師器	碗				4.4	0.0			にぶい黄橙	礫	普	
588	SK1678		土師器	碗				6.0	0.0			にぶい橙	雲母	普	
589	SK1678		土師器	黒色有台皿							内：ヘラミガキ	浅黄橙	礫	普	内黒処理
590	SK1678	第1層	灰釉陶器	皿				8.0			三日月高台	灰		良	
591	SK1679		須恵器	無台杯			12.4			10.0		青灰	白色粒	還硬	
592	SK1679		土師器	碗	A1	Ⅲ	11.6	5.0	4.4	4.5		浅黄橙	海骨・礫	普	
593	SK1679		土師器	碗	A1	Ⅲ	12.6	5.0	4.0	3.5		にぶい黄橙		普	内：二次焼成
594	SK1679		須恵器	有台鉢			27.0			3.6		灰	礫・白色粒	還硬	
595	SK1679		土師器	甕	D		16.0			5.0		にぶい黄橙	チャート	普	
596	SK2255		須恵器	蓋杯			14.0			5.5	口端：尖り気味、口内：面、受部：斜上方	灰	礫	還硬	
597	SK2255		土師器	碗	A1	Ⅳ	11.0		0.0	12.5		橙		良	
598	SK2255		土師器	碗	A1	Ⅳ	11.0		0.0	2.5		浅黄橙	雲母・チャート	良	
599	SK2255		土師器	碗	A2	Ⅲ	12.0	5.8	4.0	15.2		浅黄橙	海骨・雲母	良	
600	SK2255		土師器	碗	A1	Ⅲ	12.0	5.4	3.9	5.8		浅黄橙	雲母・チャート	良	
601	SK1709		漆器	椀			10.0			1/36					黒漆に朱の模様
602	SK1709		部材	板			6.4	3.2	0.6						
603	SK1709		部材	板			10.6	2.9	0.5						
604	SK1709		部材	棒			19.8	2.6	1.7						

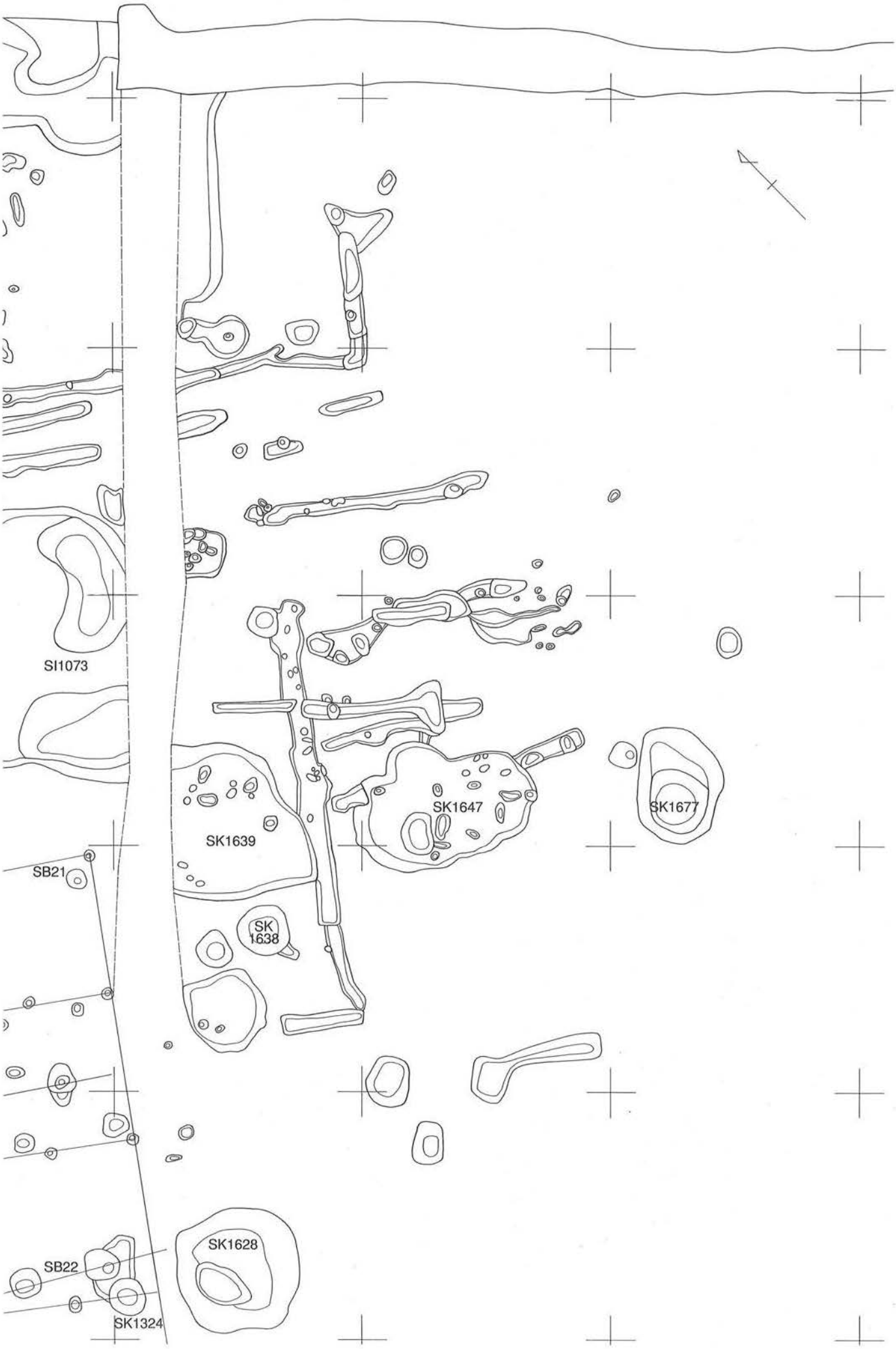
図版番号	出土遺構	層位	種類	器種	細分	法量分類	口径長	底径幅	器高厚	残存	調整	色調	胎土	焼成	備考
605	SK1709		木製品	箸			20.7	0.6	0.6	完形					
606	SK1709		木製品	箸			20.0	0.7	0.4	完形					
607	SK1709		木製品	箸			19.5	0.6	0.4	ほぼ完形					
608	SK1709		木製品	箸			14.8	0.7	0.6	2/3					
609	SK1709		木製品	箸			14.1	0.7	0.6	2/3					
610	SK1709		木製品	箸			11.3	0.5	0.4	1/2					
611	SK1709		木製品	箸			8.6	0.5	0.4	1/3					
612	SK1709		木製品	箸			7.8	0.7	0.4	1/3					
613	SE1711		漆器	椀			15.0	8.0	7.8	ほぼ完形					内側・外側模様有り
614	SK1729		珠洲	擂鉢			29.0			3.2	幅21㎜に14条卸目	暗灰	海骨	還硬	口；ゆがみあり(注口？)
615	SK1772		部材	棒			46.3	6.6	5.2						
616	SE1772		木製品	折敷	底板		27.3	6.6	5.2						
617	SE1801		木製品	匙			11.0	6.5	1.8						
618	SE1801		木製品	俎板			29.8	18.4	0.5	完形					
619	SK1844	第2層	青磁	碗				5.0			内底面：花文様	灰白		良	釉調：濃緑
620	SK1844	第2層	青磁	碗				7.2				灰白		良	釉調：濃緑
621	SK1844		漆器	椀			8.0	4.6	2.1	2/36					黒漆に朱の模様
622	SK1844		木製品	曲物	底板		7.8	3.0	0.5						
623	SK1844		漆器	椀			19.4	8.4	6.0	2/36					模様有り
624	SK1844		木製品	板			15.4	2.2	0.2						
625	SK2109	床上	青磁	碗				5.8			内底：草花文様	灰白		良	
626	SK2163		漆器	椀				4.6							
627	SK2163		木製品	板杓子			21.8	8.0	0.8						
628	SK2163		木製品	折敷	底板		22.6	9.7	0.7						
629	SK2167		青磁	稜花皿			13.2	5.8	2.9	19.1	内底：釉剥ぎ取り、高台端面：釉削る	灰白		良	釉調：明緑
630	SK2172		木製品	曲物	側板		4.2	20.2	0.1						
631	SK2222		珠洲	壺				9.0			底：静止糸切り、外体：ロクロケズリ	灰	海骨・黒色吹出	還硬	
632	SK2237		木製品	曲物	底板		19.0	17.7	1.3	ほぼ完形					
633	SK2237		木製品	杭			32.8	3.3	3.6						
634	SK2238		珠洲	擂鉢			31.0			3.5	29㎜に10条卸目	灰	海骨	還硬	
635	SP2239		珠洲	擂鉢			28.0			1.7	口端：波状文	灰		還硬	口端：面の剥離著しい
636			灰釉陶器	皿			15.0			3.5	ハケ塗り	灰白	密	還硬	釉調:灰白色、荒ヶ丘1号窯式
637			須恵器	蓋杯			12.0			5.0	口内に面	明青灰	精良・密・黒色吹出	還硬	
638			須恵器	蓋杯			12.0			0.9		青灰		還硬	
639			須恵器	蓋杯			12.0			3.0		明青灰		還硬	
640			須恵器	杯蓋			18.8		3.3	4.9	つまみ；擬宝珠、カエリ；小、外天；ロクロケズリ	灰白	黒色吹出・礫	還硬	
641			須恵器	無台杯			12.4	7.4	3.3	11.6	底；ヘラ切り後ナデ	青灰	黒色吹出	還硬	
642			須恵器	無台杯			11.8	7.2	3.1	4.0	底；ヘラ切り後ナデ	青灰	白色礫	還硬	
643			須恵器	無台杯			13.0			15.0	底；ヘラ切り後ナデ	灰白	白色礫	還硬	
644			須恵器	無台杯			13.4	8.6	3.0	22.4	底；ヘラ切り後ナデ	灰白	精良	還硬	
645			土師器	碗	A1	Ⅲ	14.0		0.0	5.0		浅黄橙		良	
646			土師器	碗	A2	Ⅲ	14.0		0.0	5.2		浅黄橙	海骨・雲母	良	
647			灰釉陶器	碗			12.0			1.6		灰白		良	釉調：淡緑
648			灰釉陶器	碗			13.0			4.4		灰		良	釉調：無色
649			灰釉陶器	碗			13.0			2.6		灰白	密	良	釉調：薄い褐灰色
650			灰釉陶器	碗			14.0			2.6		灰褐		良	釉調：淡緑
651			灰釉陶器	碗			16.0			3.0	ツケガケ	灰白	密	良好	釉調：薄い緑灰色・釉は極薄い
652			灰釉陶器	皿			14.0			2.6		灰		良	釉調：無色
653			灰釉陶器	皿			14.0			2.3		灰白		良	釉調：無色、637と胎土・調整類似
654			灰釉陶器	皿			14.0			1.8		灰白		良	釉調：淡緑
655			灰釉陶器	皿			14.0			0.3		灰白		良	釉調：淡緑
656			灰釉陶器	皿			15.0			2.7		灰白		良	釉調：無色
657			灰釉陶器	皿			18.0			2.2		灰		良	釉調：無色
658			灰釉陶器	碗				7.0			外体：釉	灰		良	釉調：無色
659			灰釉陶器	碗				8.0			三日月高台・内底：薄く釉	灰白		良	釉調：淡緑
660			灰釉陶器	皿				6.4			内底：薄く一部釉	灰白	密	良	釉調：褐灰色
661			灰釉陶器	皿				6.0			外体：ロクロケズリ、	灰白		良	釉調：淡緑
662			灰釉陶器	皿				8.0			三日月高台	灰白		良	釉調：緑、内底面に重ね焼き痕
663			灰釉陶器	皿				7.8			三日月高台	灰白		良	釉調：薄緑
664			灰釉陶器	耳皿				4.6			底；回転糸切り	灰白		良	釉調：薄緑
665			灰釉陶器	長頸瓶								乳白		良	釉調：淡緑
666			灰釉陶器	短頸壺			12.0			1.0		灰		良	釉調：淡緑
667			灰釉陶器	壺								灰白		良	釉調：淡緑
668			灰釉陶器	瓶							外；ロクロケズリ	灰白		良	釉調：淡緑
669			灰釉陶器	壺				9.0			外；ロクロナデ、外底：ロクロケズリ	灰白		良	釉調：緑
670			灰釉陶器	壺				9.0			外；ロクロケズリ	灰白		良	釉調：緑
671			青磁	碗				5.0			内底；草花文様、高台：釉ケズリ	灰白		良	釉調：緑
672			石器	磨斧			9.1	5.8	2.8			緑灰			
673			土師器	皿				6.8			底：回転糸切り	浅黄橙	長石	良	内底面にコゲ少量付着

図　　版

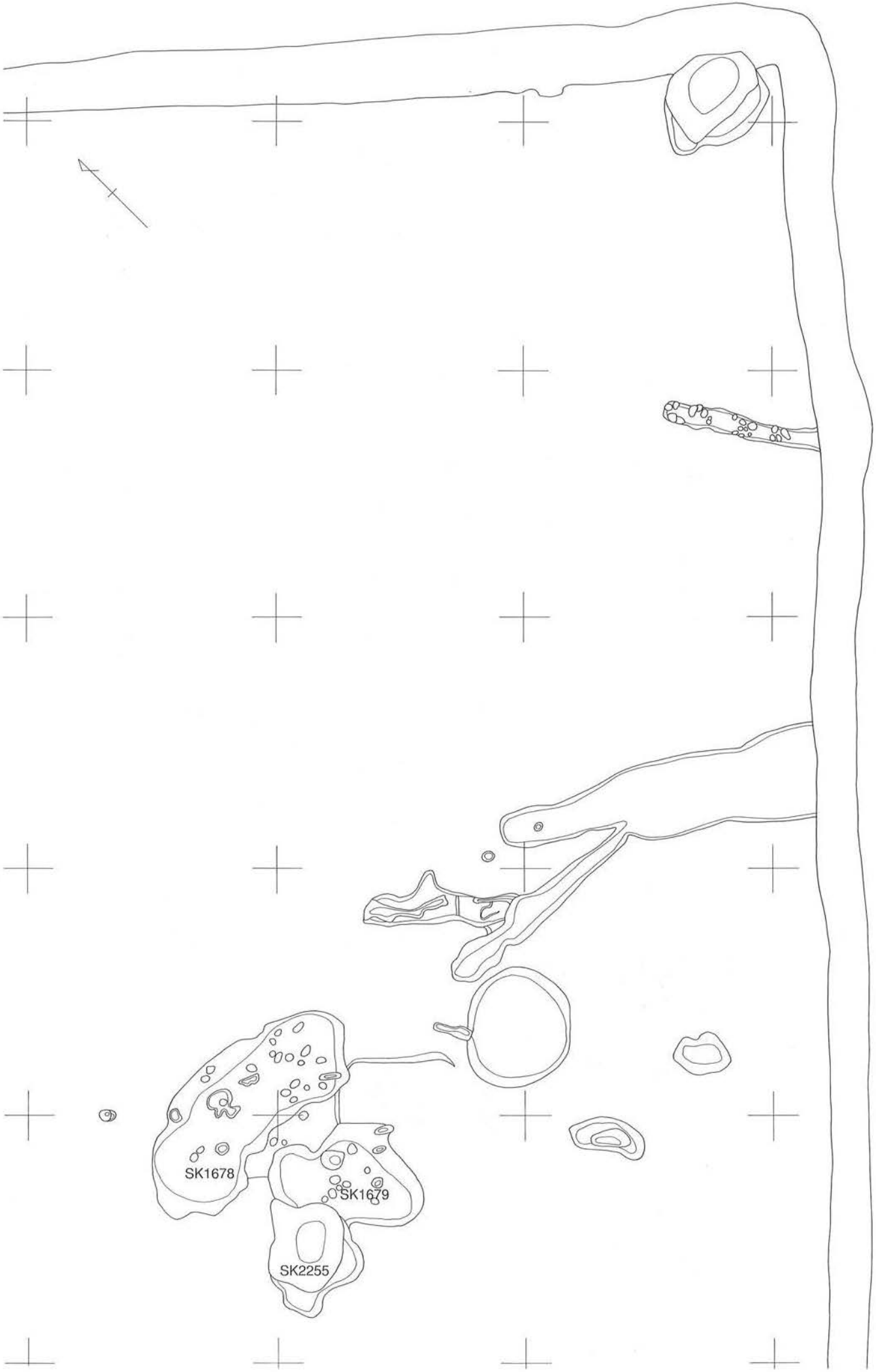

SE516
SP519
SD515
SK181
SK178
SE78
SK70
SB6
SK505
SK66
SE67
SD507
SP508
SB1
SB3
SK524
SB2

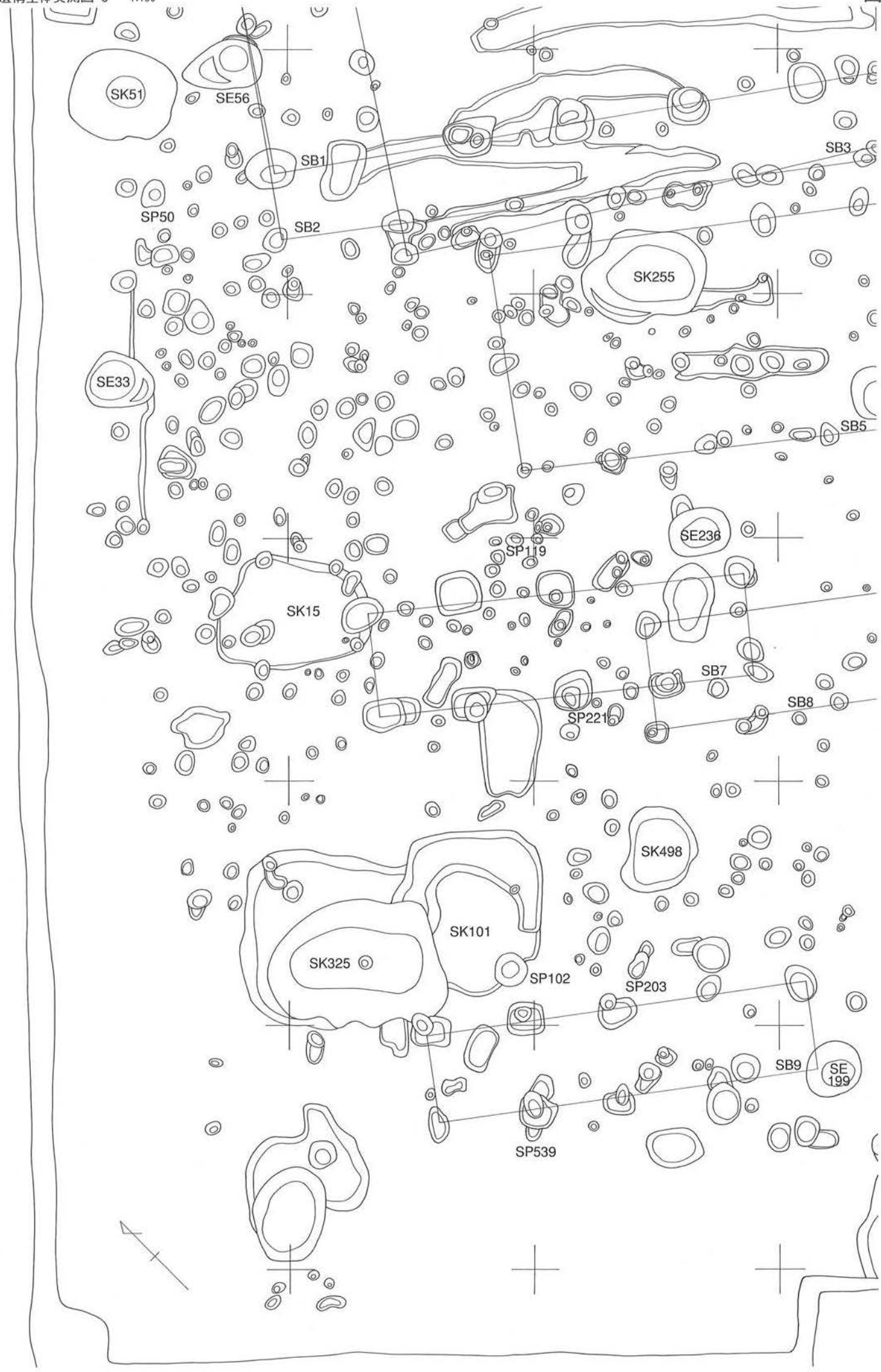
遺構全体実測図 2　1:100



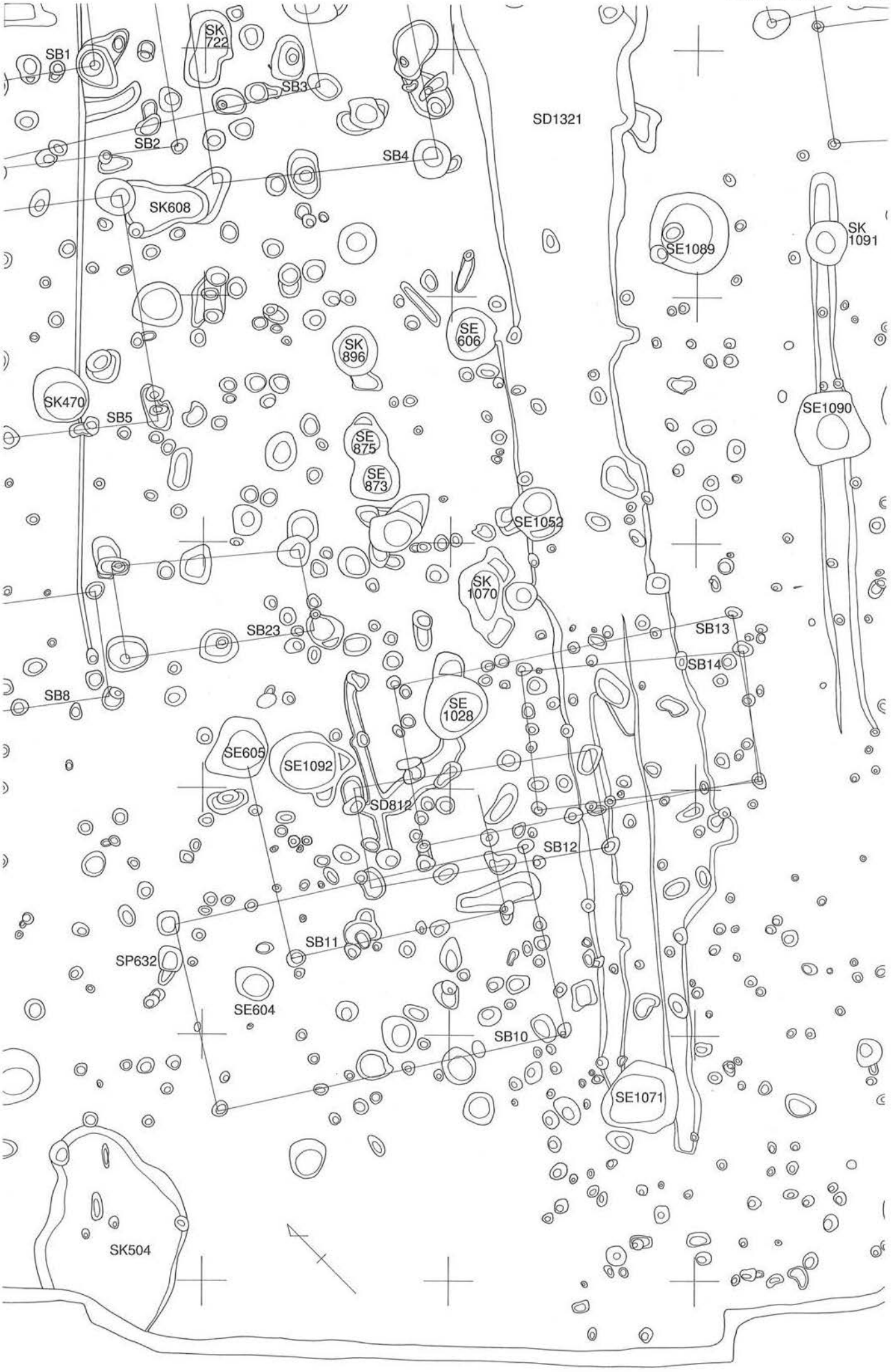

SI1073
SK1639
SK1647
SK1677
SB21
SK
1638
SK1628
SB22
SK1324

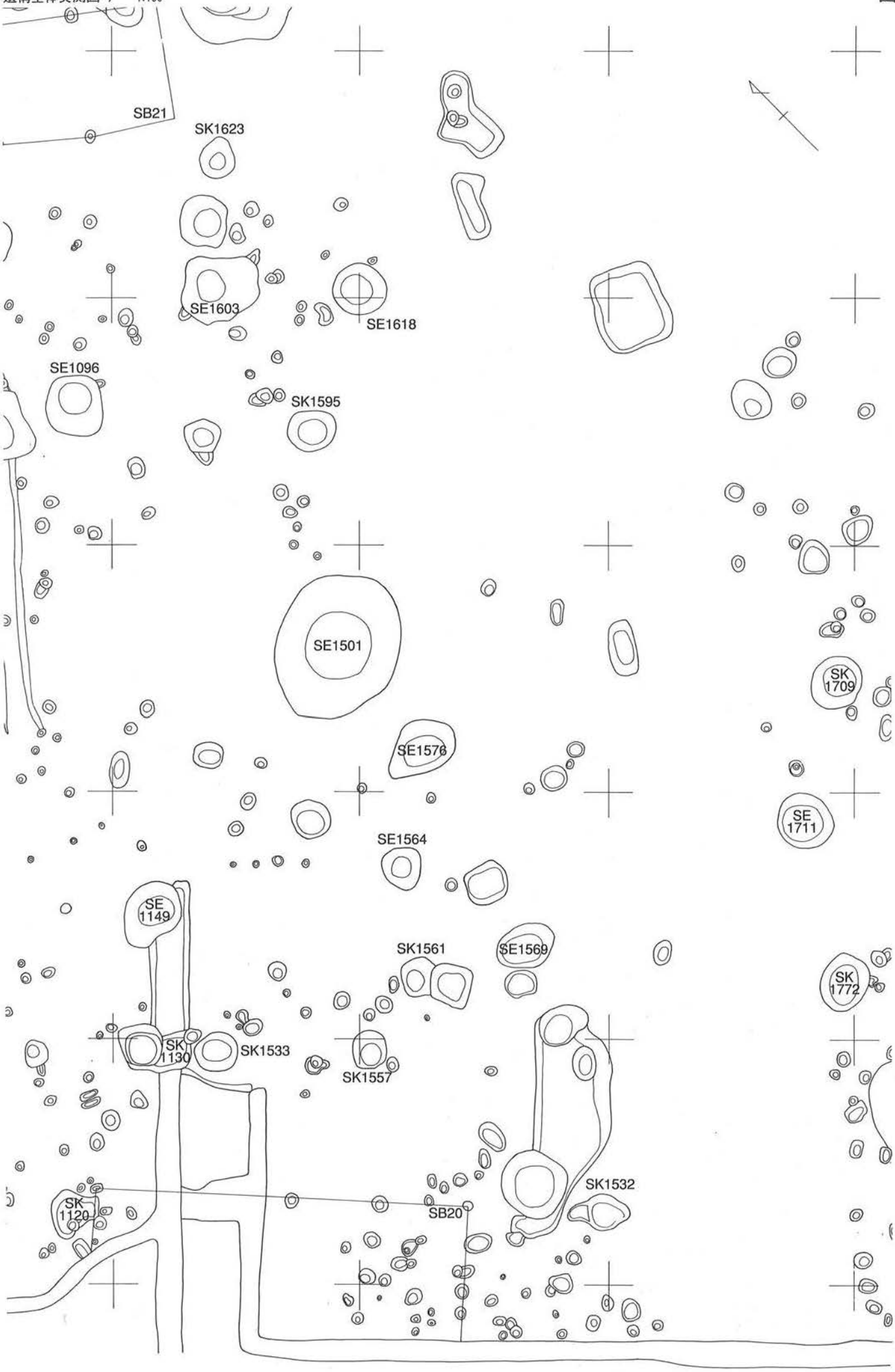
遺構全体実測図 4　1:100




SK51
SE56
SB1
SB3
SP50
SB2
SK255
SE33
SB5
SE236
SP119
SK15
SB7
SB8
SP221
SK498
SK101
SK325
SP102
SP203
SB9
SE 199
SP539

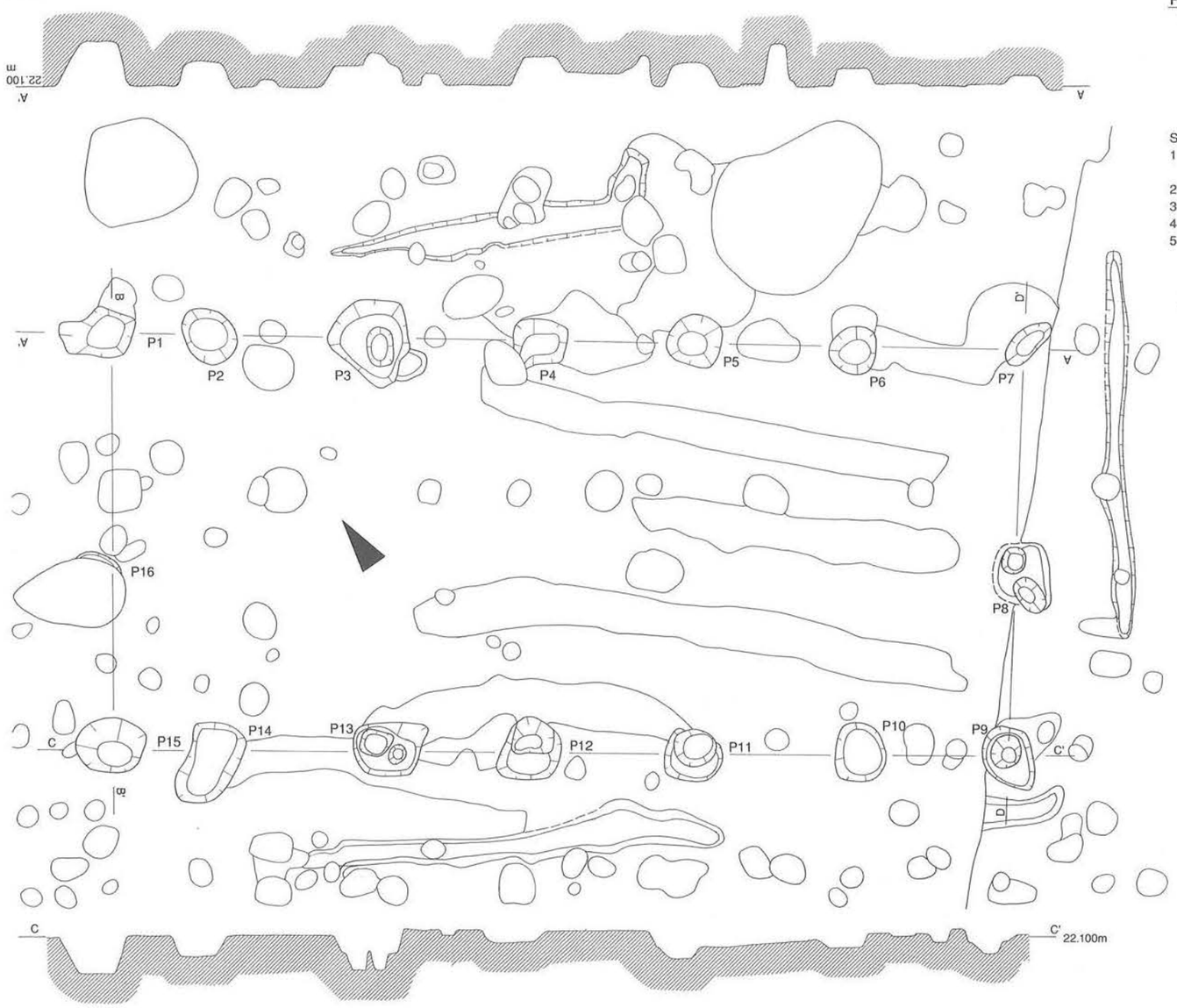
遺構全体実測図 6　1:100

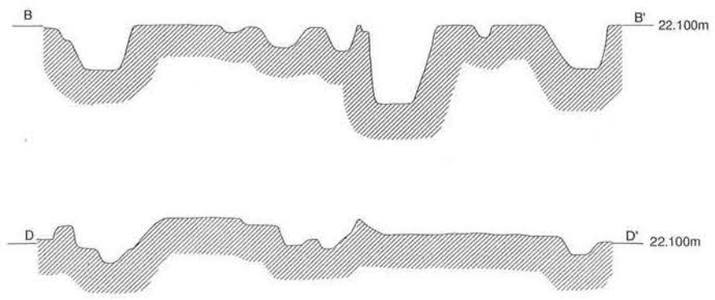



SB21
SK1623
SE1603
SE1618
SE1096
SK1595
SE1501
SK 1709
SE1576
SE 1711
SE1564
SE 1149
SK1561
SE1569
SK 1772
SK 1130
SK1533
SK1557
SK1532
SK 1120
SB20

遺構全体実測図 8　1:100

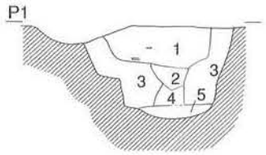
SB1





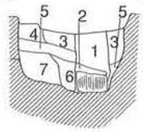
0 2 4m
1：80

P1



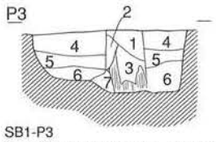
SB1-P1
1 10YR3/1黒褐色シルト
2.5Y6/3にぶい黄色シルト（炭化物少量含む）
2 10YR4/1褐灰色シルト
3 10YR4/1褐灰色シルト，2.5Y7/2灰黄色シルト
4 10YR3/1黒褐色粘土，2.5Y7/2灰黄色シルト
5 10YR5/1褐灰色シルト

P2



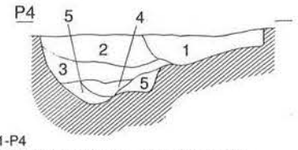
SB1-P2
1 10YR2/2黒褐色シルト
2 10YR4/1褐灰色シルト
3 10YR3/2暗褐色シルト
4 2.5Y8/3淡黄色シルト
5 10YR2/2黒褐色シルト（炭化物少量含む）
6 5Y7/2灰白色シルト
7 2.5Y6/3にぶい黄色シルト

P3



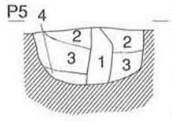
SB1-P3
1 10YR2/3黒褐色シルト（炭化物少量含む）
2 10YR3/1黒褐色シルト
3 10YR4/1褐灰色シルト
4 10YR2/2黒褐色シルト（炭化物少量含む）
5 10YR2/1黒色土（炭化物少量含む）
6 2.5Y7/4浅黄色シルト，10YR2/1黒色土
7 7.5Y6/2灰オリーブ色土

P4



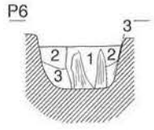
SB1-P4
1 10YR2/3黒褐色シルト（炭化物少量含む）
2 10YR2/2黒褐色シルト（地山土少量含む）
3 10YR3/1黒褐色シルト
4 10YR4/1褐灰色シルト
5 10YR4/1褐灰色シルト（炭化物少量含む）

P5



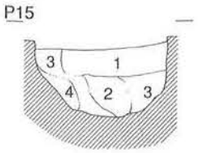
SB1-P5
1 10YR3/1黒褐色シルト
（炭化物少量含む）
2 10YR3/2暗褐色粘質シルト
（地山土少量含む）
3 10YR3/3暗褐色粘質シルト
4 10YR4/1褐灰色シルト褐灰色シルト
（炭化物少量含む）

P6



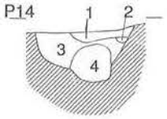
SB1-P6
1 10YR4/1褐灰色シルト
2 10YR4/1褐灰色シルト（炭化物少量含む）
3 5Y6/2灰オリーブ色粘質シルト

P15



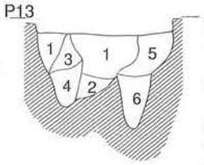
SB1-P15
1 10YR2/1黒褐色土，
10YR7/4にぶい黄橙色シルトブロック
2 2.5Y7/2灰黄色粘質シルト
3 10YR2/1黒褐色シルト
4 2.5Y6/3にぶい黄色シルト

P14



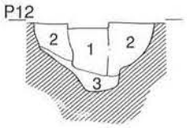
SB1-P14
1 10YR6/3にぶい黄橙色シルト
2 10YR4/1褐灰色シルト（炭化物少量含む）
3 10YR3/2暗褐色粘質シルト
4 10YR3/1黒褐色シルト

P13



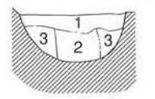
SB1-P13
1 10YR7/3にぶい黄橙色シルト，
10YR5/1褐灰色シルト
2 10YR5/1褐灰色シルト，
10YR7/3にぶい黄橙色シルト（少量混ざる）
3 10YR4/1褐灰色シルト
4 10YR3/1黒褐色粘土（炭化物少量含む）
5 10YR3/1黒褐色シルト
6 10YR4/1褐灰色シルト

P12



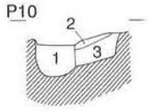
SB1-P12
1 10YR3/1黒褐色シルト
2 10YR3/2暗褐色粘質シルト
10YR7/3にぶい黄橙色シルト
3 10YR4/1褐灰色シルト

P11



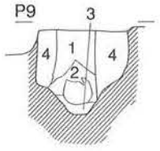
SB1-P11
1 10YR3/1黒褐色シルト
2 10YR2/1黒色粘質シルト
3 10YR4/1褐灰色シルト，
2.5Y7/3浅黄色シルト

P10



SB1-P10
1 10YR3/1黒褐色粘質シルト
2 10YR4/2灰黄褐色シルト
3 10YR3/1黒褐色シルト

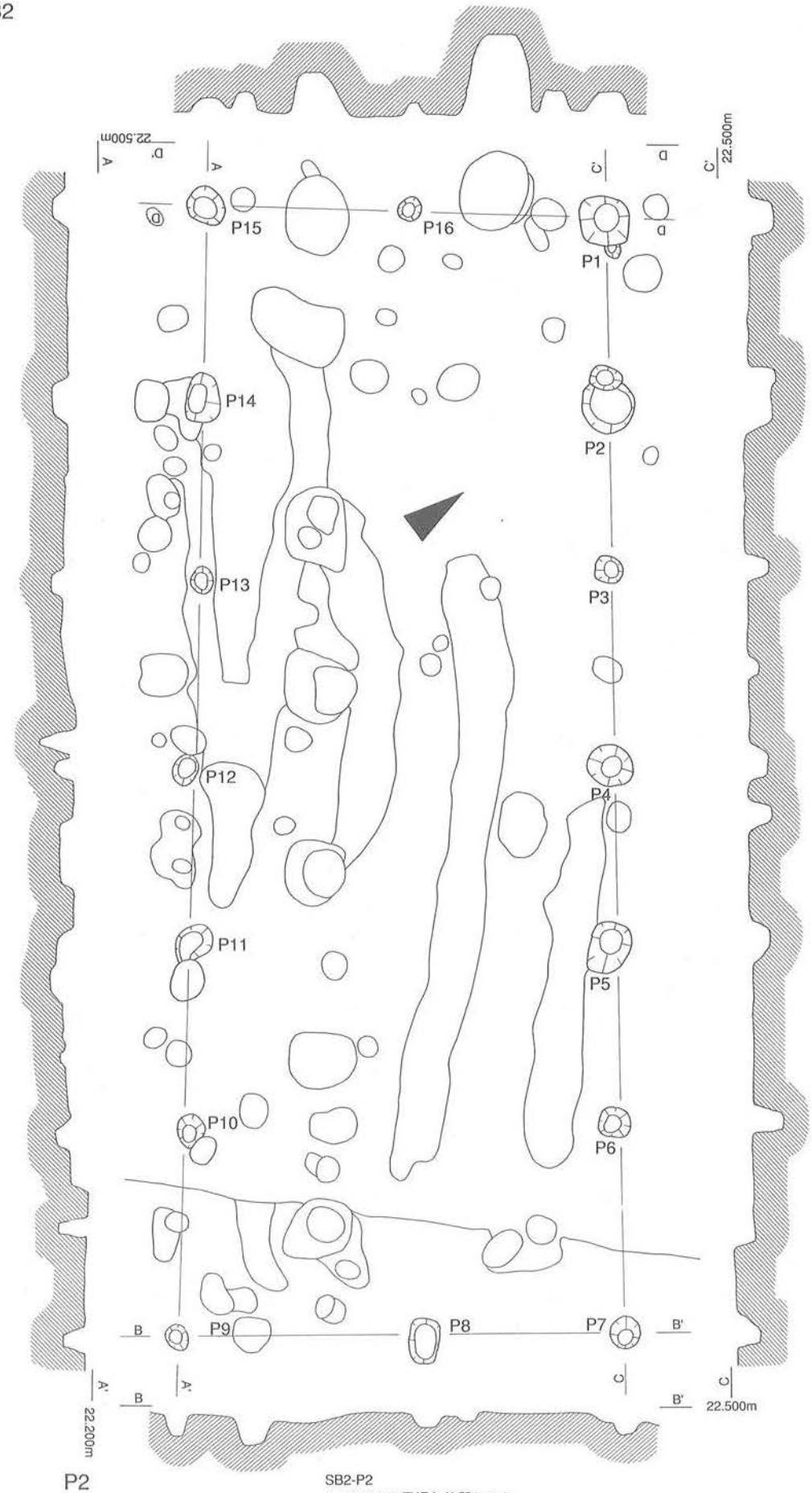
P9



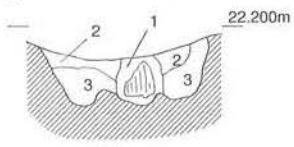
SB1-P9
1 10YR3/1黒褐色シルト
2 10YR2/1黒色土
3 5Y6/2灰オリーブ色粘質シルト
4 10YR4/2灰黄褐色シルト，
2.5Y7/3浅黄色シルトブロック

0 1 2m
1：40

SB2



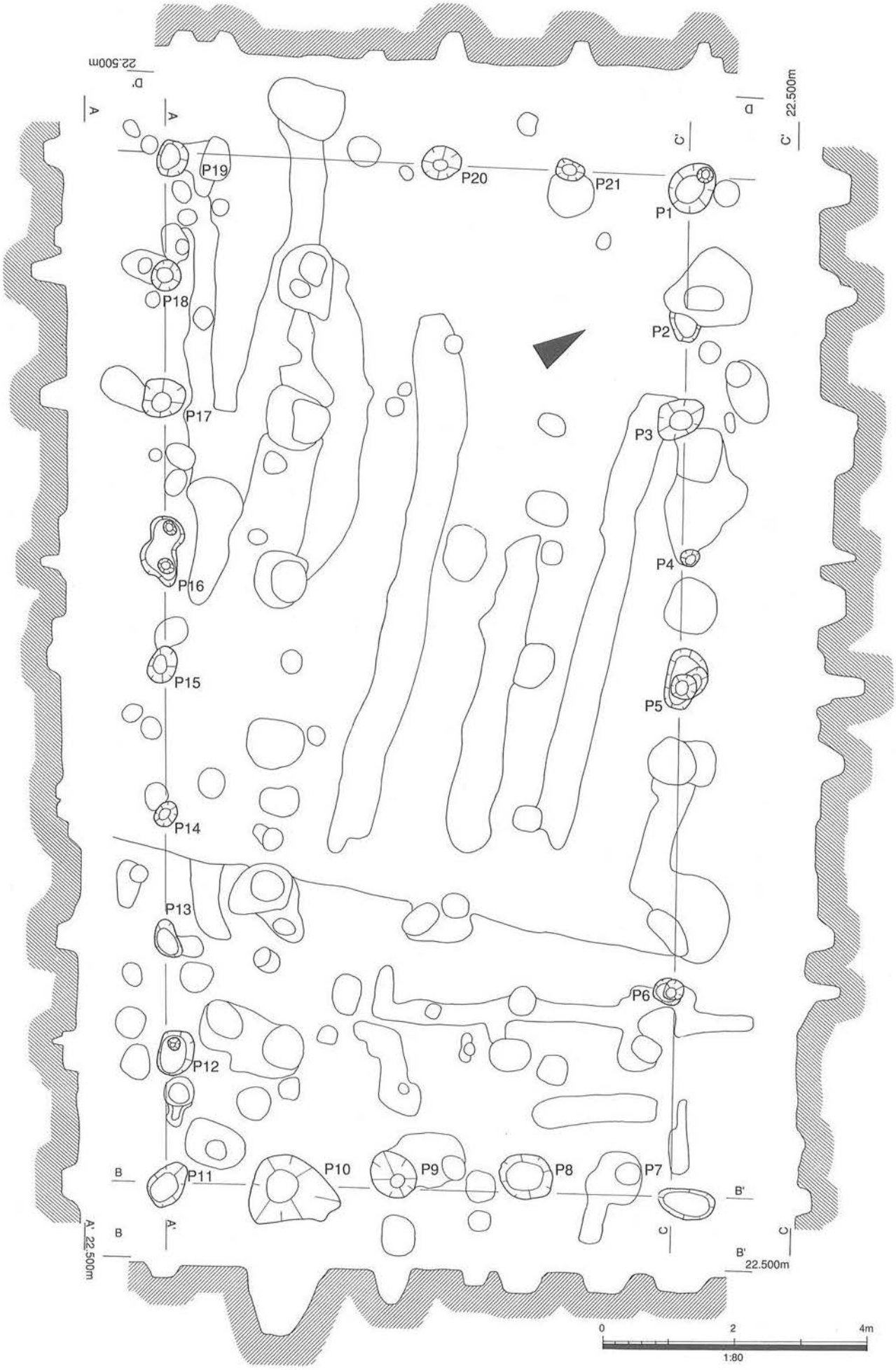
P2



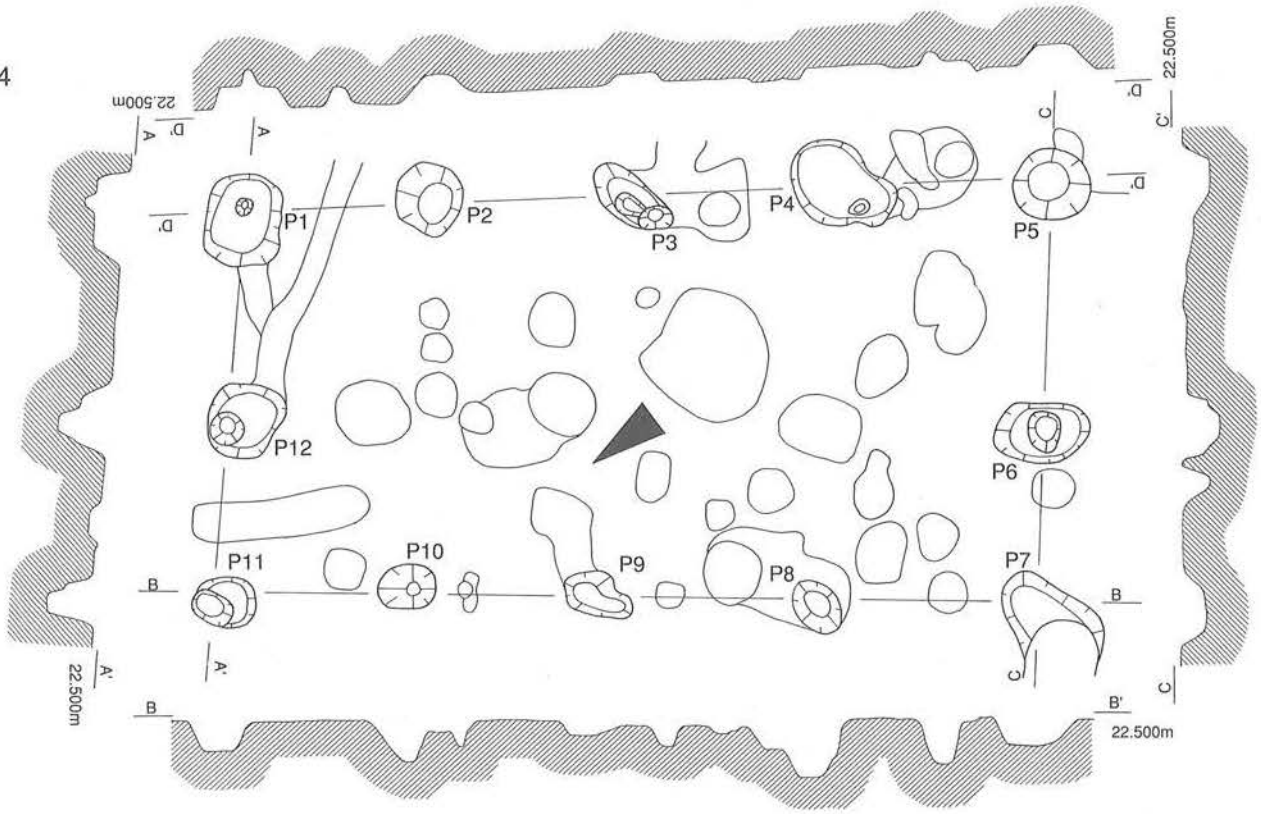
SB2-P2
1 10YR3/1黒褐色粘質シルト
2 10YR2/1黒褐色土,
2.5Y7/4にぶい黄橙色シルトブロック
3 10YR3/1黒褐色シルト

0 1 2m
1：40（P2）

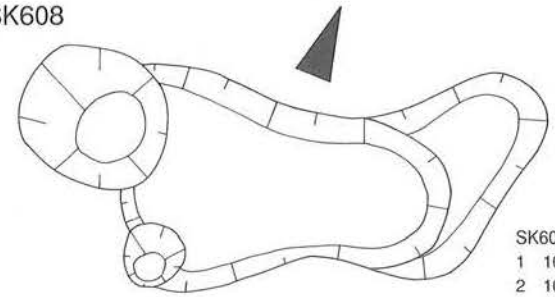
0 2 4m
1：80

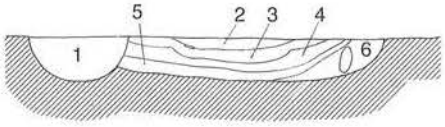

P7
P8
P9
P10
P11
P12
P13
P14
P15
P16
P17
P18
P19
P20
P21
P1
P2
P3
P4
P5
P6
A
A'
B
B'
C
C'
D
D'
22.500m
0
2
4m
1:80

SB4

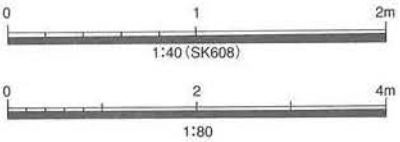


SK608

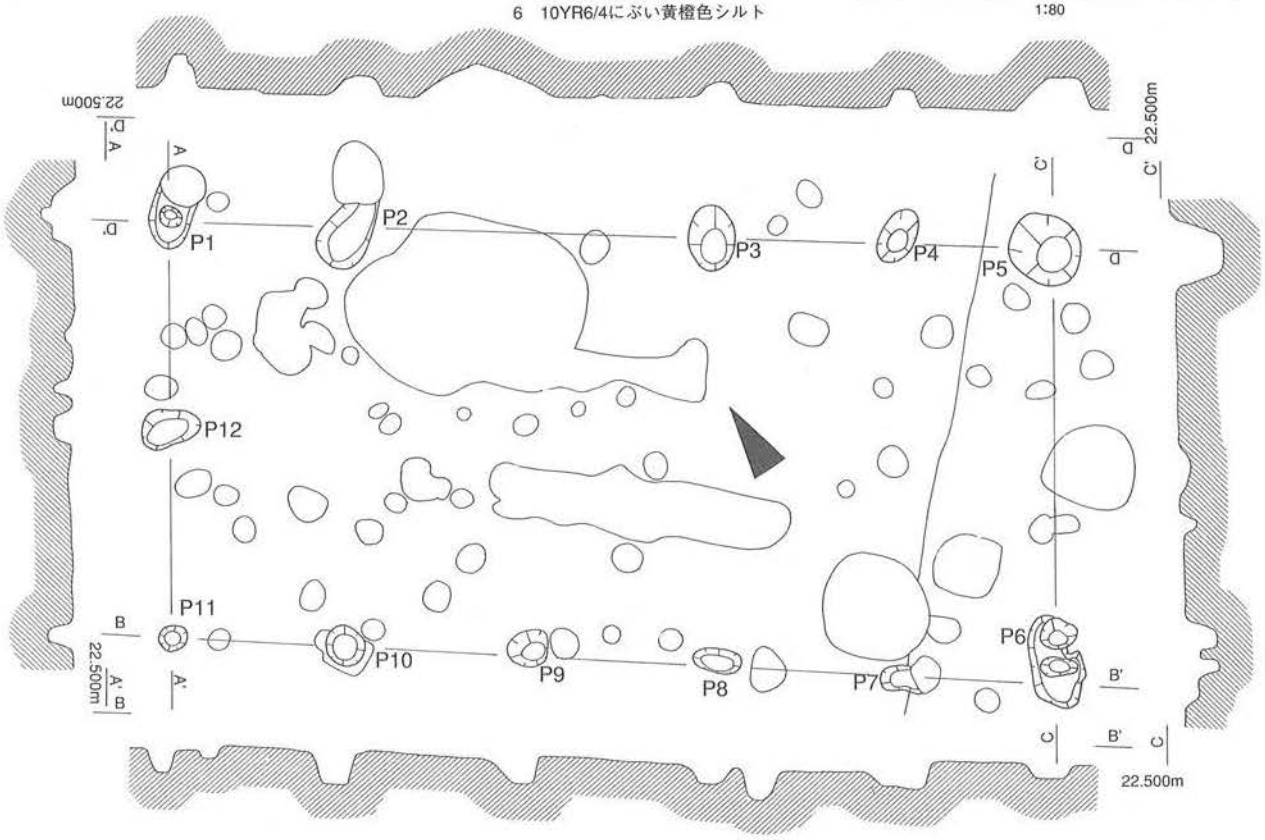


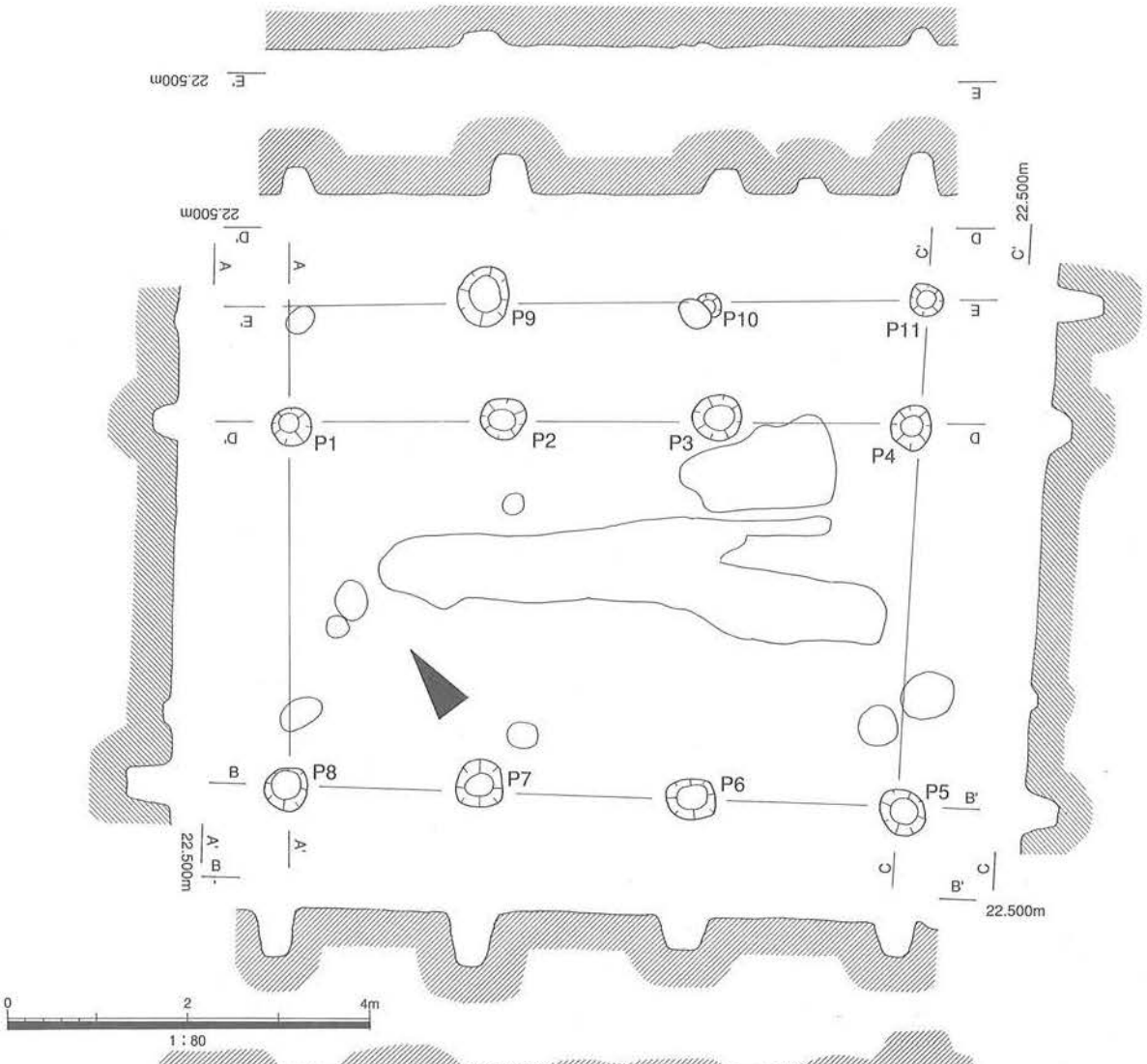


SK608
1　10YR3/1黒褐色シルト（SB5-P5埋土）
2　10YR3/3暗褐色シルト
3　10YR2/2黒褐色シルト
4　10YR4/3暗褐色シルト
5　10YR2/1黒褐色シルト
6　10YR6/4にぶい黄橙色シルト

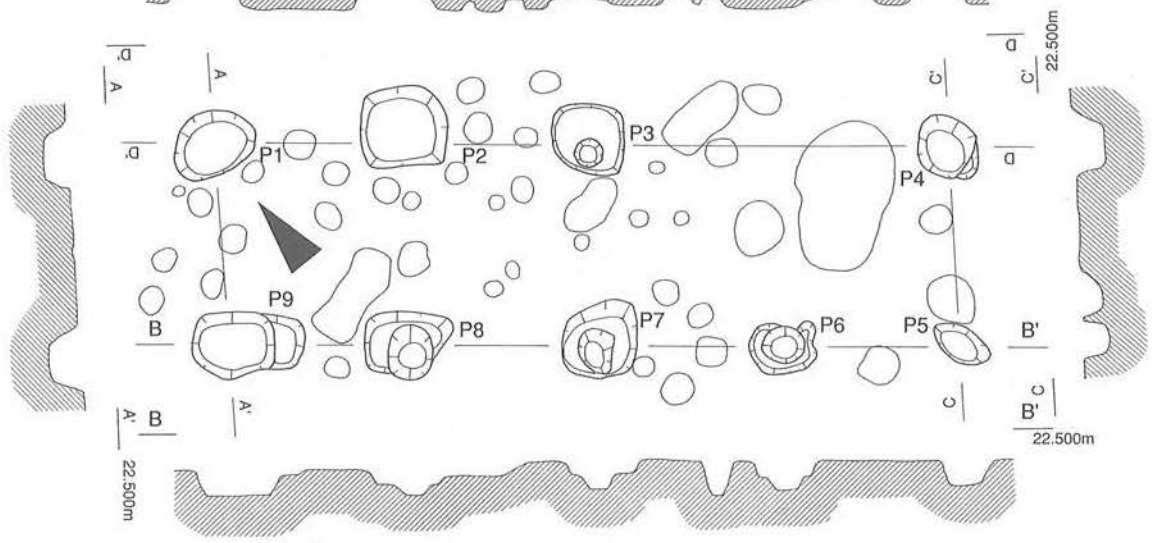


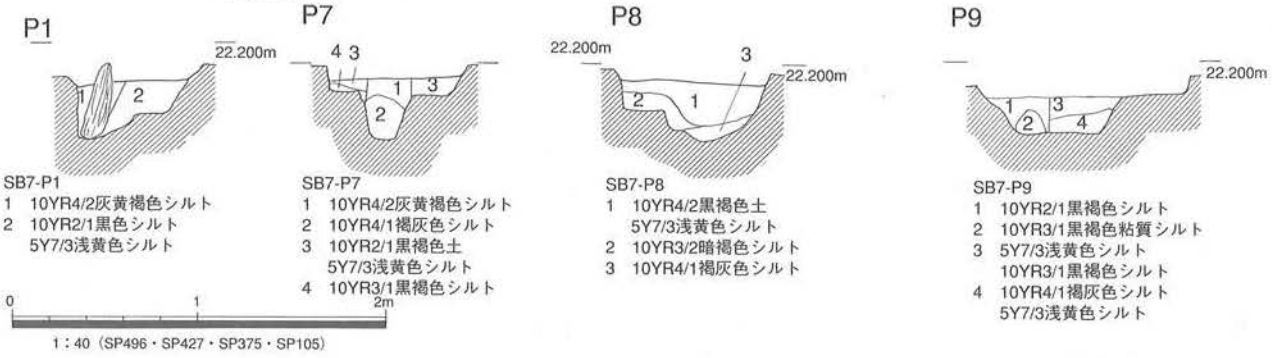
SB5





SB7





SB7-P1
1 10YR4/2灰黄褐色シルト
2 10YR2/1黒色シルト
5Y7/3浅黄色シルト

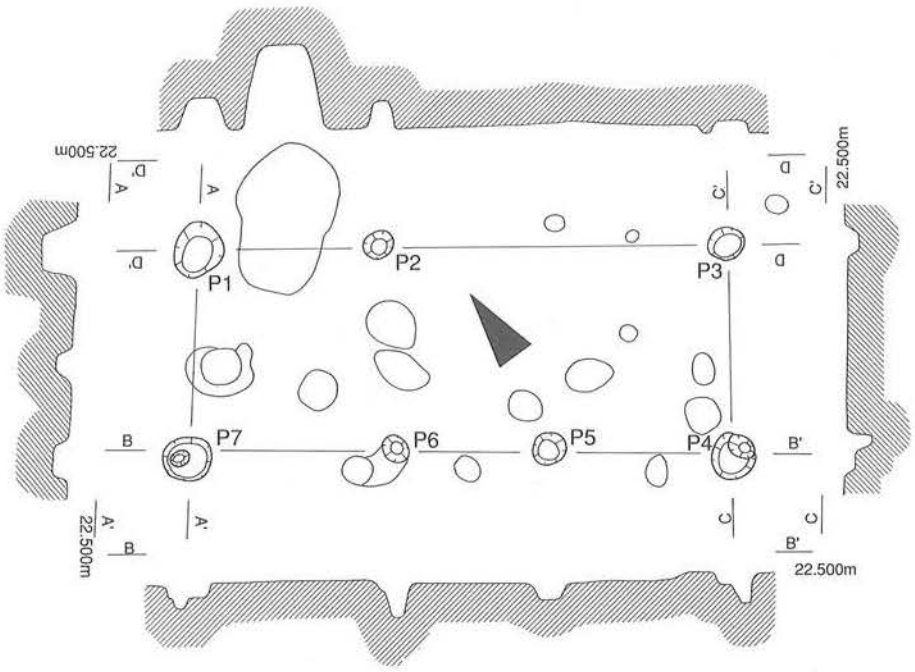
SB7-P7
1 10YR4/2灰黄褐色シルト
2 10YR4/1褐灰色シルト
3 10YR2/1黒褐色土
5Y7/3浅黄色シルト
4 10YR3/1黒褐色シルト

SB7-P8
1 10YR4/2黒褐色土
5Y7/3浅黄色シルト
2 10YR3/2暗褐色シルト
3 10YR4/1褐灰色シルト

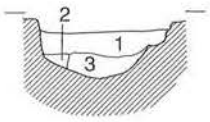
SB7-P9
1 10YR2/1黒褐色シルト
2 10YR3/1黒褐色粘質シルト
3 5Y7/3浅黄色シルト
10YR3/1黒褐色シルト
4 10YR4/1褐灰色シルト
5Y7/3浅黄色シルト

SB8・SB9・SB9-P2・SB10

SB8

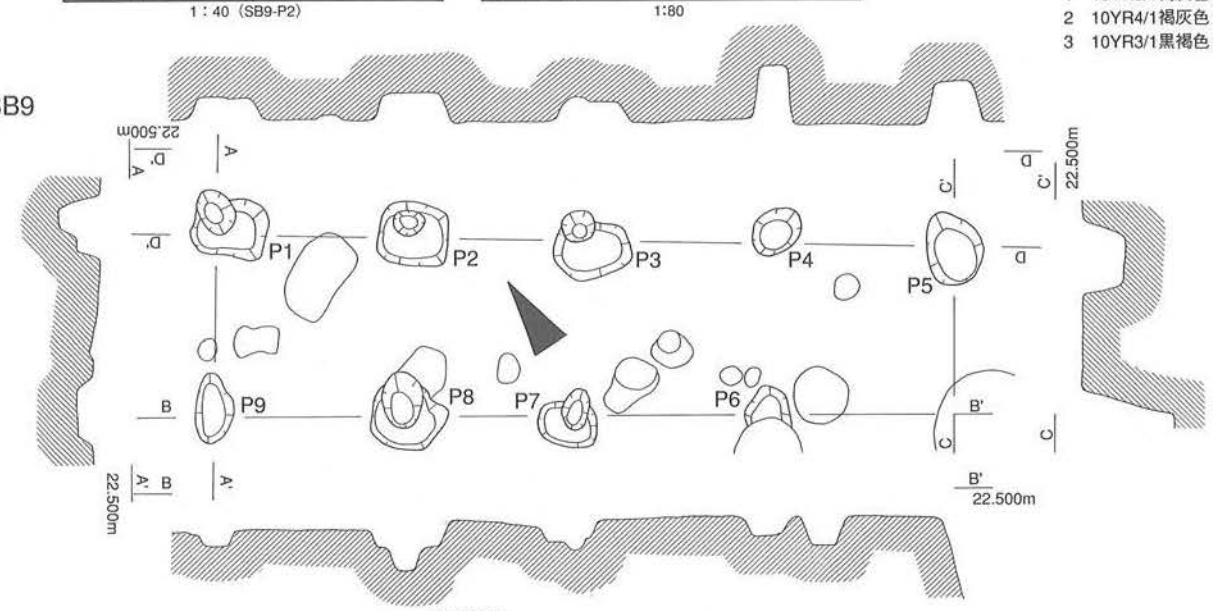


SB9-P2

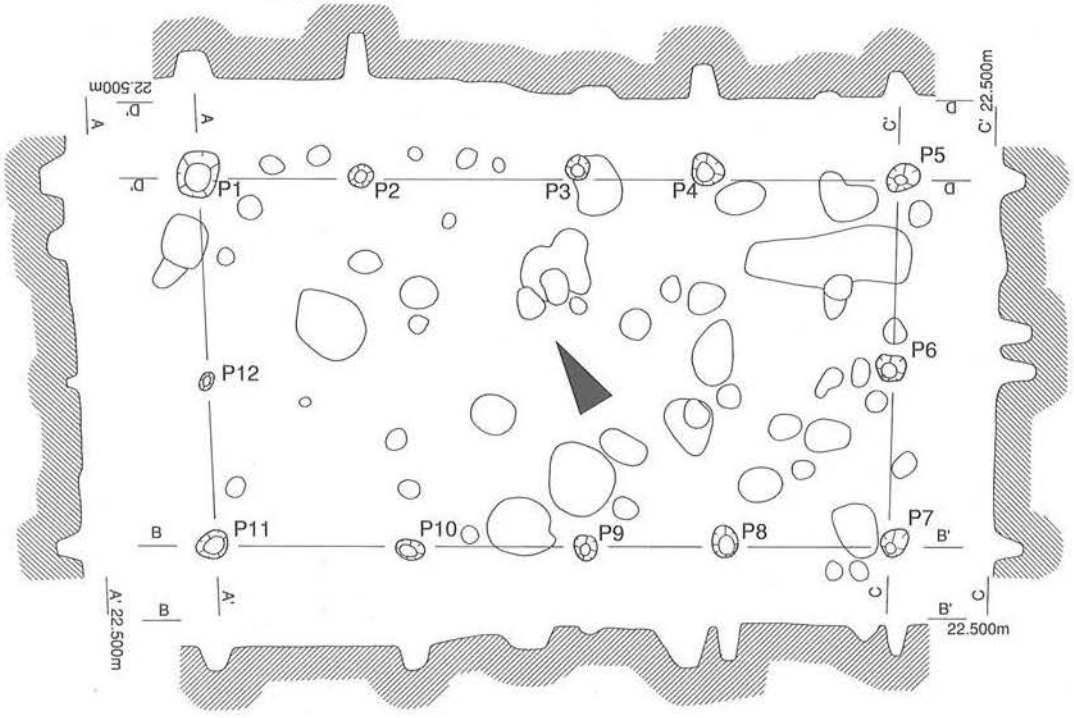


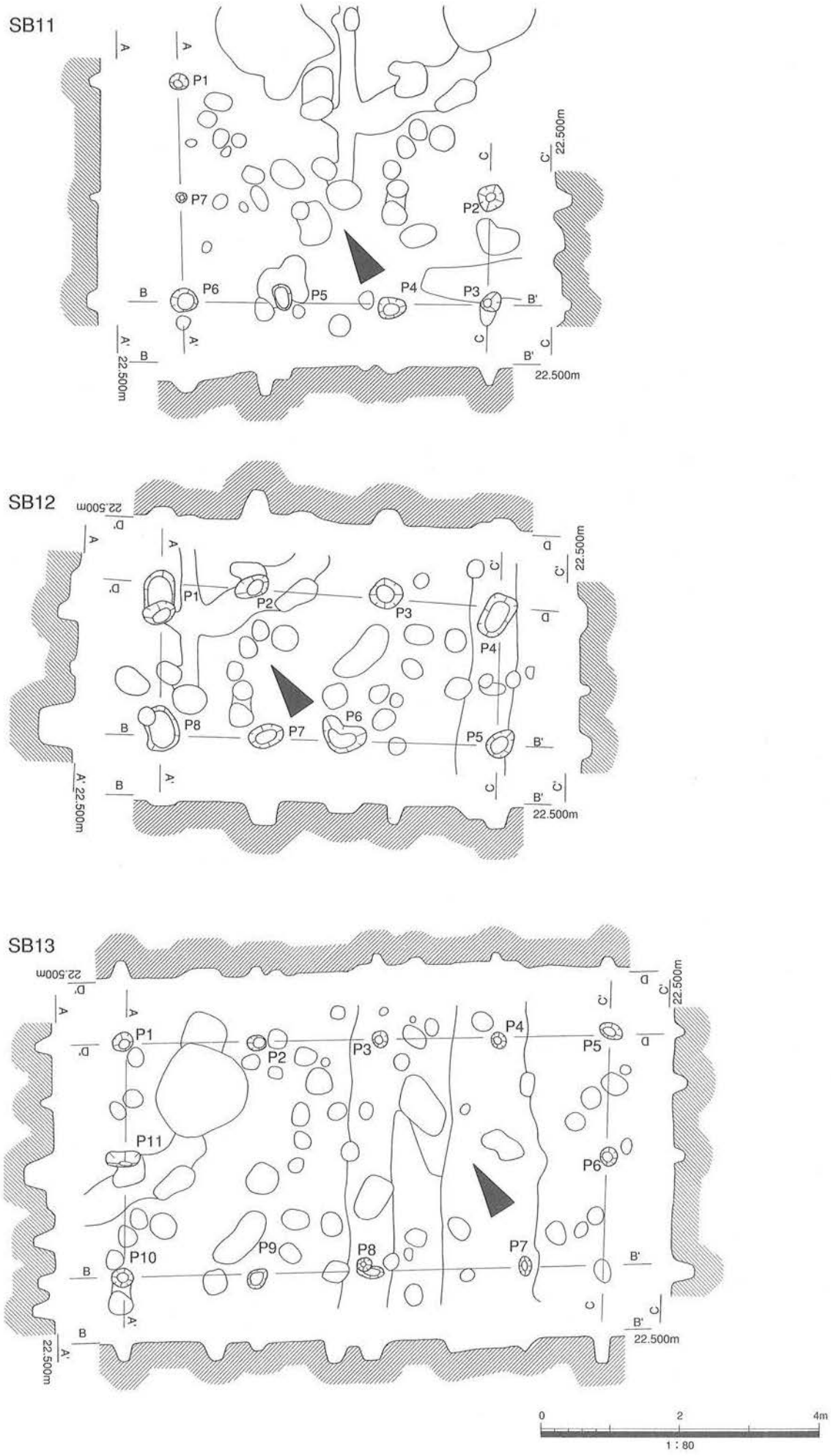
SB9-P2
1　10YR5/1褐灰色シルト
2　10YR4/1褐灰色シルト
3　10YR3/1黒褐色シルト

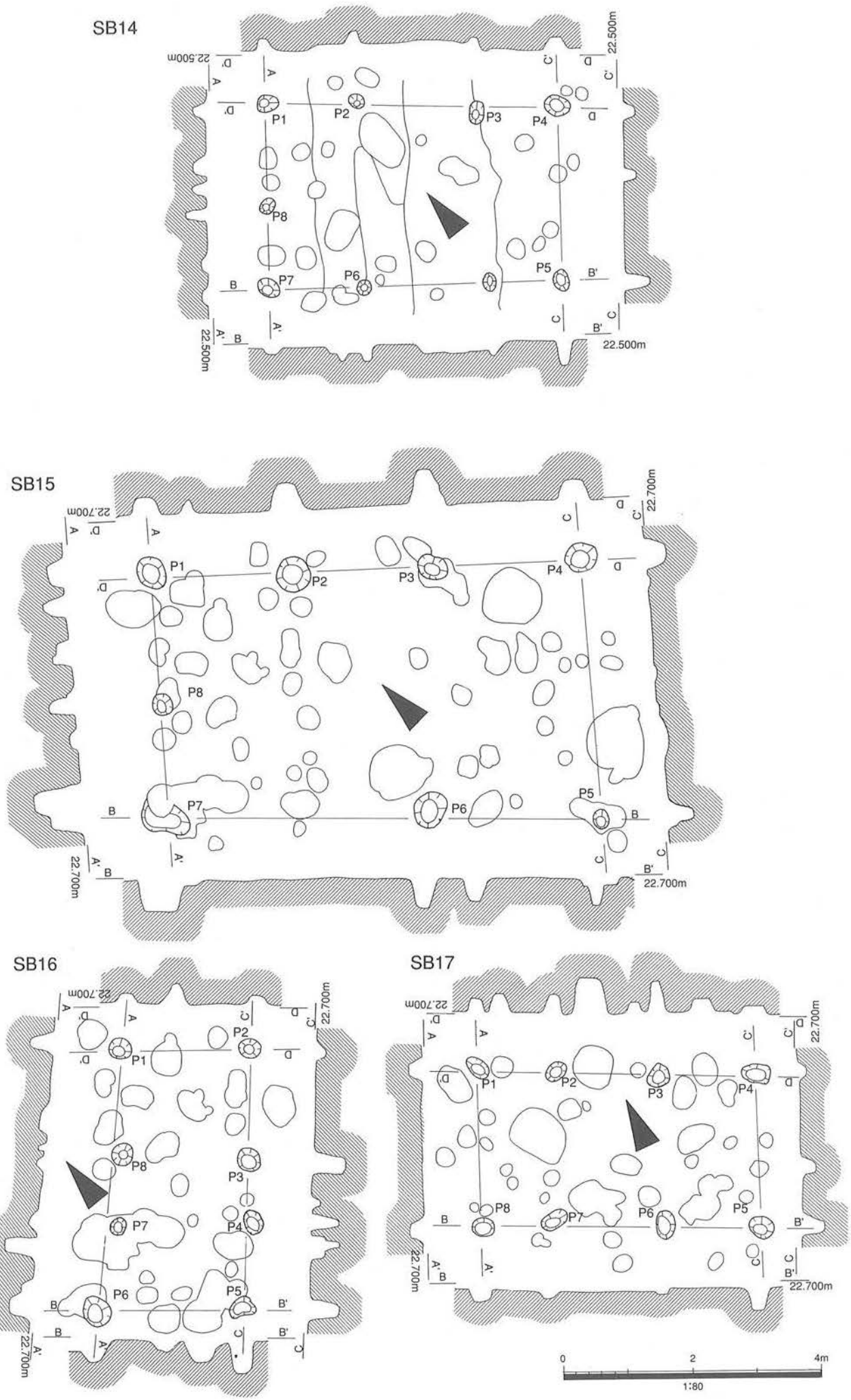
SB9

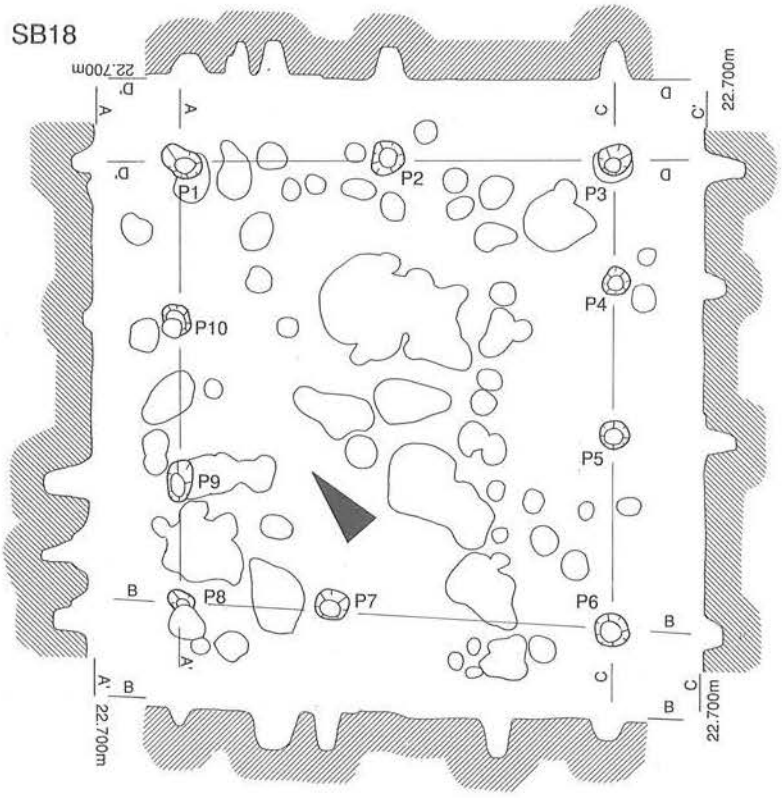


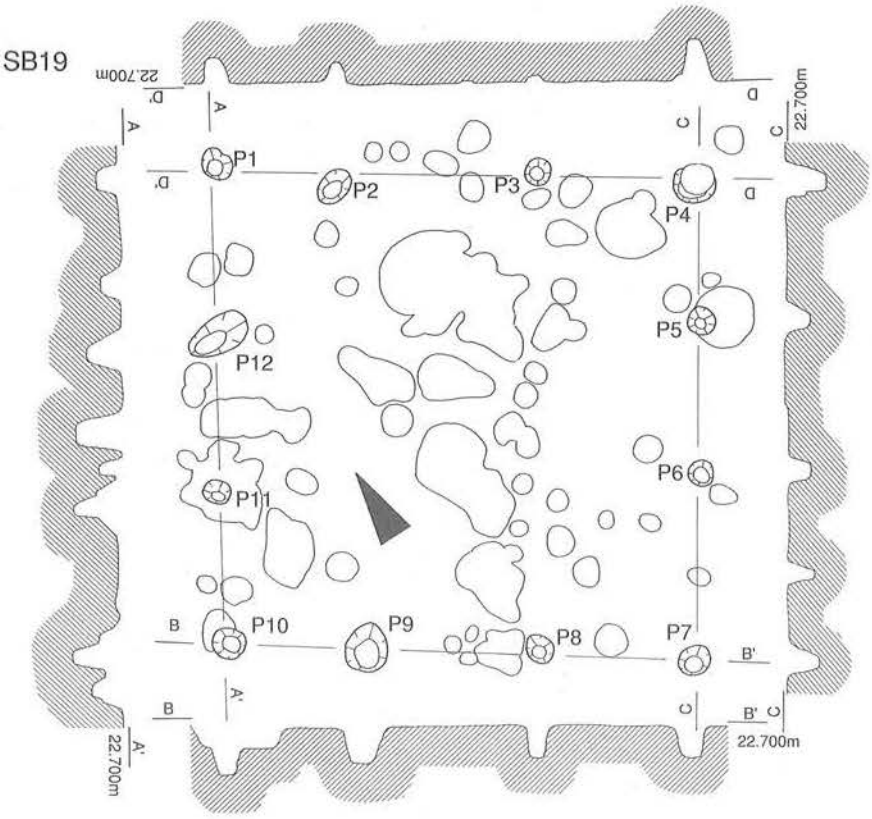
SB10

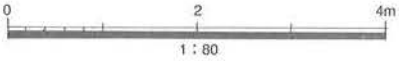



SB11
P1
P2
P3
P4
P5
P6
P7
A
A'
B
B'
C
C'
22.500m
SB12
P1
P2
P3
P4
P5
P6
P7
P8
A
A'
B
B'
C
C'
D
D'
22.500m
SB13
P1
P2
P3
P4
P5
P6
P7
P8
P9
P10
P11
A
A'
B
B'
C
C'
D
D'
22.500m
0
2
4m
1：80

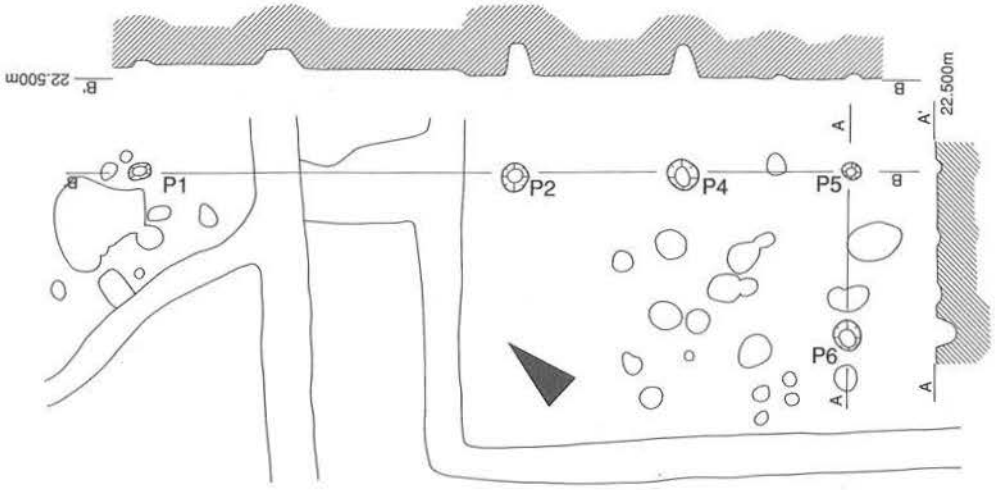

SB14
SB15
SB16
SB17
P1
P2
P3
P4
P5
P6
P7
P8
A
A'
B
B'
C
C'
D
D'
22.500m
22.700m
0
2
4m
1:80


SB18
P1
P2
P3
P4
P5
P6
P7
P8
P9
P10
A
A'
B
B'
C
C'
D
D'
22.700m

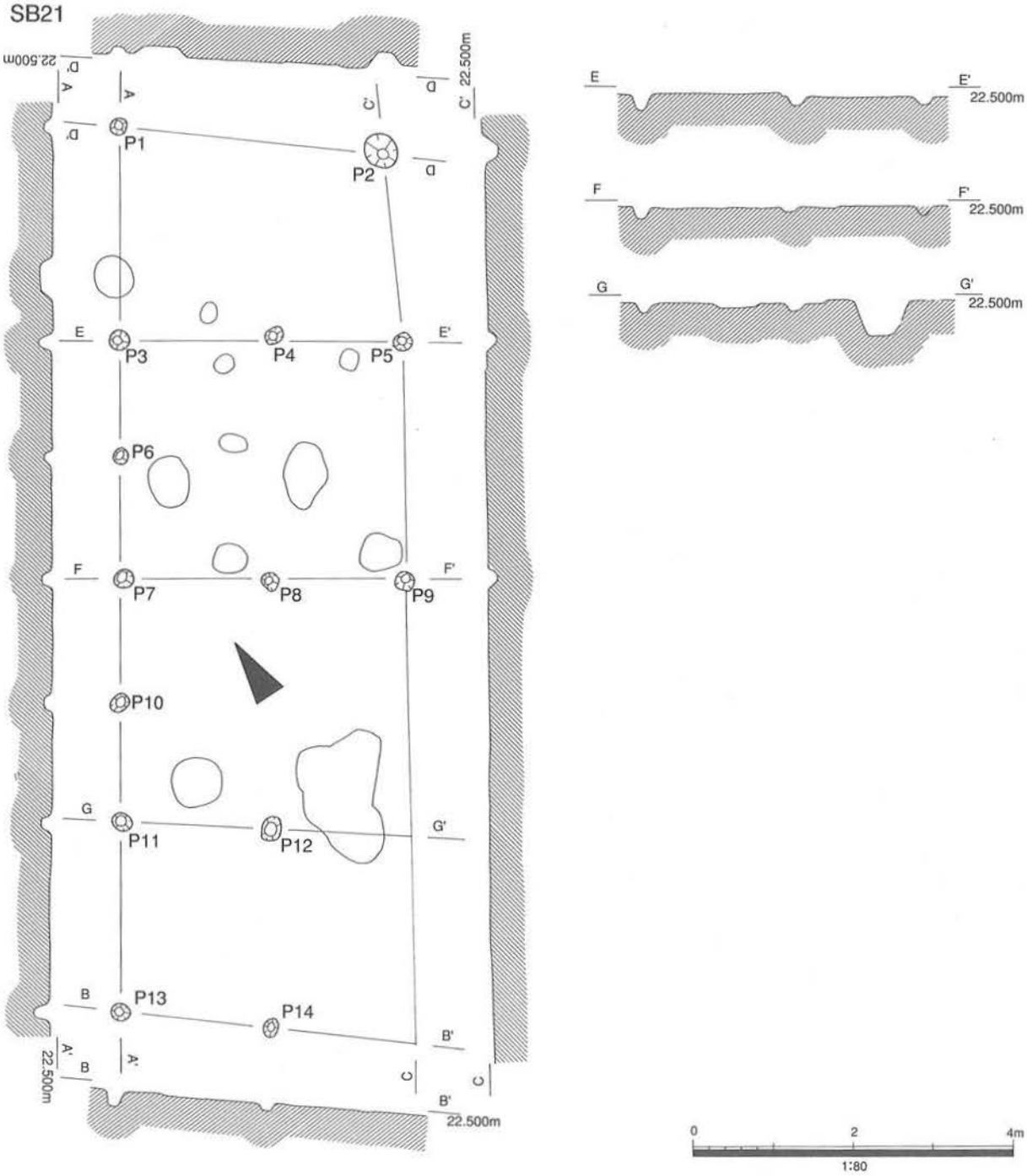

SB19
P1
P2
P3
P4
P5
P6
P7
P8
P9
P10
P11
P12
A
A'
B
B'
C
D
D'
22.700m


0
2
4m
1：80

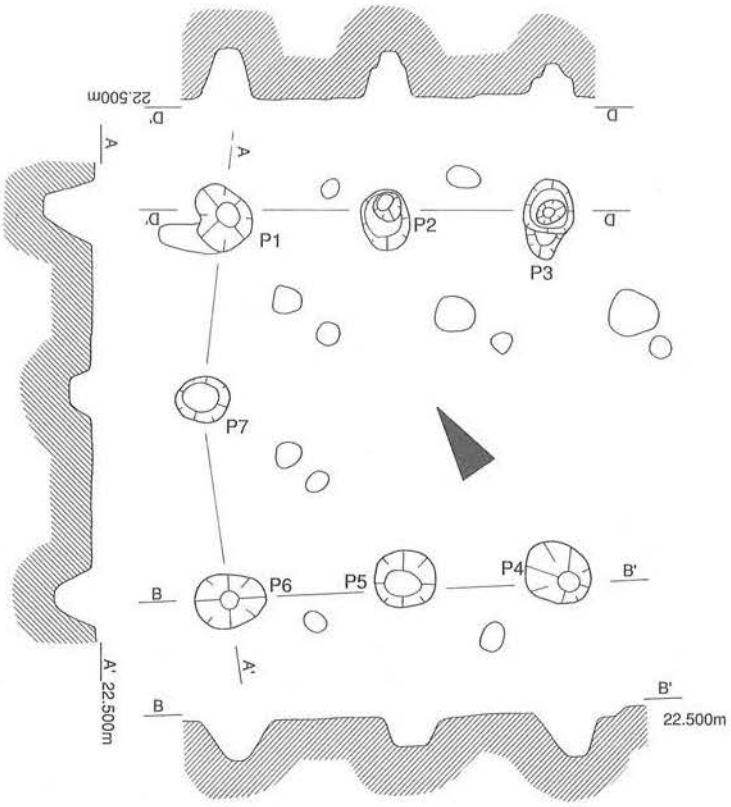
SB20


P1
P2
P4
P5
P6
A
A'
B
B'
22.500m

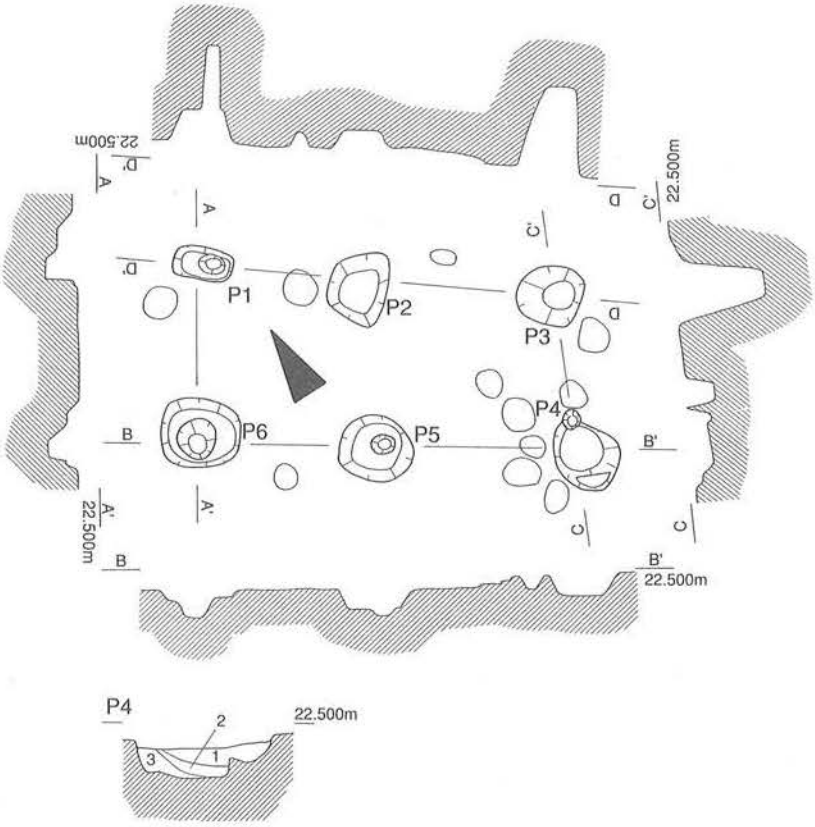
SB21


P1
P2
P3
P4
P5
P6
P7
P8
P9
P10
P11
P12
P13
P14
A
A'
B
B'
C
C'
D
D'
E
E'
F
F'
G
G'
22.500m
0
2
4m
1:80

SB22



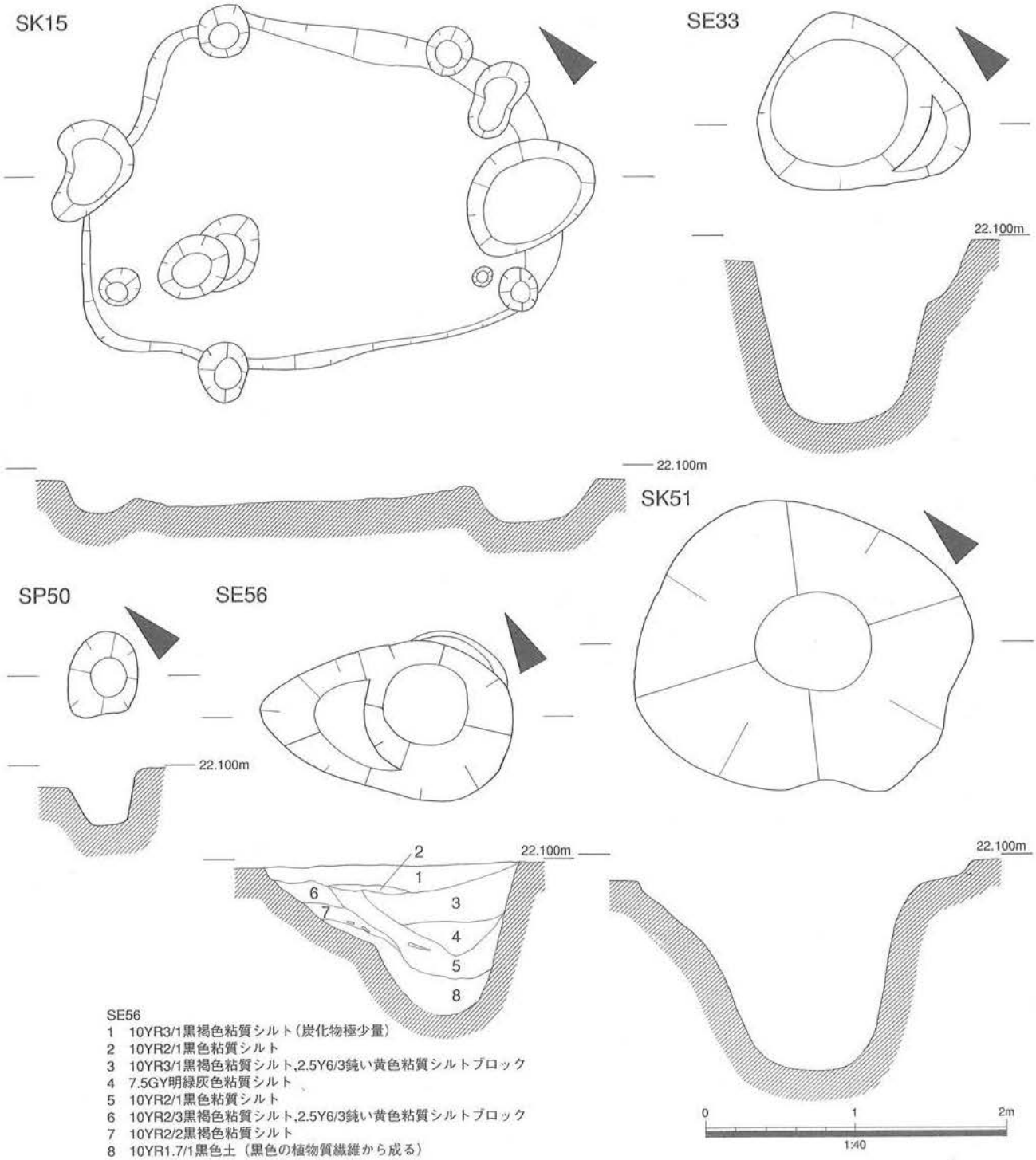
SB23



SB23-P4
1　10YR4/2灰黄褐色シルト（炭化物少量含む）
2　10YR4/1褐灰色シルト（炭化物少量含む）
3　10YR4/1褐灰色シルト（炭化物やや多い）

0　1　2m　1：40（SB23-P4）

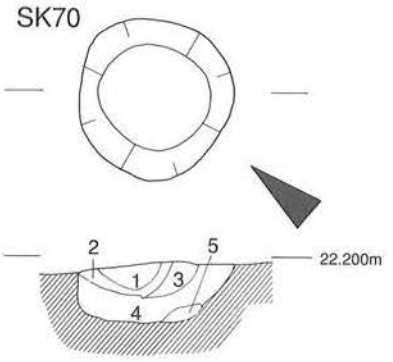
0　2　4m　1：80



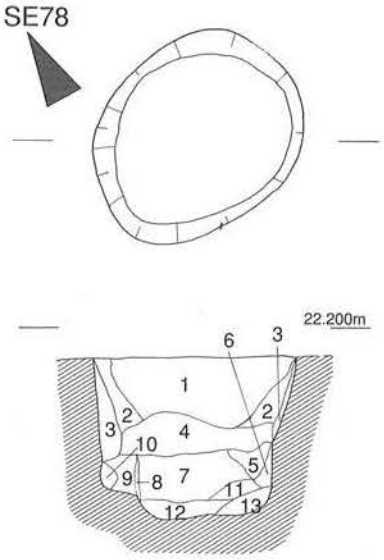
SE56
1　10YR3/1黒褐色粘質シルト（炭化物極少量）
2　10YR2/1黒色粘質シルト
3　10YR3/1黒褐色粘質シルト,2.5Y6/3鈍い黄色粘質シルトブロック
4　7.5GY明緑灰色粘質シルト
5　10YR2/1黒色粘質シルト
6　10YR2/3黒褐色粘質シルト,2.5Y6/3鈍い黄色粘質シルトブロック
7　10YR2/2黒褐色粘質シルト
8　10YR1.7/1黒色土（黒色の植物質繊維から成る）

SK66・SE67
1　10YR2/2黒褐色粘質シルト（炭化物少量、地山ブロック少量）
2　10YR3/1黒褐色粘質シルト
3　10YR2/1黒色粘質土（上面に炭化物少量）
4　10YR3/2黒褐色粘質シルト
5　10YR4/1褐灰色粘土（地山ブロック少量）
6　N3/0暗灰色シルト
7　N2/0黒色砂質シルト（炭化物含む）
8　N3/0暗灰色粘質シルト
9　N1.5/0黒色砂質シルト（炭化物含む）
10　7.5GY4/1暗緑灰色粘質シルト
11　5GY5/1オリーブ灰色粘質シルト
12　7.5Y3/1オリーブ黒色シルト
13　10YR2/1黒色粘質シルト

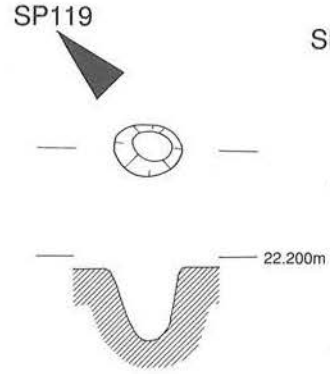
SK70・SE78・SP119・SK178・SK181・SE199・SP203・SP221・SE236

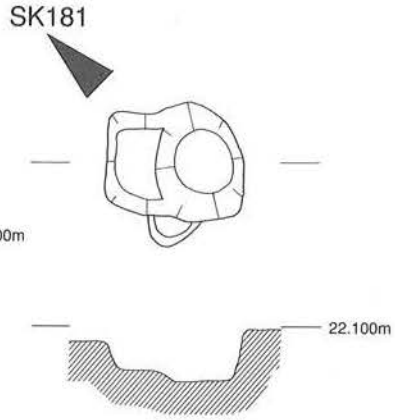


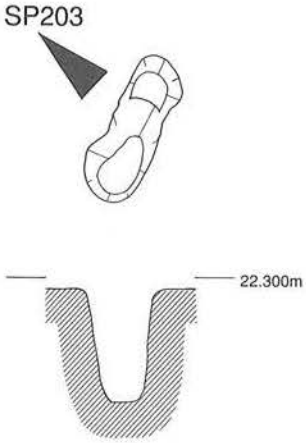
SK70
1 7.5YR3/1黒褐色粘質シルト
2 7.5YR3/1黒褐色粘質シルト,2.5Y7/4（地山ブロック）
3 7.5YR3/1黒褐色粘質シルト,2.5Y7/4（地山ブロック少量）
4 7.5YR2/1黒色粘質シルト（炭化物少量含む）
5 10YR4/4褐色粘質シルト

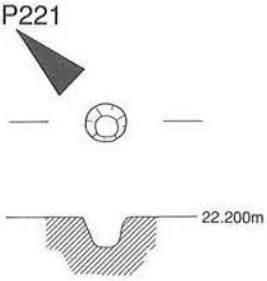


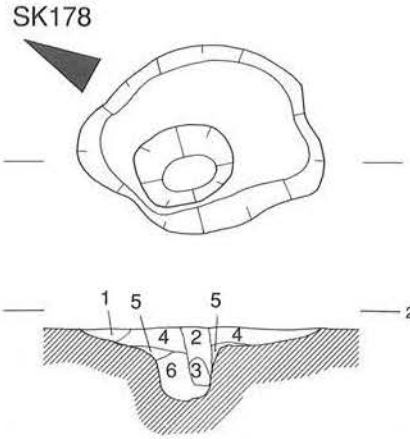
SE78
1 10YR2/2黒褐色粘質シルト（炭化物少量含む）
2 10YR2/2黒褐色粘質シルト,10YR3/3暗褐色粘質シルト
3 10YR2/1黒色粘質シルト
4 2.5Y6/3鈍い黄色粘質シルト
5 2.5R2/1黒色粘質シルト
6 10YR2/2黒褐色粘質シルト（腐食植物繊維多く含む）
7 10YR2/1黒褐色粘質シルト（腐食植物繊維多く含む）
8 10YR2/1黒色粘質シルト（腐食植物繊維少量含む）
9 炭化物層
10 10YR2/2黒褐色粘質シルト（腐食植物繊維多く含む）
11 10YR3/1黒褐色粘質シルト（腐食植物繊維多く含む）
12 10YR2/2黒褐色粘質シルト（腐食植物繊維多く含む）
13 10YR3/1黒褐色粘質シルト（腐食植物繊維含む）
14 2.5Y3/1黒褐色粘質シルト（植物繊維含む）



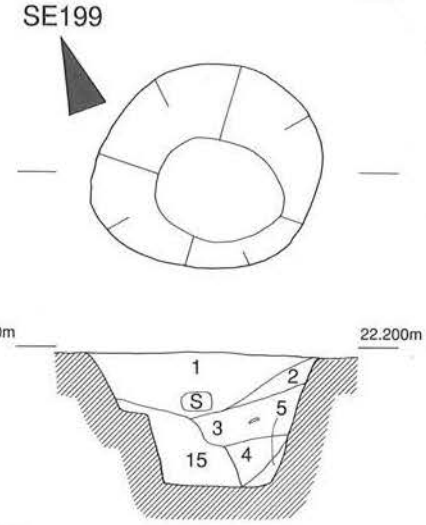




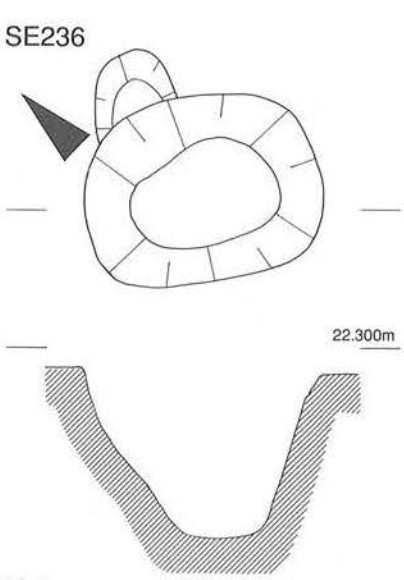


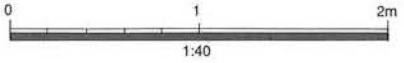


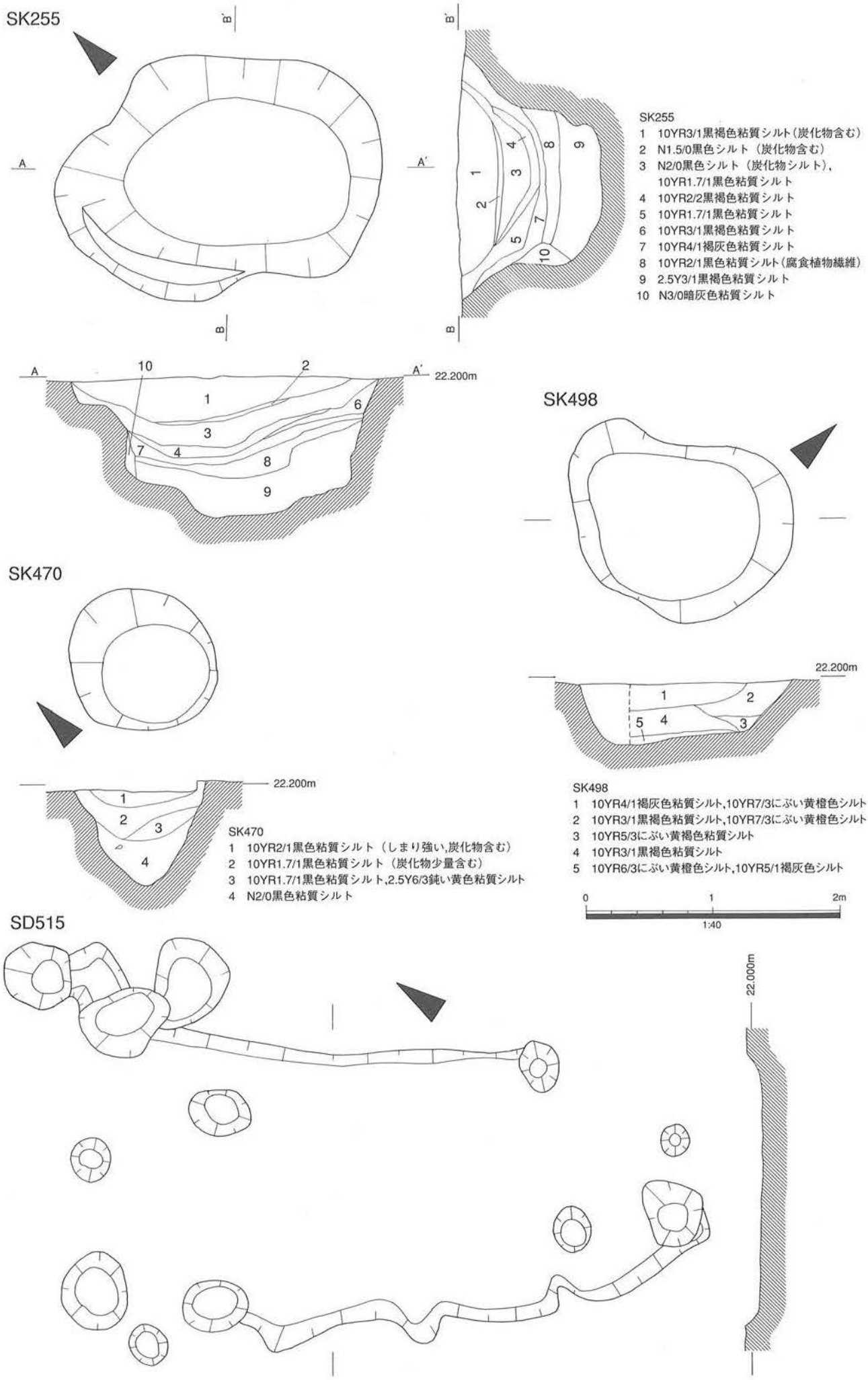
SK178
1 7.5YR3/1黒褐色粘質シルト
2 10YR2/2黒褐色粘質シルト
3 10YR4/1褐灰色粘質シルト
4 10YR3/1黒褐色粘質シルト（炭化物少量含む）
5 10YR4/2灰黄褐色粘質シルト
6 5YR6/2灰オリーブ色粘質シルト



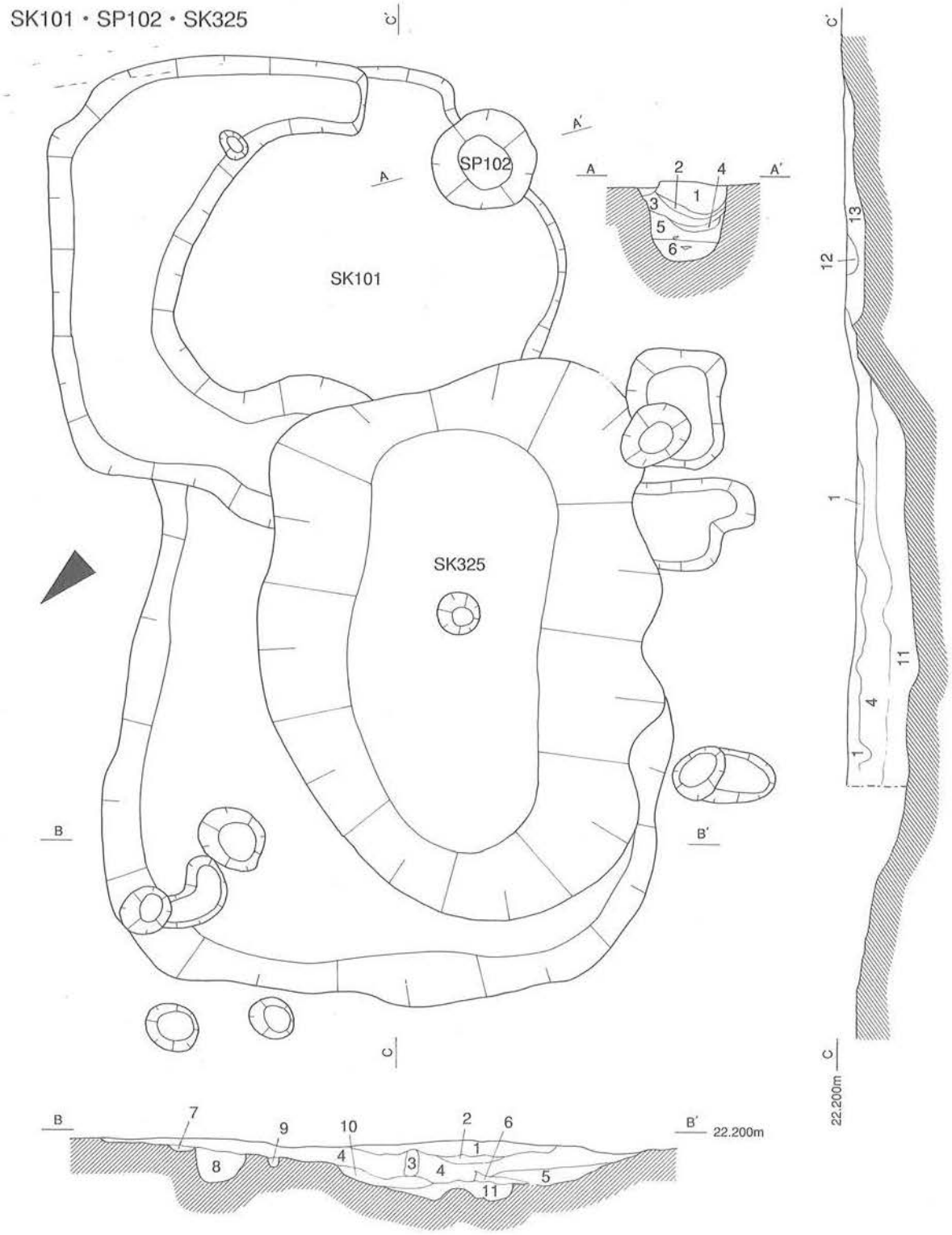
SE199
1 10YR2/1黒色粘質シルト
2 10YR3/1黒褐色粘質シルト,2.5YR6/3Ｔ地山ブロック少量含む
3 10YR2/1黒色粘質シルト
4 10YR1.7/1黒色粘質シルト
5 10YR2/1黒色粘質シルト,2.5GY6/1オリーブ灰色シルトブロック






SK255
SK255
1 10YR3/1黒褐色粘質シルト（炭化物含む）
2 N1.5/0黒色シルト（炭化物含む）
3 N2/0黒色シルト（炭化物シルト），10YR1.7/1黒色粘質シルト
4 10YR2/2黒褐色粘質シルト
5 10YR1.7/1黒色粘質シルト
6 10YR3/1黒褐色粘質シルト
7 10YR4/1褐灰色粘質シルト
8 10YR2/1黒色粘質シルト（腐食植物繊維）
9 2.5Y3/1黒褐色粘質シルト
10 N3/0暗灰色粘質シルト
22.200m
SK498
SK498
1 10YR4/1褐灰色粘質シルト,10YR7/3にぶい黄橙色シルト
2 10YR3/1黒褐色粘質シルト,10YR7/3にぶい黄橙色シルト
3 10YR5/3にぶい黄褐色粘質シルト
4 10YR3/1黒褐色粘質シルト
5 10YR6/3にぶい黄橙色シルト,10YR5/1褐灰色シルト
SK470
SK470
1 10YR2/1黒色粘質シルト（しまり強い,炭化物含む）
2 10YR1.7/1黒色粘質シルト（炭化物少量含む）
3 10YR1.7/1黒色粘質シルト,2.5Y6/3鈍い黄色粘質シルト
4 N2/0黒色粘質シルト
22.200m
SD515
22.000m
0
1
2m
1:40

SK101・SP102・SK325



SK325・SK101

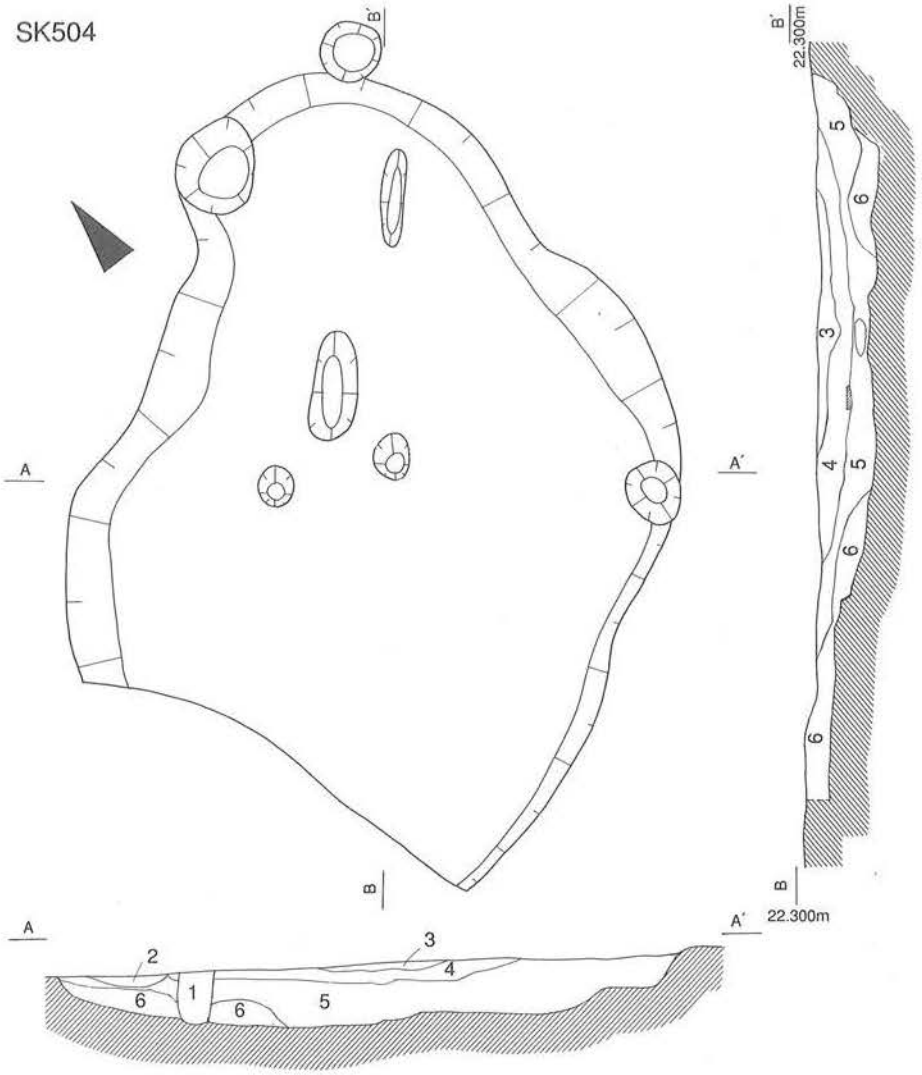
1 10YR5/4にぶい黄褐色シルト
2 2.5Y4/1黄灰色粘質シルト
3 N4/0灰色粘質シルト（攪乱）
4 7.5Y4/1灰色粘質シルト
5 10YR3/1黒褐色粘質シルト
6 10YR3/1黒褐色粘質シルト,10YR6/4にぶい黄橙色シルトブロック
7 10YR3/1黒褐色粘質シルト,10YR6/4にぶい黄橙色シルトブロック
8 10YR3/1黒褐色粘質シルト（炭化物含む）
9 N4/0灰色粘質シルト（攪乱）
10 5Y4/1灰色粘質シルト
11 10YR3/1黒褐色粘質シルト
12 10YR3/1黒褐色粘質シルト
13 10YR4/1褐灰色粘質シルト（地山小ブロック,炭化物少量含む）

SP102

1 10YR3/1黒褐色粘質シルト（炭化物少量含む）
2 2.5Y7/3浅黄色粘質シルト
3 10YR2/1黒色粘質シルト
4 10YR1.7/1黒色粘質シルト（腐食植物繊維含む）
5 10YR3/1黒褐色粘質シルト（地山ブロック少量含む）
6 10YR3/1黒褐色粘質シルト

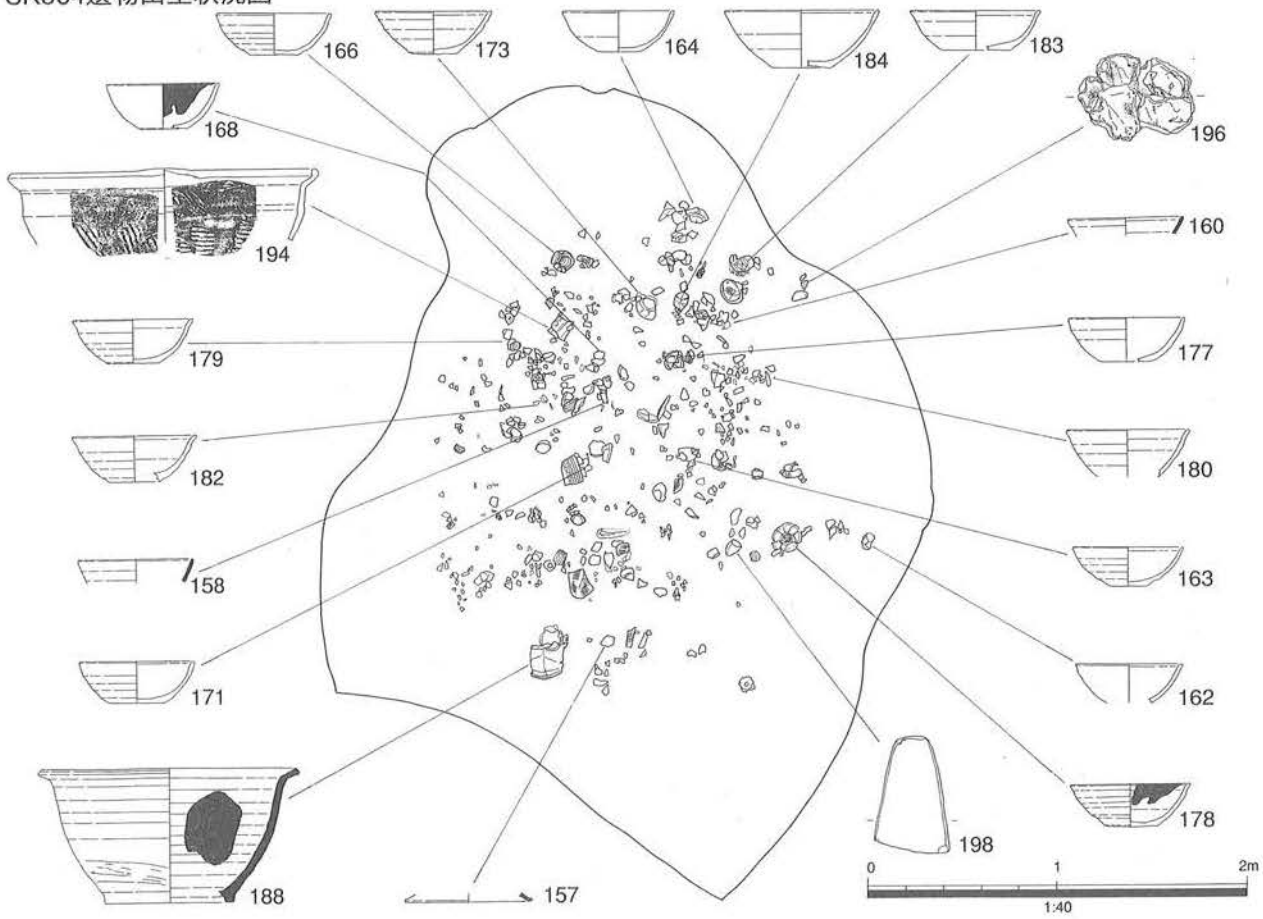
0 1 2m
1:40

SK504

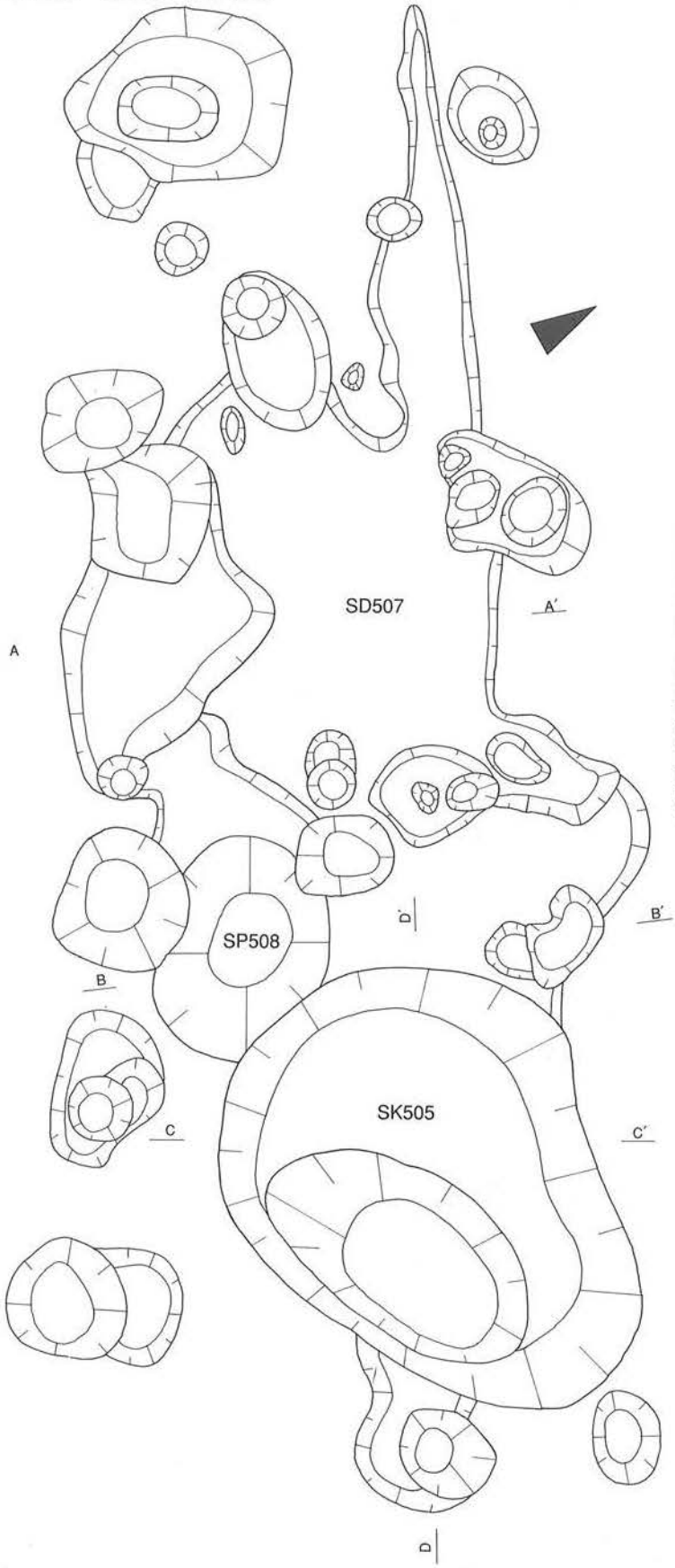


SK504
1 10YR3/1にぶい黄橙色シルト
（炭化物少量含む）（ピット埋土）
2 10YR3/4暗褐色シルト（炭化物含む）
3 10YR4/3にぶい黄褐色シルト
（炭化物少量含む）
4 10YR2/2黒褐色シルト
（炭化物多量に含む）
5 10YR6/6明黄褐色シルト、
10YR7/2にぶい黄橙色シルト
6 10YR7/3にぶい黄橙色シルト

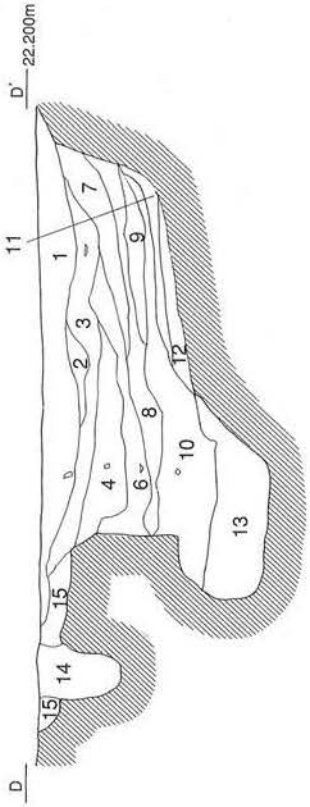
SK504遺物出土状況図

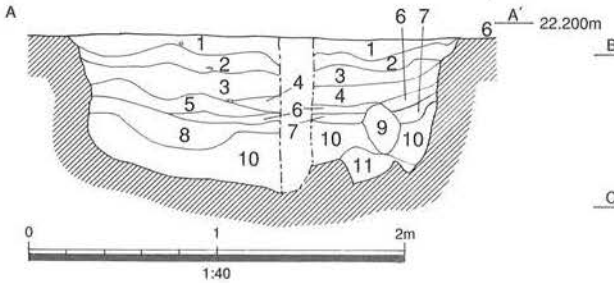


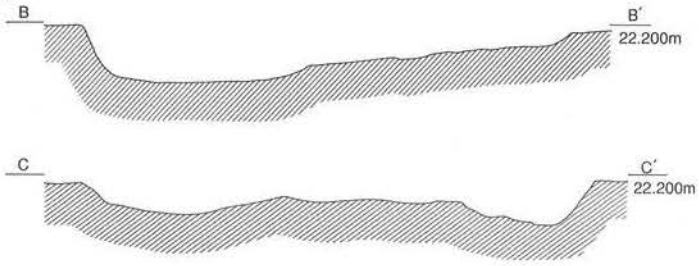
SK505・SD507・SP508

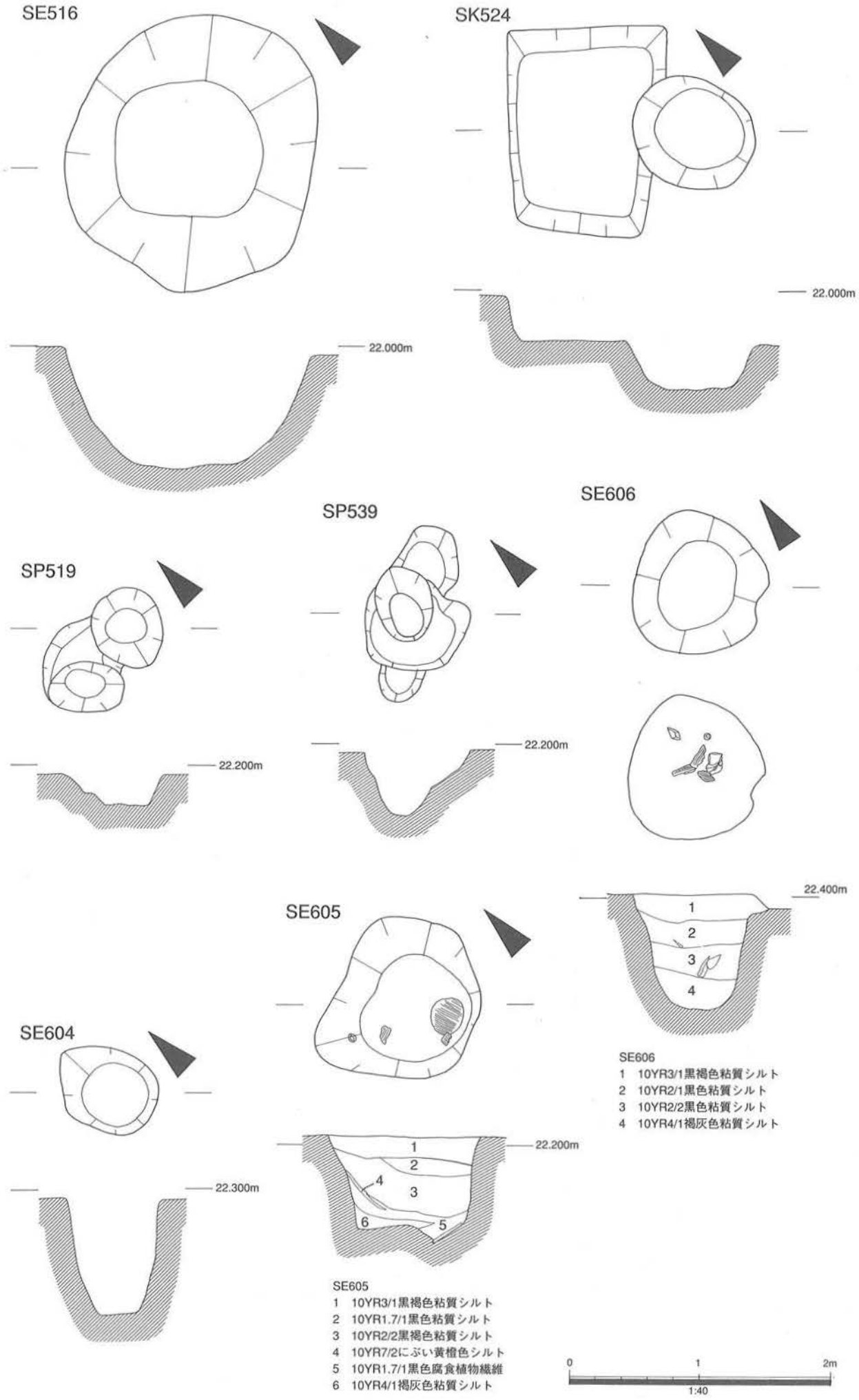


SK505
1 10YR4/1褐灰色シルト
2 10YR4/1褐灰色シルト,10YR7/4にぶい黄橙色シルト
3 10YR4/1褐灰色シルト,10YR7/4にぶい黄橙色シルトブロック少量
4 10YR5/1褐灰色シルト（炭化物少量含む）
5 10YR3/1黒褐色粘質
6 2.5Y4/1黄灰色粘質シルト
7 10YR7/4にぶい黄橙色シルト,10YR4/2灰黄褐色シルトブロック
8 10YR3/1黒褐色粘質シルト（地山小ブロック少量含む）
9 10YR4/1褐灰色シルト,10YR6/2灰黄褐色シルト
10 10YR4/1褐灰色粘質シルト,10YR3/1黒褐色粘質シルトブロック
11 10YR5/1褐灰色シルト,5BG6/1青灰色シルト
12 10YR4/1褐灰色粘質シルト,5BG6/1青灰色シルト少量
13 10YR4/1褐灰色粘質シルト,5BG6/1青灰色シルト
14 10YR3/1黒褐色粘質シルト
15 10YR3/1黒褐色粘質シルト,10YR7/3にぶい黄橙色シルト

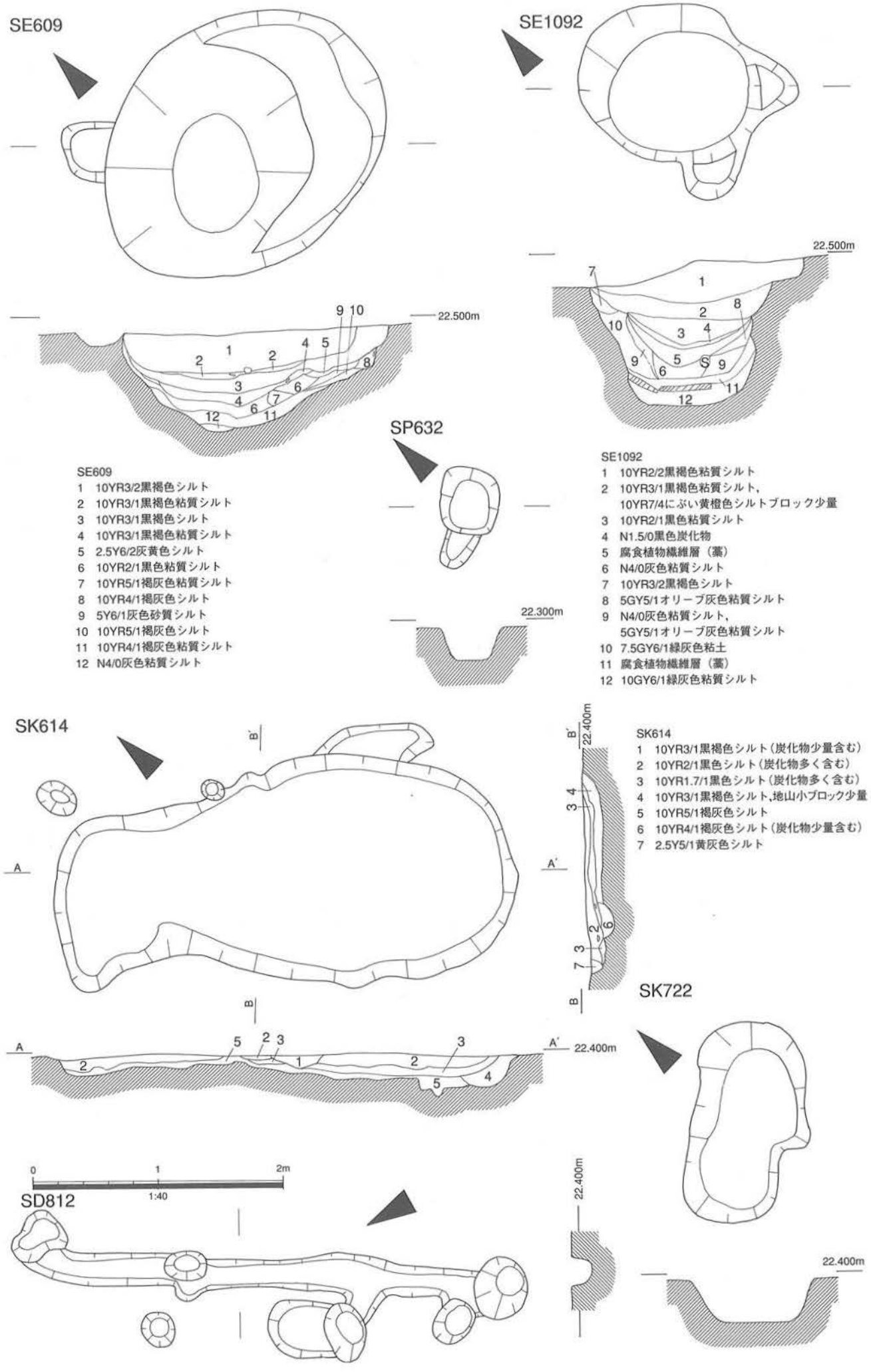







SE516
22.000m
SK524
22.000m
SP519
22.200m
SP539
22.200m
SE606
22.400m
1
2
3
4
SE606
1 10YR3/1黒褐色粘質シルト
2 10YR2/1黒色粘質シルト
3 10YR2/2黒色粘質シルト
4 10YR4/1褐灰色粘質シルト
SE605
22.200m
1
2
3
4
5
6
SE605
1 10YR3/1黒褐色粘質シルト
2 10YR1.7/1黒色粘質シルト
3 10YR2/2黒褐色粘質シルト
4 10YR7/2にぶい黄橙色シルト
5 10YR1.7/1黒色腐食植物繊維
6 10YR4/1褐灰色粘質シルト
SE604
22.300m
0
1
2m
1:40

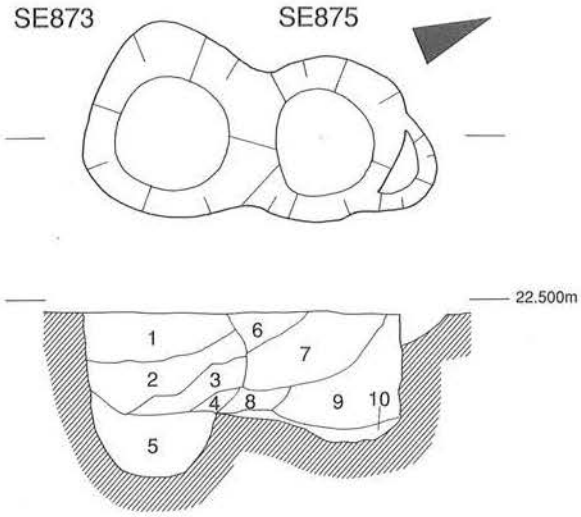
SE609・SE1092・SP632・SK614・SK722・SD812



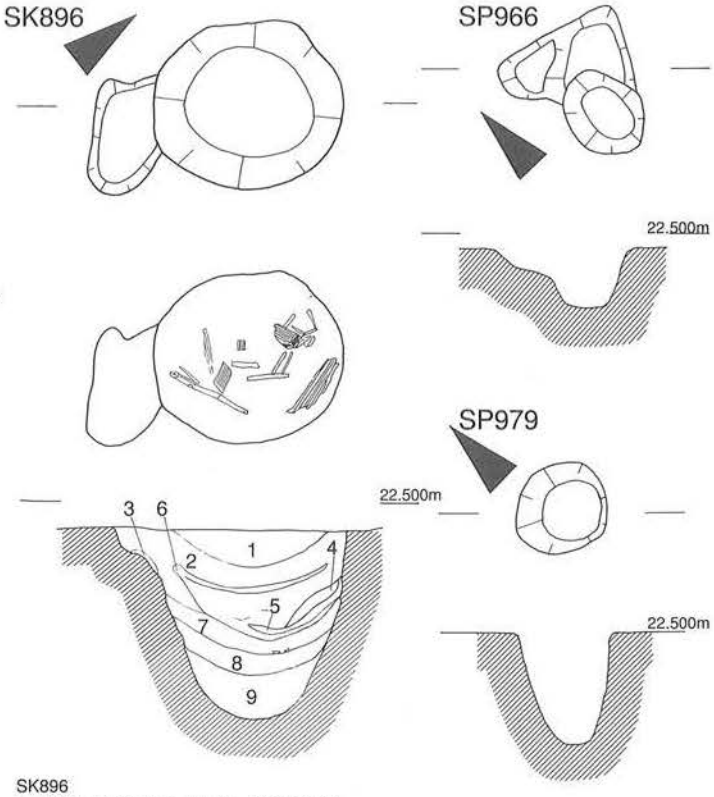
SE609
1 10YR3/2黒褐色シルト
2 10YR3/1黒褐色粘質シルト
3 10YR3/1黒褐色シルト
4 10YR3/1黒褐色粘質シルト
5 2.5Y6/2灰黄色シルト
6 10YR2/1黒色粘質シルト
7 10YR5/1褐灰色粘質シルト
8 10YR4/1褐灰色シルト
9 5Y6/1灰色砂質シルト
10 10YR5/1褐灰色シルト
11 10YR4/1褐灰色粘質シルト
12 N4/0灰色粘質シルト

SE1092
1 10YR2/2黒褐色粘質シルト
2 10YR3/1黒褐色粘質シルト,
10YR7/4にぶい黄橙色シルトブロック少量
3 10YR2/1黒色粘質シルト
4 N1.5/0黒色炭化物
5 腐食植物繊維層（藁）
6 N4/0灰色粘質シルト
7 10YR3/2黒褐色シルト
8 5GY5/1オリーブ灰色粘質シルト
9 N4/0灰色粘質シルト,
5GY5/1オリーブ灰色粘質シルト
10 7.5GY6/1緑灰色粘土
11 腐食植物繊維層（藁）
12 10GY6/1緑灰色粘質シルト

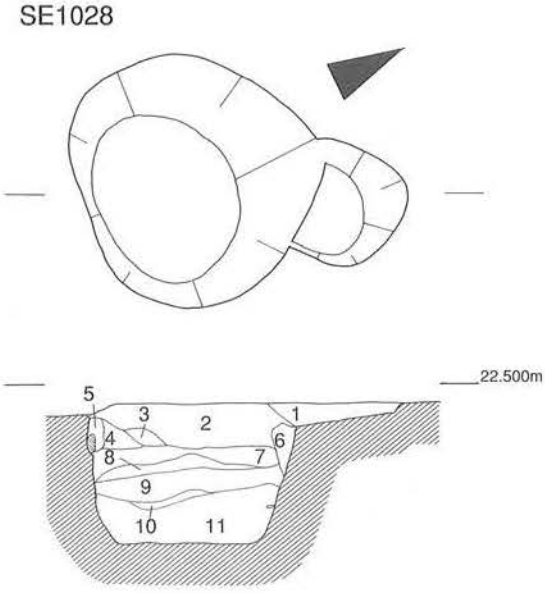
SK614
1 10YR3/1黒褐色シルト（炭化物少量含む）
2 10YR2/1黒色シルト（炭化物多く含む）
3 10YR1.7/1黒色シルト（炭化物多く含む）
4 10YR3/1黒褐色シルト,地山小ブロック少量
5 10YR5/1褐灰色シルト
6 10YR4/1褐灰色シルト（炭化物少量含む）
7 2.5Y5/1黄灰色シルト



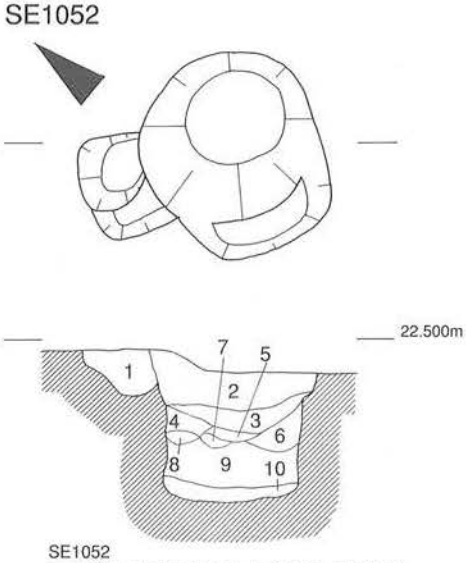
SE873・SE875
1　10YR3/1黒褐色シルト（炭化物少量含む）
2　10YR3/1黒褐色シルト
3　10YR2/2黒褐色シルト、10YR6/4にぶい黄橙色シルトブロック
4　10YR2/1黒色シルト
5　N2/0黒色植物質炭化物
6　10YR4/1褐灰色シルト（炭化物含む）
7　10YR2/2黒褐色シルト
8　10YR2/2黒褐色シルト
9　10YR3/1黒褐色シルト
10　10YR1.7/1黒色シルト



SK896
1　10YR3/1黒褐色シルト（小炭化物含む）
2　10YR3/1黒褐色シルト（小炭化物含む）、10YR6/4にぶい黄橙色シルトブロック
3　10YR3/1黒褐色シルト（炭化物多く含む）
4　10YR6/4にぶい黄橙色シルトブロック、10YR4/1褐灰色シルト
5　10YR4/1褐灰色シルト
6　10YR1.7/1黒色腐食植物繊維
7　10YR5/1褐灰色シルト
8　10GY6/1緑灰色砂質シルト
9　N2/0黒色植物質炭化物



SE1028
1　10YR2/2黒褐色シルト
2　10YR2/1黒色シルト（炭化物少量含む）
3　10YR3/2黒褐色粘質シルト
4　10YR1.7/1黒色シルト
5　10YR3/1黒褐色シルト
6　7.5Y6/2灰オリーブ色シルト
7　2.5Y2/1黒色シルト（炭化物少量含む）
8　10YR3/1黒褐色シルト
9　10YR1.7/1黒色シルト（炭化物含む）
10　7.5Y6/3オリーブ黄色シルト
11　10YR1.7/1黒色シルト

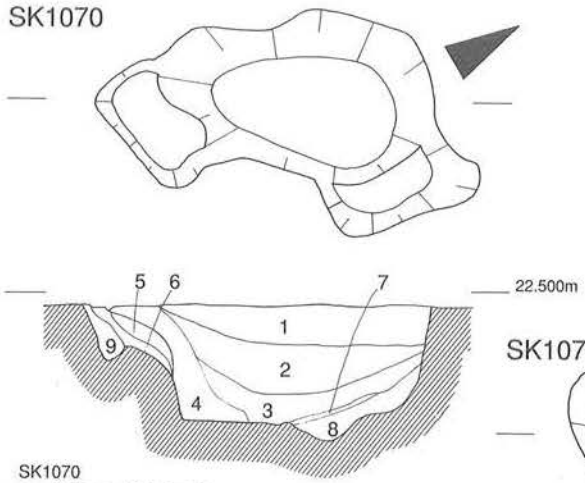


SE1052
1　10YR4/2灰黄褐色シルト（炭化物少量含む）
2　10YR3/1黒褐色粘質シルト（炭化物少量含む）
3　10YR2/1黒色粘質シルト
4　10YR4/1褐灰色粘質シルト
5　10YR5/6黄褐色砂
6　2.5Y2/1黒色シルト
7　2.5Y3/1黒褐色シルト
8　2.5Y4/1黄灰色砂
9　2.5Y2/1黒色粘質シルト
10　5Y3/1オリーブ黒色粘質シルト

0　1　2m
1：40

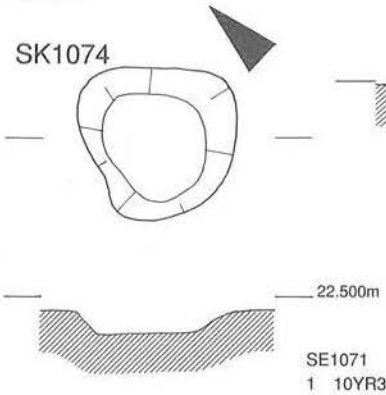
SK1070・SE1071・SE1074・SE1075・SE1076

SK1070

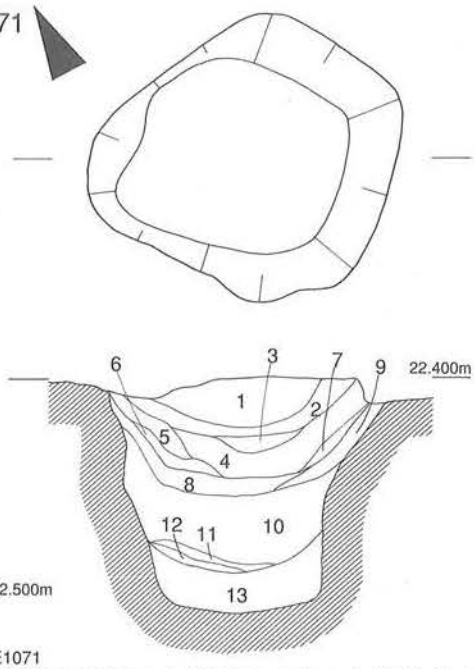


SK1070
1 10YR1.7/1黒色シルト
2 N1.5/0黒色シルト
3 N1.5/0黒色シルト，7.5Y5/2灰オリーブ色シルトブロック
4 N2/0黒色シルト
5 10YR3/1黒褐色シルト
6 10YR2/1黒色シルト
7 N1.5/0黒色シルト（炭化物多く含む）
8 10YR3/2黒褐色シルト
9 2.5Y4/1黄灰色シルト

SK1074

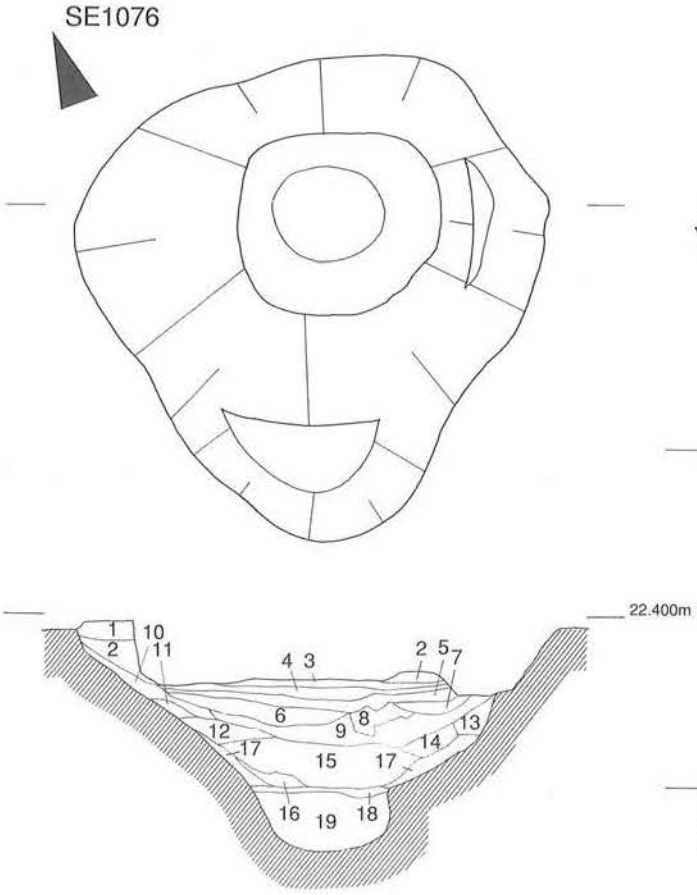


SE1071



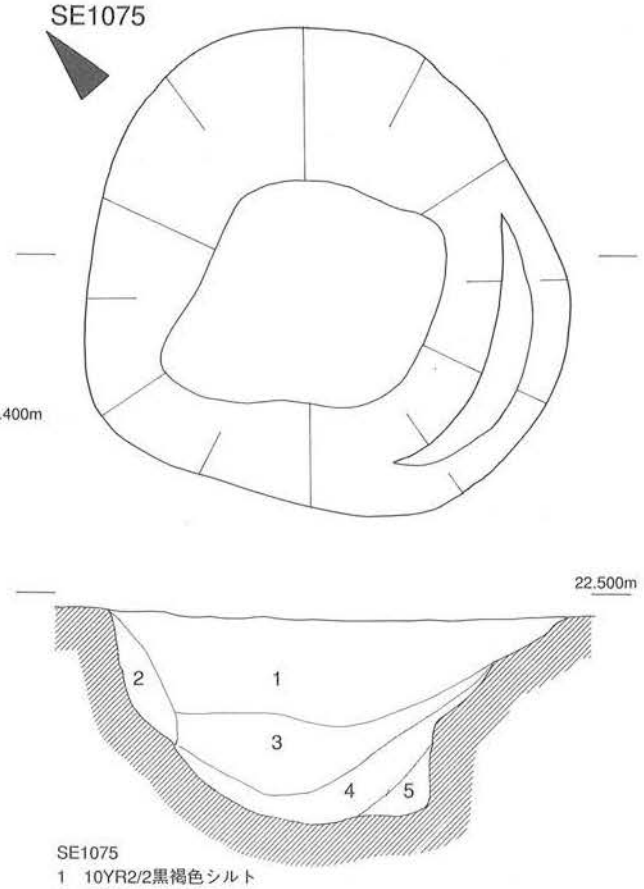
SE1071
1 10YR3/2黒褐色シルト（浅黄色シルトブロック、炭化物含む）
2 10YR3/1黒褐色シルト（炭化物多く含む）
3 10YR2/1黒色シルト（炭化物多く含む）
4 10YR3/1黒褐色シルト（炭化物含む）
5 2.5Y3/2黒褐色シルト（炭化物多く含む）
6 2.5Y3/1黒褐色シルト（炭化物多く含む）
7 N2/0黒色シルト（腐食植物質繊維多く含む）
8 10YR2/1黒色シルト
9 10YR4/1褐灰色シルト
10 2.5Y2/1黒色シルト
11 2.5Y5/1黄灰色シルト
12 N2/0黒色シルト（炭化植物繊維多く含む）
13 5Y2/1黒色シルト

SE1076



SE1076
1 2.5Y7/3浅黄色シルト
2 2.5Y4/1黄灰色シルト
3 2.5Y6/2灰黄色砂質シルト
4 2.5Y6/1黄灰色砂質シルト
5 10YR4/1褐灰色シルト
6 2.5Y6/6明黄褐色シルト
7 10YR3/1黒褐色シルト（砂粒多く含む）
8 10YR4/1褐灰色シルト（砂粒含む）
9 10YR3/1黒褐色シルト
10 10YR4/1褐灰色シルト（炭化物含む）
11 10YR3/1黒褐色シルト
12 10YR5/6黄褐色シルト
13 10YR4/1褐灰色シルト
14 10YR4/1褐灰色シルト
15 10YR5/6黄褐色シルト
16 10YR4/1褐灰色シルト
17 2.5Y7/2灰黄色シルト
18 10GY5/1緑灰色砂質シルト，5BG7/1明青灰色シルト小ブロック
19 N4/0灰色シルト

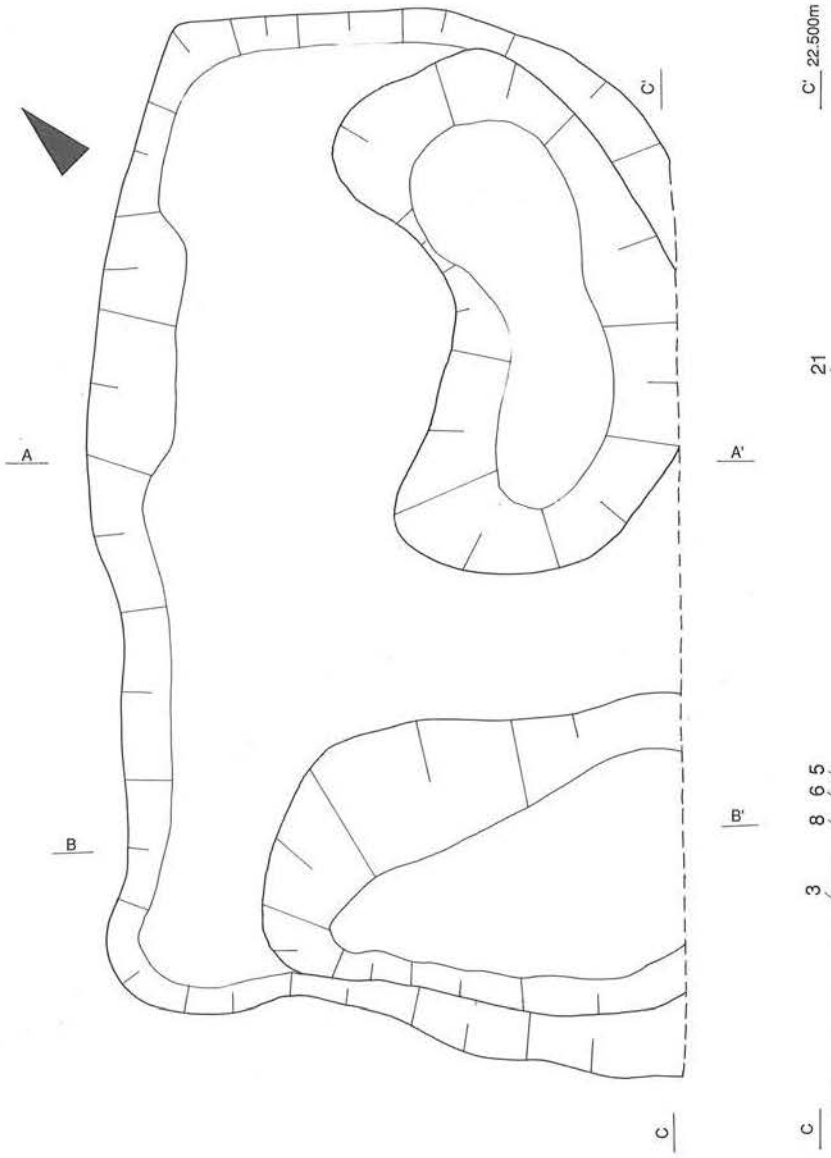
SE1075

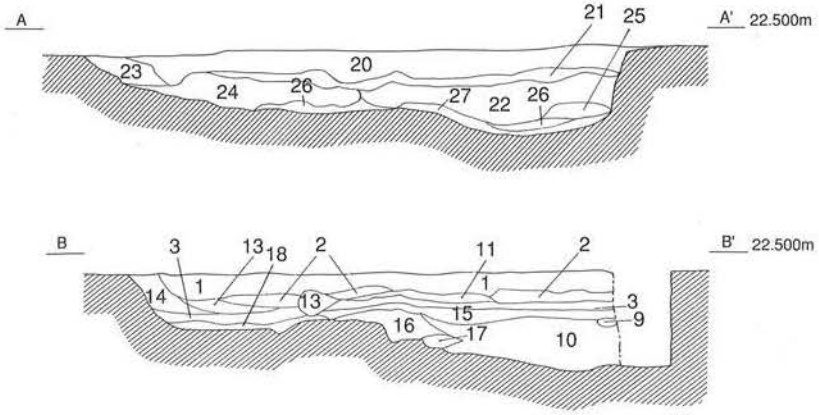


SE1075
1 10YR2/2黒褐色シルト
2 10YR4/1褐灰色シルト
3 10YR1.7/1黒色シルト
4 10YR2/1黒色シルト
5 5GY6/1オリーブ灰色シルト

0 1 2m
1：40

SI1073



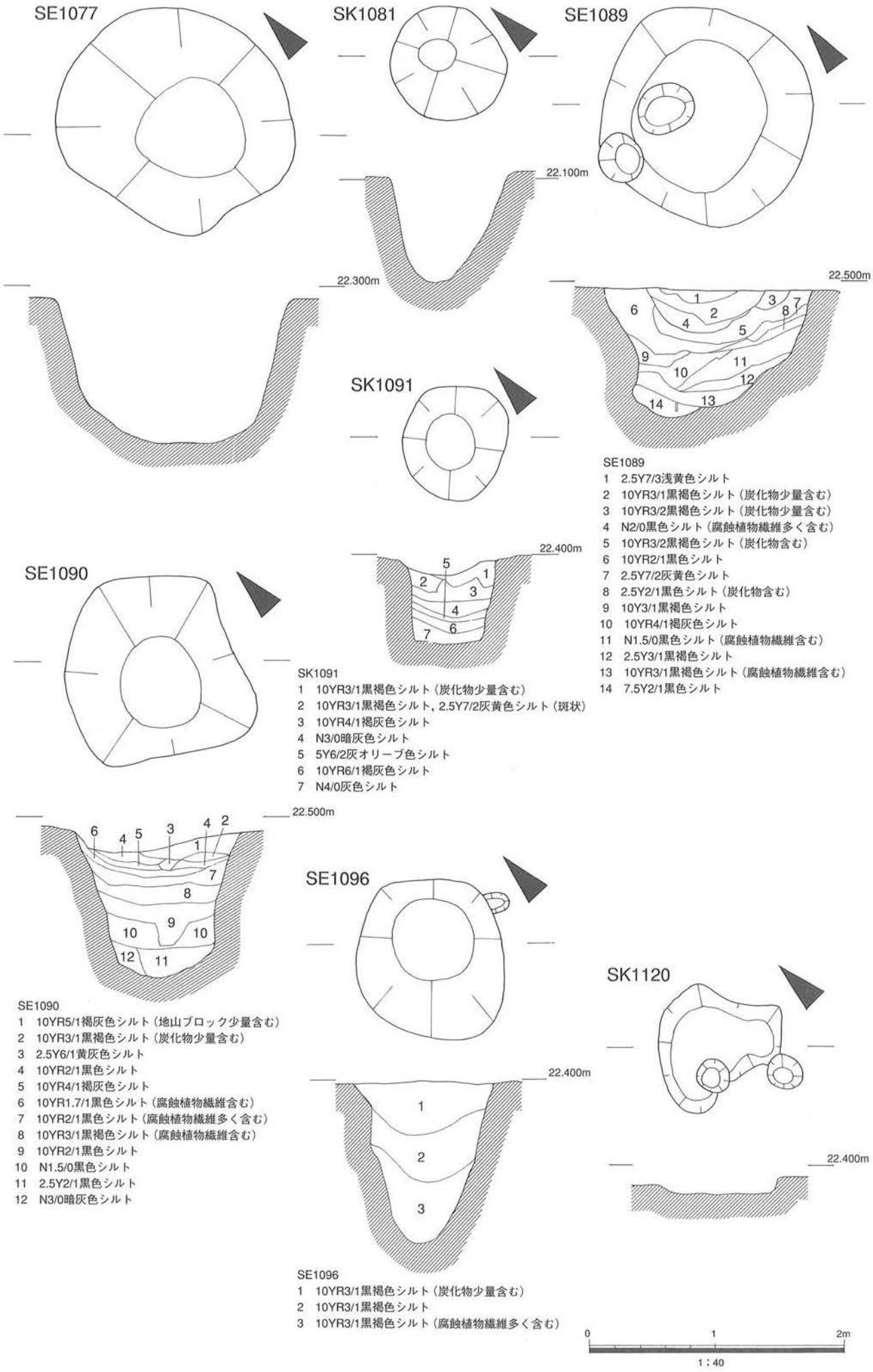


SI1073

1 10YR2/2黒褐色シルト（炭化物少量含む）
2 10YR3/1黒褐色シルト
3 N3/0暗灰色シルト
4 N2/0黒色シルト（炭化物多く含む）
5 10YR4/2灰黄褐色シルト
6 2.5Y6/3にぶい黄色シルト
7 2.5Y6/4にぶい黄色シルト
8 10YR3/1黒褐色シルト
9 10YR3/2黒褐色シルト
10 2.5Y5/2暗灰黄色シルト
11 5Y5/1灰色シルト，10YR4/1褐灰色シルト
12 10YR3/1黒褐色シルト
13 10YR2/2黒褐色シルト
14 10YR4/2灰黄褐色シルト
15 10YR1.7/1黒色シルト
16 2.5Y6/3にぶい黄色シルト
17 2.5Y4/1黄灰色シルト
18 10YR1.7/1黒色シルト
19 10YR4/1褐灰色シルト
20 10YR3/3黒褐色シルト
21 2.5Y6/2灰黄色シルト
22 10YR3/2黒褐色シルト（炭化物少量含む）
23 10YR4/2灰黄褐色シルト
24 10YR4/1褐灰色シルト
25 2.5Y3/1黒褐色シルト
26 2.5Y5/1暗灰黄色シルト
27 5Y3/1オリーブ黒色シルト

0 1 2m
1：40

SE1077・SK1081・SE1089・SE1090・SK1091・SE1096・SK1120



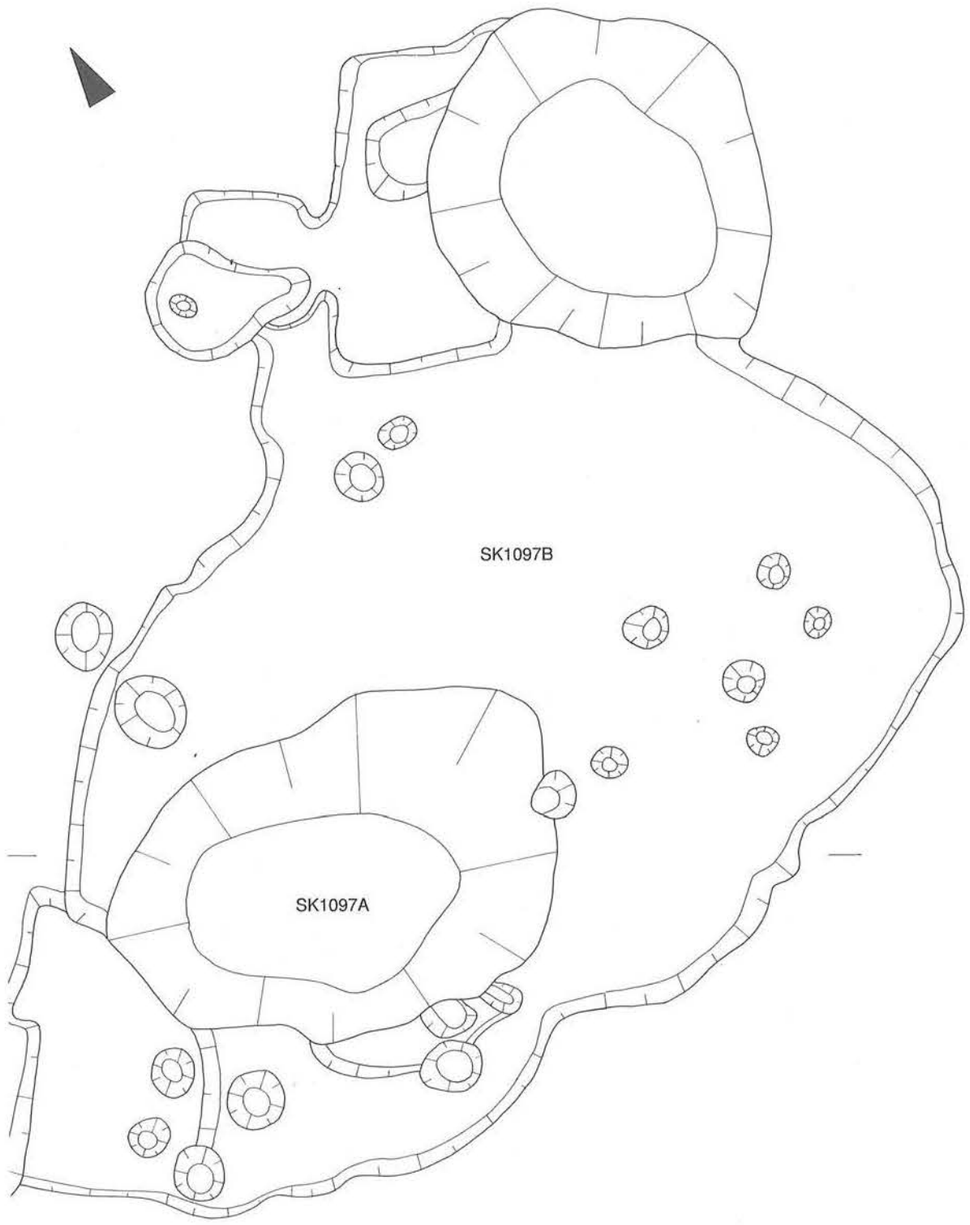
SE1089
1 2.5Y7/3浅黄色シルト
2 10YR3/1黒褐色シルト（炭化物少量含む）
3 10YR3/2黒褐色シルト（炭化物少量含む）
4 N2/0黒色シルト（腐蝕植物繊維多く含む）
5 10YR3/2黒褐色シルト（炭化物含む）
6 10YR2/1黒色シルト
7 2.5Y7/2灰黄色シルト
8 2.5Y2/1黒色シルト（炭化物含む）
9 10Y3/1黒褐色シルト
10 10YR4/1褐灰色シルト
11 N1.5/0黒色シルト（腐蝕植物繊維含む）
12 2.5Y3/1黒褐色シルト
13 10YR3/1黒褐色シルト（腐蝕植物繊維含む）
14 7.5Y2/1黒色シルト

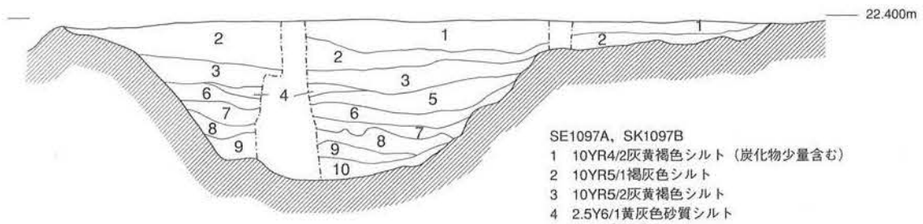
SK1091
1 10YR3/1黒褐色シルト（炭化物少量含む）
2 10YR3/1黒褐色シルト，2.5Y7/2灰黄色シルト（斑状）
3 10YR4/1褐灰色シルト
4 N3/0暗灰色シルト
5 5Y6/2灰オリーブ色シルト
6 10YR6/1褐灰色シルト
7 N4/0灰色シルト

SE1090
1 10YR5/1褐灰色シルト（地山ブロック少量含む）
2 10YR3/1黒褐色シルト（炭化物少量含む）
3 2.5Y6/1黄灰色シルト
4 10YR2/1黒色シルト
5 10YR4/1褐灰色シルト
6 10YR1.7/1黒色シルト（腐蝕植物繊維含む）
7 10YR2/1黒色シルト（腐蝕植物繊維多く含む）
8 10YR3/1黒褐色シルト（腐蝕植物繊維含む）
9 10YR2/1黒色シルト
10 N1.5/0黒色シルト
11 2.5Y2/1黒色シルト
12 N3/0暗灰色シルト

SE1096
1 10YR3/1黒褐色シルト（炭化物少量含む）
2 10YR3/1黒褐色シルト
3 10YR3/1黒褐色シルト（腐蝕植物繊維多く含む）

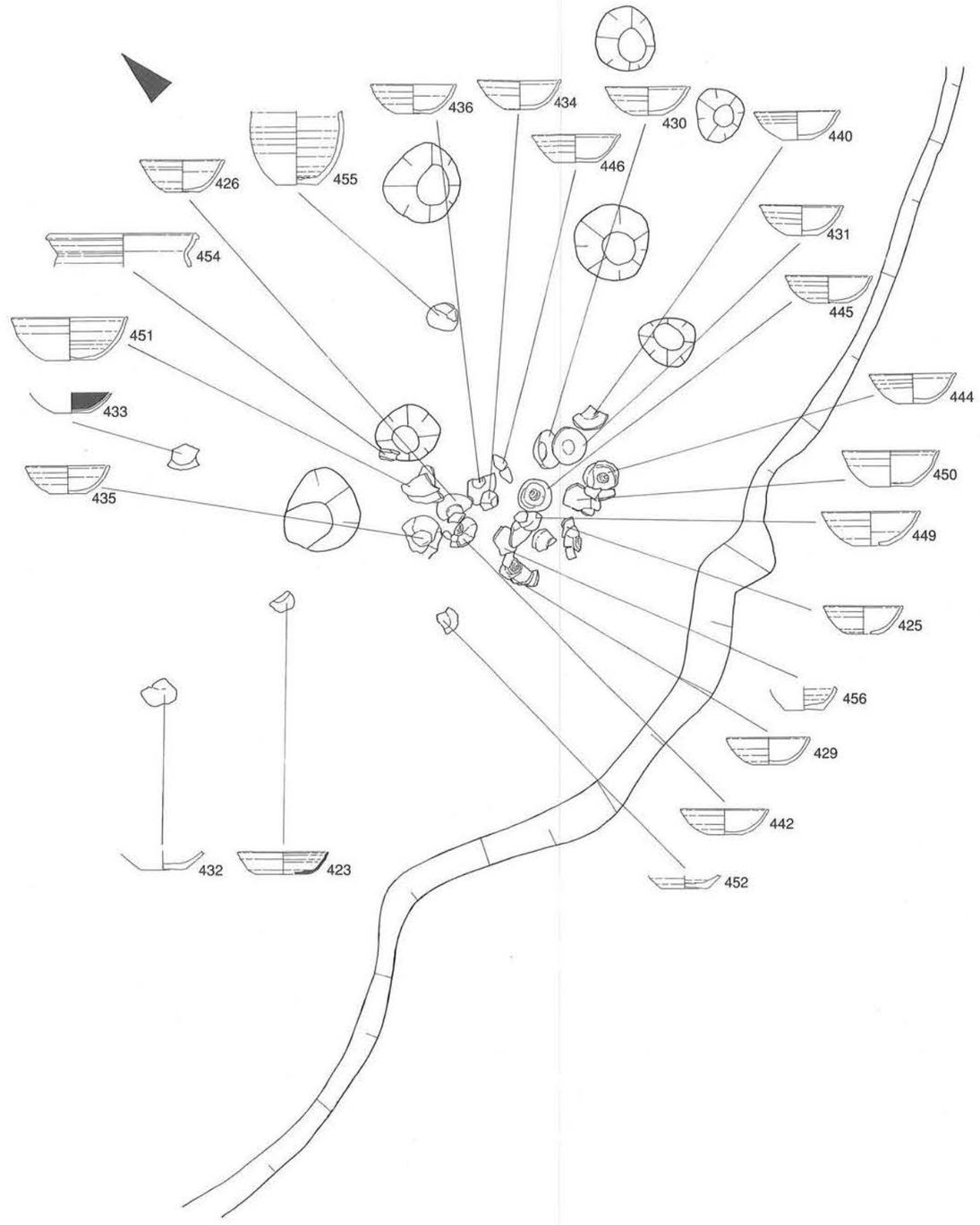
SK1097B遺物出土状況図



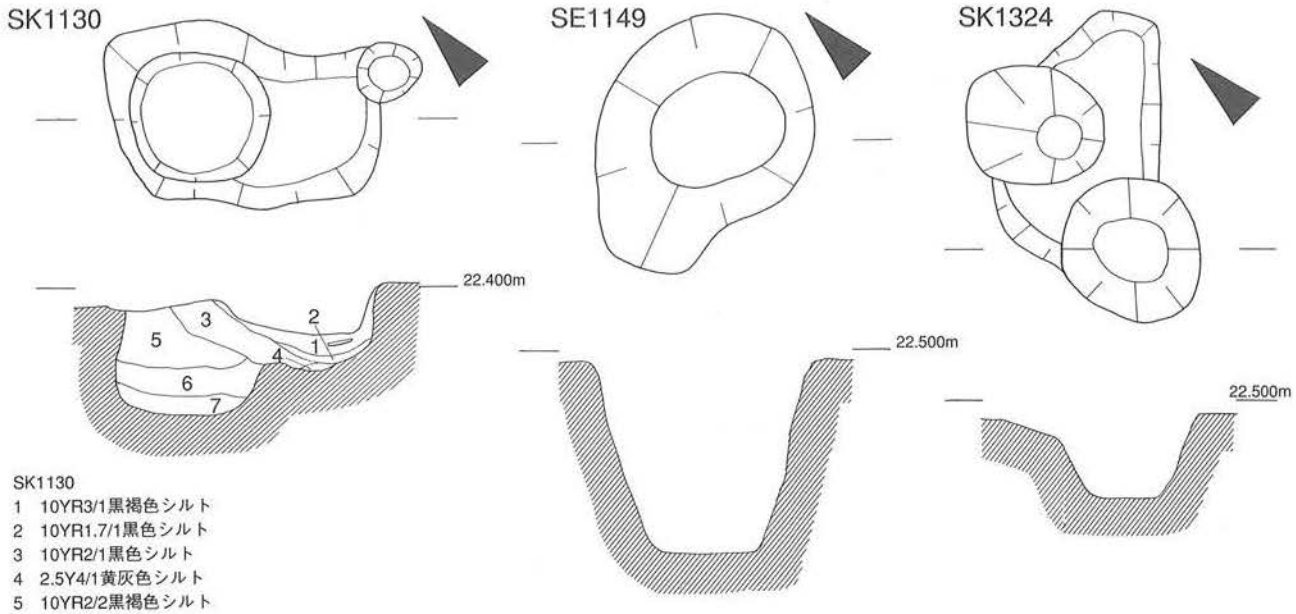


SE1097A、SK1097B
1　10YR4/2灰黄褐色シルト（炭化物少量含む）
2　10YR5/1褐灰色シルト
3　10YR5/2灰黄褐色シルト
4　2.5Y6/1黄灰色砂質シルト
5　5Y7/2灰白色シルト
6　10YR5/1褐灰色シルト
7　7.5YR6/6橙色シルト、2.5Y5/1黄灰色砂質シルト
8　10YR3/1黒褐色シルト
9　10Y5/1灰色砂質シルト
10　7.5Y5/1灰色シルト

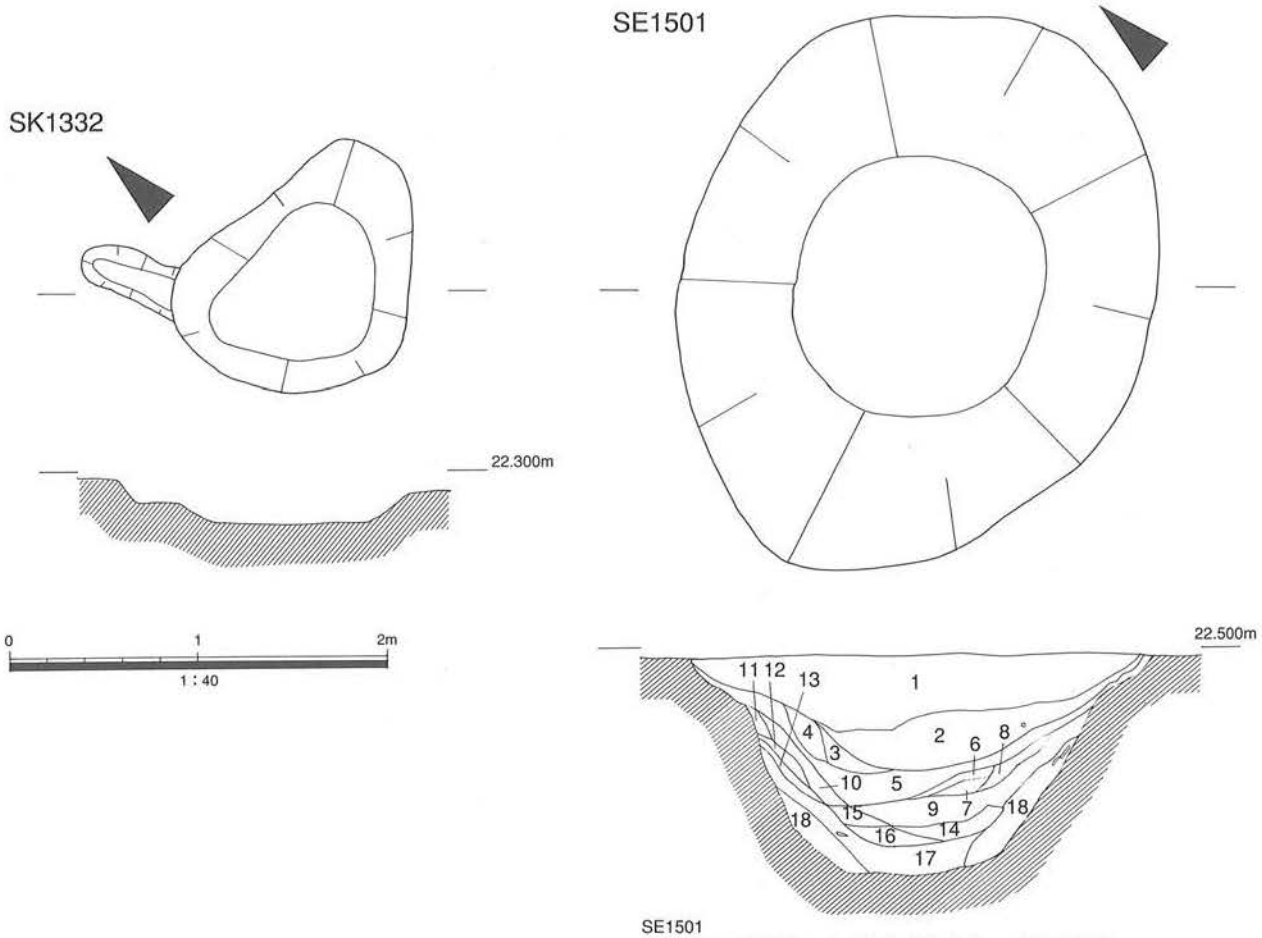
0　1　2m
1：40



0　0.5　1m
1：20

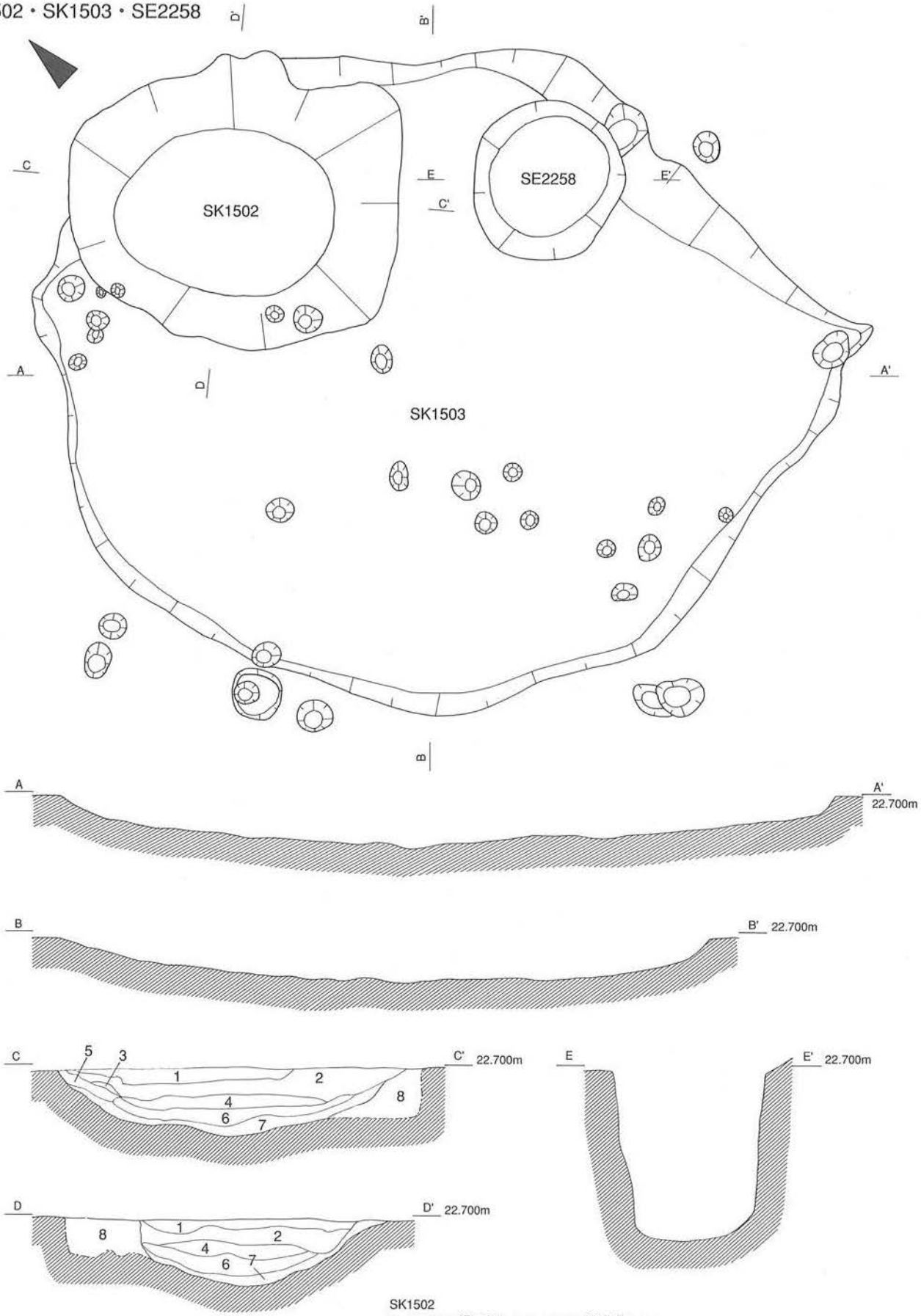


SK1130
1　10YR3/1黒褐色シルト
2　10YR1.7/1黒色シルト
3　10YR2/1黒色シルト
4　2.5Y4/1黄灰色シルト
5　10YR2/2黒褐色シルト
6　2.5Y3/1黒褐色シルト
7　5Y2/1黒色シルト



SE1501
1　10YR3/1黒褐色シルト（炭化物,地山小ブロック少量含む）
2　10YR2/3黒色シルト（地山小ブロック含む）
3　10YR2/1黒色シルト、10YR4/1褐灰色シルト
4　10YR3/1黒褐色シルト
5　2.5Y3/1黒褐色シルト
6　10YR4/1褐灰色シルト
7　10YR1.7/1黒色シルト
8　5GY7/1暗オリーブ灰色シルト
9　2.5Y2/1黒色シルト
10　10YR3/1黒褐色シルト
11　7.5Y6/1灰色シルト
12　10YR4/1褐灰色シルト
13　2.5Y3/1黒褐色シルト
14　10YR1.7/1黒色シルト
15　N1.5/0黒色シルト
16　2.5Y2/1黒色シルト
17　5Y4/1灰色シルト
18　2.5GY6/1オリーブ灰色シルト

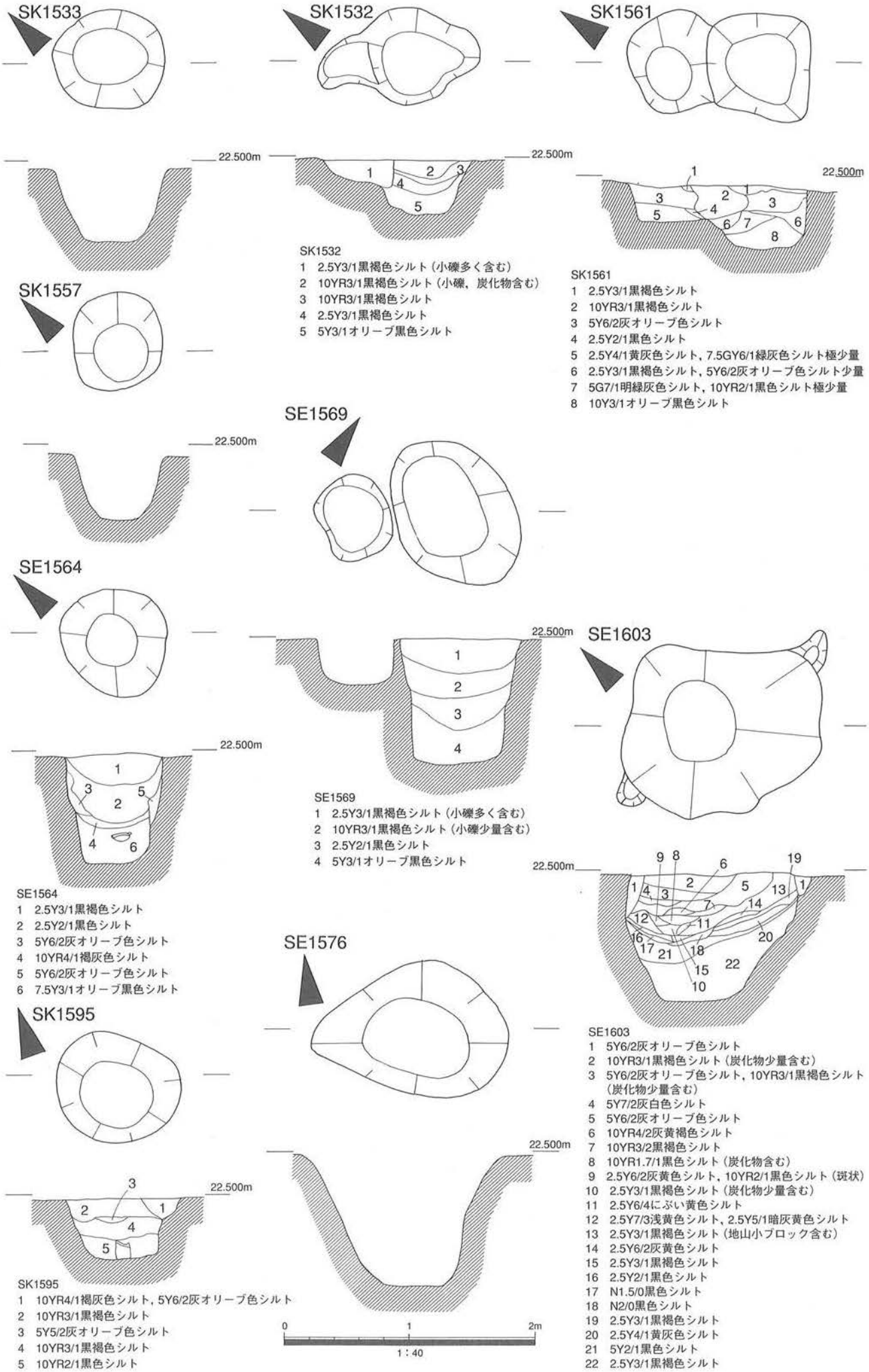
SK1502・SK1503・SE2258



SK1502

1 10YR4/1褐灰色シルト、2.5Y7/3浅黄色シルト（斑に混ざる）（炭化物少量含む）
2 10YR4/1褐灰色シルト、2.5Y7/3浅黄色シルト（斑に混ざる）（炭化物少量含む）
3 10YR3/1黒褐色シルト
4 10YR4/1褐灰色シルト、10YR4/6褐色シルト（斑に混ざる）
5 7.5YR4/1褐灰色シルト
6 2.5Y7/3浅黄色シルト、10YR4/6褐色シルト（斑に混ざる）
7 10YR5/1褐灰色シルト
8 （SK1503埋土） 10YR3/2暗褐色粘質シルト

0 1 2m
1：40



SK1532
1　2.5Y3/1黒褐色シルト（小礫多く含む）
2　10YR3/1黒褐色シルト（小礫，炭化物含む）
3　10YR3/1黒褐色シルト
4　2.5Y3/1黒褐色シルト
5　5Y3/1オリーブ黒色シルト

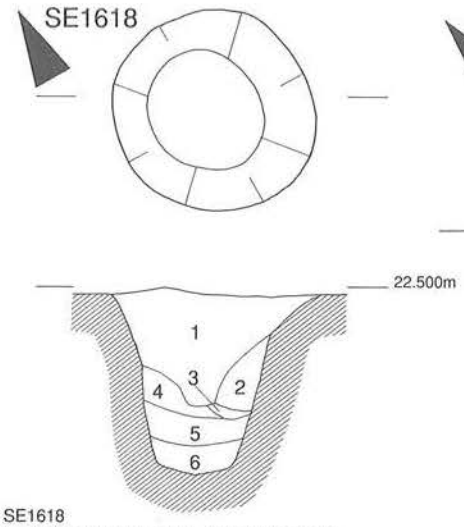
SK1561
1　2.5Y3/1黒褐色シルト
2　10YR3/1黒褐色シルト
3　5Y6/2灰オリーブ色シルト
4　2.5Y2/1黒色シルト
5　2.5Y4/1黄灰色シルト，7.5GY6/1緑灰色シルト極少量
6　2.5Y3/1黒褐色シルト，5Y6/2灰オリーブ色シルト少量
7　5G7/1明緑灰色シルト，10YR2/1黒色シルト極少量
8　10Y3/1オリーブ黒色シルト

SE1569
1　2.5Y3/1黒褐色シルト（小礫多く含む）
2　10YR3/1黒褐色シルト（小礫少量含む）
3　2.5Y2/1黒色シルト
4　5Y3/1オリーブ黒色シルト

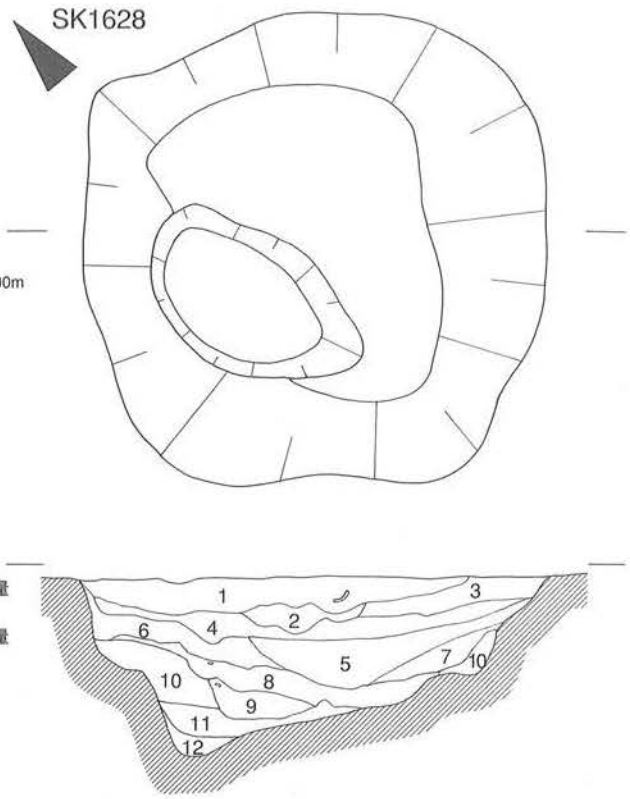
SE1564
1　2.5Y3/1黒褐色シルト
2　2.5Y2/1黒色シルト
3　5Y6/2灰オリーブ色シルト
4　10YR4/1褐灰色シルト
5　5Y6/2灰オリーブ色シルト
6　7.5Y3/1オリーブ黒色シルト

SE1603
1　5Y6/2灰オリーブ色シルト
2　10YR3/1黒褐色シルト（炭化物少量含む）
3　5Y6/2灰オリーブ色シルト，10YR3/1黒褐色シルト（炭化物少量含む）
4　5Y7/2灰白色シルト
5　5Y6/2灰オリーブ色シルト
6　10YR4/2灰黄褐色シルト
7　10YR3/2黒褐色シルト
8　10YR1.7/1黒色シルト（炭化物含む）
9　2.5Y6/2灰黄色シルト，10YR2/1黒色シルト（斑状）
10　2.5Y3/1黒褐色シルト（炭化物少量含む）
11　2.5Y6/4にぶい黄色シルト
12　2.5Y7/3浅黄色シルト，2.5Y5/1暗灰黄色シルト
13　2.5Y3/1黒褐色シルト（地山小ブロック含む）
14　2.5Y6/2灰黄色シルト
15　2.5Y3/1黒褐色シルト
16　2.5Y2/1黒色シルト
17　N1.5/0黒色シルト
18　N2/0黒色シルト
19　2.5Y3/1黒褐色シルト
20　2.5Y4/1黄灰色シルト
21　5Y2/1黒色シルト
22　2.5Y3/1黒褐色シルト

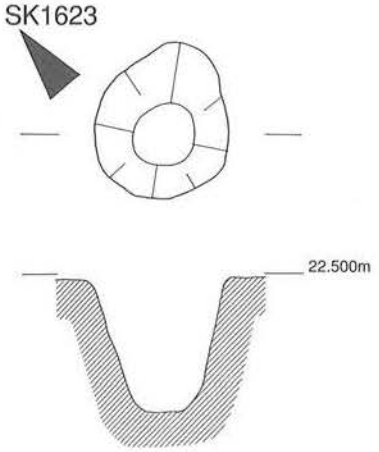
SK1595
1　10YR4/1褐灰色シルト，5Y6/2灰オリーブ色シルト
2　10YR3/1黒褐色シルト
3　5Y5/2灰オリーブ色シルト
4　10YR3/1黒褐色シルト
5　10YR2/1黒色シルト

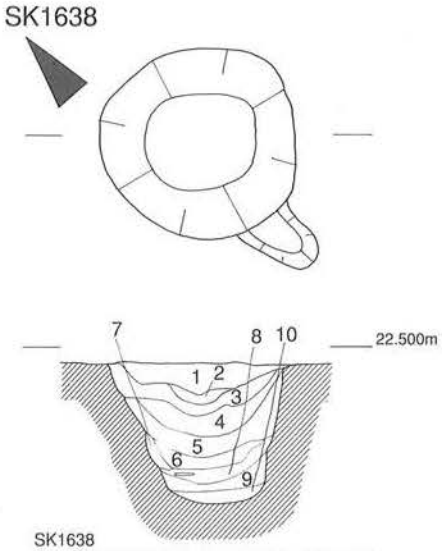


SE1618
1　10YR2/2黒褐色シルト（炭化物少量含む）
2　5Y7/3浅黄色シルト
3　7.5GY7/1明緑灰色シルト、10YR3/1黒褐色シルト少量
4　10YR1.7/1黒色シルト
5　7.5GY7/1明緑灰色シルト、10YR3/1黒褐色シルト少量
6　10Y3/1オリーブ黒色シルト



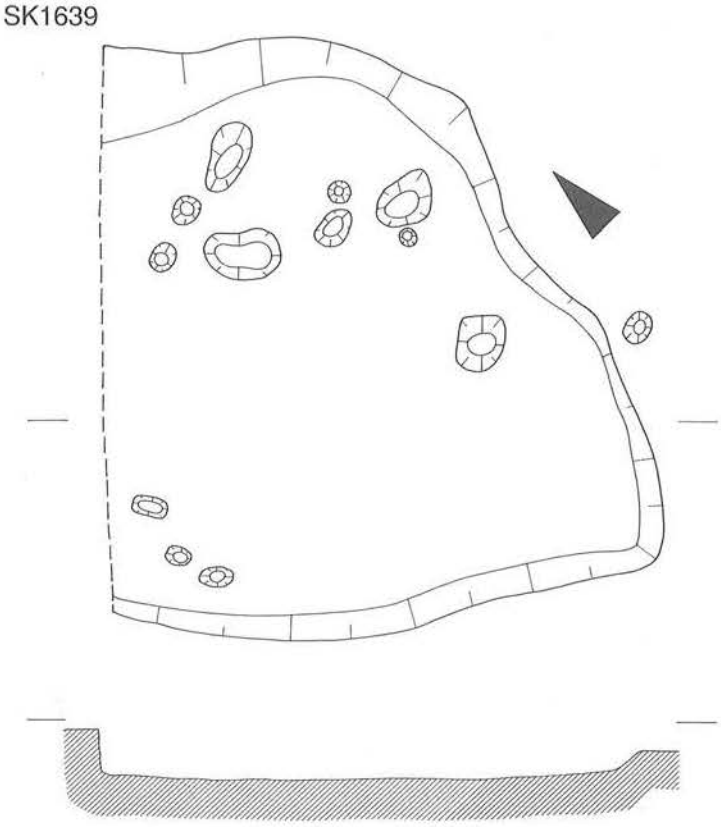
SK1628
1　10YR4/1褐灰色シルト
2　2.5Y7/4浅黄色シルト
3　10YR3/1黒褐色シルト
4　10YR2/1黒色シルト
5　10YR5/1褐灰色シルト
6　10YR5/2灰黄褐色シルト
7　2.5Y3/1黒褐色シルト
8　N4/0灰色シルト
9　N2/0黒色シルト
10　5Y6/3オリーブ黄色シルト
11　N5/0灰色シルト、7.5Y6/2灰オリーブ色シルト
12　10Y6/1灰色シルト、7.5Y2/1黒色シルト



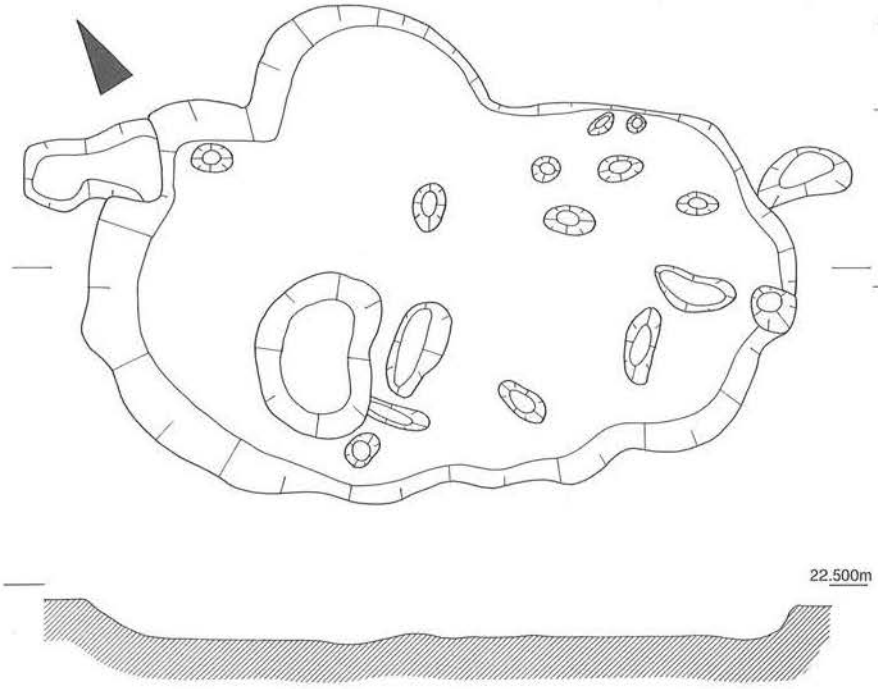


SK1638
1　10YR3/1黒褐色シルト（炭化物少量含む）
2　10YR2/1黒色シルト
3　10YR3/2黒褐色シルト（炭化物極少量含む）
4　10YR1.7/1黒色シルト（腐蝕植物繊維多く含む）
5　10YR3/1黒褐色シルト
6　2.5Y3/1黒褐色シルト
7　2.5Y6/3にぶい黄色シルト
8　2.5Y4/1黄灰色シルト
9　2.5GY6/1オリーブ灰色シルト
10　5Y3/1オリーブ黒色シルト

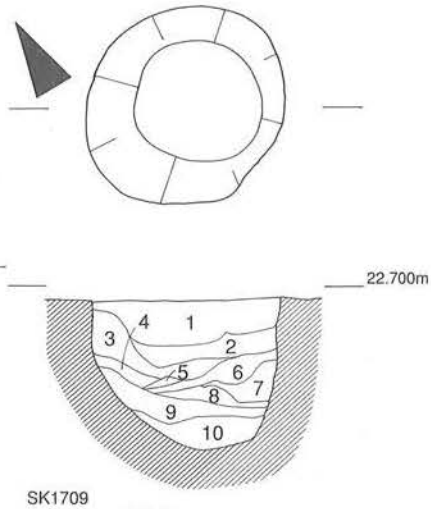
0　1　2m
1：40



SK1647

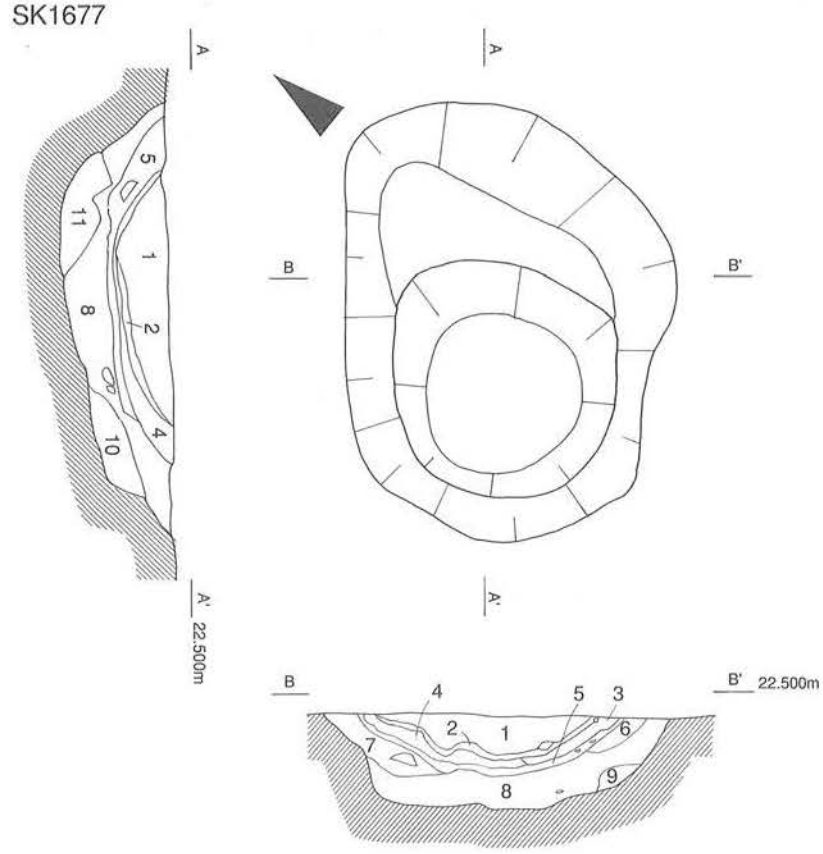


SK1709



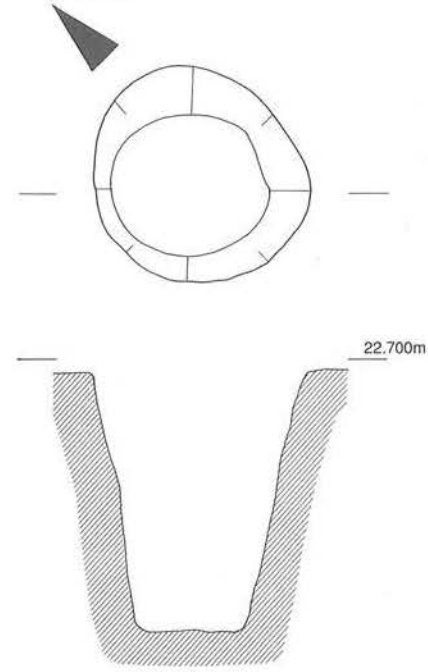
SK1709
1　10YR3/2黒褐色シルト
　（炭化物多く含む，地山小ブロック）
2　10YR3/1黒褐色シルト（炭化物少量含む）
3　5Y6/2灰オリーブ色砂質シルト
4　2.5Y3/1黒褐色シルト
5　5Y6/2灰オリーブ色砂質シルト
6　2.5Y3/1黒褐色シルト
7　5Y6/2灰オリーブ色砂質シルト，2.5Y3/1黒褐色シルト
8　2.5Y4/1黄灰色シルト
9　10YR4/1褐灰色シルト（腐蝕植物繊維多く含む）
10　2.5Y3/1黒褐色シルト（腐蝕植物繊維多く含む）

SK1677

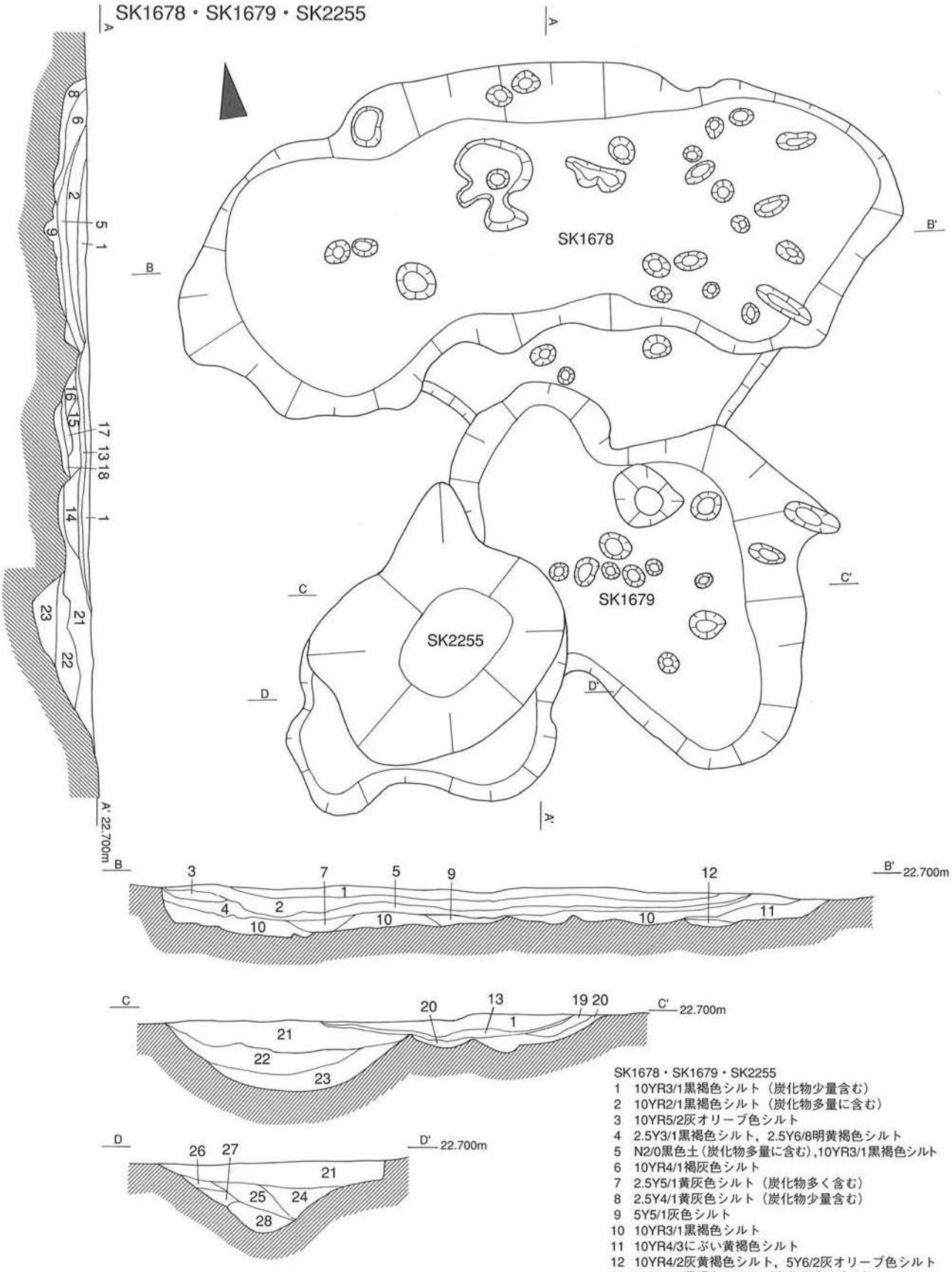


SK1677
1　10YR4/1褐灰色シルト
2　10YR3/1黒褐色シルト（炭化物少量含む）
3　10Y6/1灰色シルト
4　10YR4/1褐灰色シルト
5　10YR3/1黒褐色シルト
6　10YR5/1褐灰色シルト
7　10YR5/1褐灰色シルト
8　10YR4/1褐灰色シルト
9　7.5Y7/2灰白色シルト，10YR5/1褐灰色シルト
10　10YR4/1褐灰色シルト，7.5Y7/2灰白色シルト少量
11　7.5Y7/2灰白色シルト

SE1711

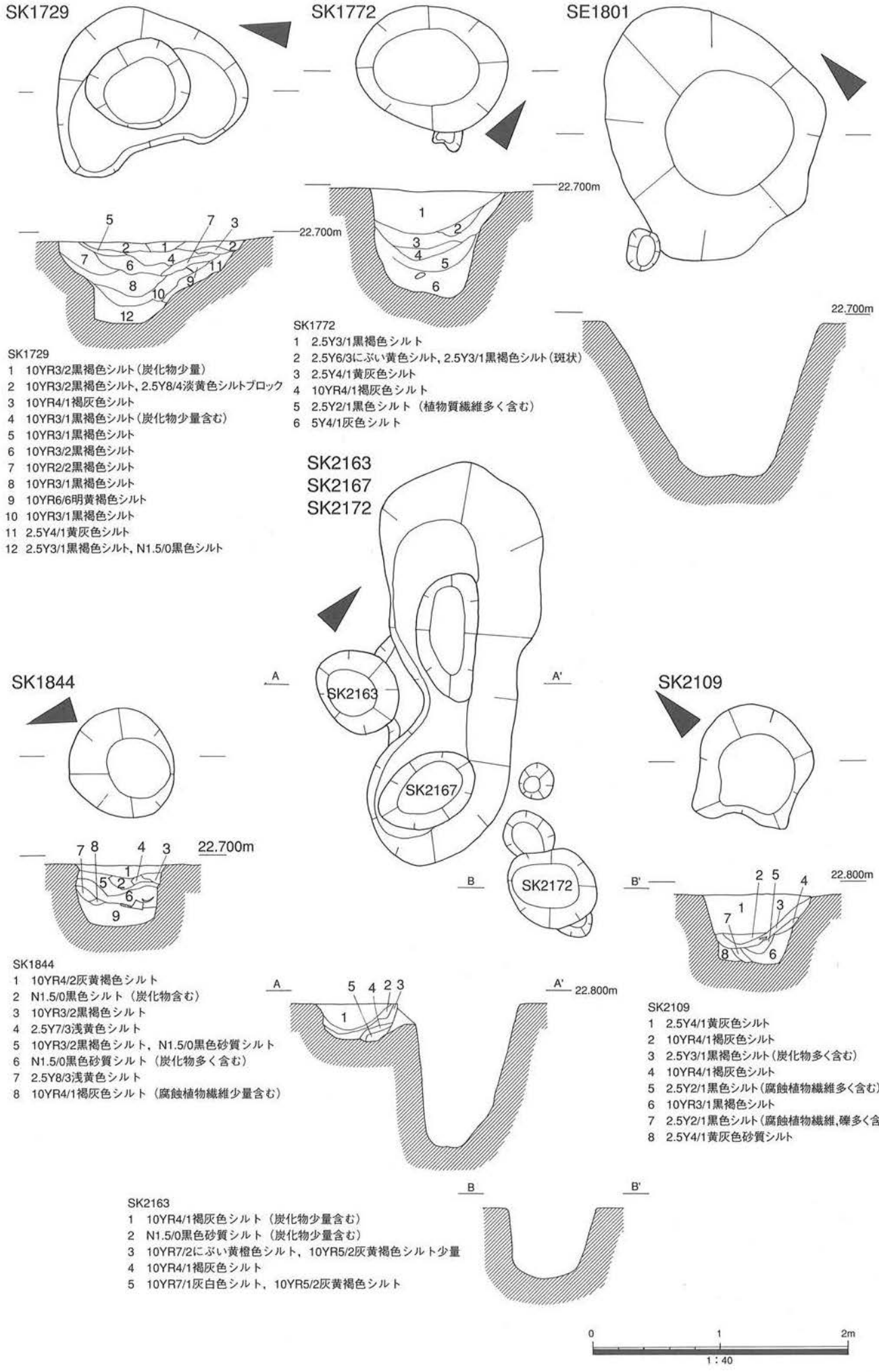


0　1　2m
1：40



SK1678・SK1679・SK2255

1 10YR3/1黒褐色シルト（炭化物少量含む）
2 10YR2/1黒褐色シルト（炭化物多量に含む）
3 10YR5/2灰オリーブ色シルト
4 2.5Y3/1黒褐色シルト、2.5Y6/8明黄褐色シルト
5 N2/0黒色土（炭化物多量に含む）,10YR3/1黒褐色シルト
6 10YR4/1褐灰色シルト
7 2.5Y5/1黄灰色シルト（炭化物多く含む）
8 2.5Y4/1黄灰色シルト（炭化物少量含む）
9 5Y5/1灰色シルト
10 10YR3/1黒褐色シルト
11 10YR4/3にぶい黄褐色シルト
12 10YR4/2灰黄褐色シルト、5Y6/2灰オリーブ色シルト
13 10YR3/1黒褐色シルト（炭化物多く含む）
14 2.5Y4/1黄灰色シルト
15 2.5Y5/1黄灰色シルト
16 2.5Y3/2黒褐色シルト
17 2.5Y4/1黄灰色シルト、2.5Y7/3浅黄色シルト
18 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト
19 10YR5/2灰黄褐色シルト（炭化物少量含む）
20 10YR4/2灰黄褐色シルト
21 2.5Y3/1黒褐色シルト
22 10YR4/1褐灰色シルト
23 2.5Y4/1黄灰色シルト
24 2.5Y4/1黄灰色シルト
25 10YR3/1黒褐色シルト
26 10YR3/1黒褐色シルト（小礫含む）
27 10YR4/2（砂・小礫含む）
28 10YR2/1黒色シルト



SK1729
1 10YR3/2黒褐色シルト（炭化物少量）
2 10YR3/2黒褐色シルト、2.5Y8/4淡黄色シルトブロック
3 10YR4/1褐灰色シルト
4 10YR3/1黒褐色シルト（炭化物少量含む）
5 10YR3/1黒褐色シルト
6 10YR3/2黒褐色シルト
7 10YR2/2黒褐色シルト
8 10YR3/1黒褐色シルト
9 10YR6/6明黄褐色シルト
10 10YR3/1黒褐色シルト
11 2.5Y4/1黄灰色シルト
12 2.5Y3/1黒褐色シルト、N1.5/0黒色シルト

SK1772
1 2.5Y3/1黒褐色シルト
2 2.5Y6/3にぶい黄色シルト、2.5Y3/1黒褐色シルト（斑状）
3 2.5Y4/1黄灰色シルト
4 10YR4/1褐灰色シルト
5 2.5Y2/1黒色シルト（植物質繊維多く含む）
6 5Y4/1灰色シルト

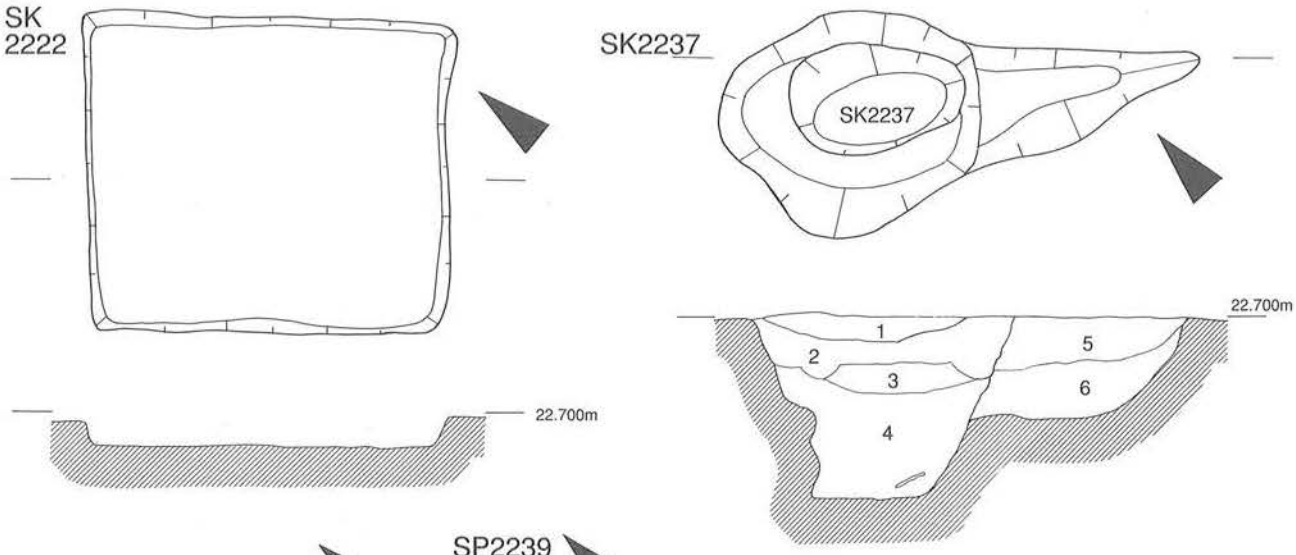
SK1844
1 10YR4/2灰黄褐色シルト
2 N1.5/0黒色シルト（炭化物含む）
3 10YR3/2黒褐色シルト
4 2.5Y7/3浅黄色シルト
5 10YR3/2黒褐色シルト、N1.5/0黒色砂質シルト
6 N1.5/0黒色砂質シルト（炭化物多く含む）
7 2.5Y8/3浅黄色シルト
8 10YR4/1褐灰色シルト（腐蝕植物繊維少量含む）

SK2109
1 2.5Y4/1黄灰色シルト
2 10YR4/1褐灰色シルト
3 2.5Y3/1黒褐色シルト（炭化物多く含む）
4 10YR4/1褐灰色シルト
5 2.5Y2/1黒色シルト（腐蝕植物繊維多く含む）
6 10YR3/1黒褐色シルト
7 2.5Y2/1黒色シルト（腐蝕植物繊維、礫多く含む）
8 2.5Y4/1黄灰色砂質シルト

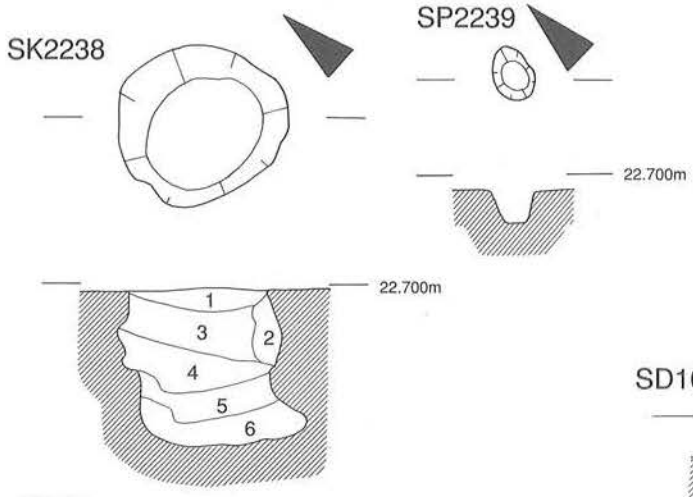
SK2163
1 10YR4/1褐灰色シルト（炭化物少量含む）
2 N1.5/0黒色砂質シルト（炭化物少量含む）
3 10YR7/2にぶい黄橙色シルト、10YR5/2灰黄褐色シルト少量
4 10YR4/1褐灰色シルト
5 10YR7/1灰白色シルト、10YR5/2灰黄褐色シルト

0 1 2m
1：40

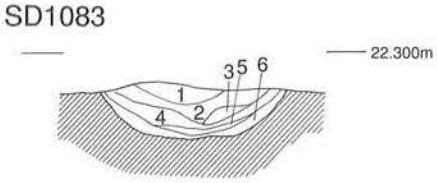
SK2222・SK2237・SK2238・SP2239・SD1321・SD1083



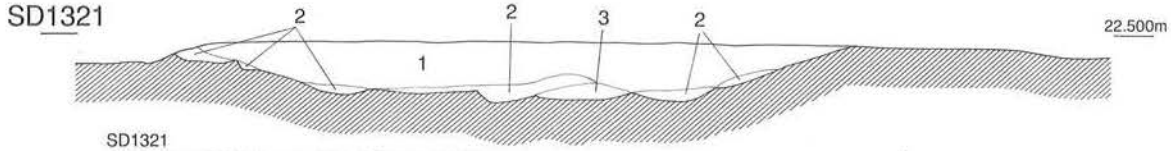
SK2237
1 10YR5/3にぶい黄褐色シルト
10YR7/6黄橙色シルト小ブロック少量含む
2 2.5Y6/3にぶい黄色シルト
10YR7/8黄橙色シルトブロック含む
3 10YR5/2灰黄褐色シルト
4 10YR3/1黒褐色シルト
5BG6/1青灰色シルト小ブロック少量含む
5 10YR5/4にぶい黄褐色シルト
6 10YR4/2灰黄褐色シルト



SK2238
1 10YR3/2黒褐色粘質シルト（炭化物少量）
2 10YR3/2黒褐色粘質シルト
3 10YR2/1黒色粘質シルト
4 10YR3/1黒褐色粘質シルト
5 2.5Y3/1黒褐色粘質シルト（植物質繊維含む）
6 5Y3/1オリーブ黒色粘質シルト（植物質繊維含む）

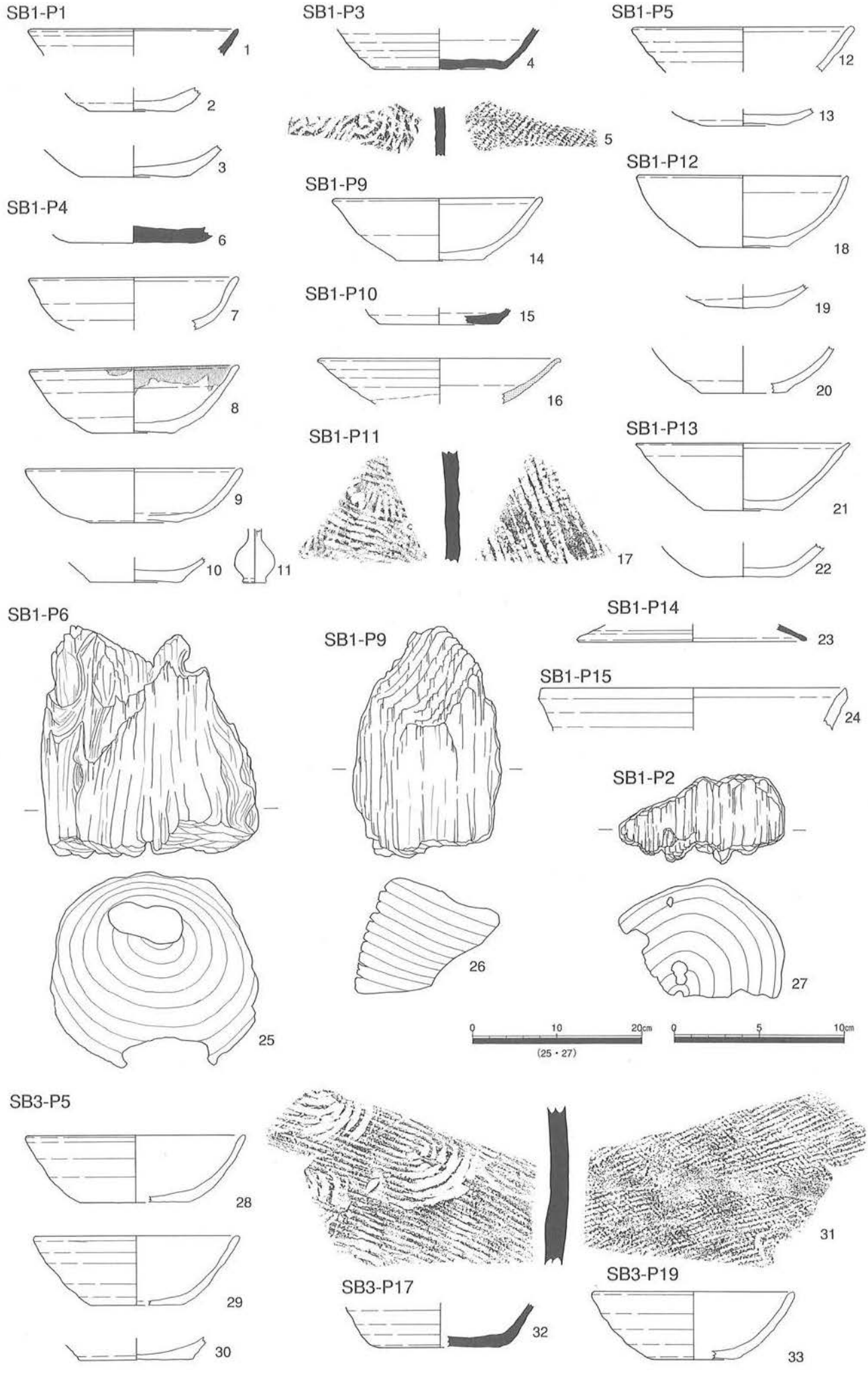


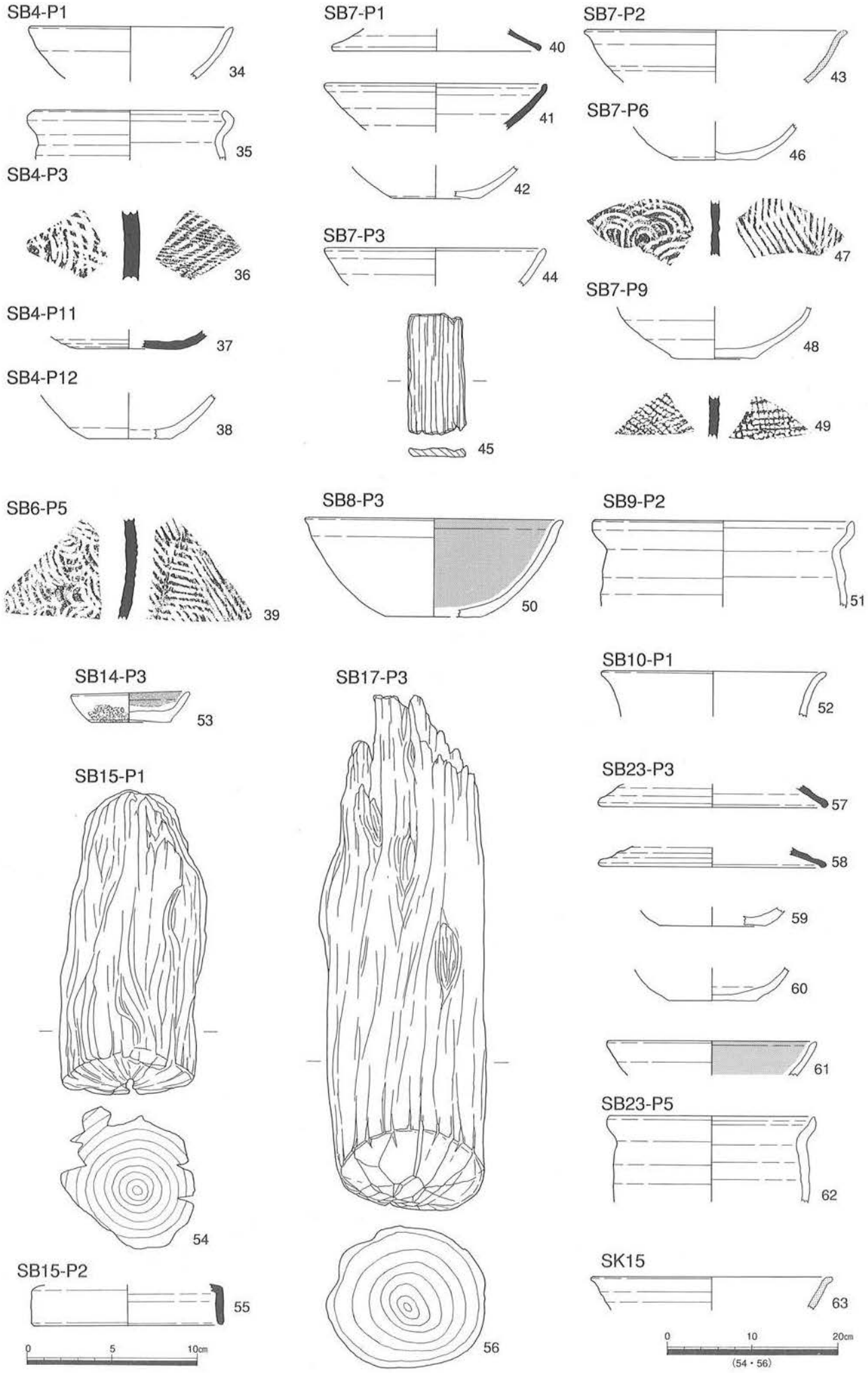
SD1083
1 10YR3/2暗褐色シルト
2 10YR3/1黒褐色シルト
3 10YR4/1褐灰色砂質シルト
4 10YR3/1黒褐色シルト
5 10YR4/1褐灰色砂質シルト
6 10YR3/1黒褐色砂質シルト



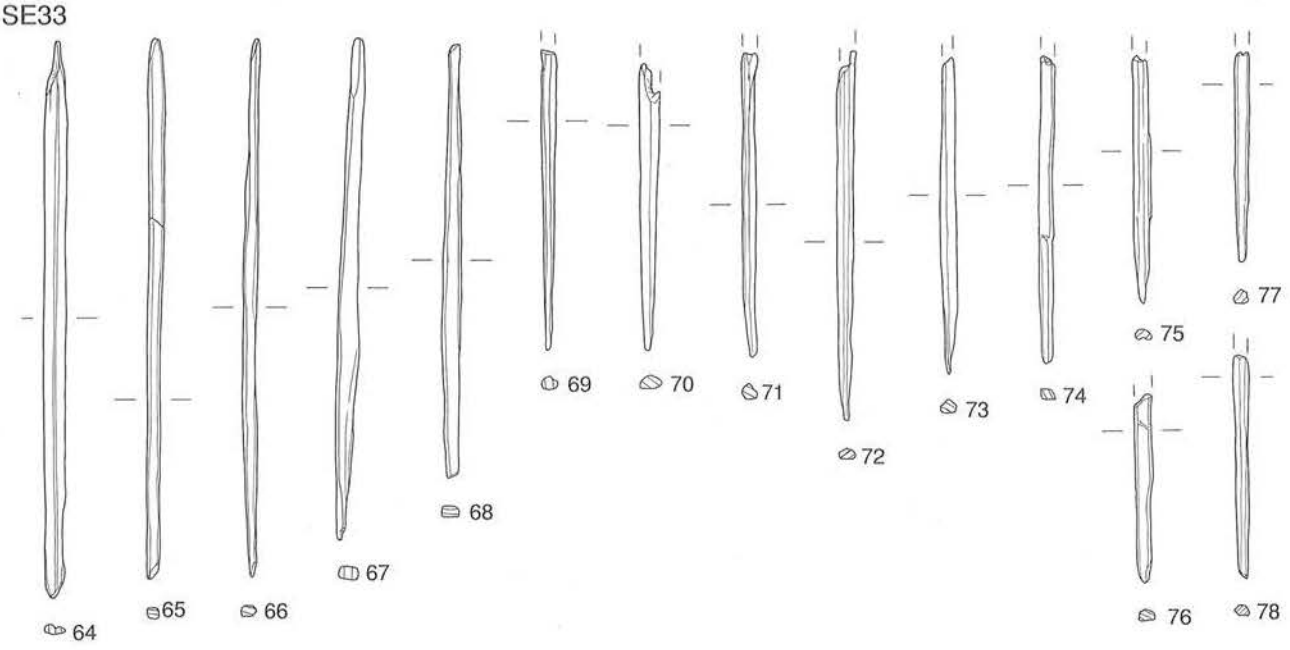
SD1321
1 10YR3/1暗褐色シルト（礫・炭化物少量含む）
2 10YR3/2暗褐色シルト、2.5Y5/2暗灰黄色砂
3 2.5Y5/2暗灰黄色砂（小礫含む）

0 1 2m
1：40

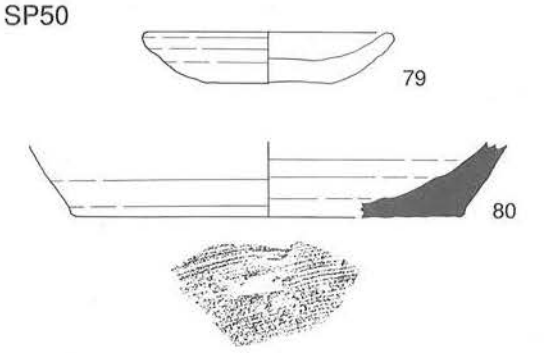

SB1-P1
1
2
3
SB1-P4
6
7
8
9
10
11
SB1-P3
4
5
SB1-P9
14
SB1-P10
15
16
SB1-P11
17
SB1-P5
12
13
SB1-P12
18
19
20
SB1-P13
21
22
SB1-P6
25
SB1-P9
26
SB1-P14
23
SB1-P15
24
SB1-P2
27
0 10 20cm
(25・27)
0 5 10cm
SB3-P5
28
29
30
SB3-P17
32
31
SB3-P19
33


SB4-P1
34
35
SB4-P3
36
SB4-P11
37
SB4-P12
38
SB6-P5
39
SB7-P1
40
41
42
SB7-P3
44
45
SB7-P2
43
SB7-P6
46
47
SB7-P9
48
49
SB8-P3
50
SB9-P2
51
SB10-P1
52
SB14-P3
53
SB15-P1
54
SB15-P2
55
0
5
10cm
SB17-P3
56
SB23-P3
57
58
59
60
61
SB23-P5
62
SK15
63
0
10
20cm
(54・56)

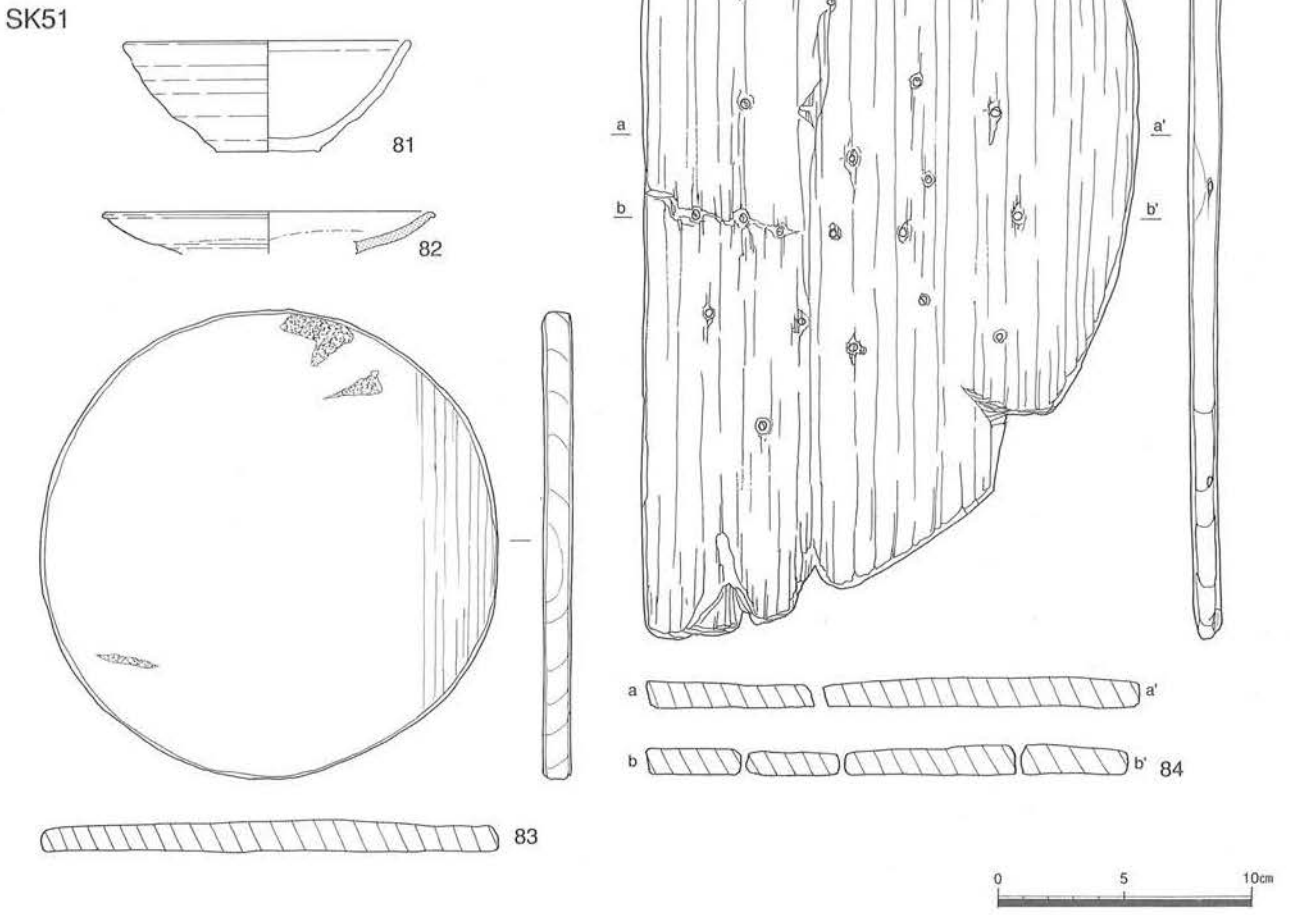
SE33



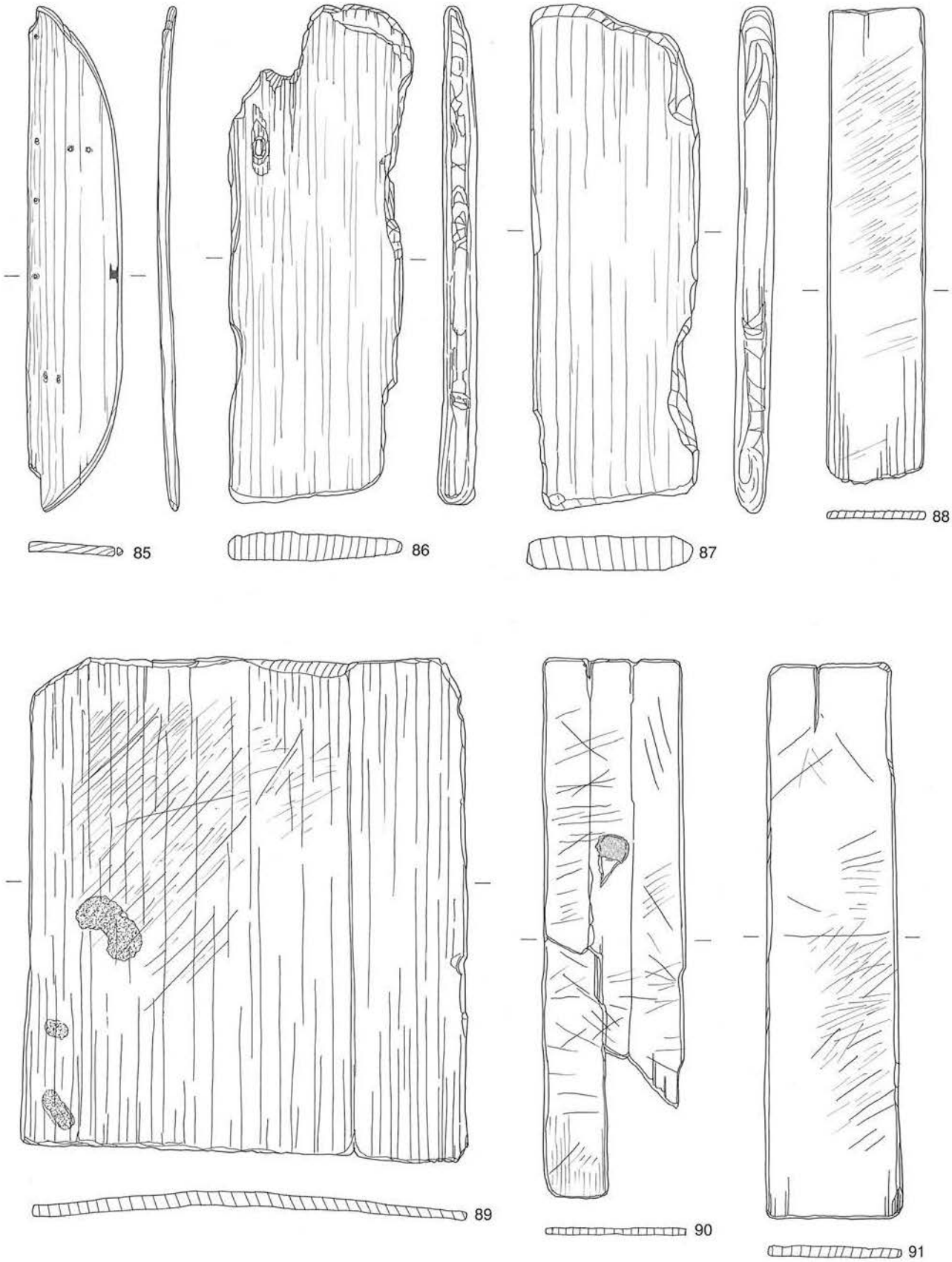
SP50



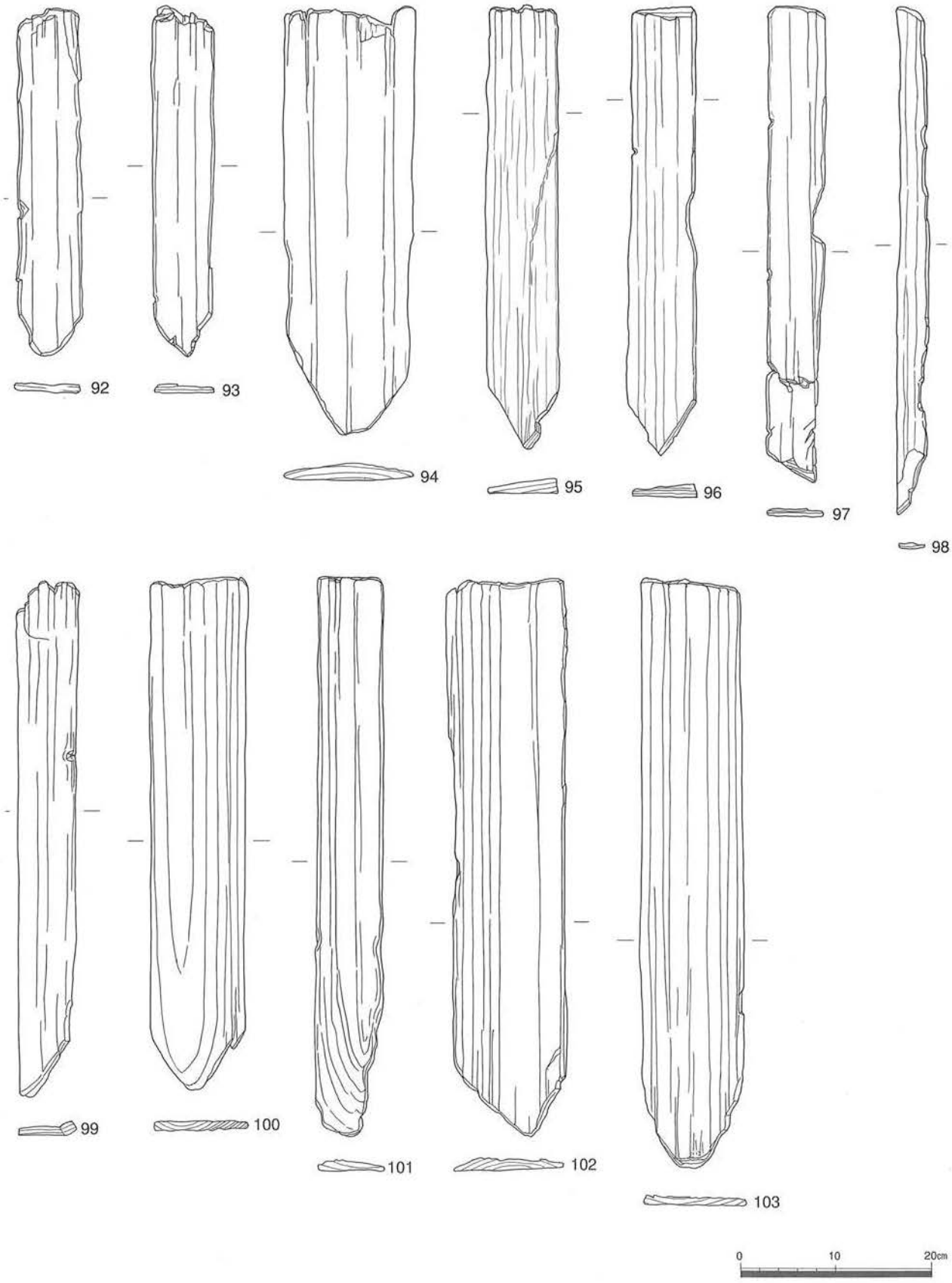
SK51



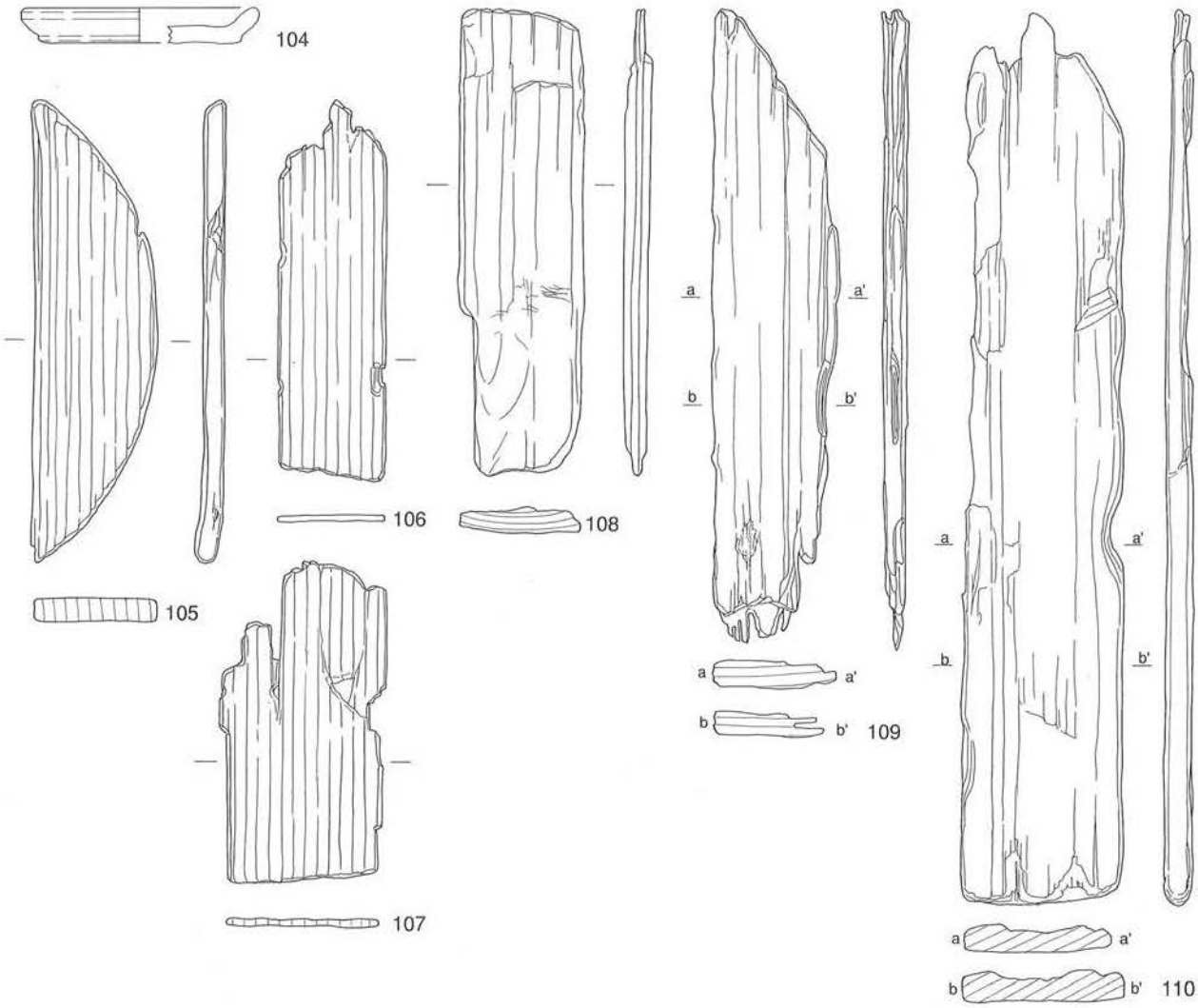
SK51



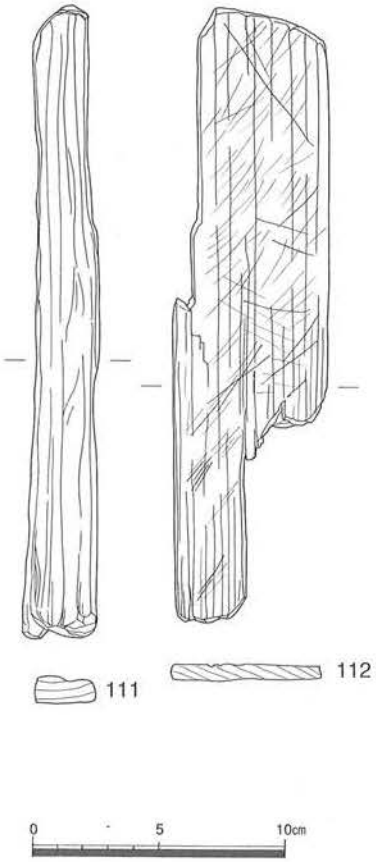
SK51



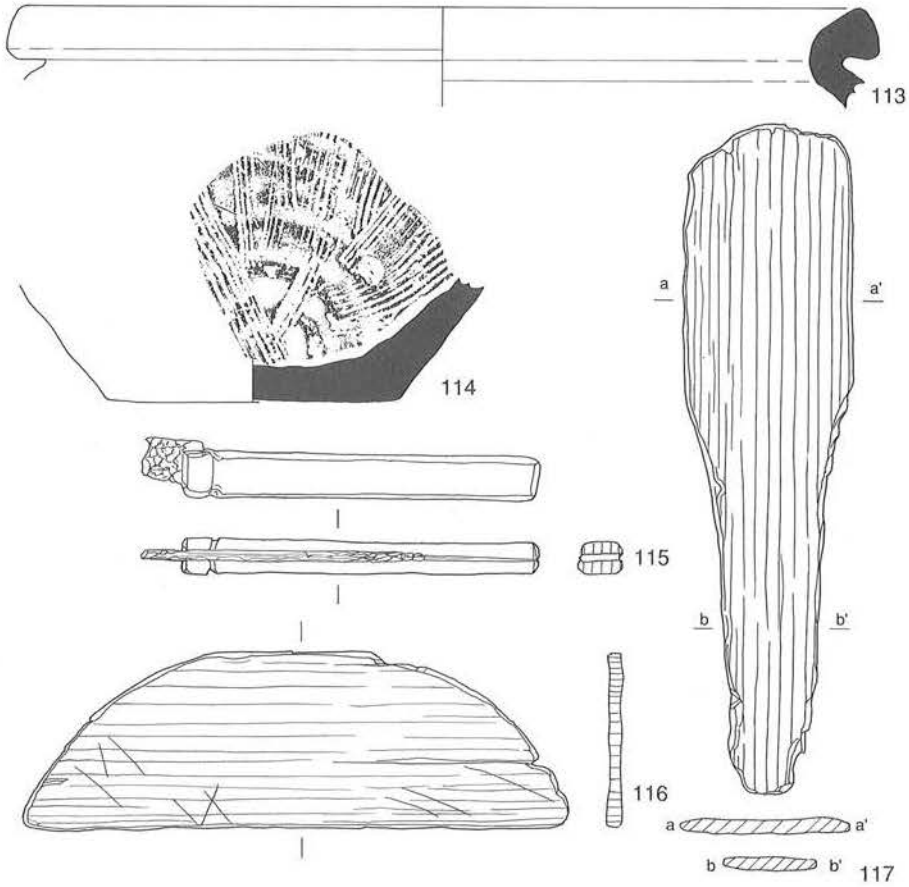
SE56

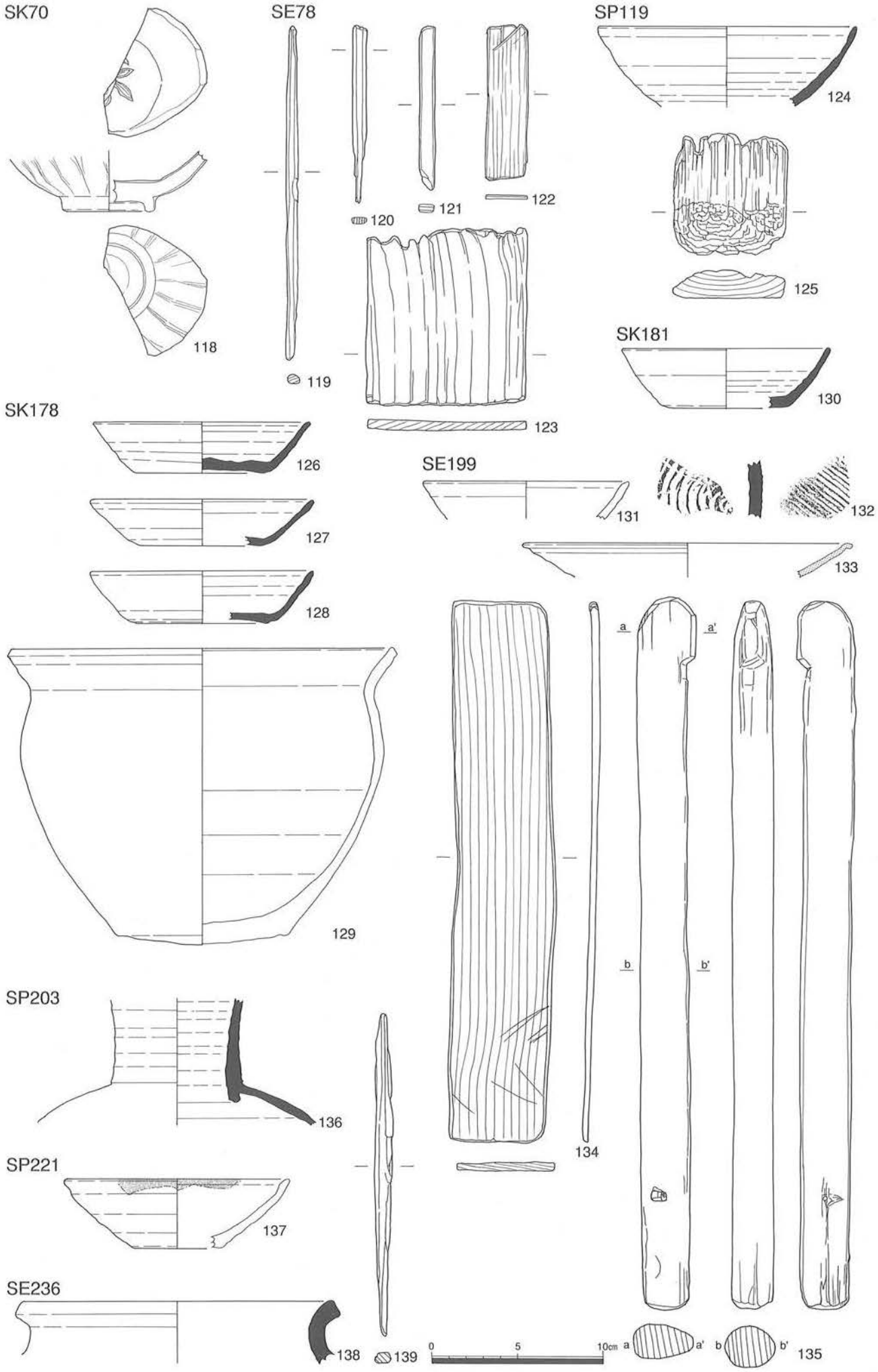


SK66

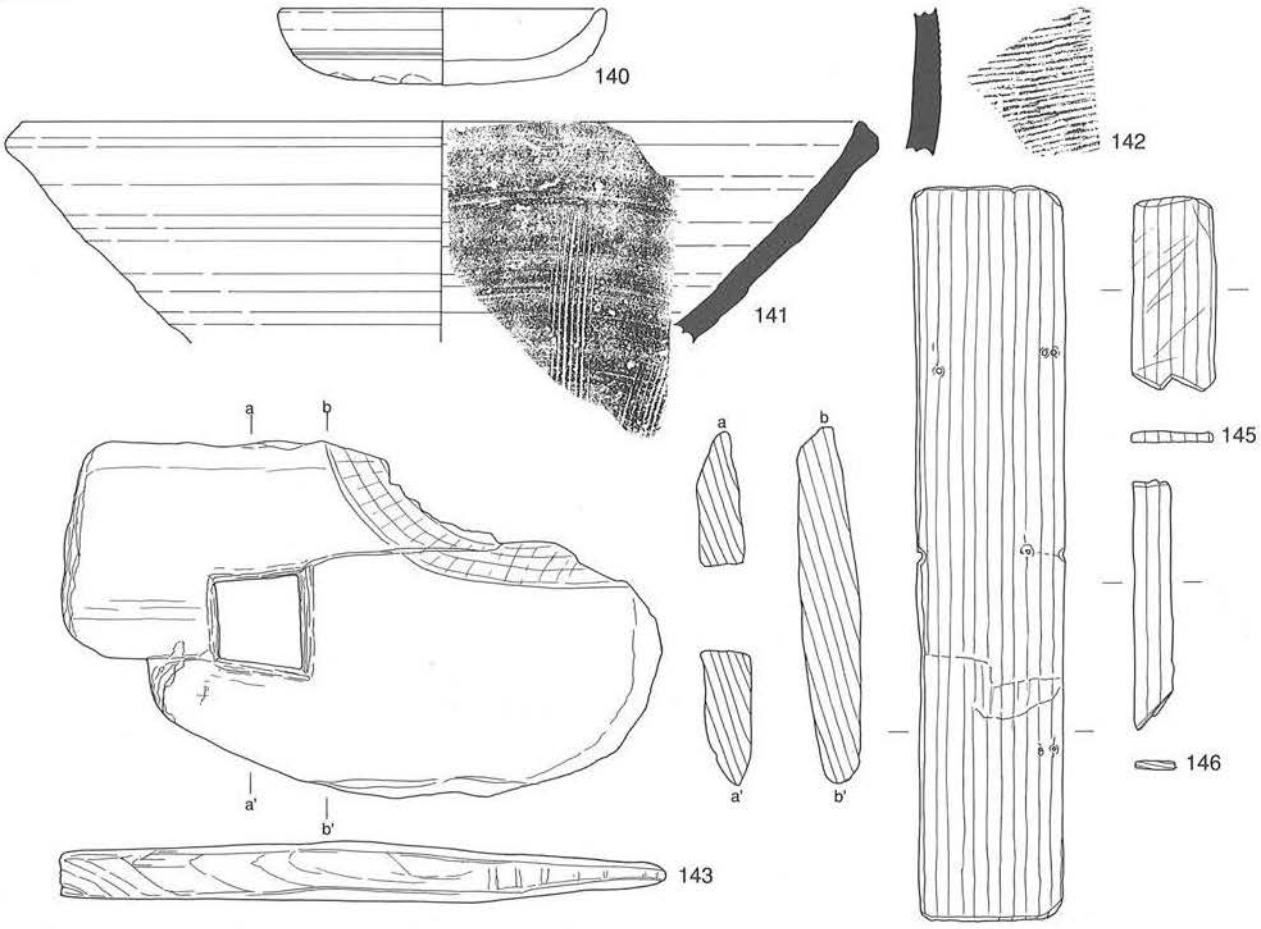


SE67

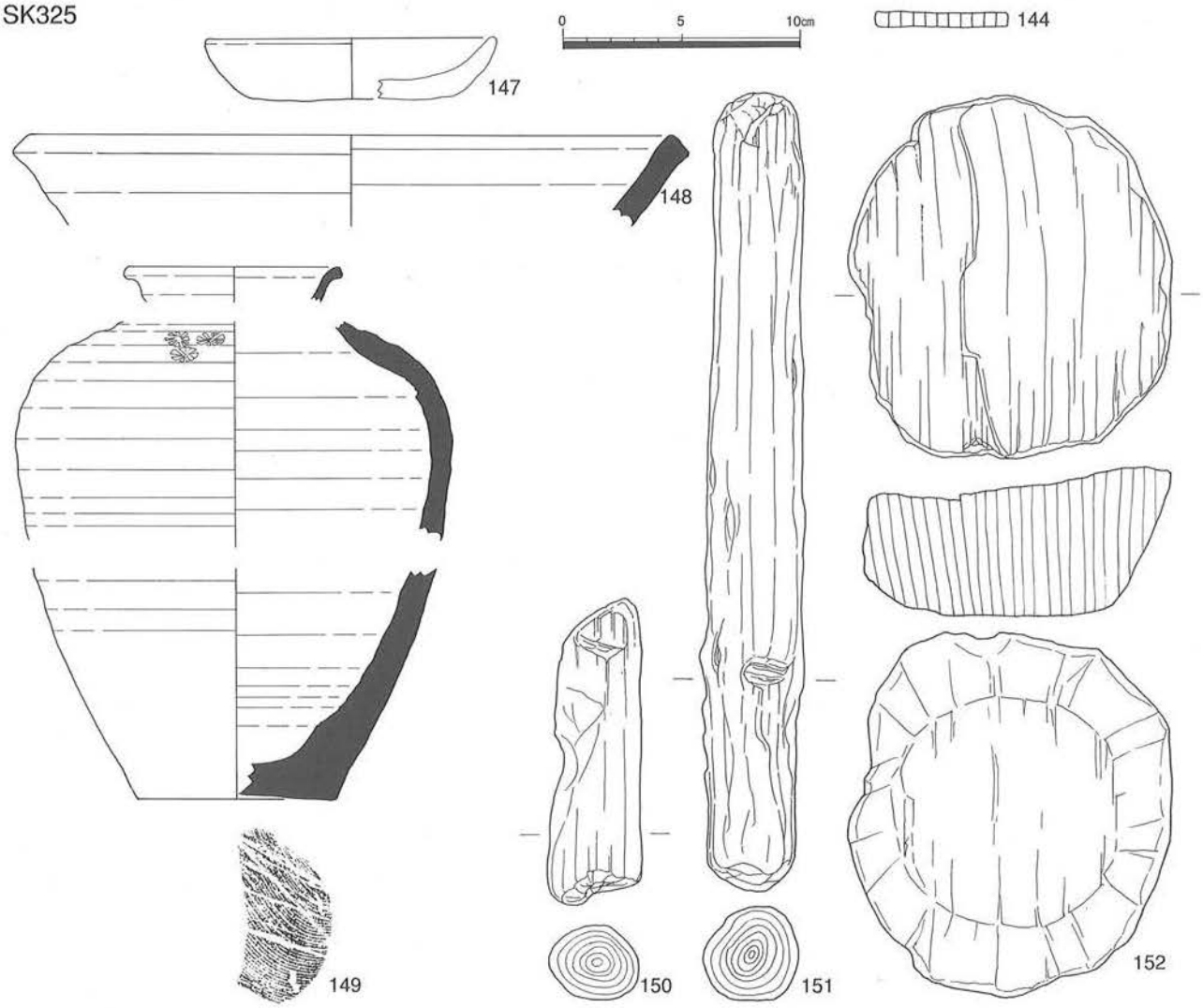



SK70
118
SE78
119
120
121
122
123
SP119
124
125
SK181
130
SK178
126
127
128
129
SE199
131
132
133
134
135
a
a'
b
b'
SP203
136
SP221
137
SE236
138
139
0
5
10cm

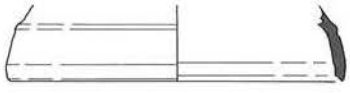
SK255



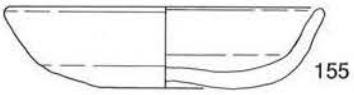
SK325



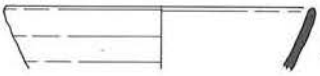
SK470

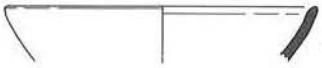


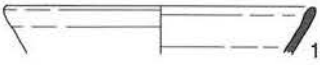
SK498

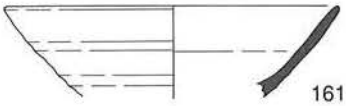


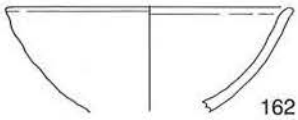
SK504

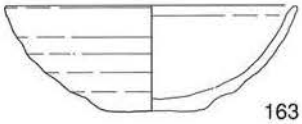


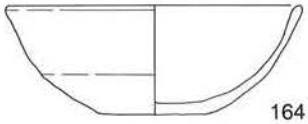


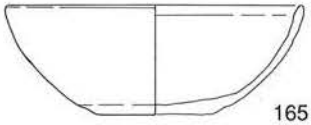


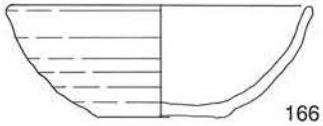


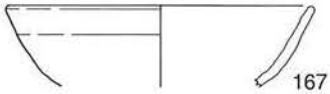


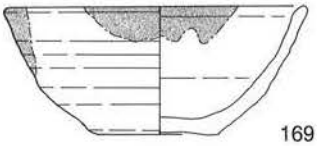


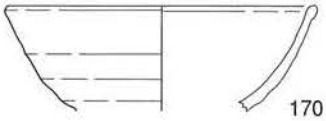


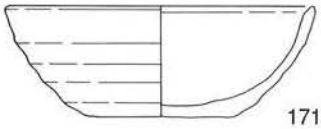


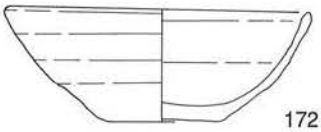


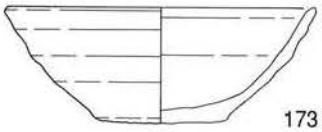


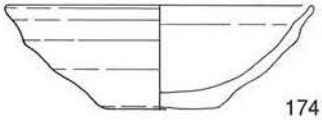


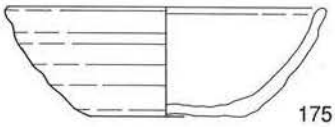


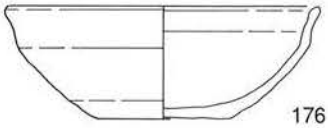


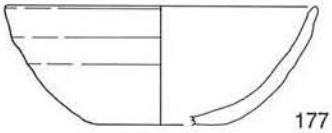


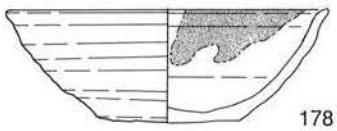


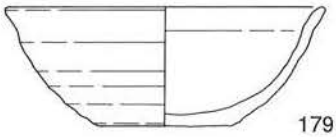


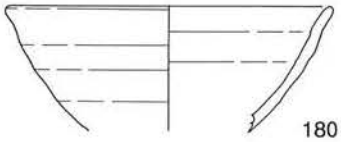


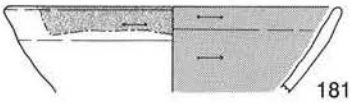


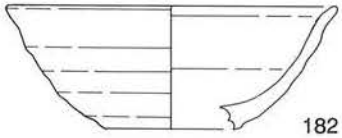


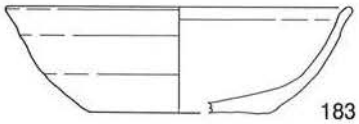


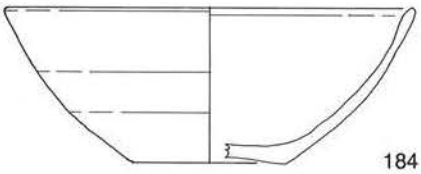


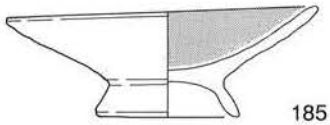


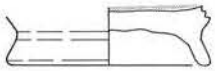


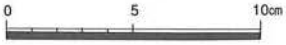




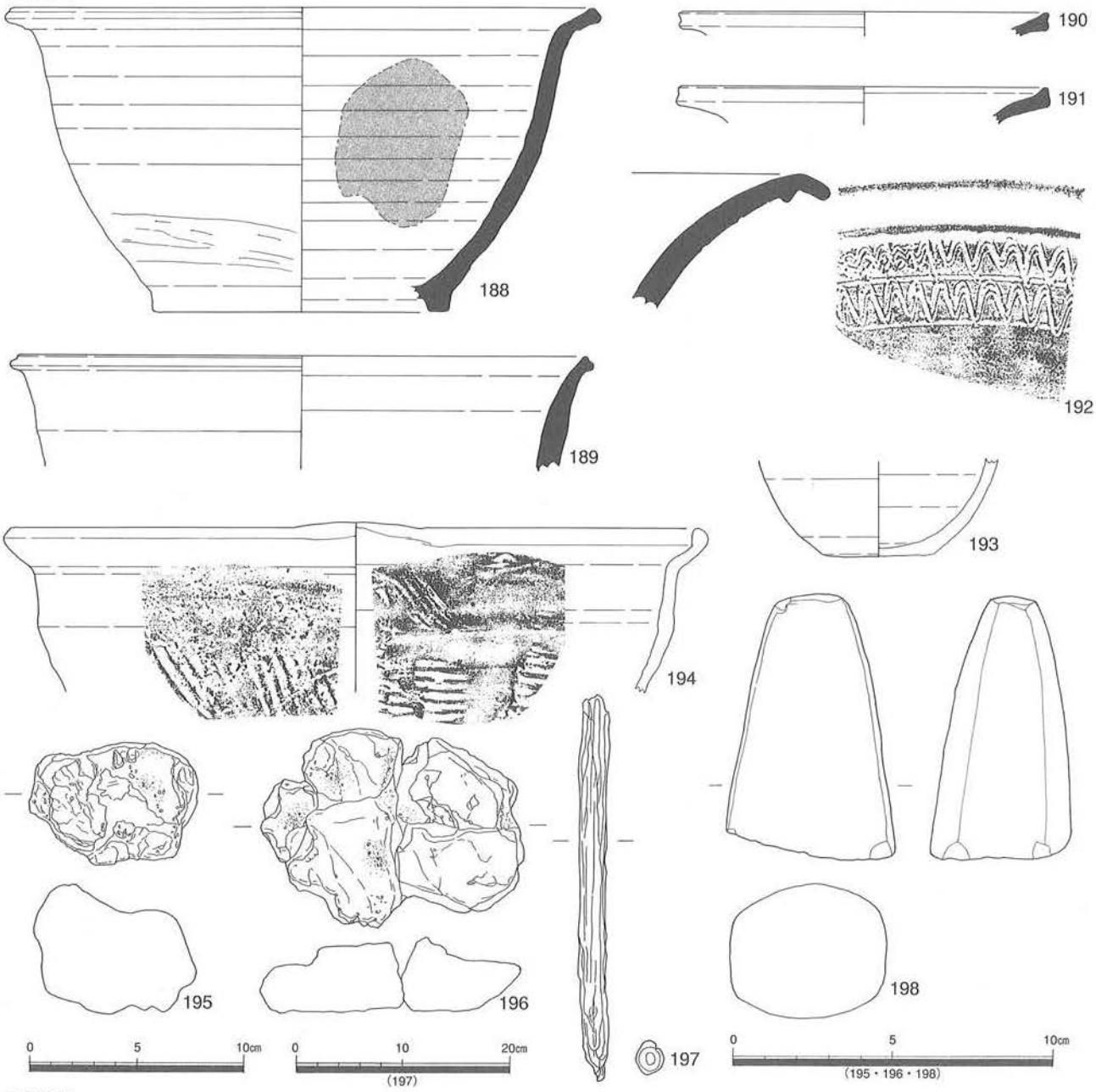




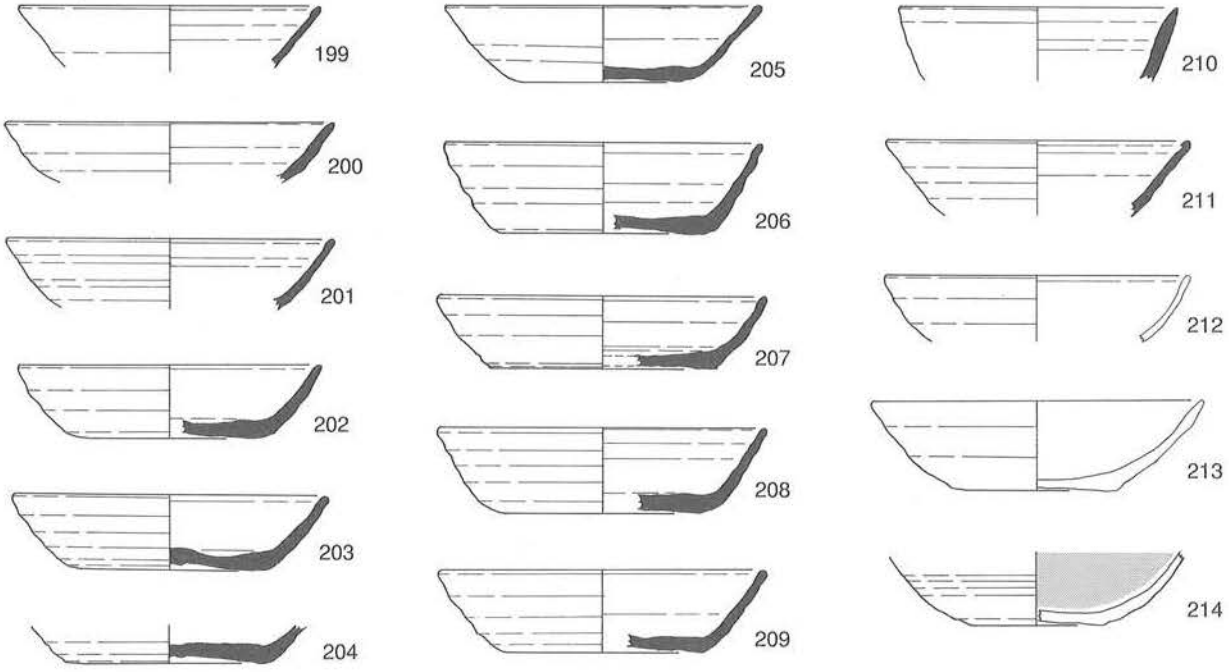


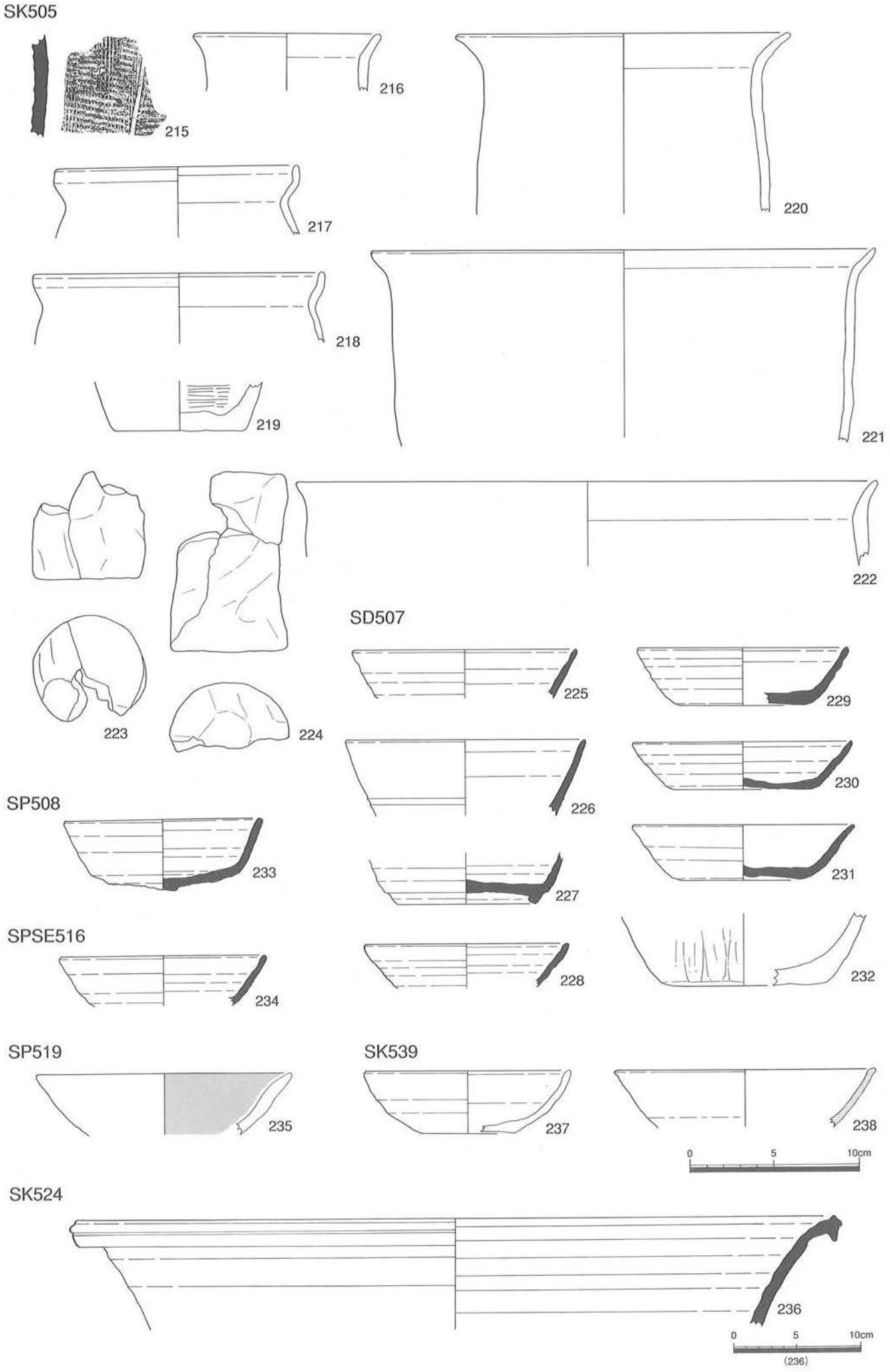


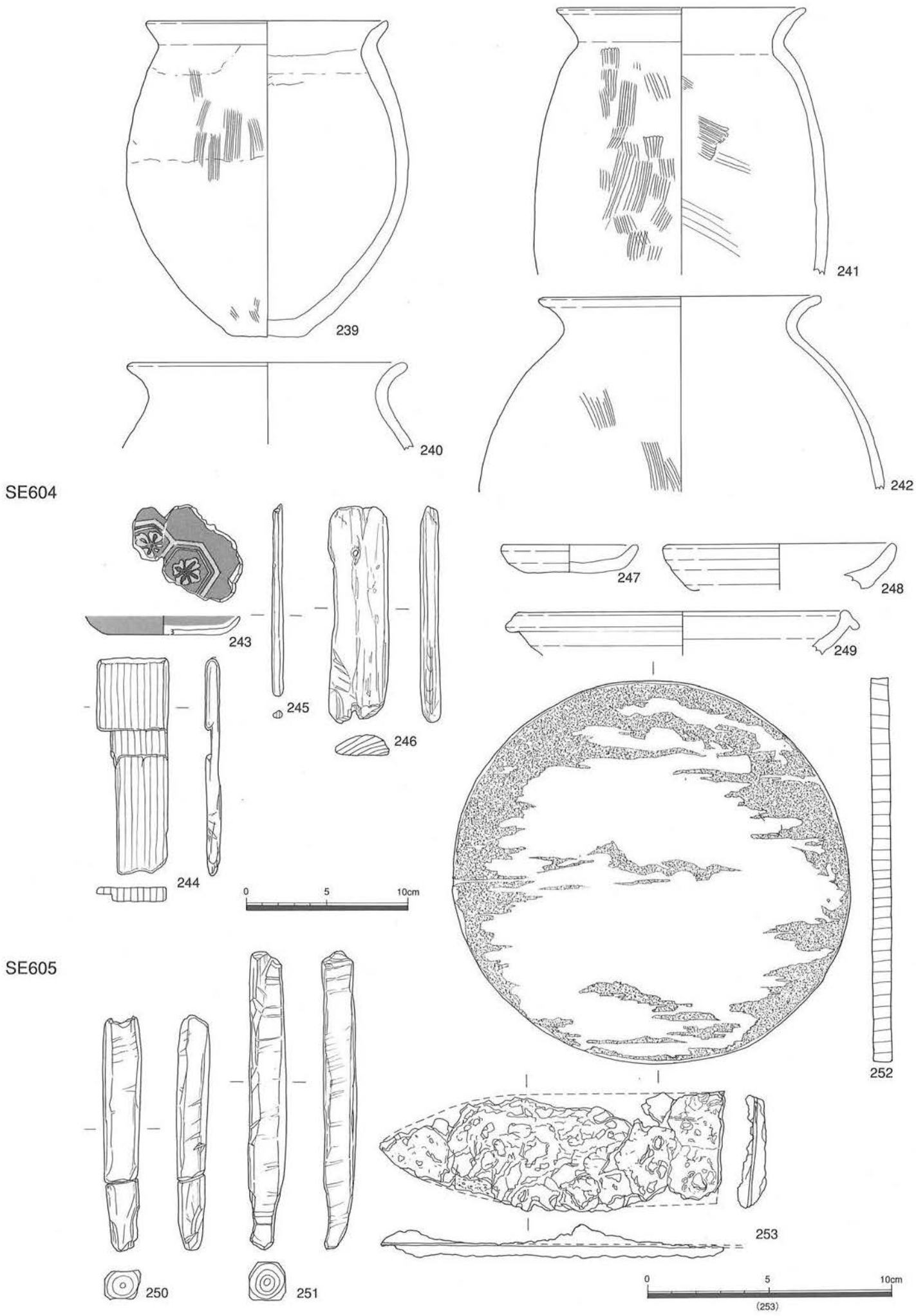
SK504


188
189
190
191
192
193
194
195
196
197
198
0 5 10cm
0 10 20cm
(197)
0 5 10cm
(195・196・198)

SK505

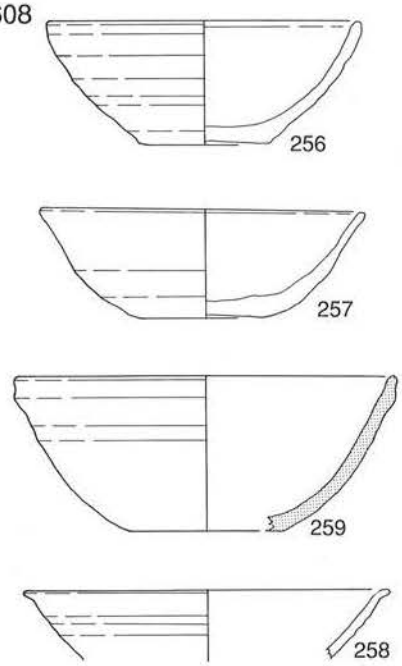

199
200
201
202
203
204
205
206
207
208
209
210
211
212
213
214


SK505
215
216
217
218
219
220
221
222
223
224
SD507
225
226
227
228
229
230
231
232
SP508
233
SPSE516
234
SP519
235
SK539
237
238
0 5 10cm
SK524
236
0 5 10cm
(236)

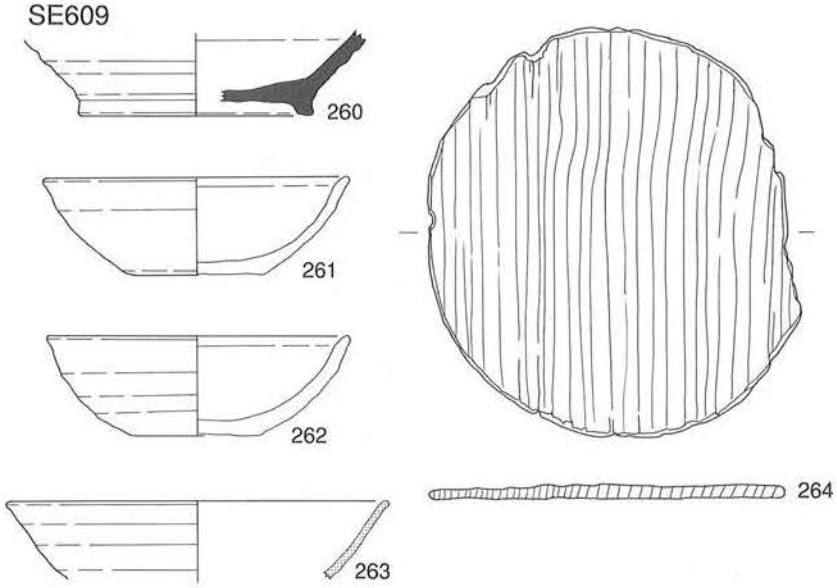

239
240
241
242
SE604
243
244
245
246
247
248
249
252
0
5
10cm
SE605
250
251
253
0
5
10cm
(253)

SE606

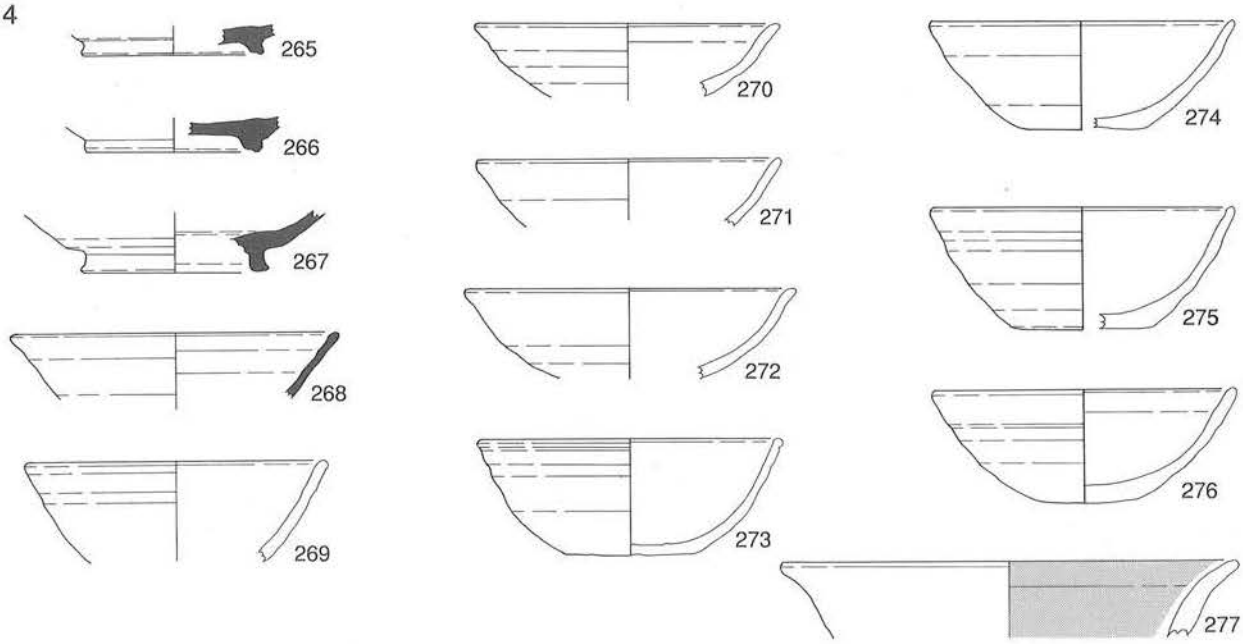
SK608



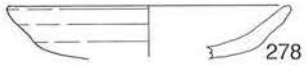
SE609



SK614

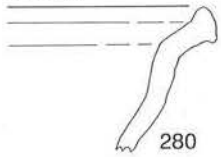


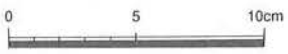
SP632

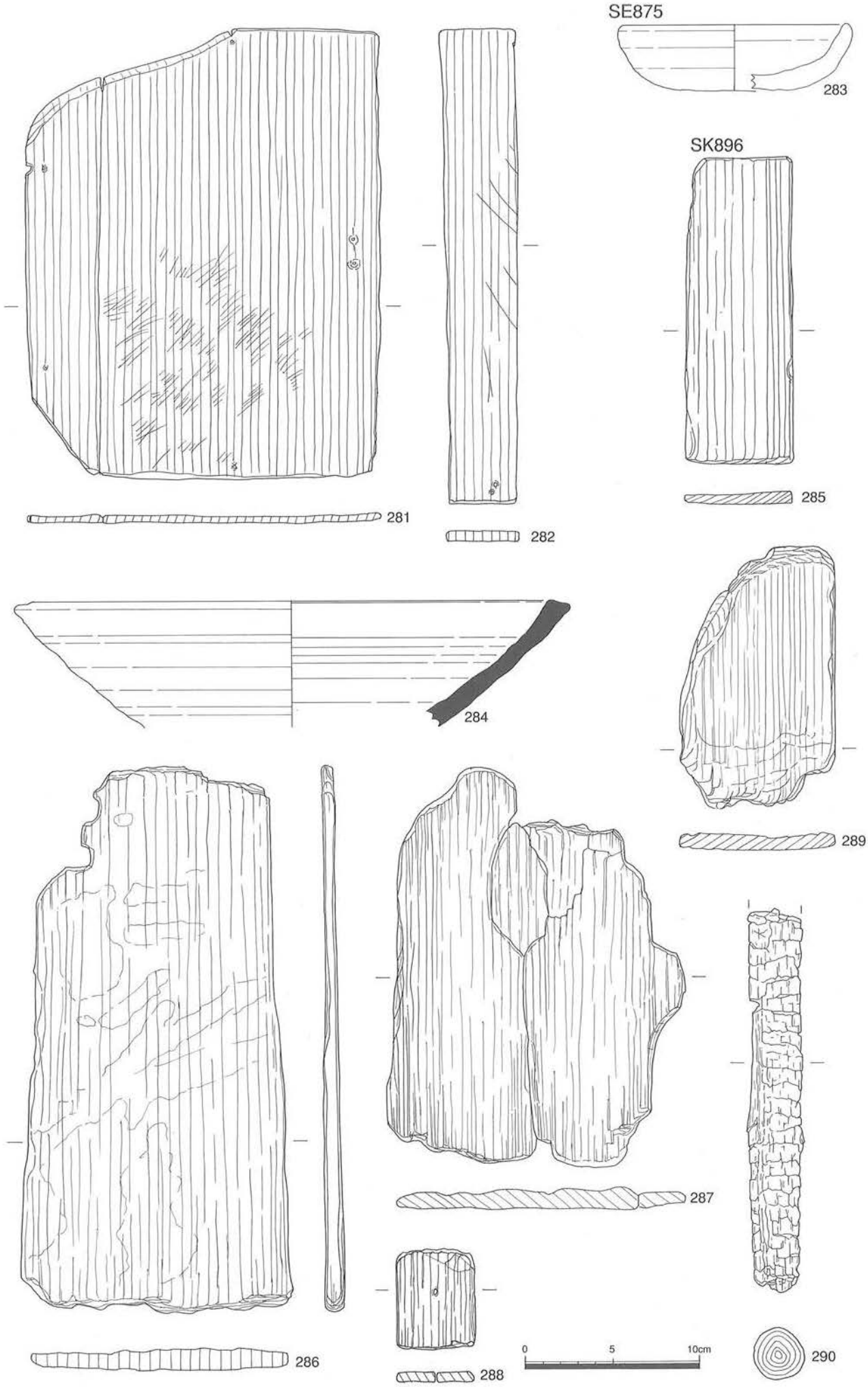


SK722

SD812

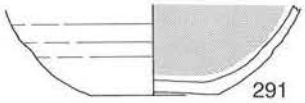




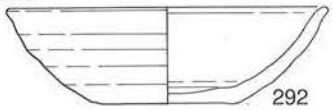

SE875
283
SK896
285
281
282
SK896
284
289
287
286
288
0
5
10cm
290

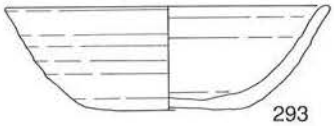
SP966・SP979・SE1028・SE1052・SK1070

SP966

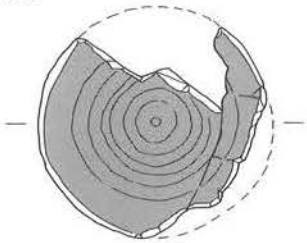


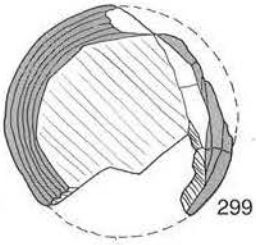
SP979

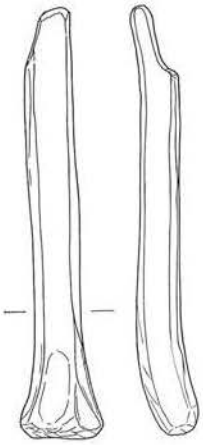




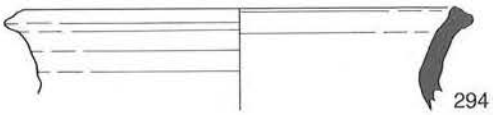
SE1052

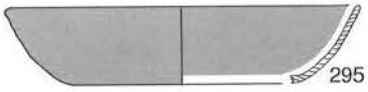


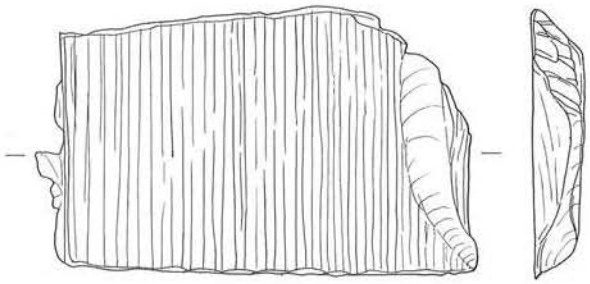


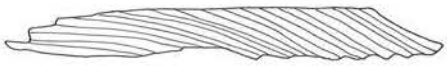


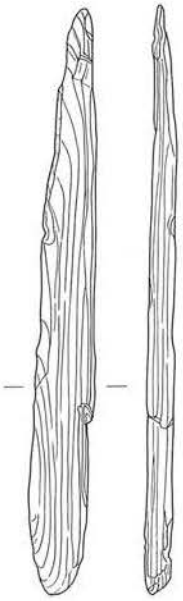
SE1028

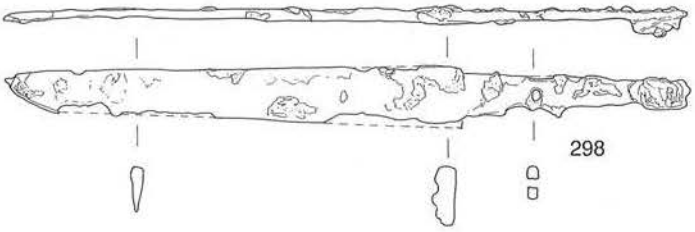




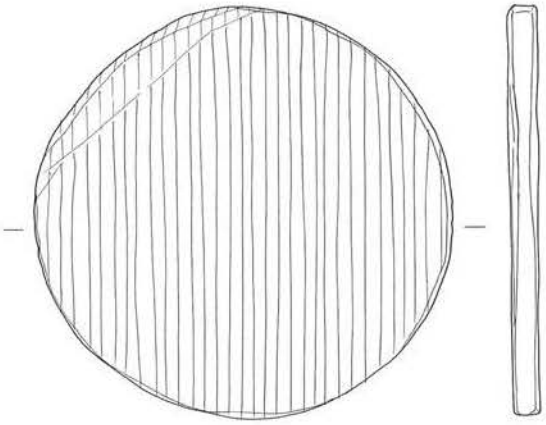


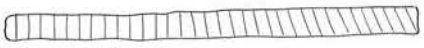


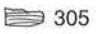


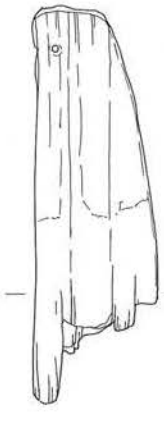


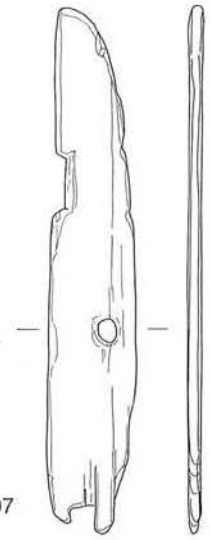
SK1070



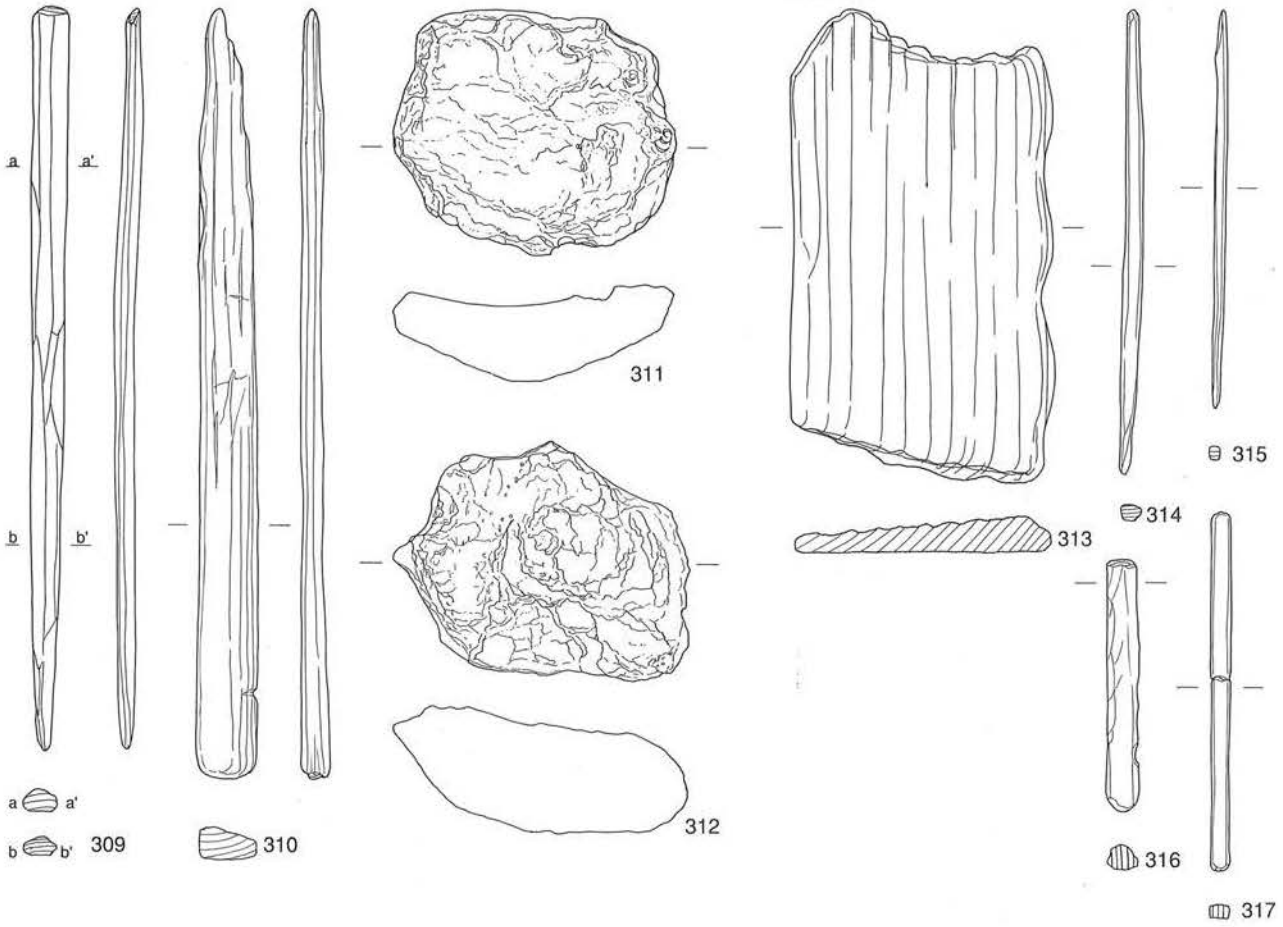




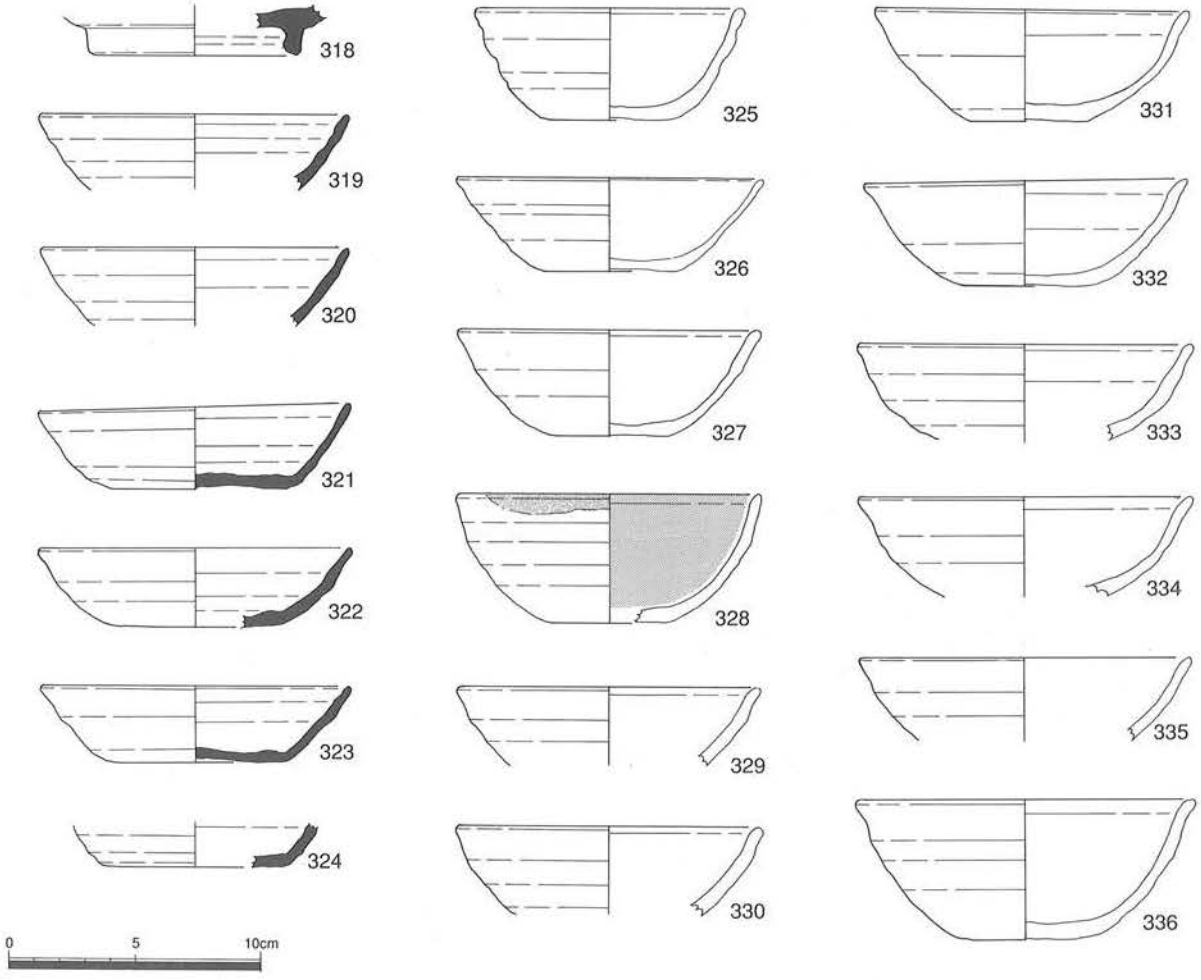


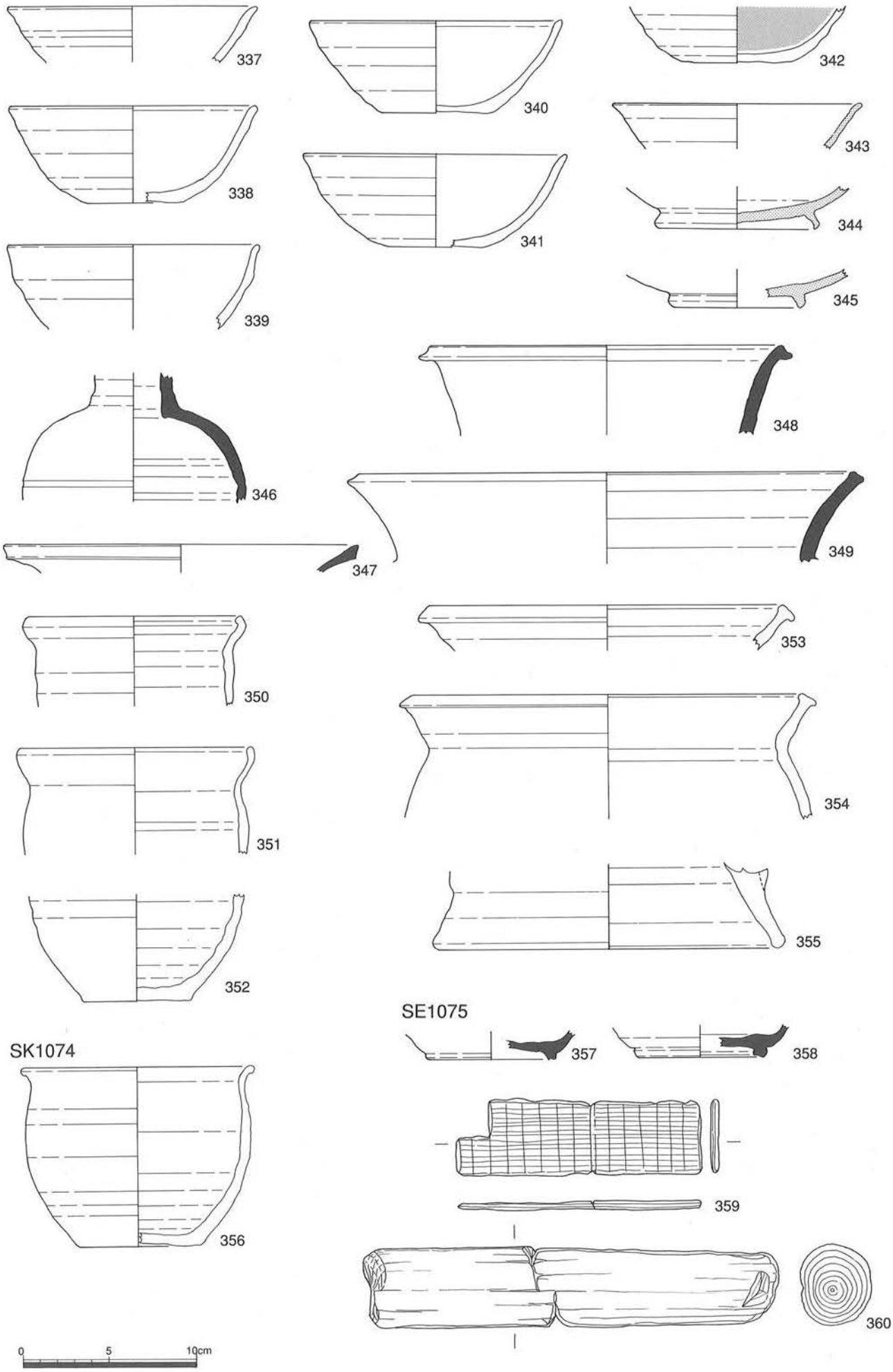


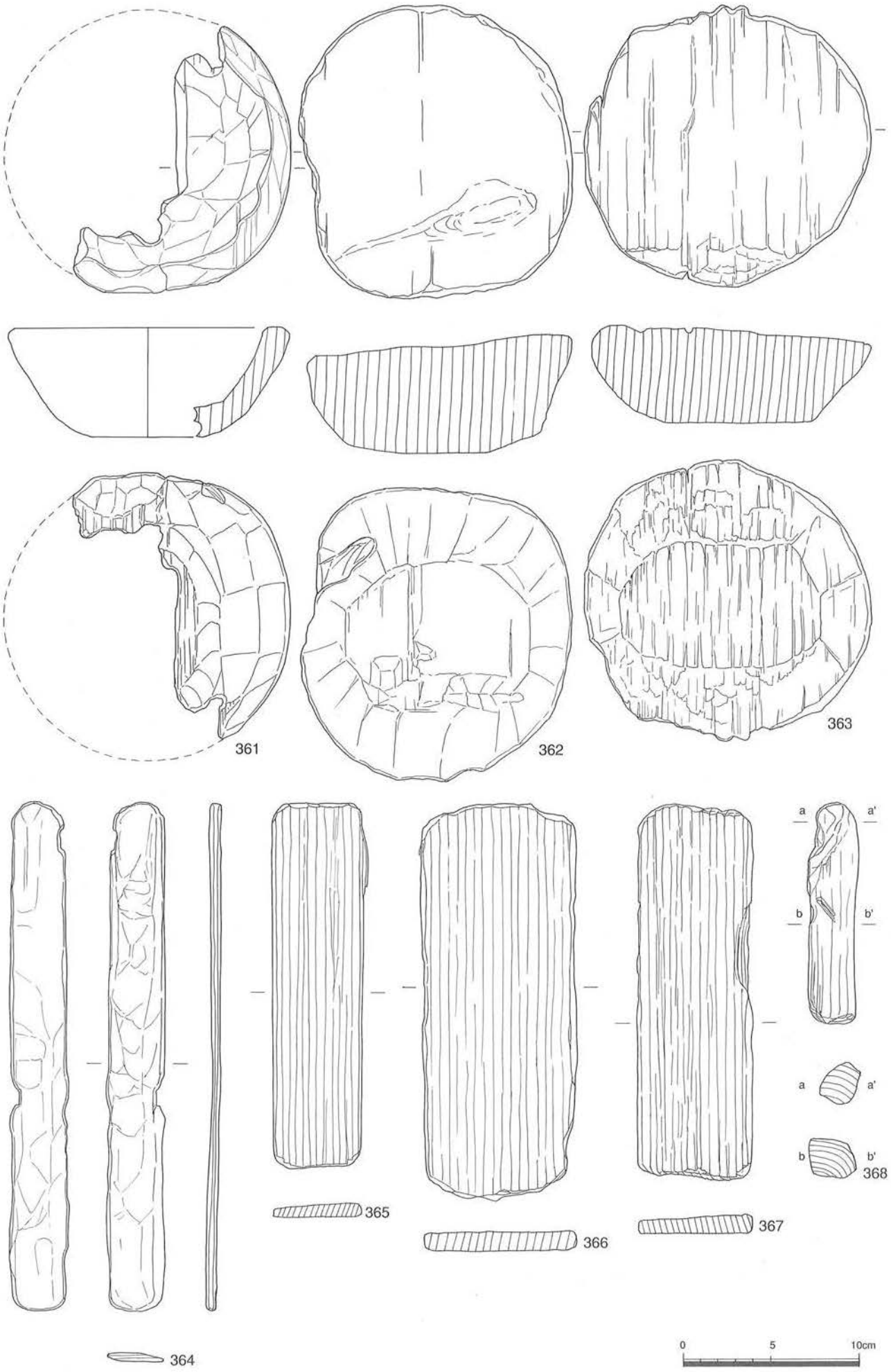
SE1071



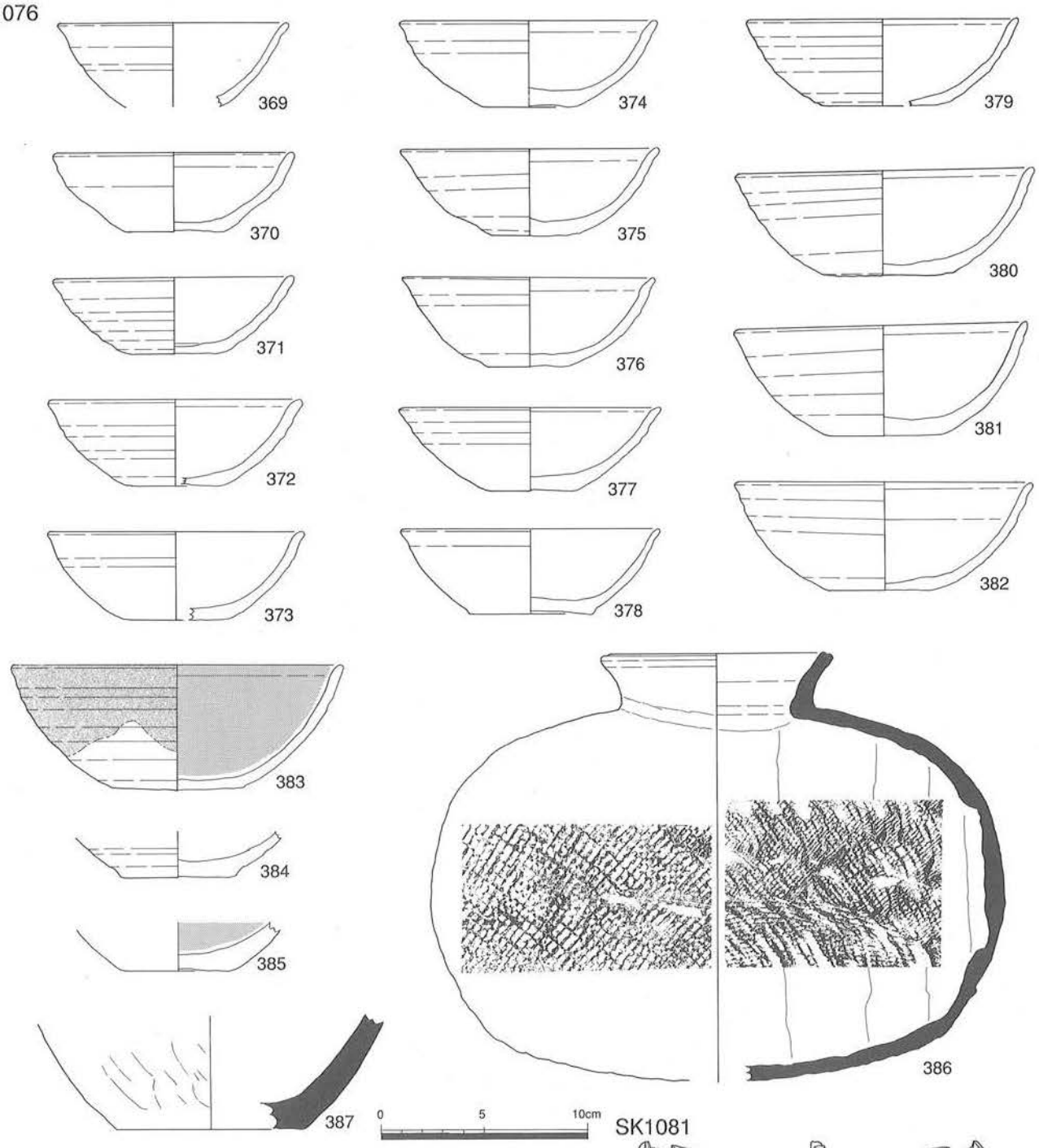
SI1073



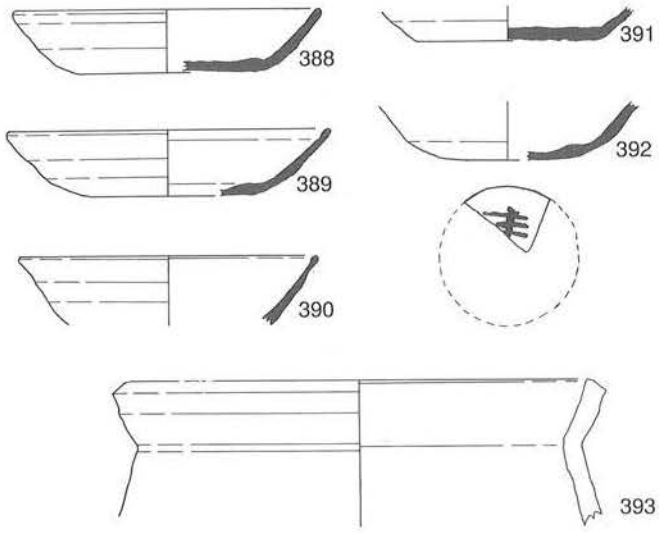

337
338
339
340
341
342
343
344
345
346
347
348
349
350
351
352
353
354
355
SK1074
356
SE1075
357
358
359
360
0
5
10cm


361
362
363
a
a'
b
b'
a
a'
b
b'
368
365
366
367
364
0
5
10cm

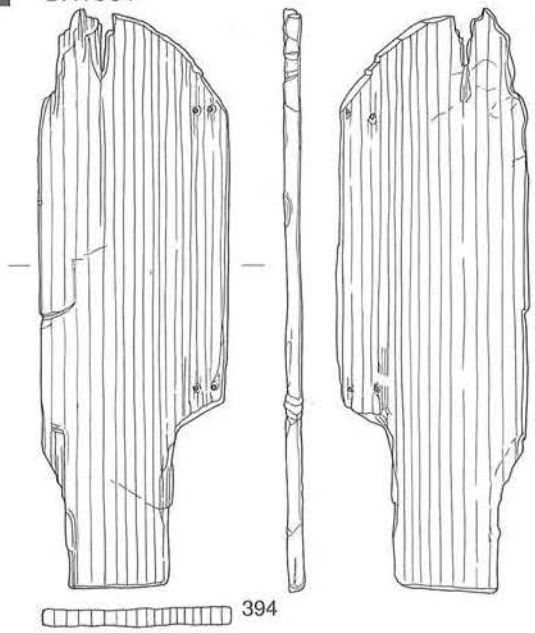
SE1076

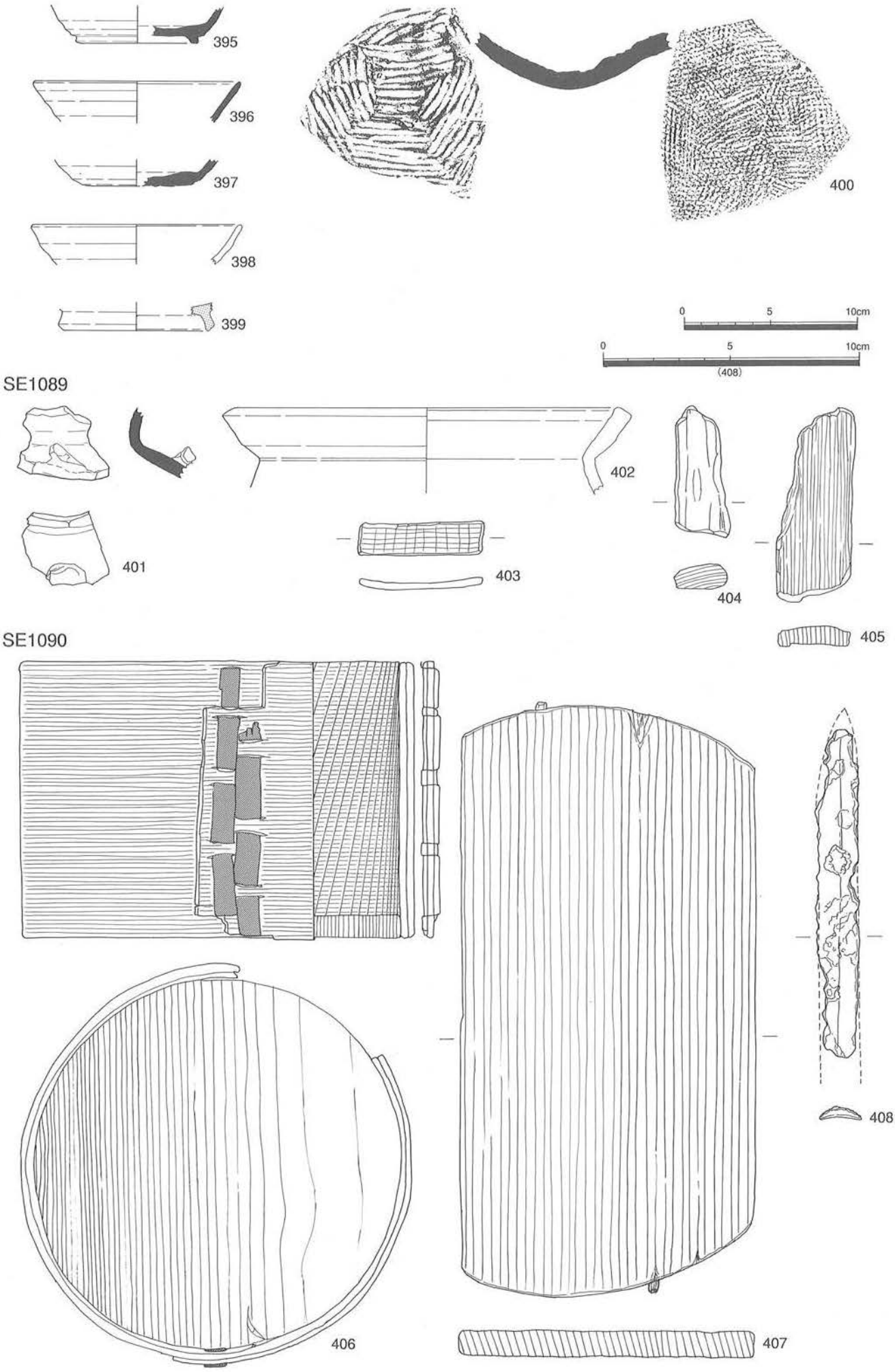


SE1077

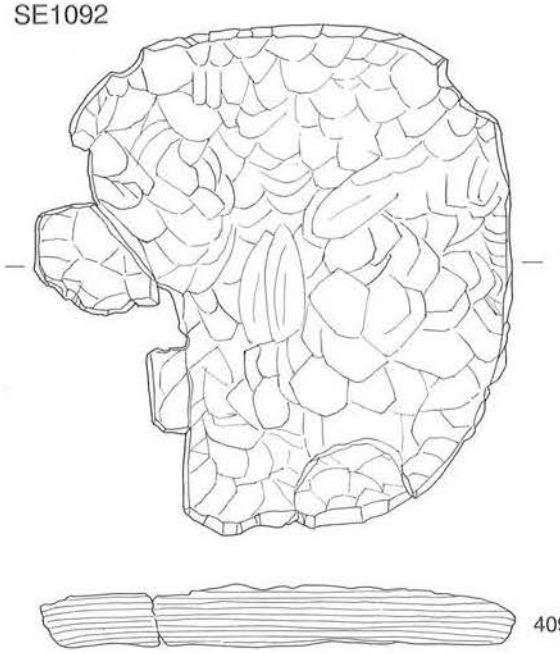


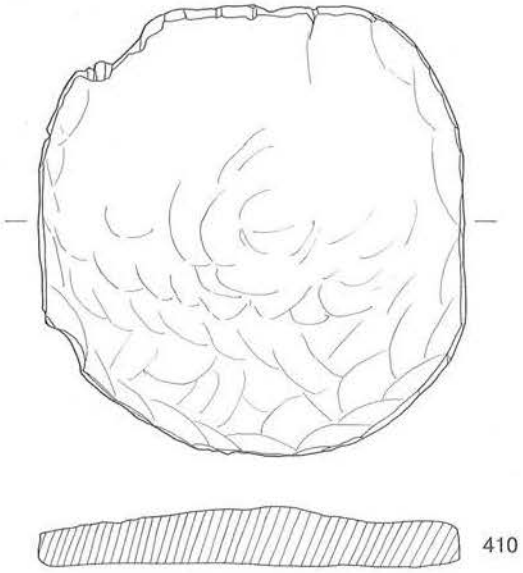
SK1081




395
396
397
398
399
400
0
5
10cm
0
5
10cm
(408)
SE1089
401
402
403
404
405
SE1090
406
407
408

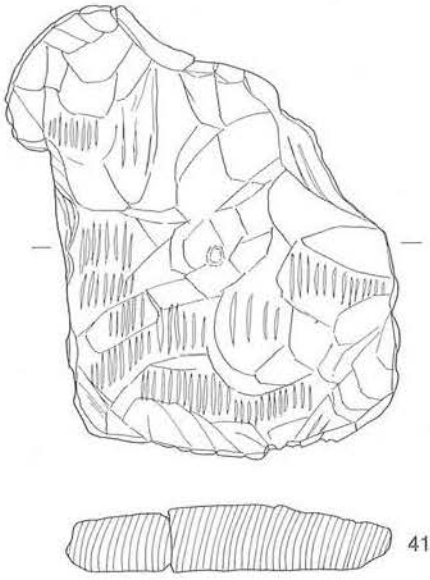
SE1092





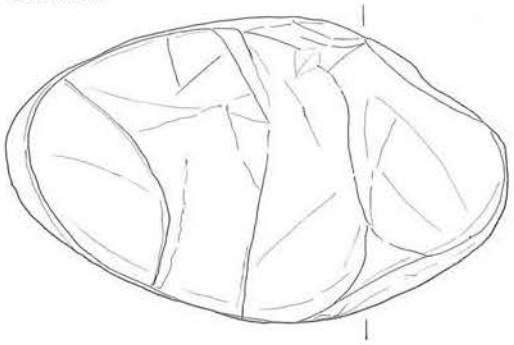
409

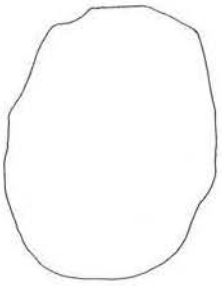
410

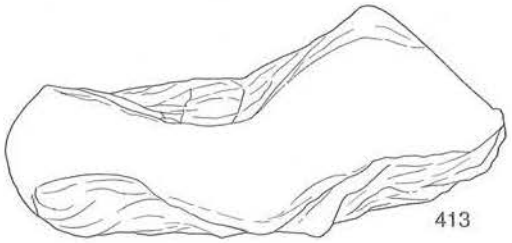


411

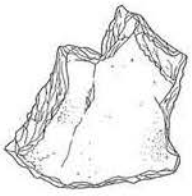
SK1091

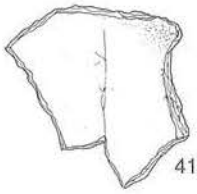




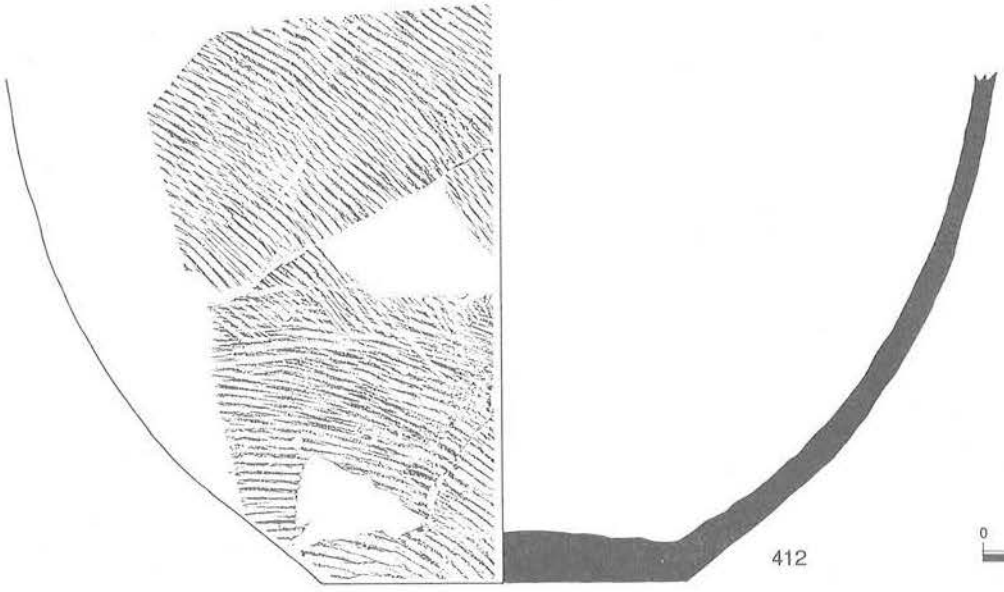


413





414

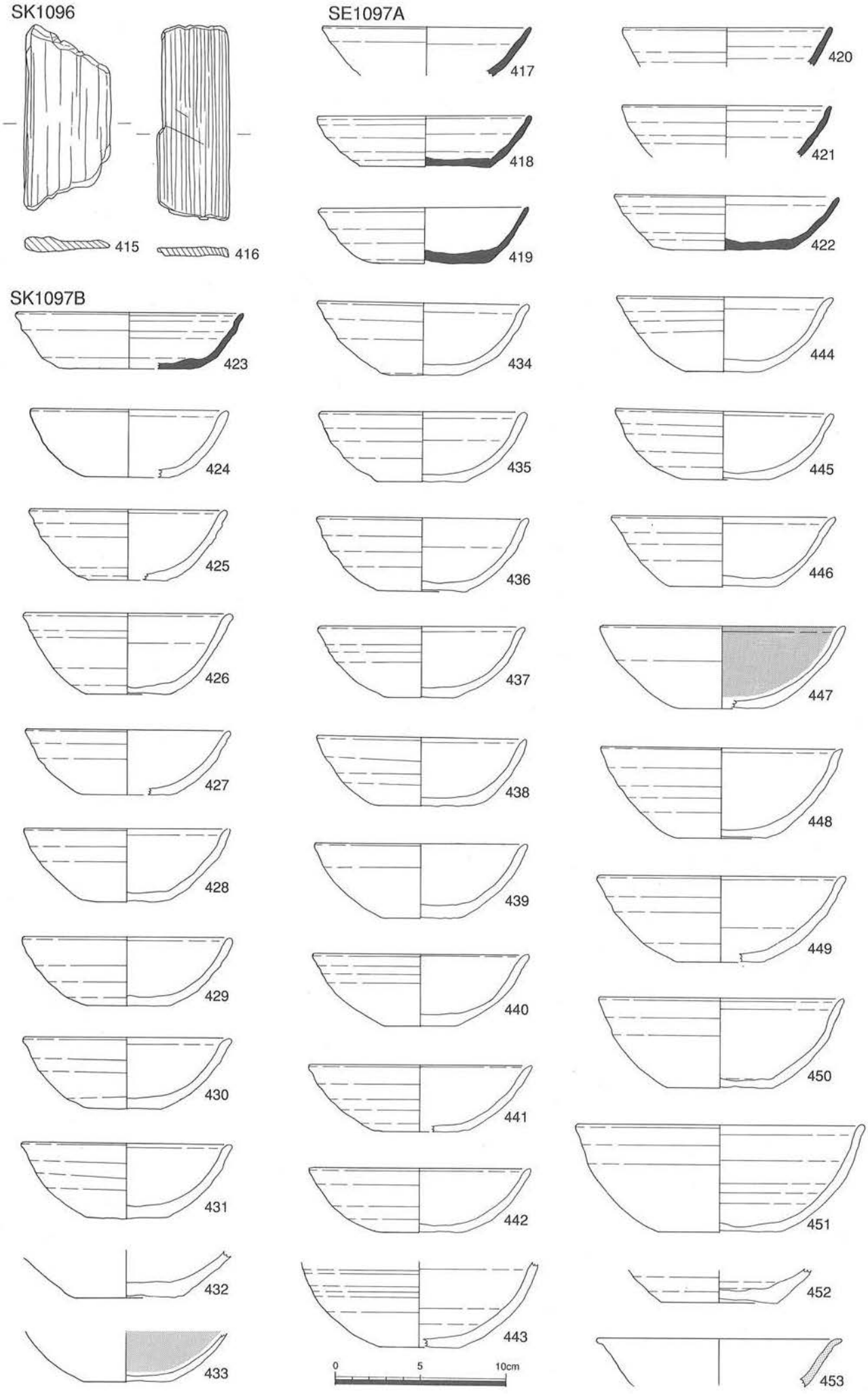


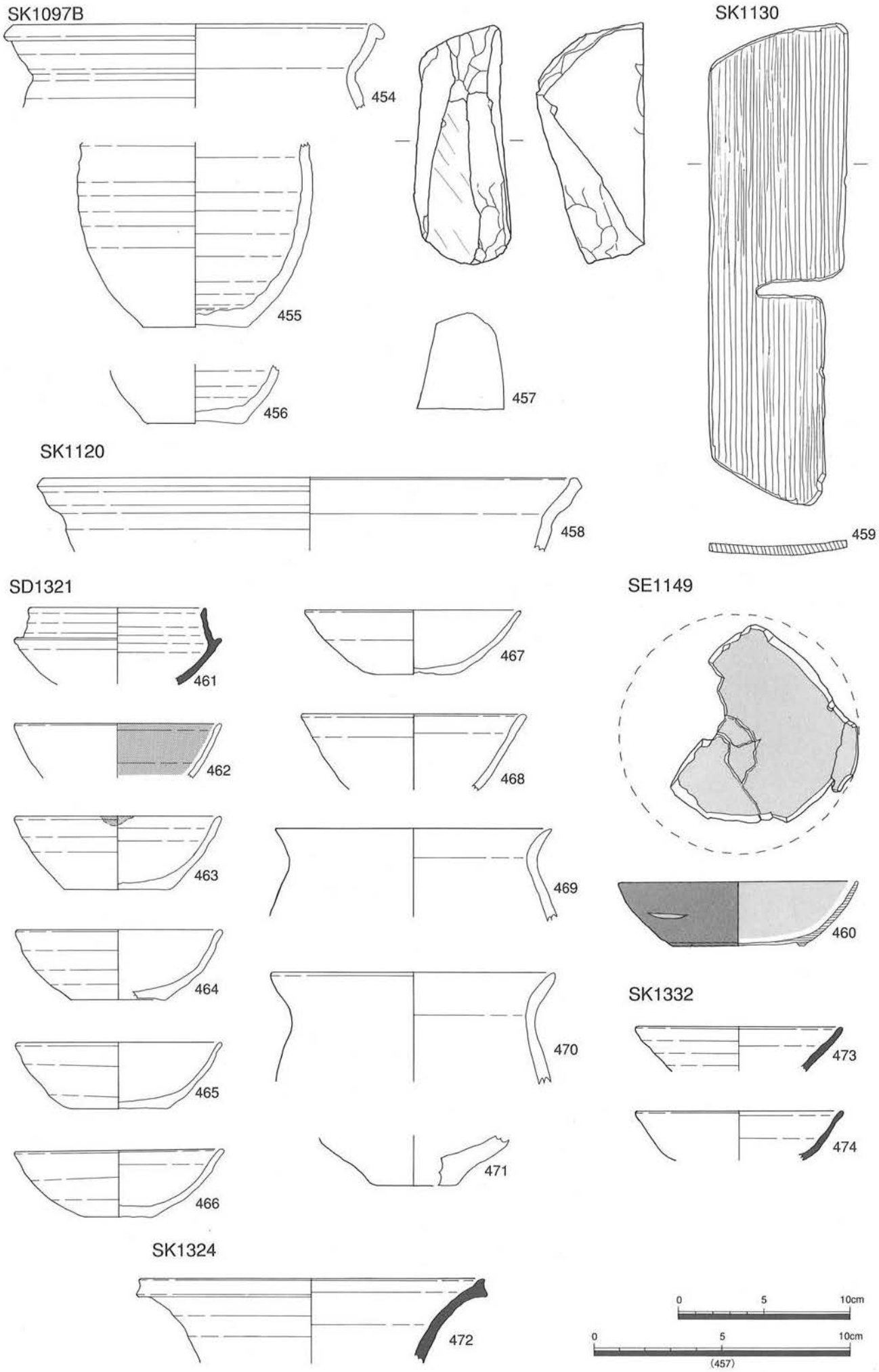
412

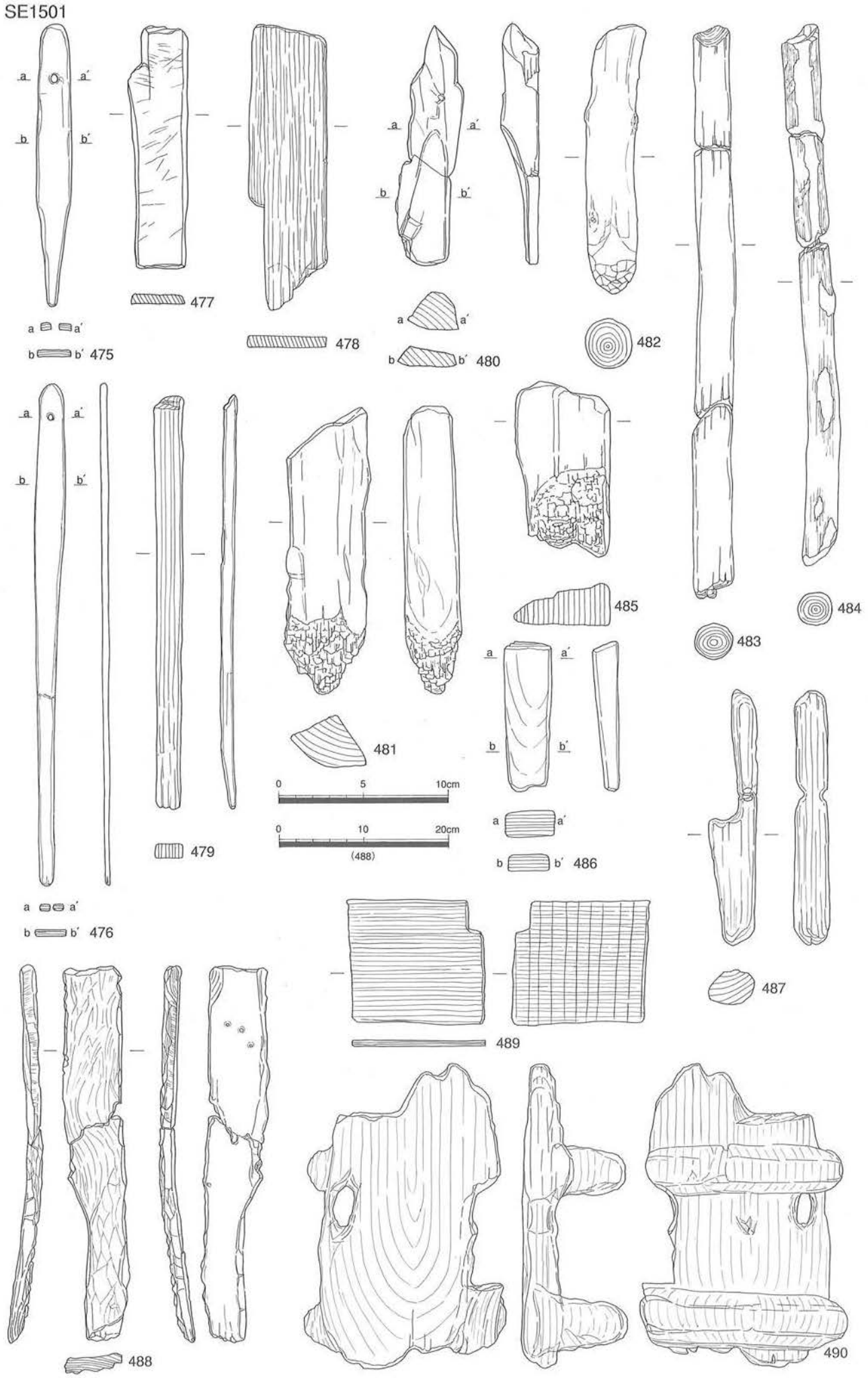
0 5 10cm

(412)

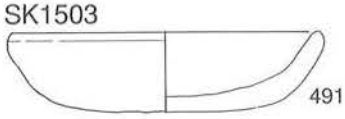
0 10 20cm

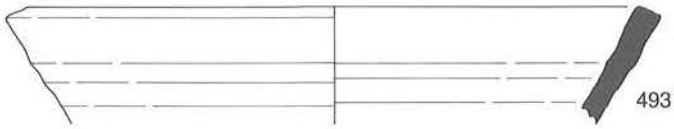

SK1096
415
416
SE1097A
417
418
419
420
421
422
SK1097B
423
424
425
426
427
428
429
430
431
432
433
434
435
436
437
438
439
440
441
442
443
444
445
446
447
448
449
450
451
452
453
0
5
10cm


SK1097B
454
455
456
457
SK1130
459
SK1120
458
SD1321
461
462
463
464
465
466
467
468
469
470
471
SE1149
460
SK1332
473
474
SK1324
472
0 5 10cm
0 5 10cm
(457)

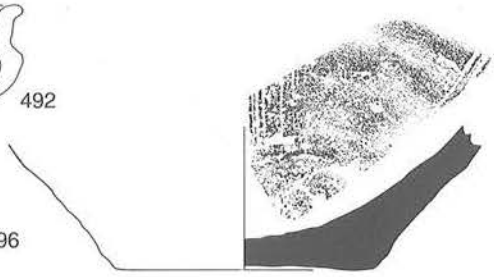

SE1501
a
a′
b
b′
475
476
477
478
479
480
481
482
483
484
485
486
487
488
489
490
0
5
10cm
0
10
20cm
(488)

SK1503

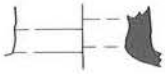

491


493

492

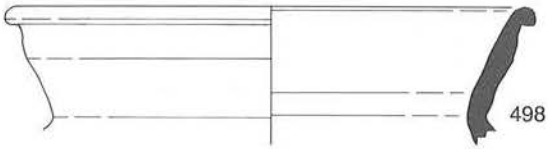


496

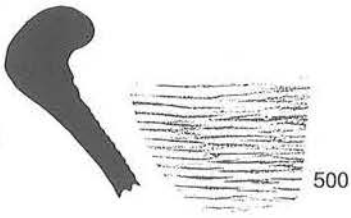

497

494

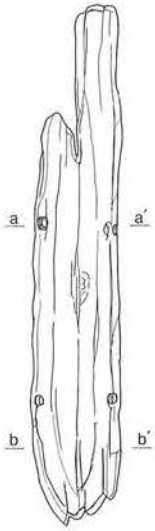
495

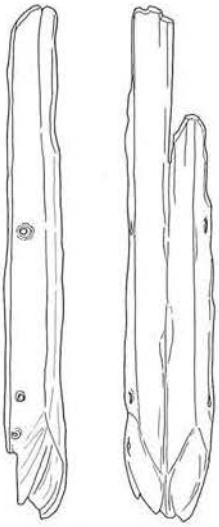

498

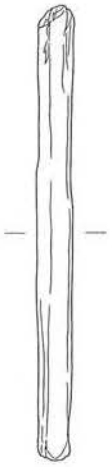
499

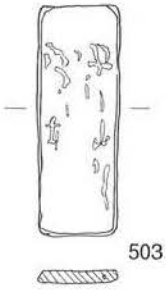

500

SE2258

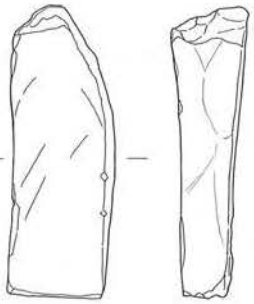


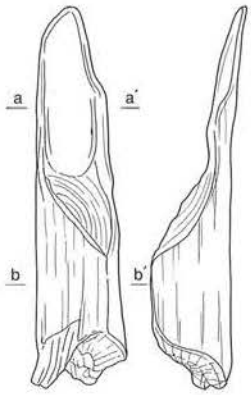


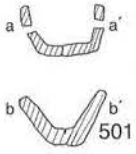



503

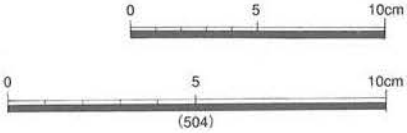
502



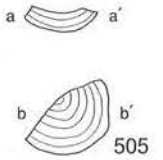




501

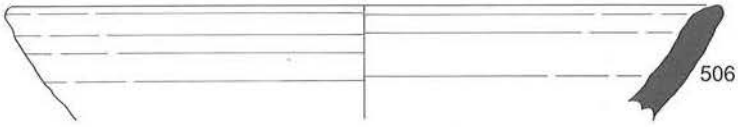


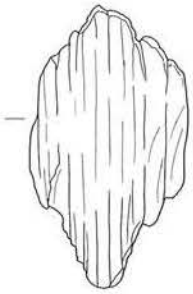
504

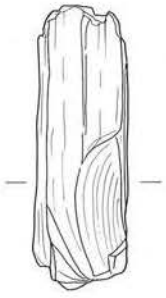


505

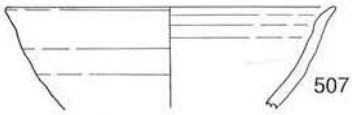
SK1532

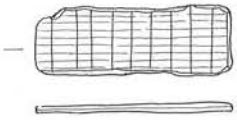

506





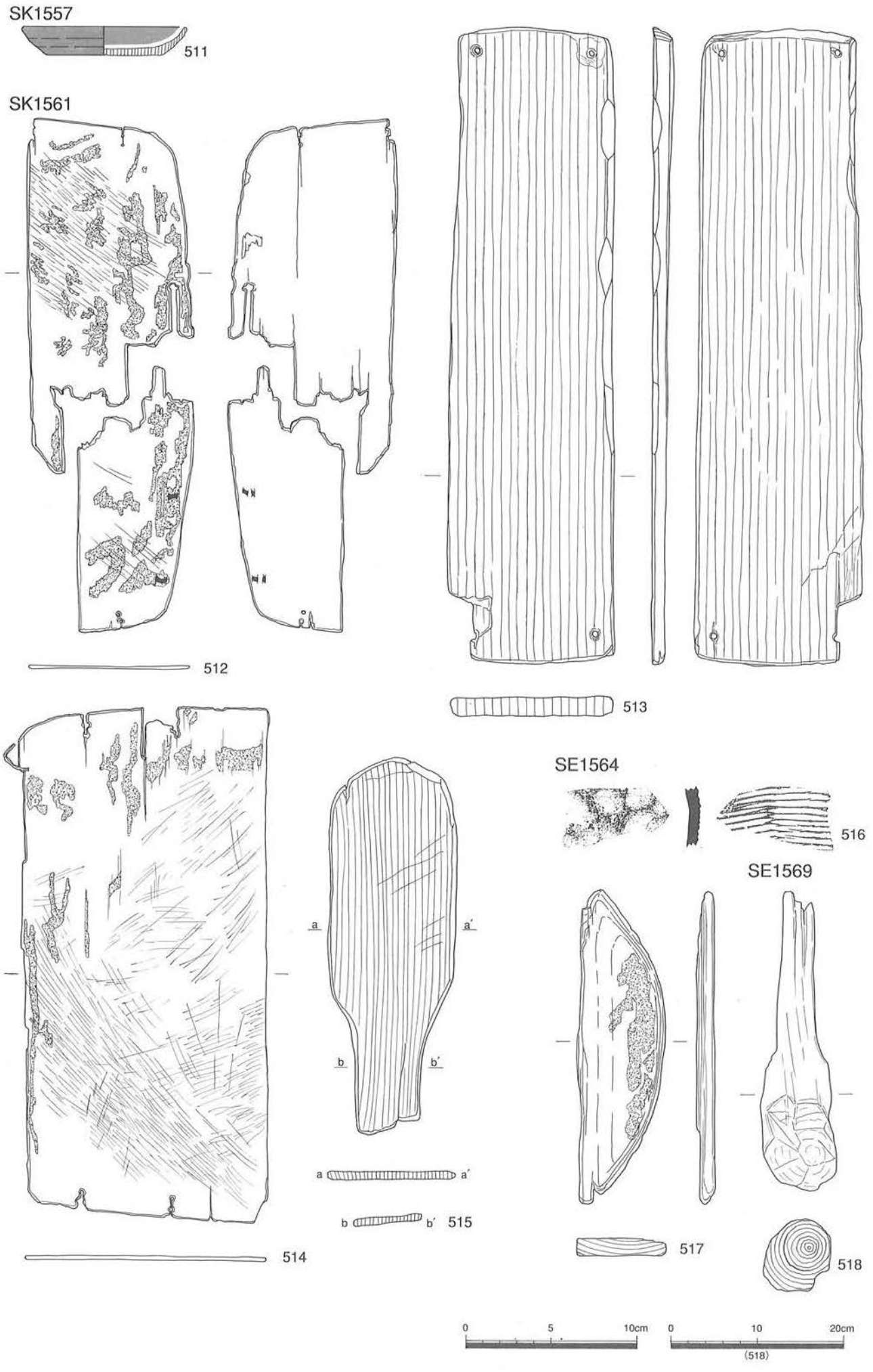
SK1533


507

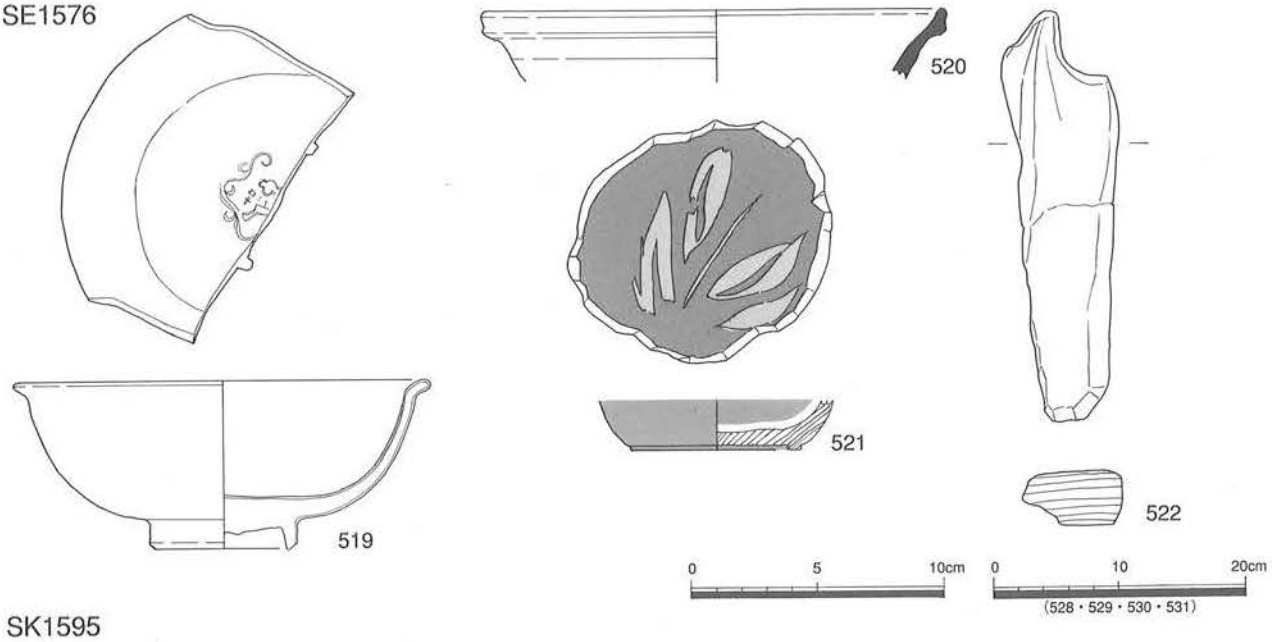

508

509

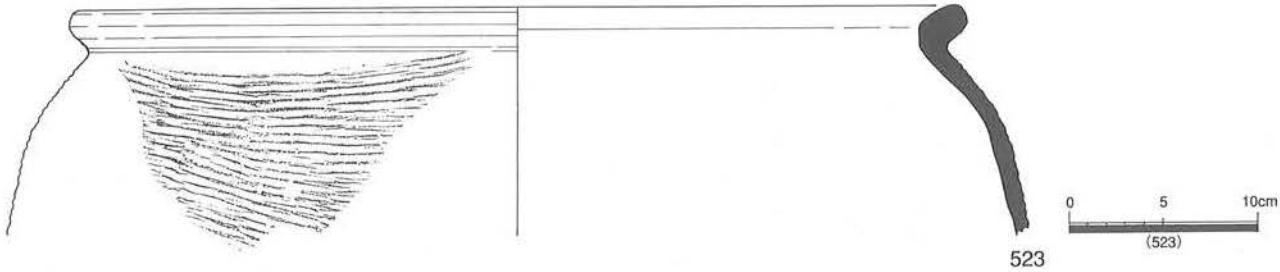
510


SK1557
511
SK1561
512
513
514
a
a′
b
b′
a
a′
b
b′
515
SE1564
516
SE1569
517
518
0
5
10cm
0
10
20cm
(518)

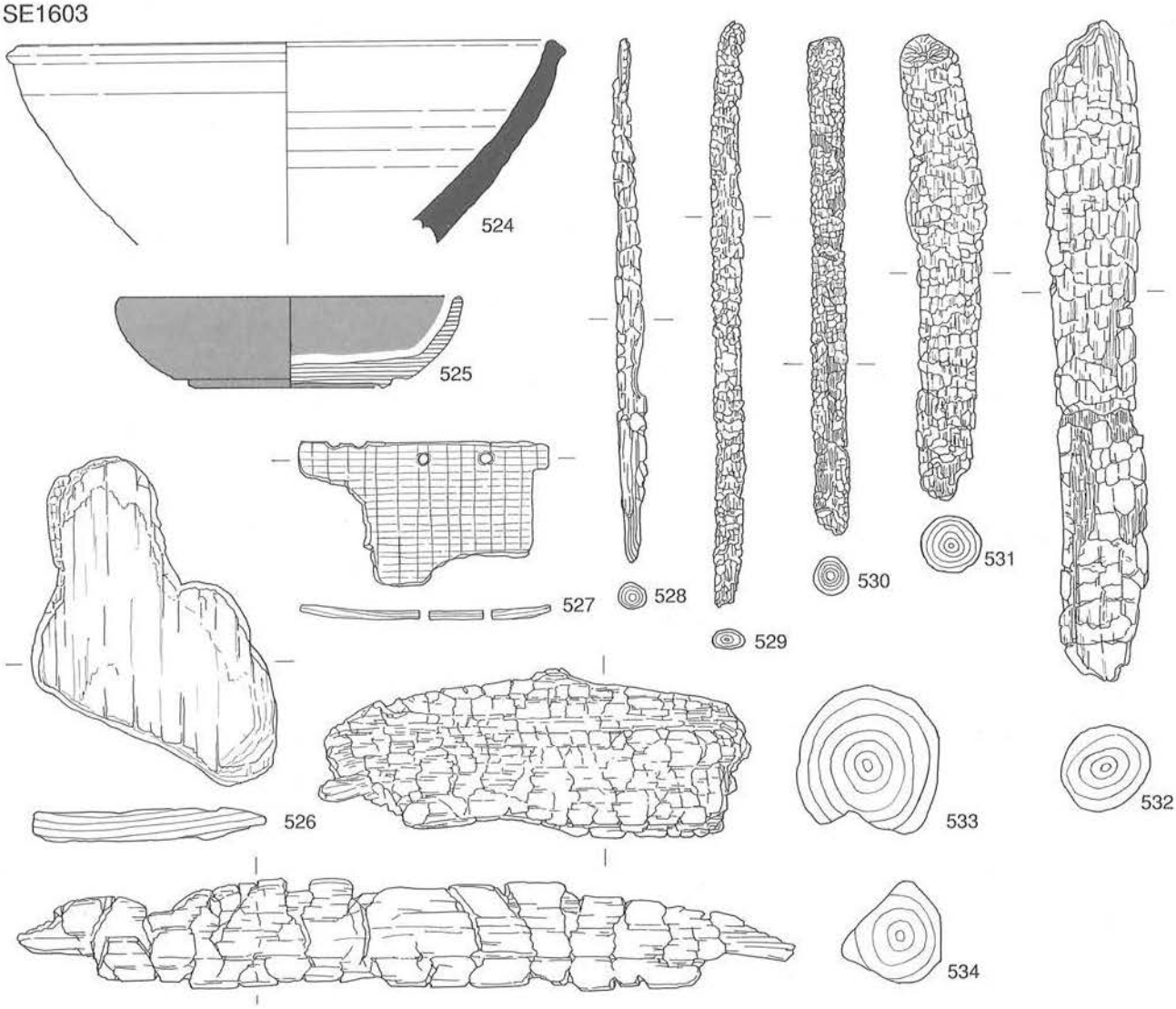
SE1576

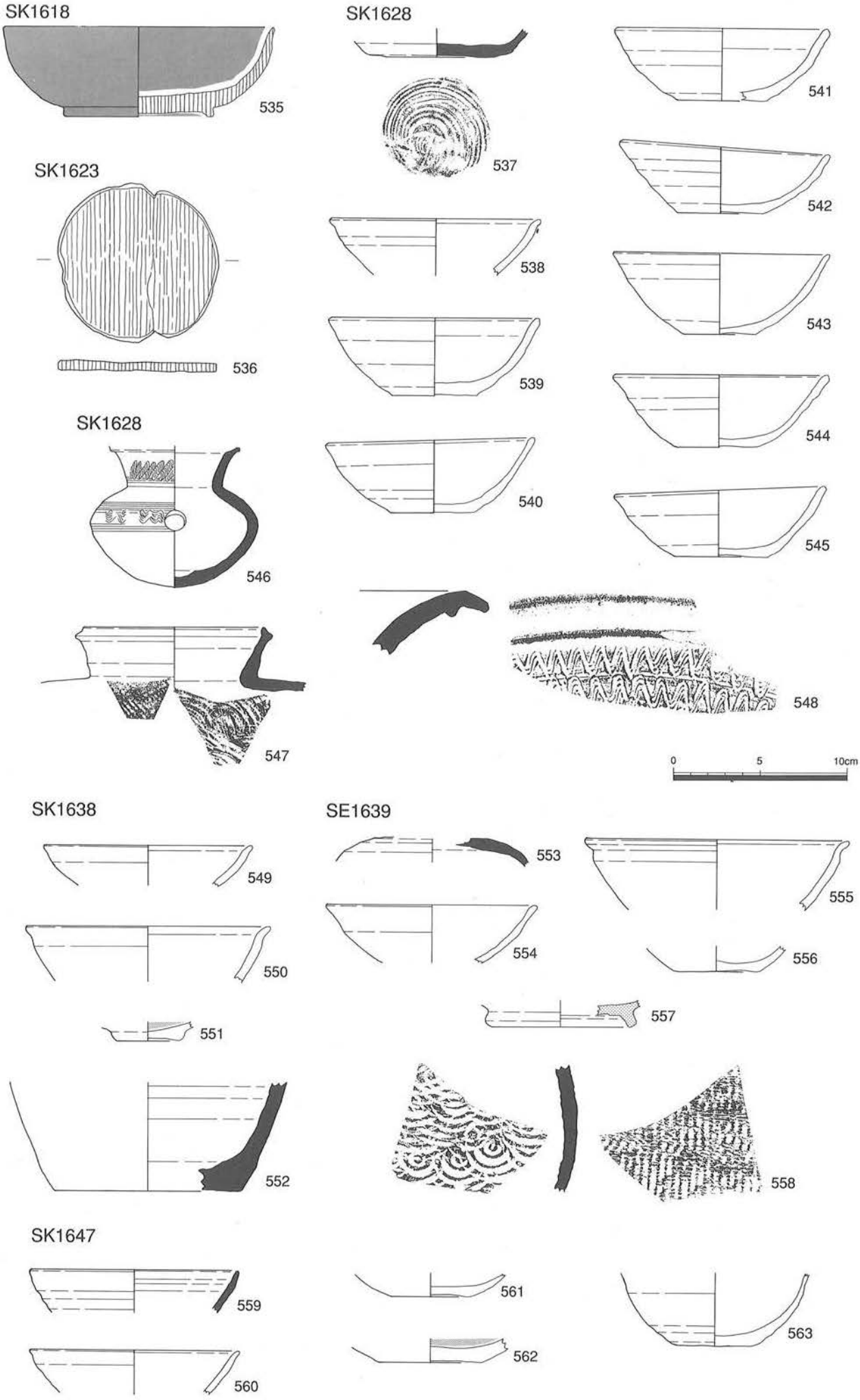


SK1595

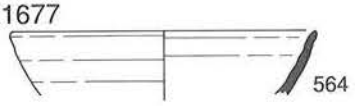


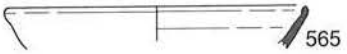
SE1603

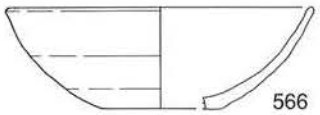


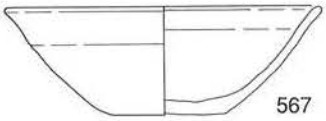

SK1618
535
SK1623
536
SK1628
537
538
539
540
541
542
543
544
545
546
547
548
0
5
10cm
SK1638
549
550
551
552
SE1639
553
554
555
556
557
558
SK1647
559
560
561
562
563

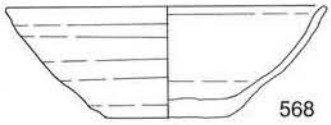
SK1677

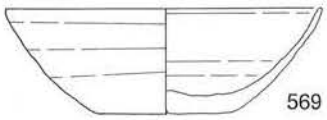

564

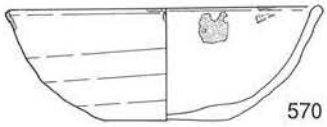

565

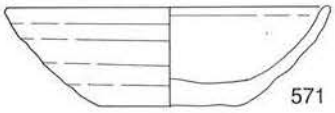

566

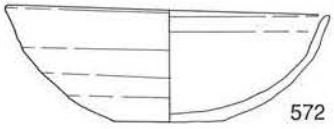

567

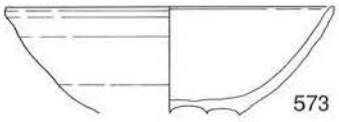

568

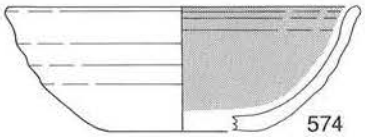

569

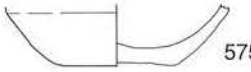

570


571

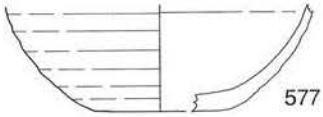

572

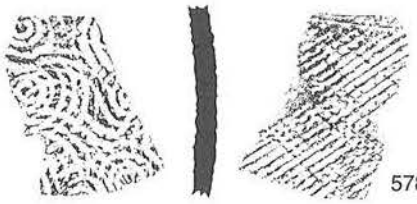

573

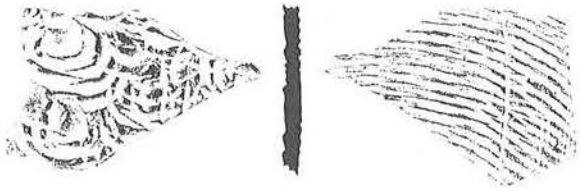

574

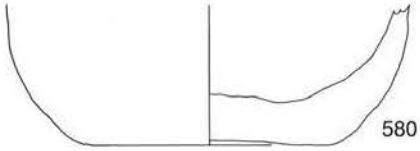

575

576

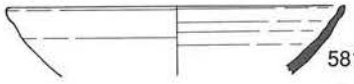

577

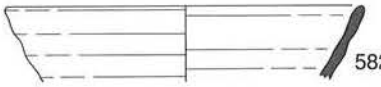

578


579

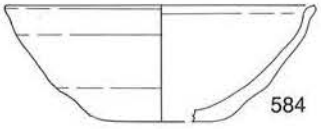

580

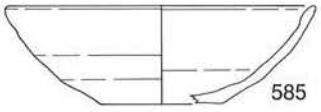
SK1678


581


582

583


584

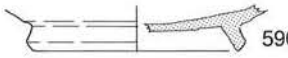

585

586

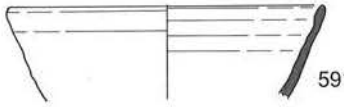
587

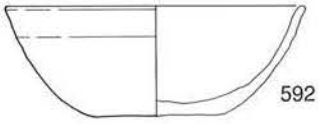
588

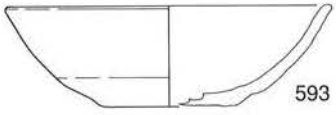
589

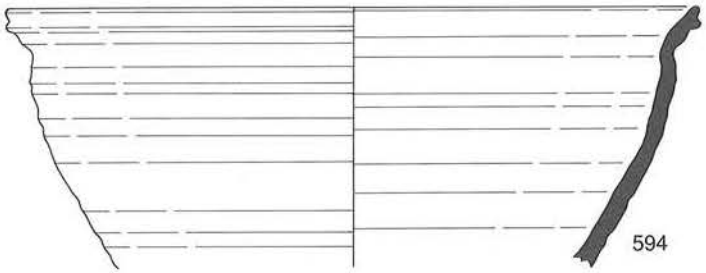

590

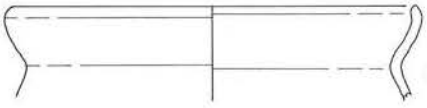
SK1679

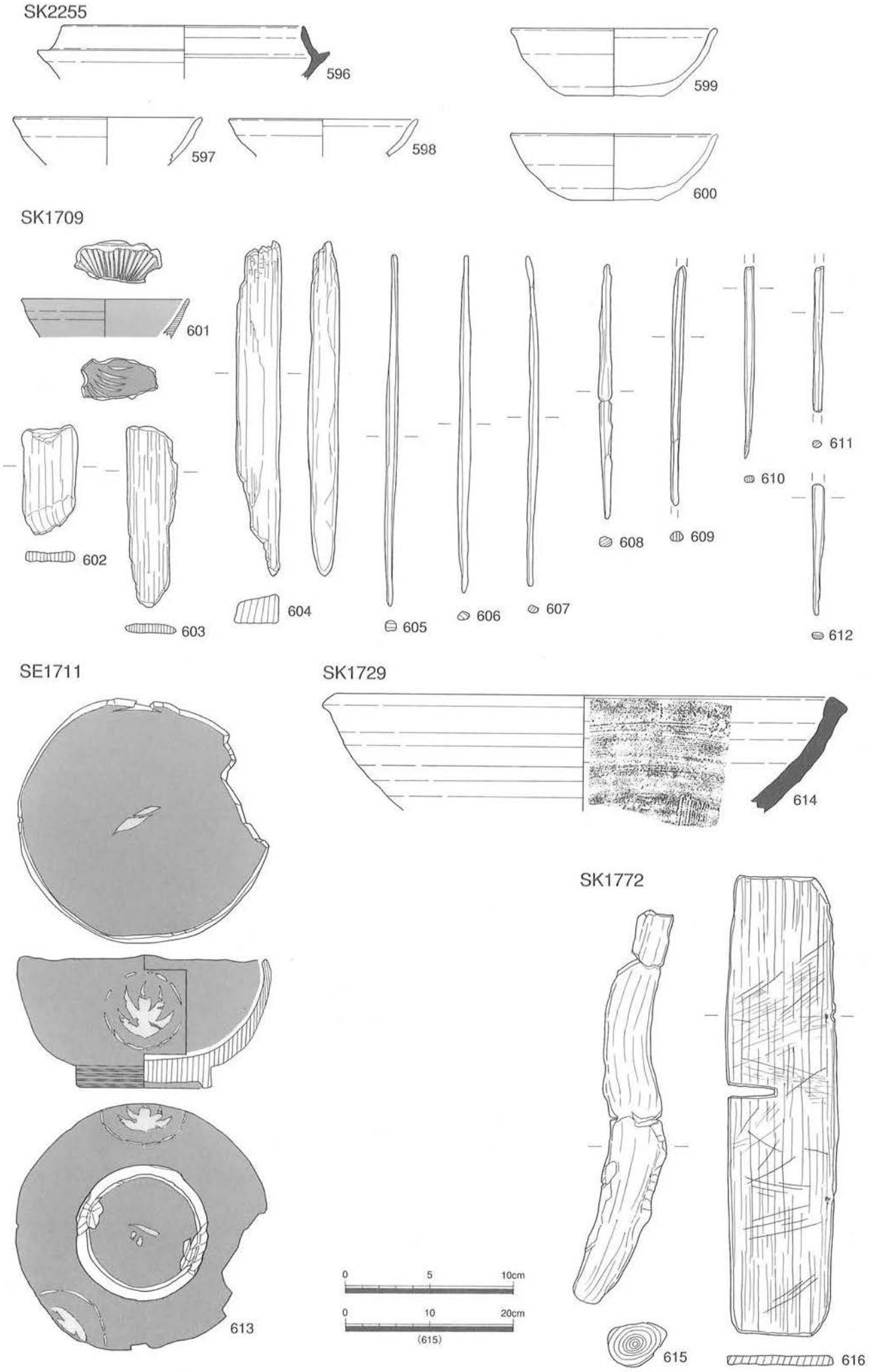

591

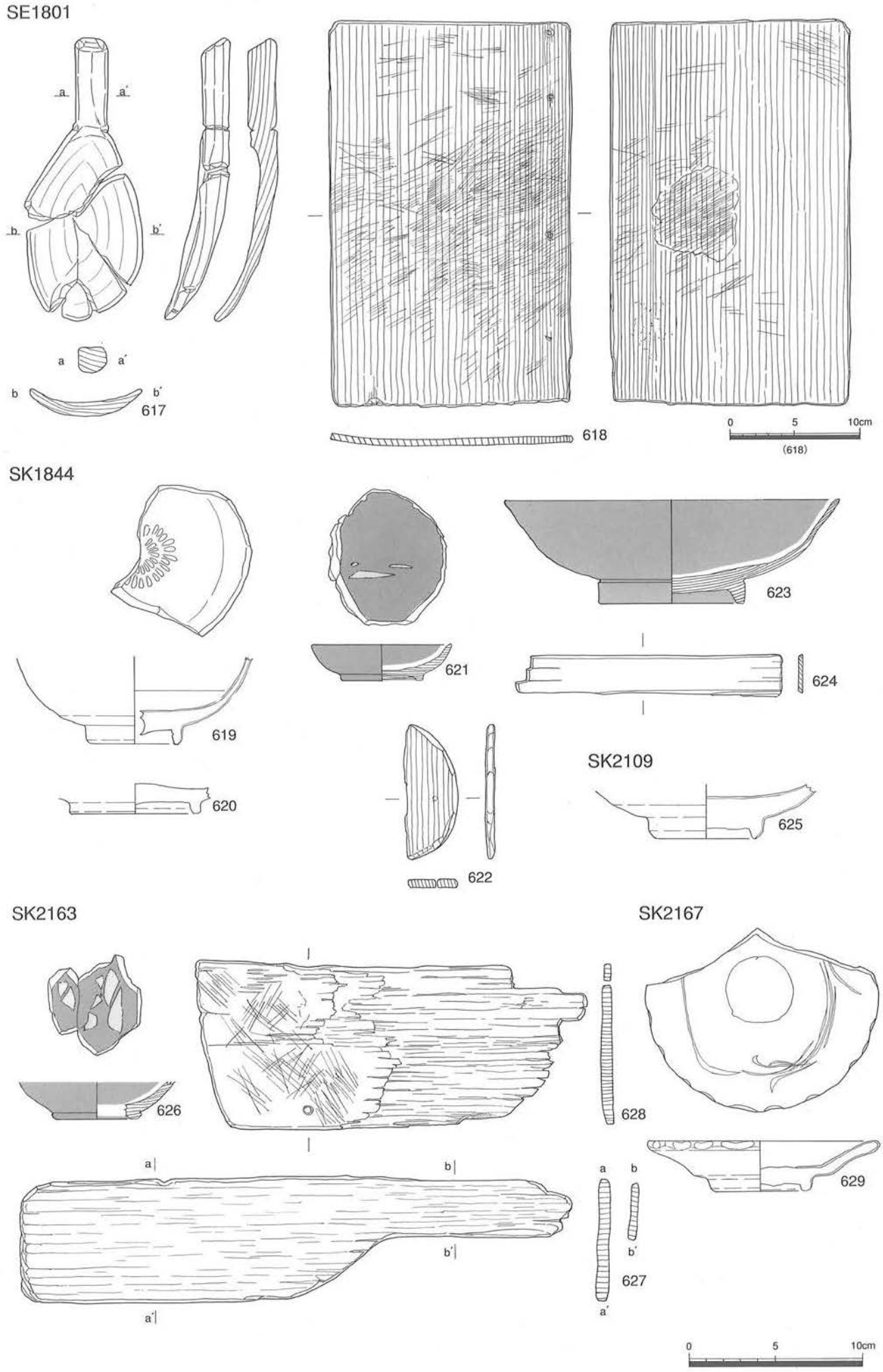

592


593

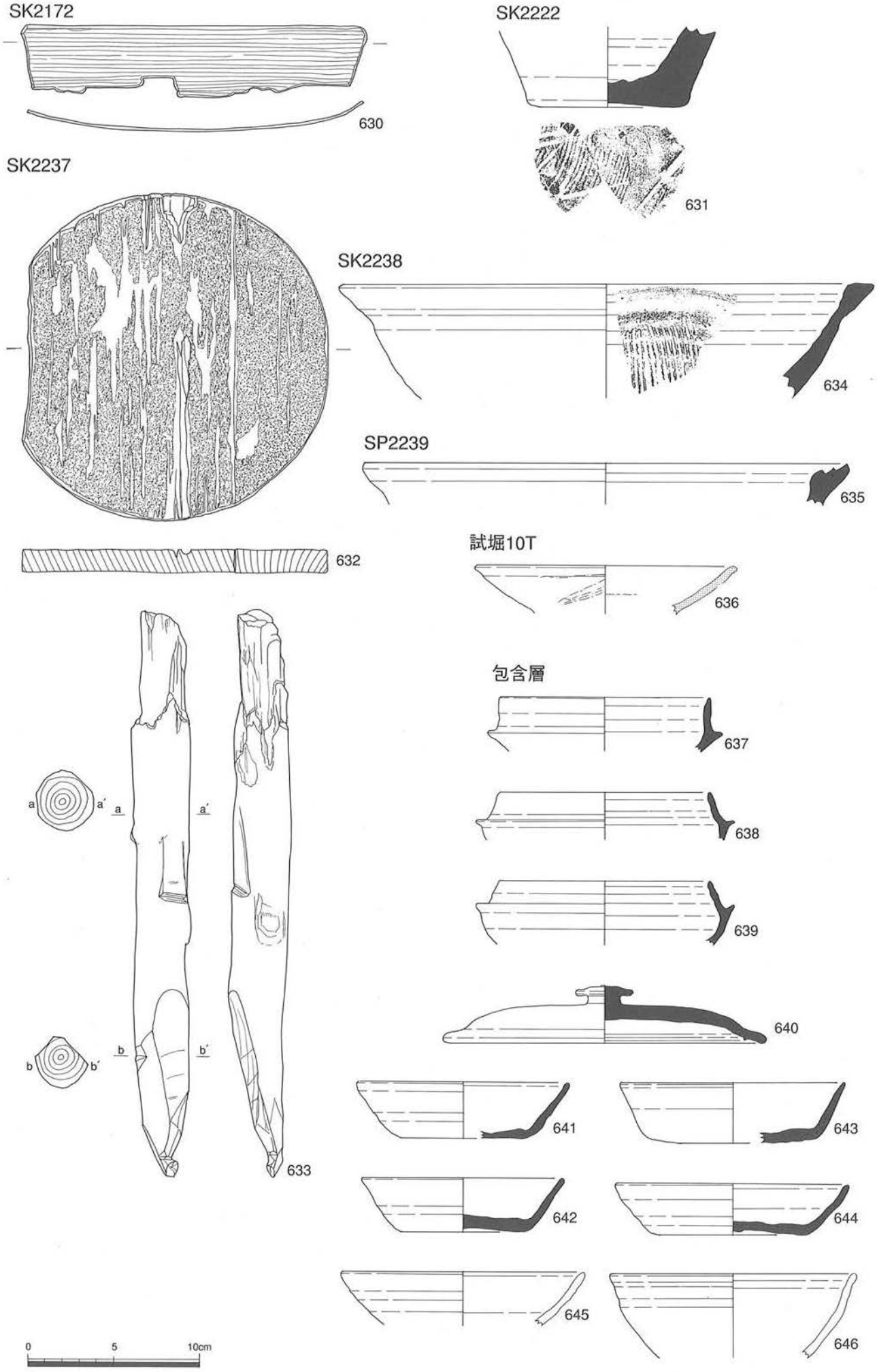

594

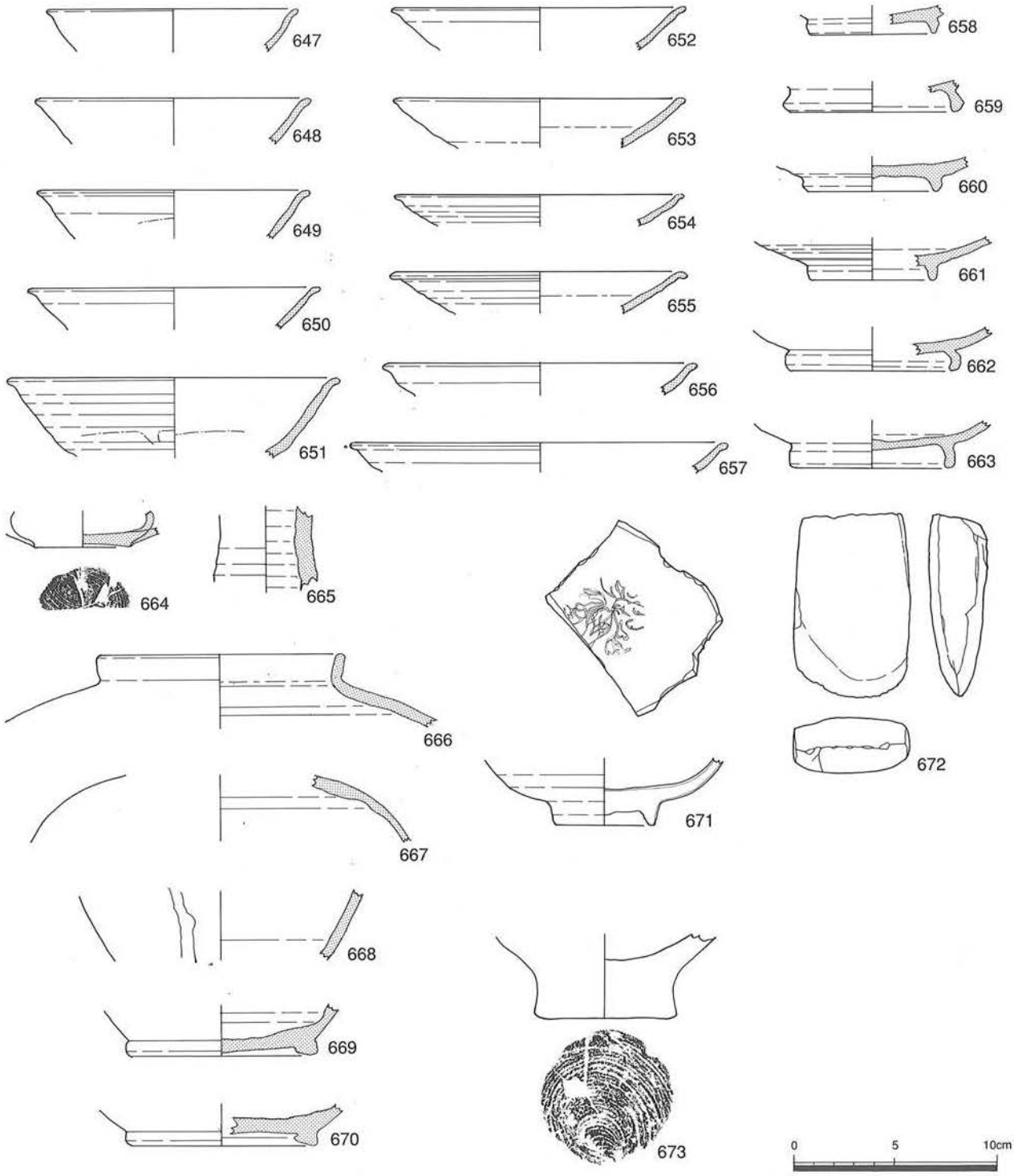

595


SK2255
596
597
598
599
600
SK1709
601
602
603
604
605
606
607
608
609
610
611
612
SE1711
613
SK1729
614
SK1772
615
616
0 5 10cm
0 10 20cm
(615)


SE1801
a
a′
b
b′
617
618
0 5 10cm
(618)
SK1844
619
620
621
622
623
624
SK2109
625
SK2163
626
a
b
a′
b′
SK2167
627
628
629
0 5 10cm

SK2172・SK2237・SK2222・SK2238・SP2239・試堀10T・包含層

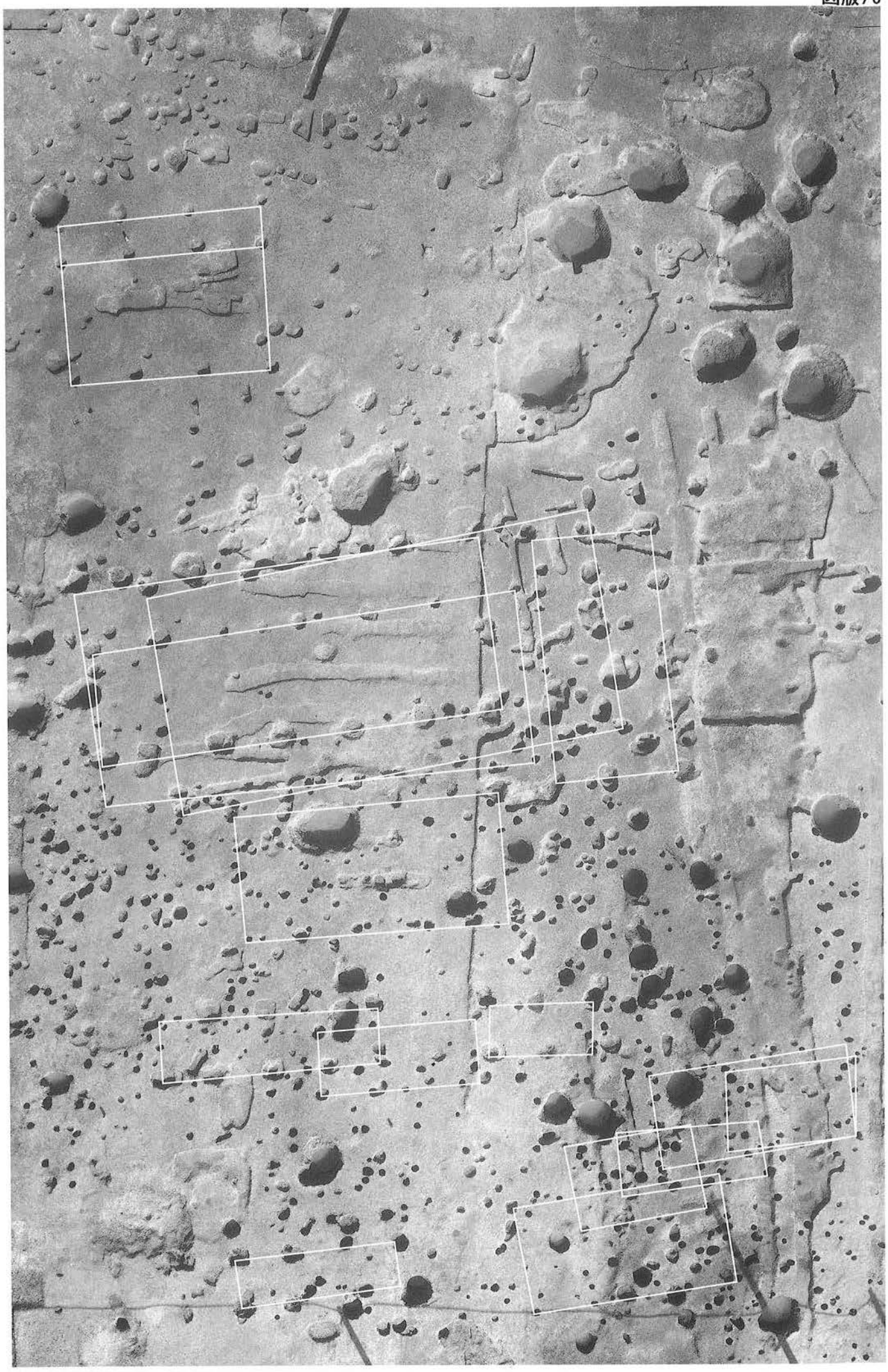



647
648
649
650
651
652
653
654
655
656
657
658
659
660
661
662
663
664
665
666
667
668
669
670
671
672
673
0
5
10cm

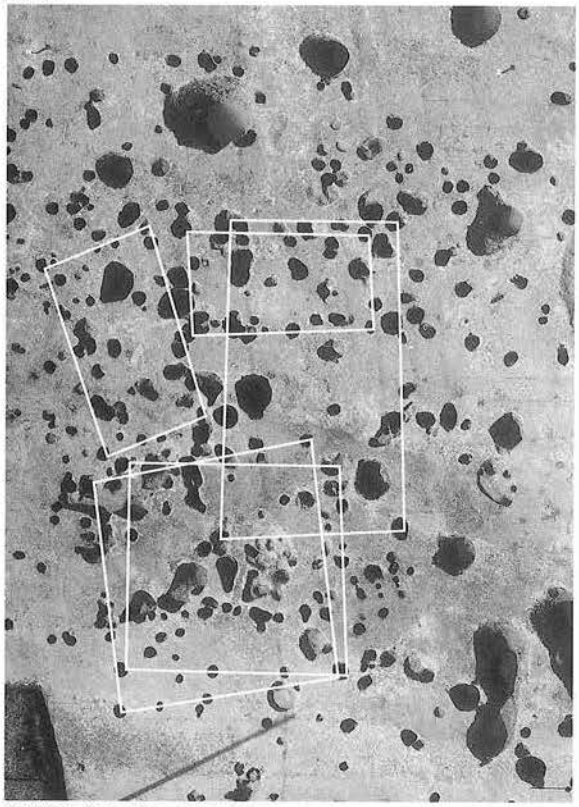
調査区全景

遺跡遠景1（北から）

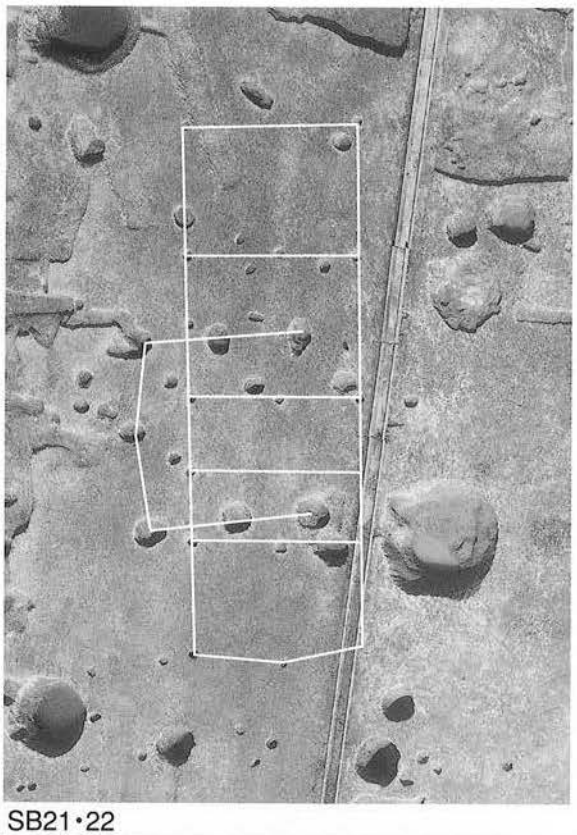
遺跡遠景2（東から）



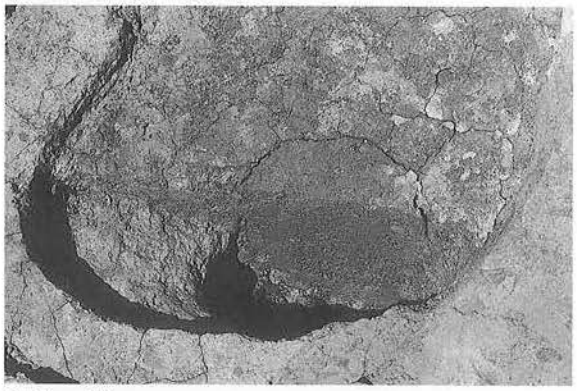
堀立柱建物群SB1～14・23



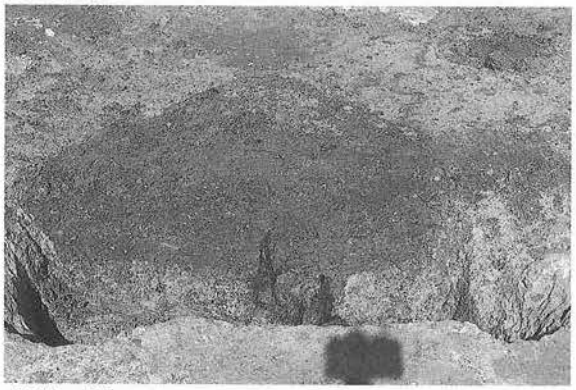
SB15・16・17・18・19



SB21・22



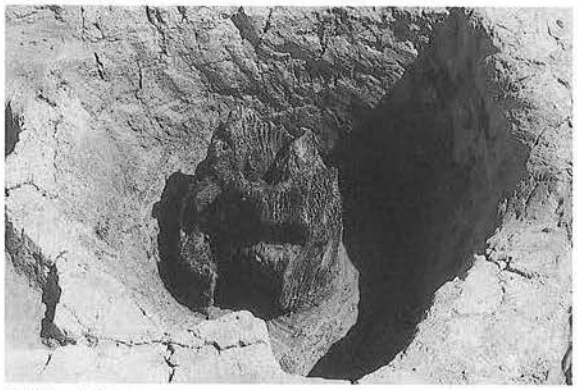
SB1　P2



SB1　P3

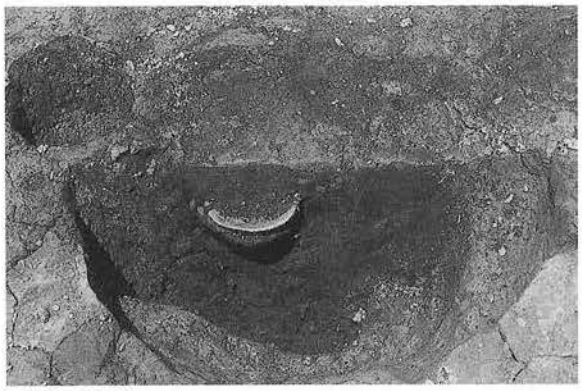
SB1　P3

SB1　P4検出



SB1　P6

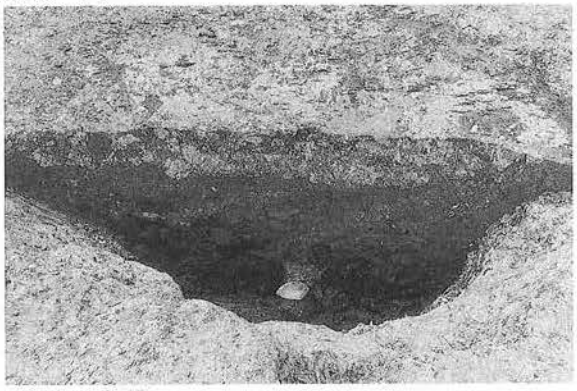
SB1　周溝層位


SB5　P10

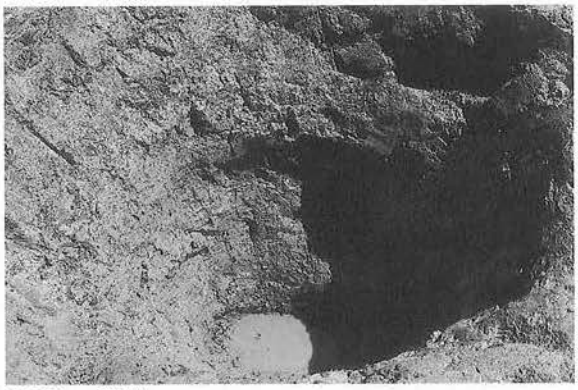
SB7　P7

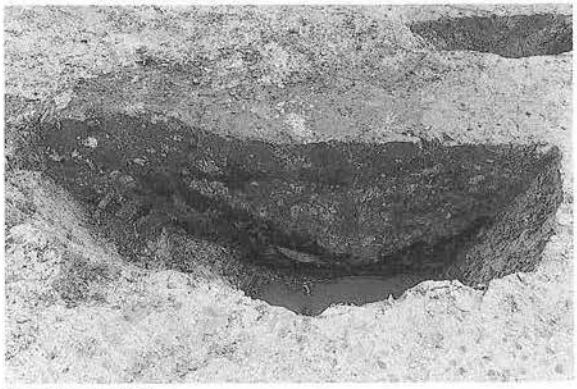
SB8　P1

SE33　半截

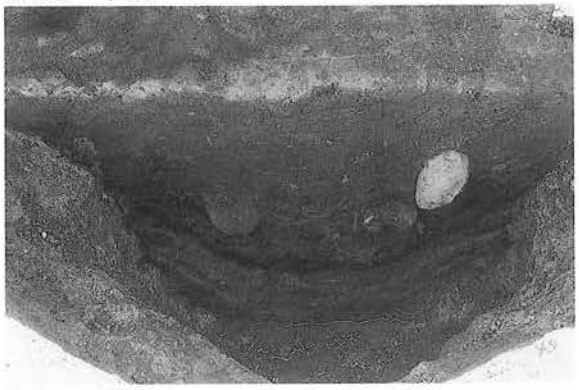

SK51　半截

SK51　矢板出土状況

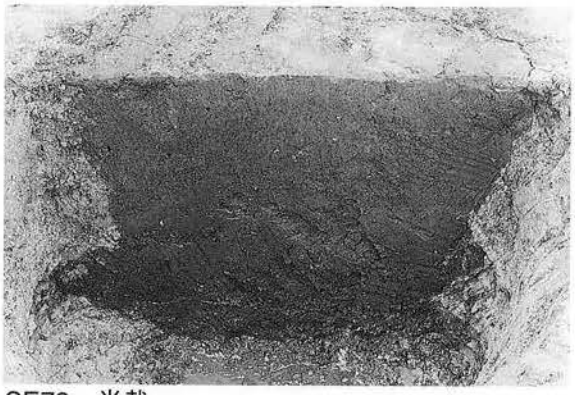

SK51　完掘


SE56　半截

SE56　完掘


SE67　半截

SK70　半截


SE78　半截

SK178　出土状況

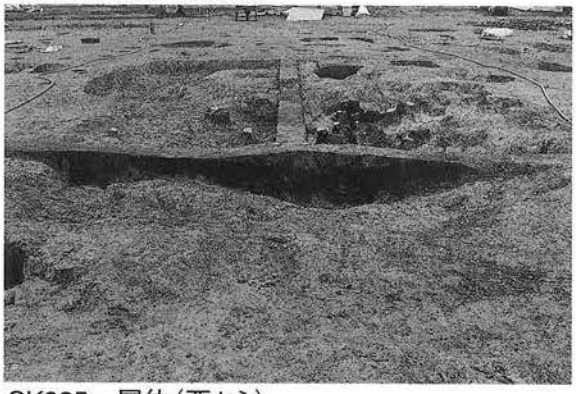
SE199　半截

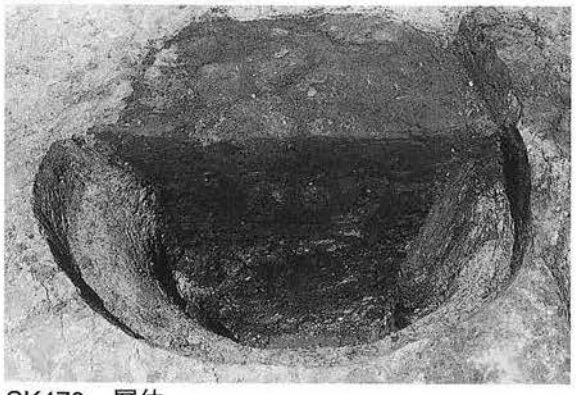
SE199　遺物出土状況

SE199　完掘

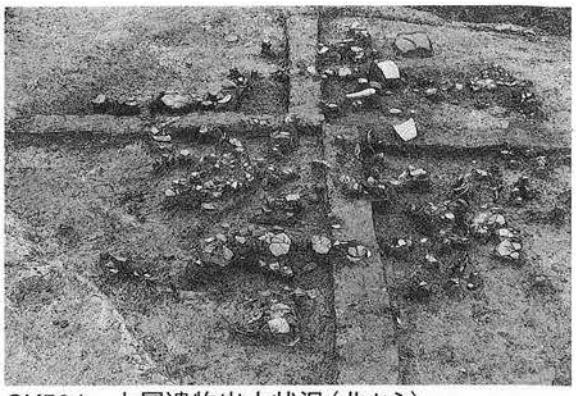
SK255　層位（南から）

SK325　層位（南から）

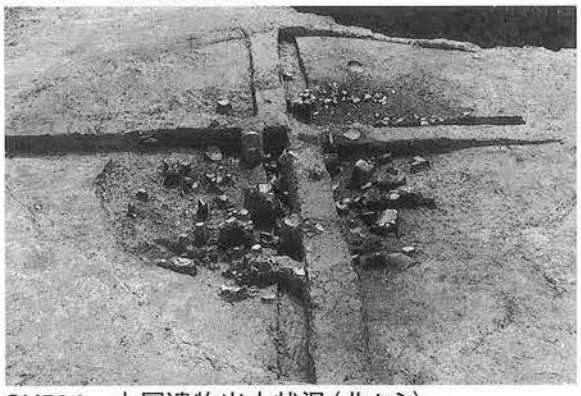

SK325　層位（西から）


SK470　層位

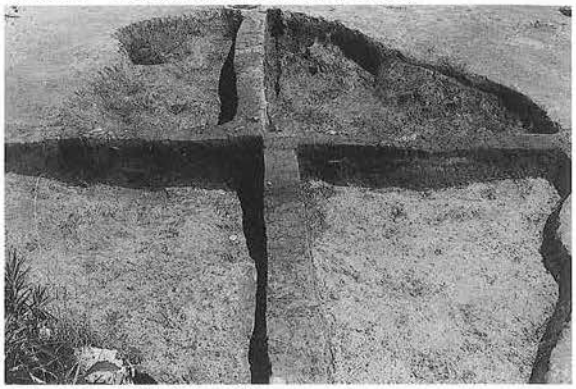
SK504　検出（南から）



SK504　上層遺物出土状況（北から）

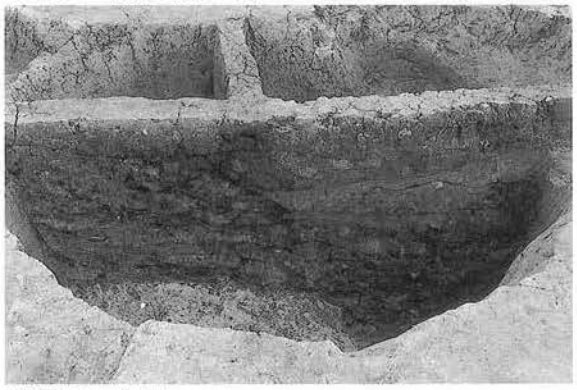


SK504　中層遺物出土状況（北から）

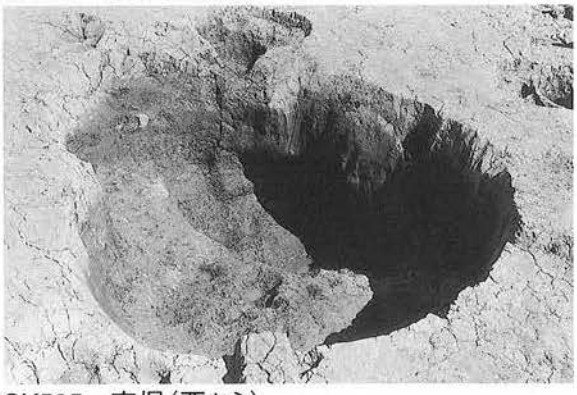


SK504　層位（南から）

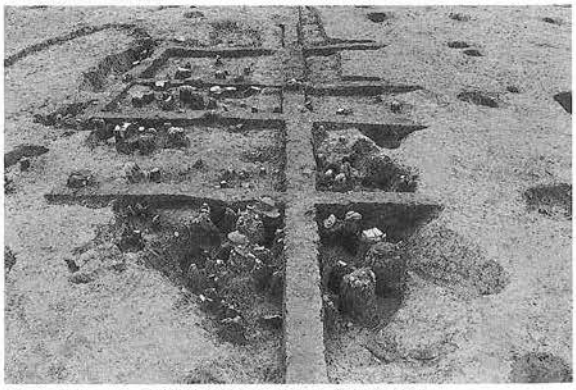
SK504　層位（東から）



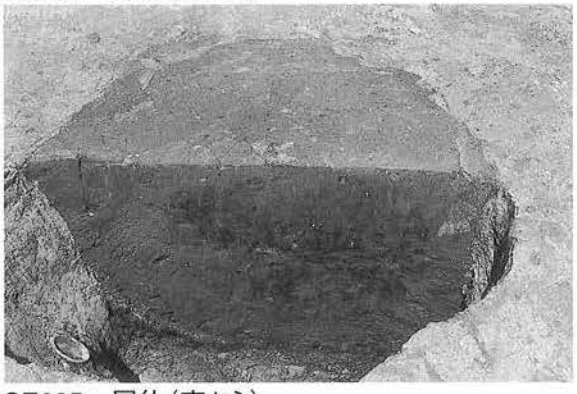
SK505　土層



SK505　完掘（西から）

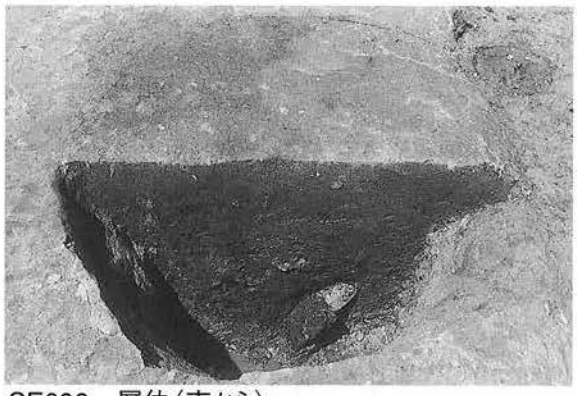


SP508　上層遺物出土状況（東から）



SE605　層位（南から）

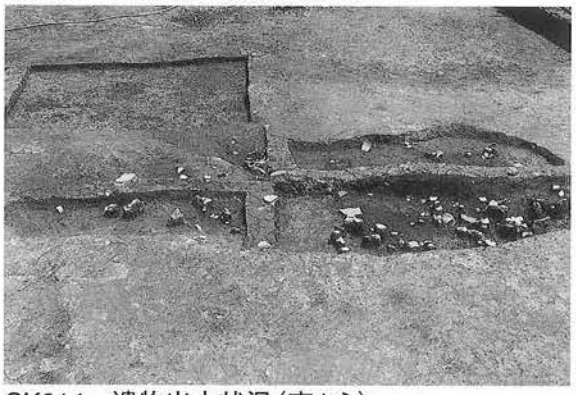
SE605　遺物出土状況（南から）



SE606　層位（南から）

SE606　遺物出土状況（南から）

SK608　遺物出土状況（南から）



SK614　遺物出土状況（南から）

SK614　土層（南から）

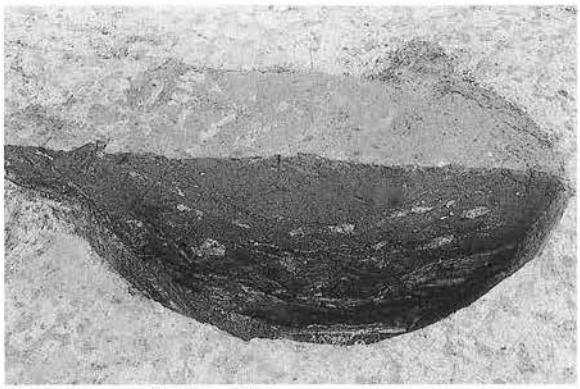
SE1092　層位（南から）

SE1092　遺物出土状況（北から）

SE873・875　層位（西から）

SE873　遺物出土状況（西から）

SE873　遺物出土状況（東から）

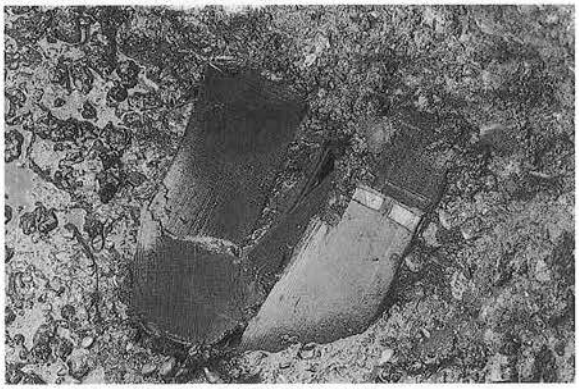


SK896　層位（東から）

SK896　遺物出土状況（東から）

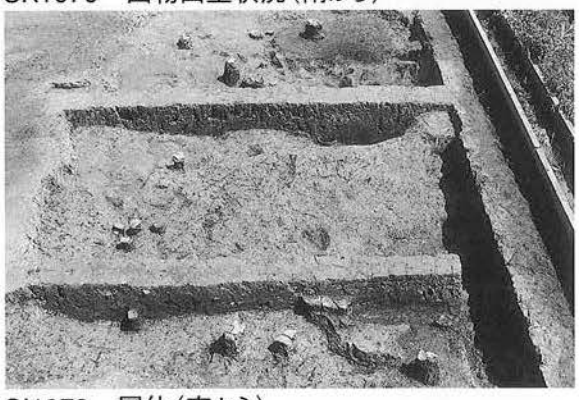
SE1028　層位（西から）

SK1070　遺物出土状況（南から）

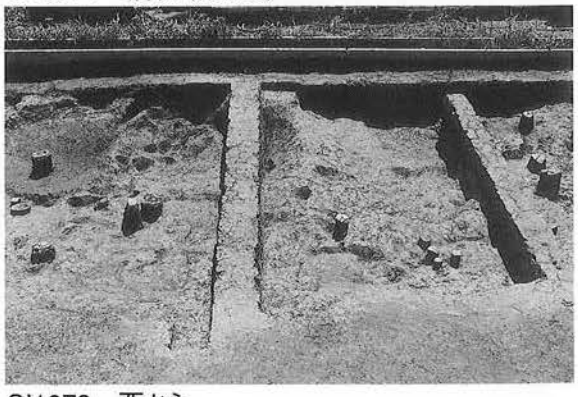


SK1070　曲物出土状況（南から）

SE1071　層位（南から）

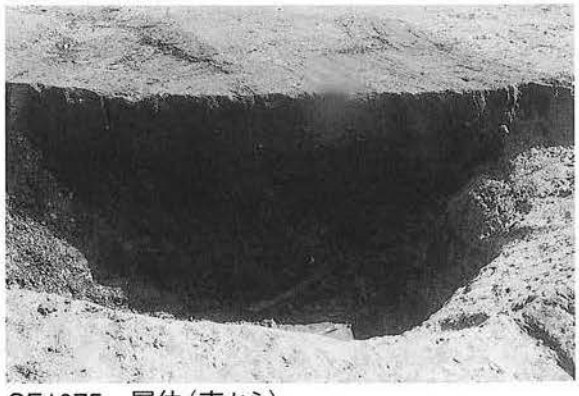


SI1073　層位（南から）



SI1073　西から

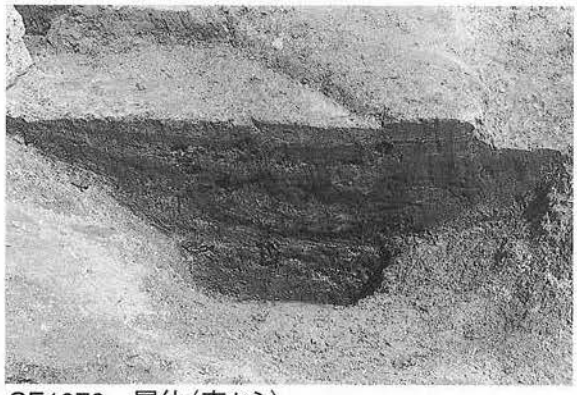
SK1074　遺物出土状況（南から）



SE1075　層位（南から）

SE1075　遺物出土状況（南から）

SE1075　完掘（北から）

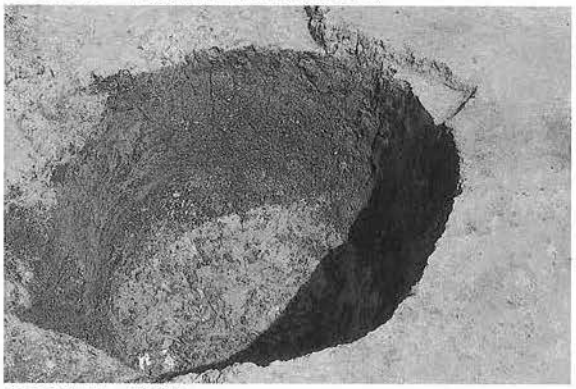


SE1076　層位（南から）

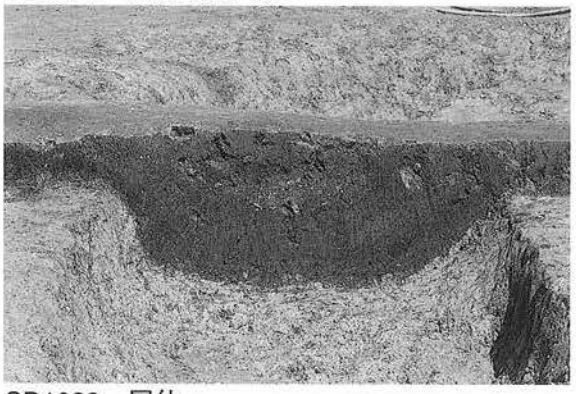
SE1076　上層遺物出土状況（南から）

SE1076　横瓶出土状況（西から）

SE1076　完掘（南から）



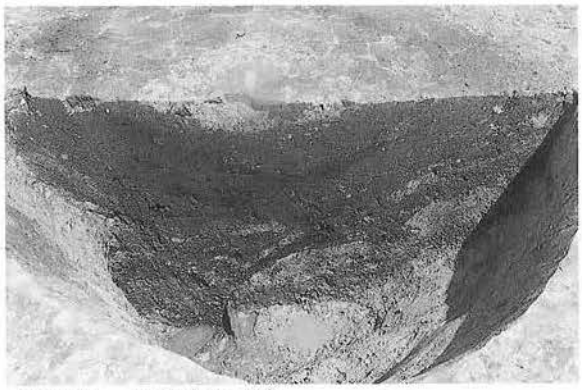
SE1077　完掘



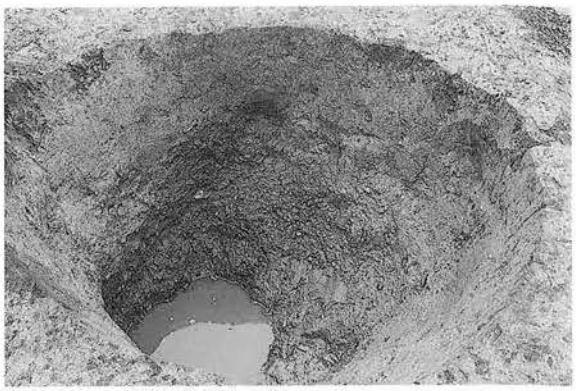
SD1083　層位

SD1083　完掘（東から）

SD1083　完掘（西から）



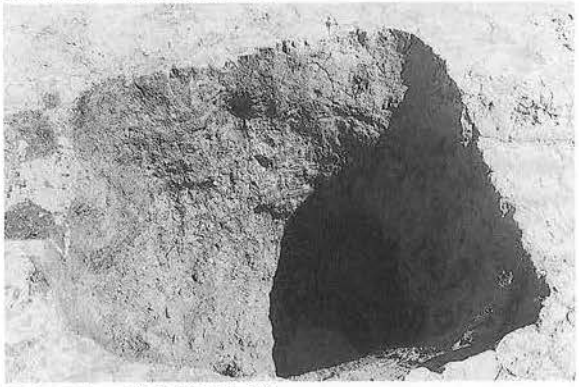
SE1089　層位（南から）



SE1089　完掘（西から）

SE1090　層位（南から）

SE1090　曲物出土状況（北から）



SE1090　完掘（西から）

SK1091　層位（南から）

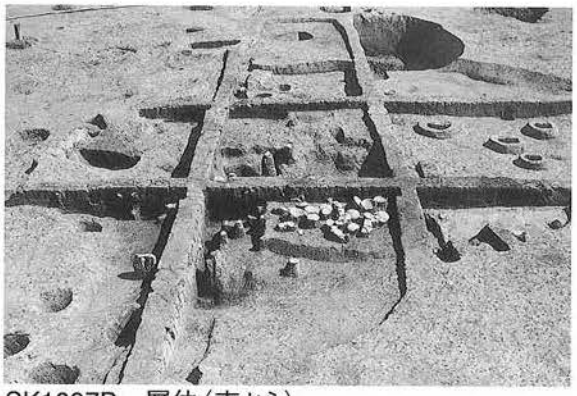
SK1091　遺物出土状況（南から）

SK1091　遺物出土状況（南から）

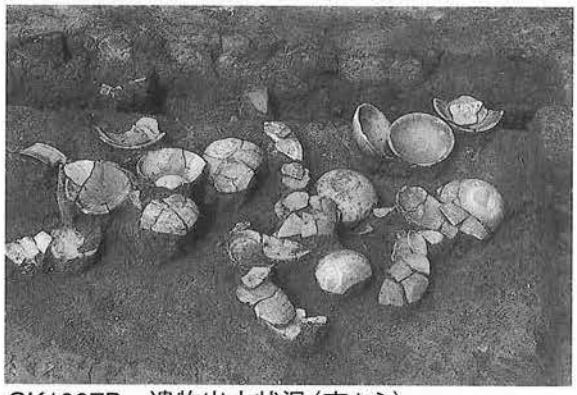
SE1096　層位（南から）

SE1097A　層位（南から）

SE1097A　底部遺物出土状況（南から）

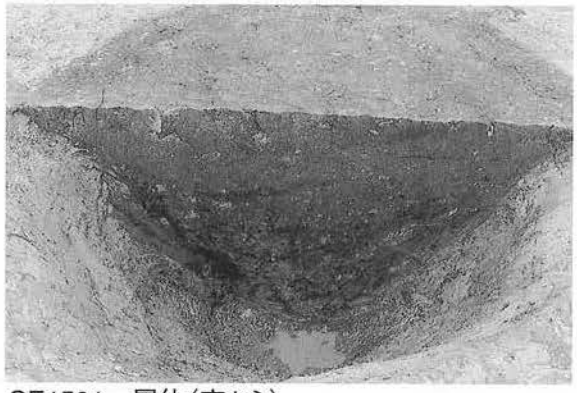


SK1097B　層位（南から）

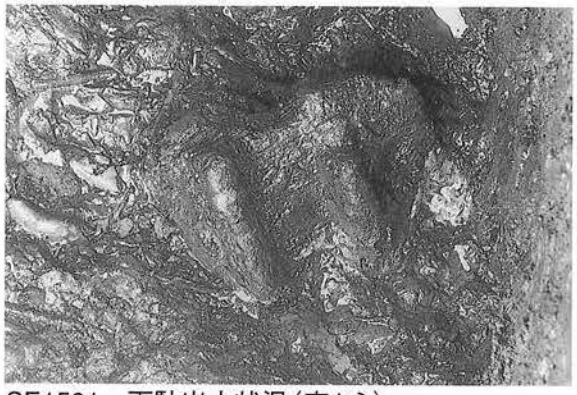


SK1097B　遺物出土状況（南から）

SD1321　層位（南から）

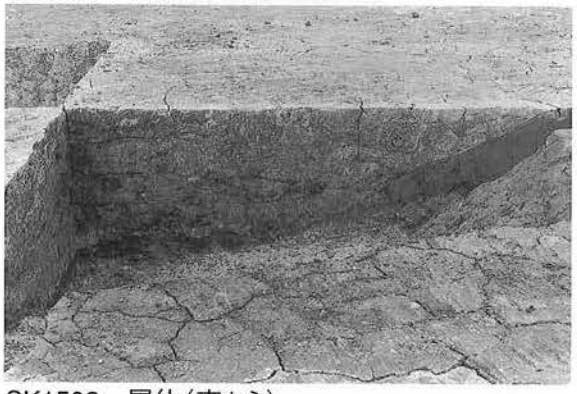


SE1501　層位（南から）



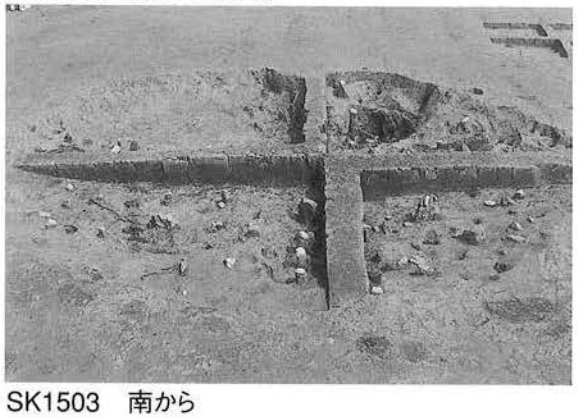
SE1501　下駄出土状況（南から）

SK1502・1503　検出（南から）



SK1502　層位（南から）

SK1502　完掘



SK1503　南から

SK1561　遺物出土状況

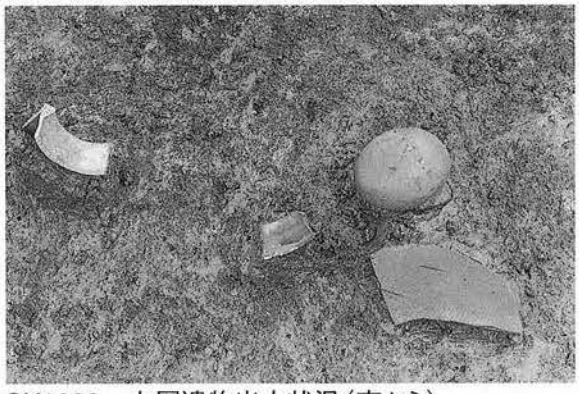
SE1576　層位（南から）

SE1576　漆器出土状況（南から）

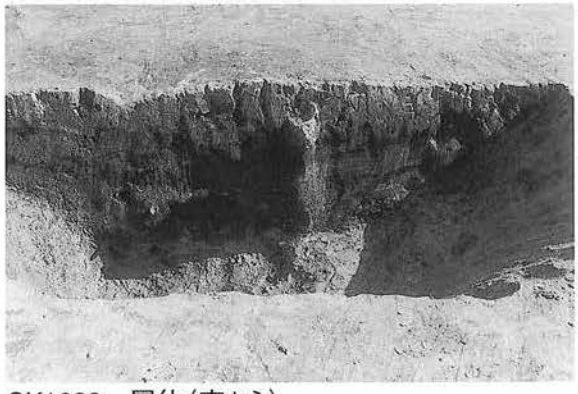
SE1603　東から

SE1603　漆器出土状況（東から）

SE1618　漆器出土状況（南から）



SK1628　上層遺物出土状況（南から）

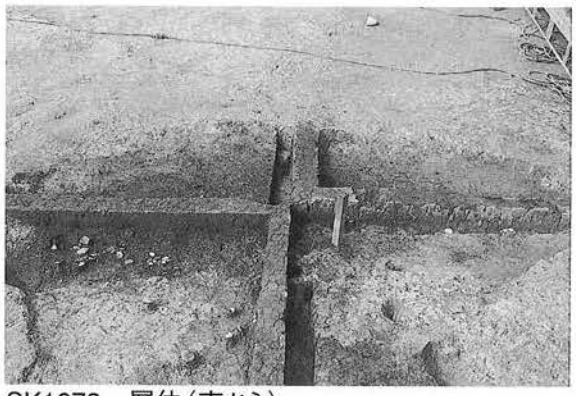


SK1628　層位（南から）

SK1638　層位（南から）

SK1647　完掘（南から）

SK1677　遺物出土状況（西から）

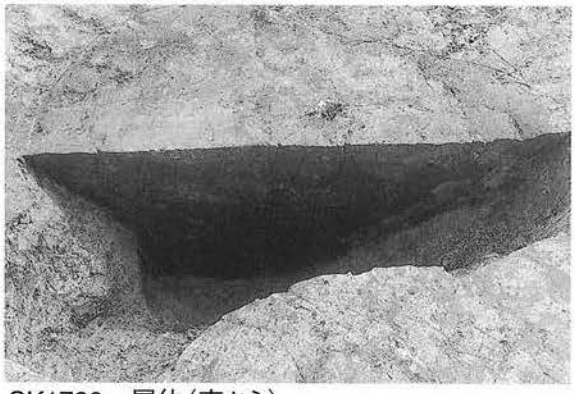

SK1678　層位（南から）

SK1678・1679・2255　完掘（南から）

SK1709　層位（南から）

SE1711　層位（南から）

SE1711　漆器出土状況（北から）

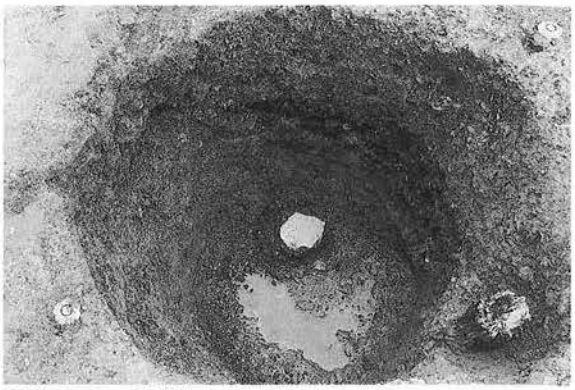

SK1729　層位（南から）

SK1772　層位（南から）

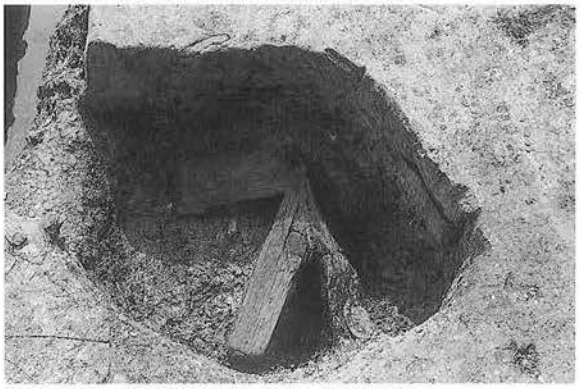
SK1844　層位（南から）

SK1844　漆器出土状況（北から）

SK1844　漆器出土状況（南西から）

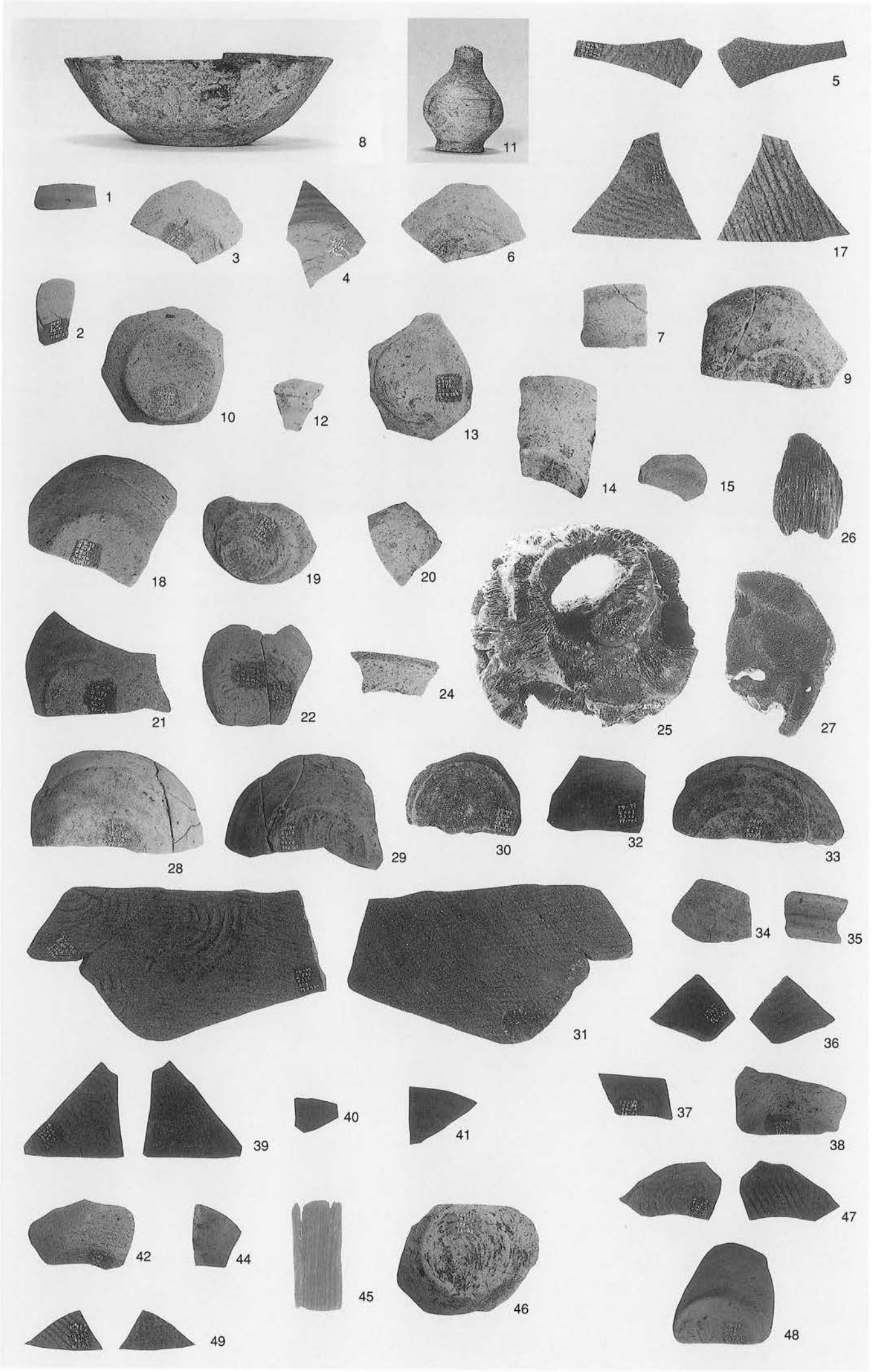


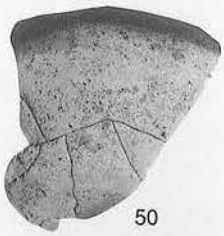
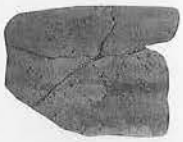
SK2109　完掘



SK2163　木製品出土状況（西から）

SK2167　輪花皿出土状況（南から）


8
11
5
1
3
4
6
17
2
7
9
10
12
13
14
15
26
18
19
20
21
22
24
25
27
28
29
30
32
33
34
35
31
36
39
40
41
37
38
42
44
45
46
47
48
49

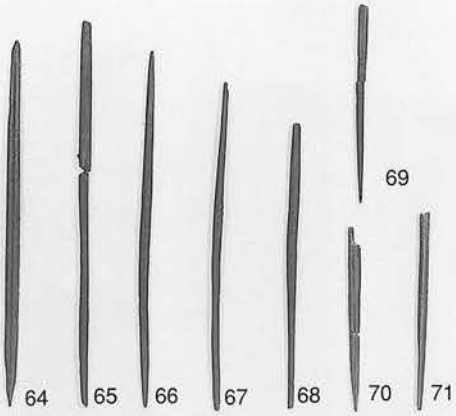
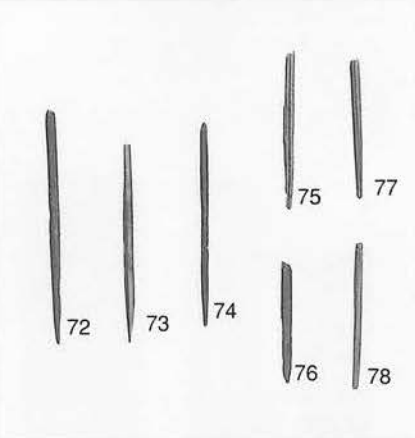

50

51

53

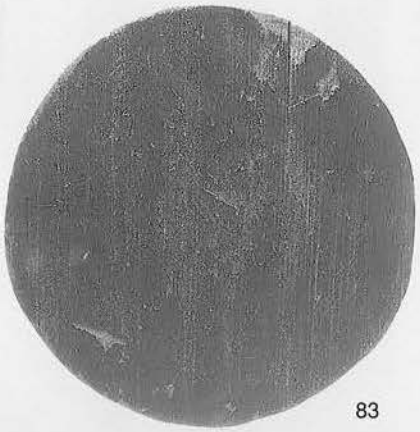
62

79

80

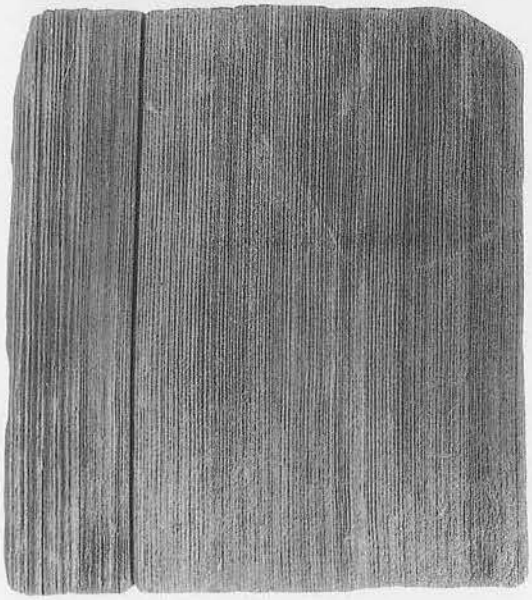
53

64 65 66 67 68 69 70 71

72 73 74 75 76 77 78

56

81

83

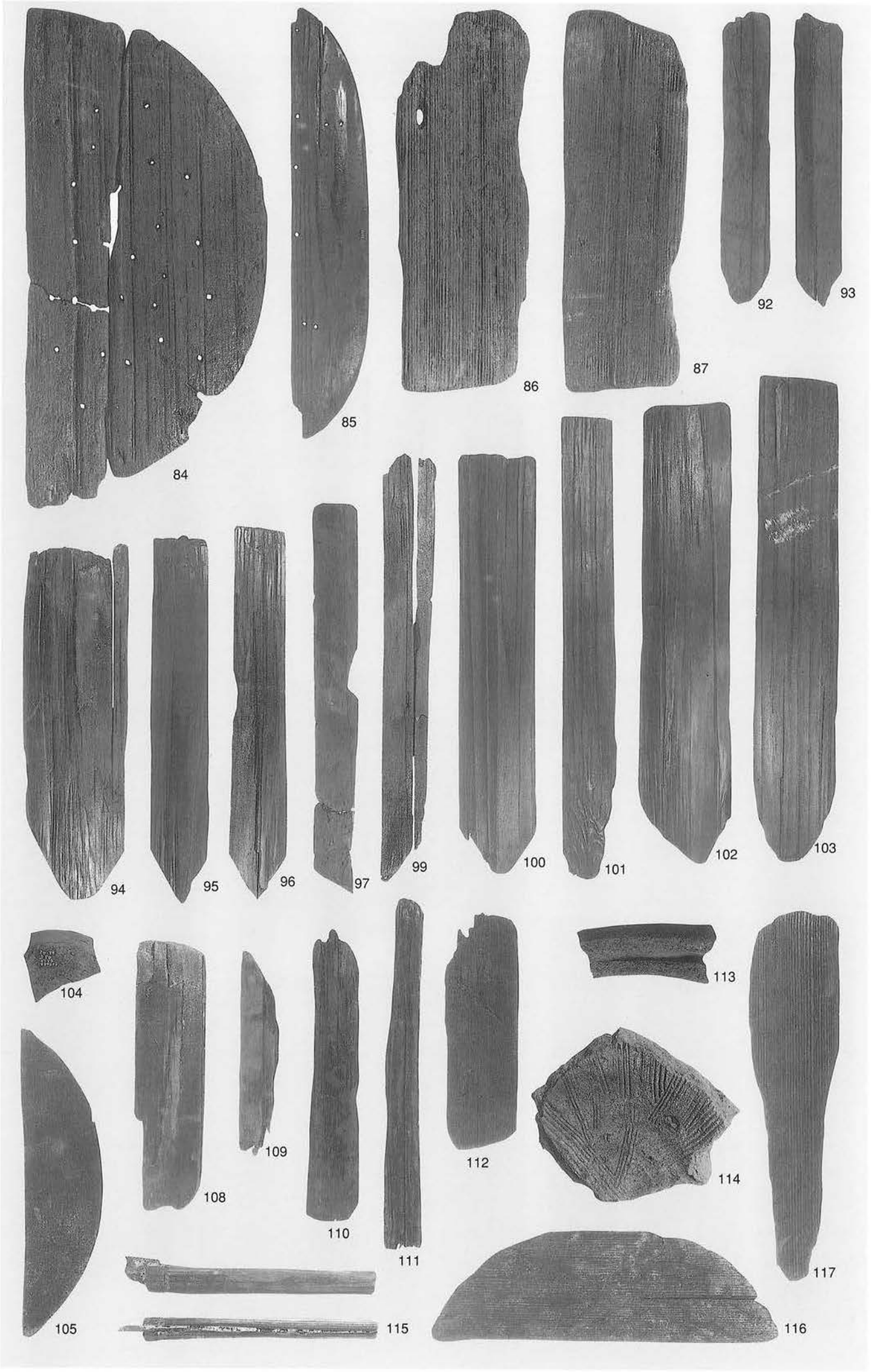
91

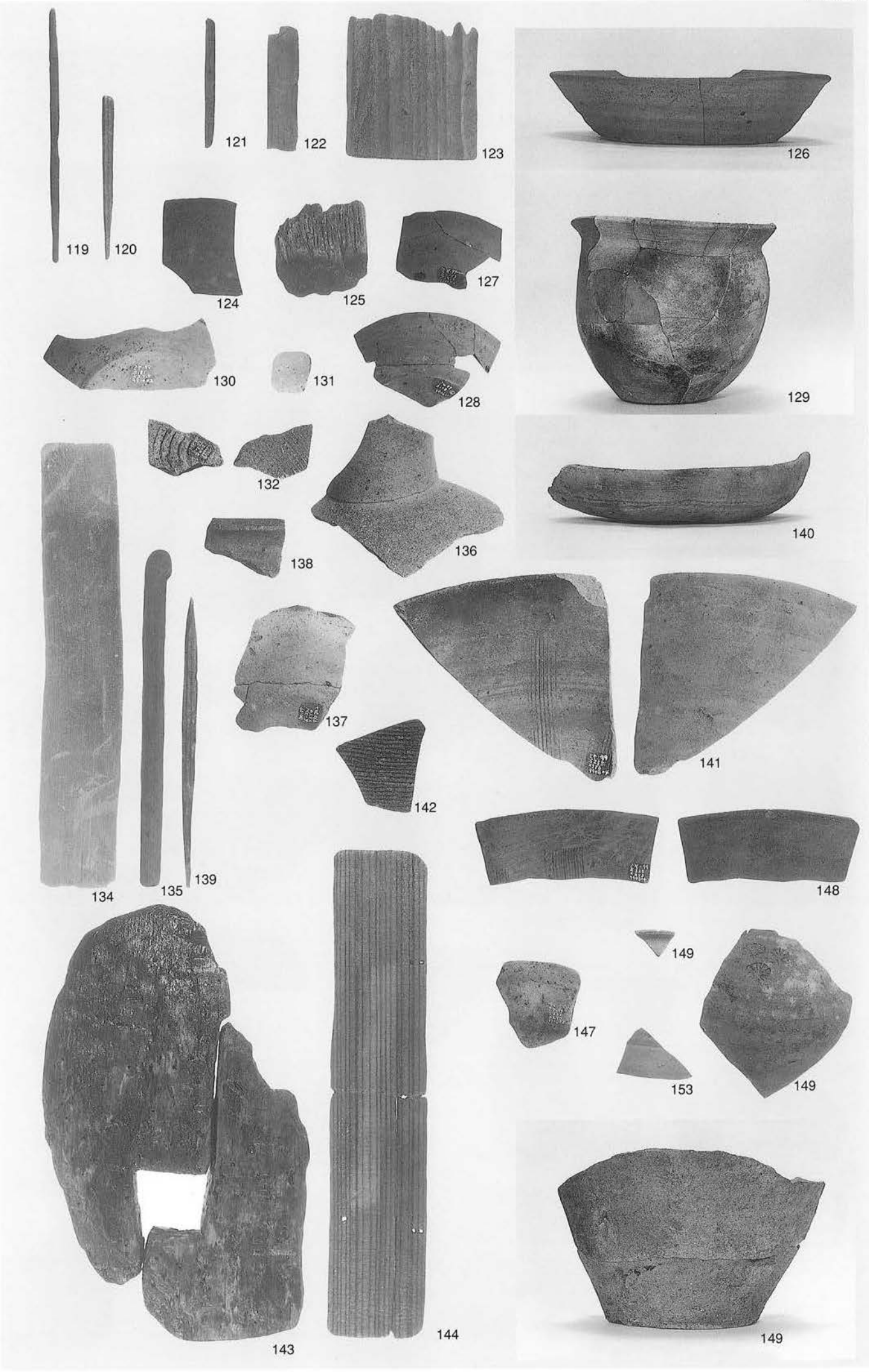
90

88

89

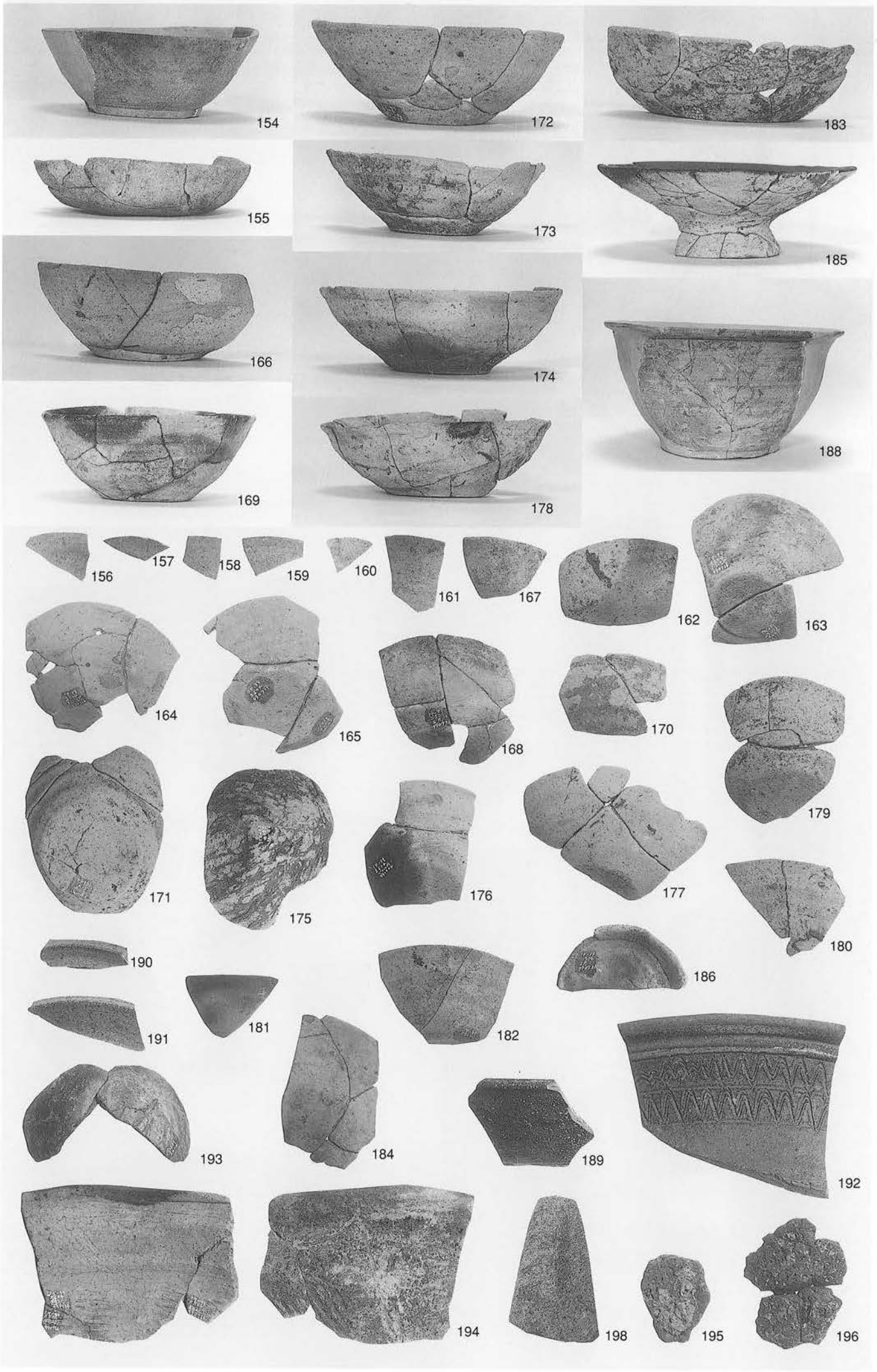
54

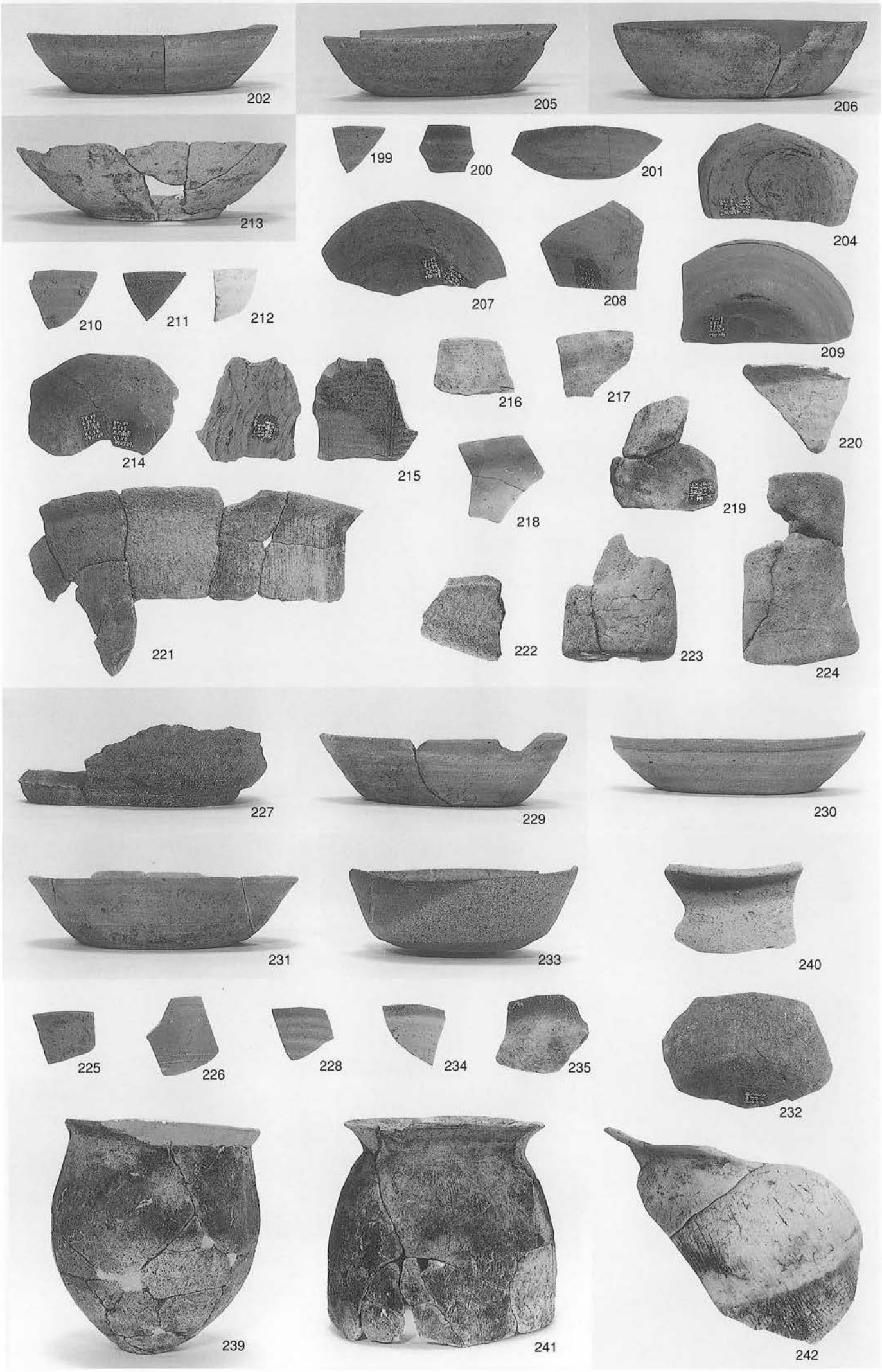
図版91

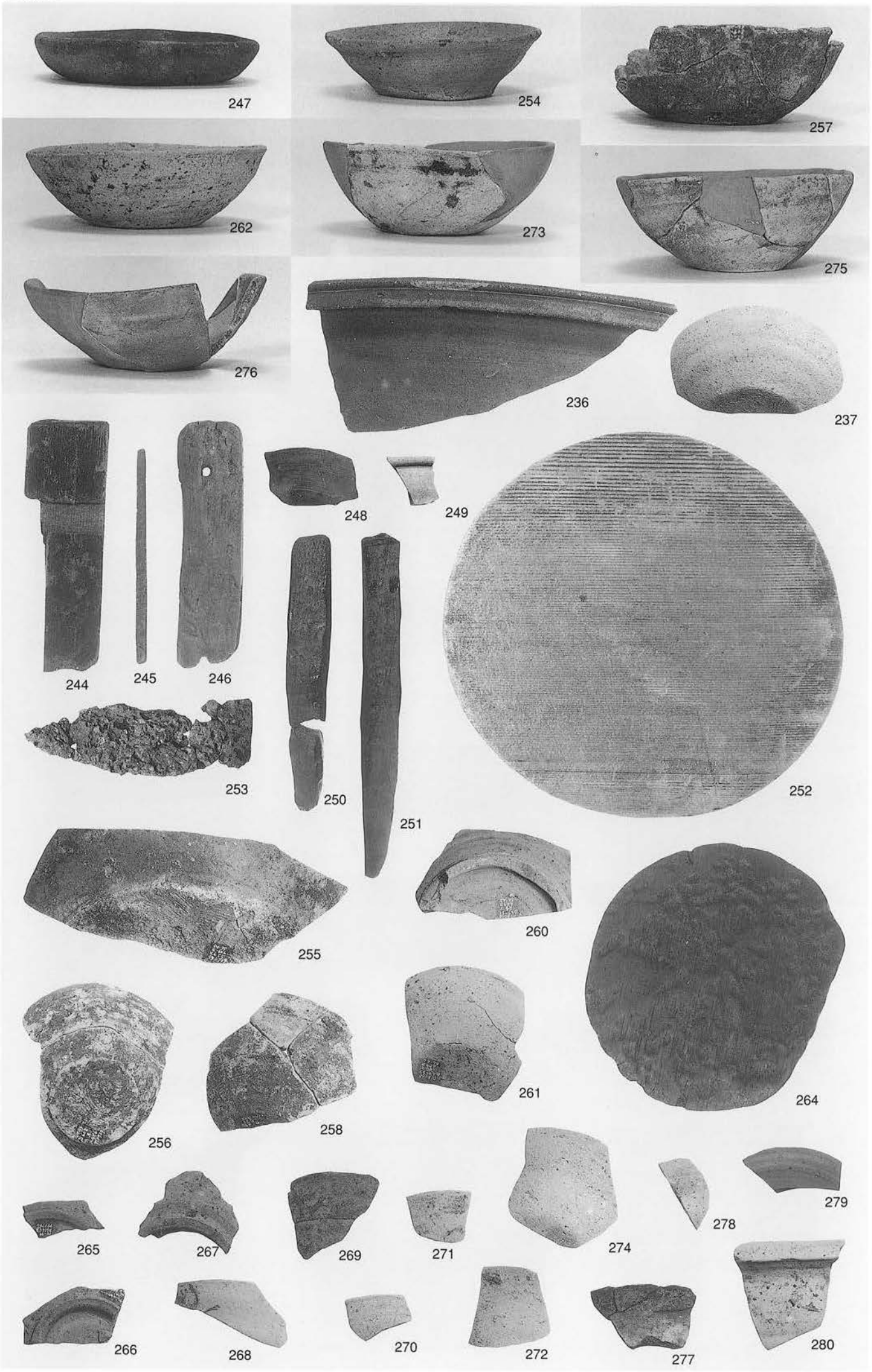

84
85
86
87
92
93
94
95
96
97
99
100
101
102
103
104
105
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117

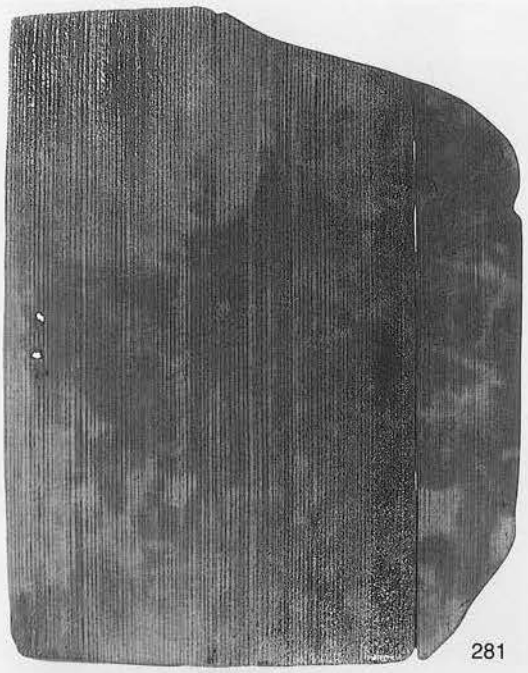

119
120
121
122
123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
134
135
136
137
138
139
140
141
142
143
144
147
148
149
149
153
149

図版93

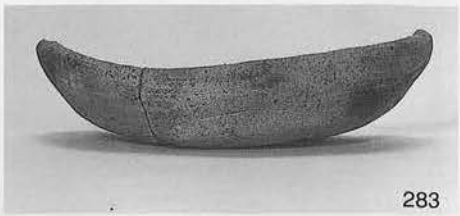

154
172
183
155
173
185
166
174
188
169
178
156
157
158
159
160
161
167
162
163
164
165
168
170
179
171
175
176
177
180
190
186
191
181
182
193
184
189
192
194
198
195
196

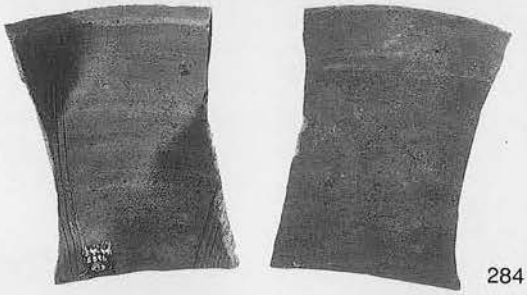

202
205
206
213
199
200
201
204
207
208
209
210
211
212
214
215
216
217
220
218
219
221
222
223
224
227
229
230
231
233
240
225
226
228
234
235
232
239
241
242


247
254
257
262
273
275
276
236
237
244
245
246
248
249
252
253
250
251
255
260
264
256
258
261
265
267
269
271
274
278
279
266
268
270
272
277
280


281

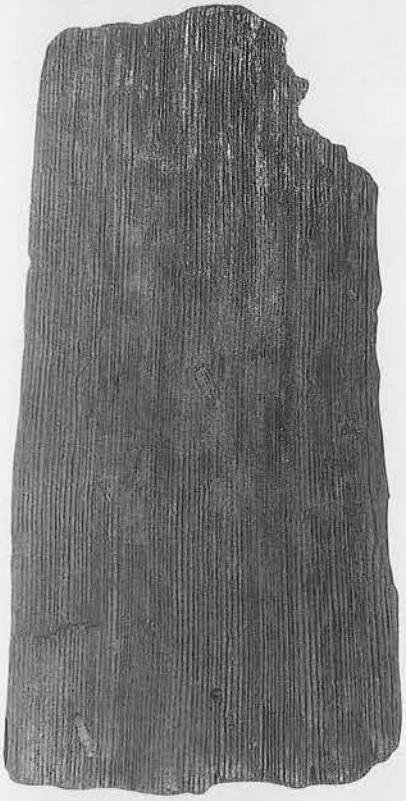
282

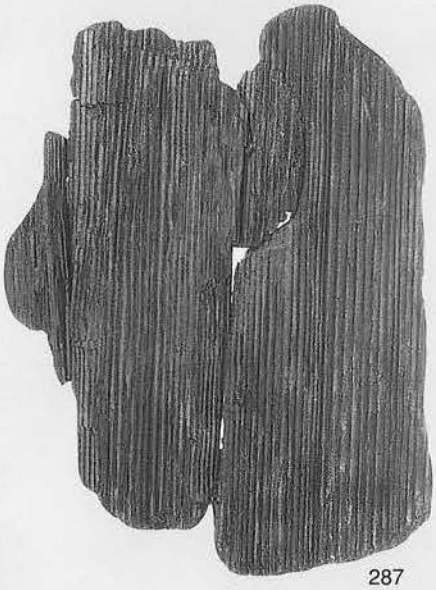

283


284

285

288


286


287

289

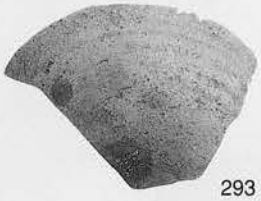
291

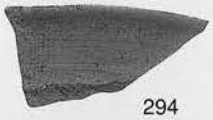
298

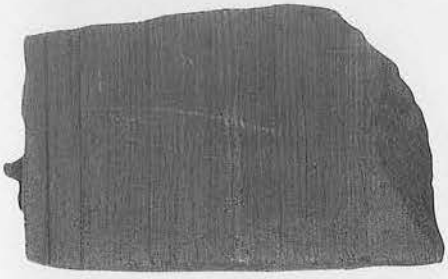
297

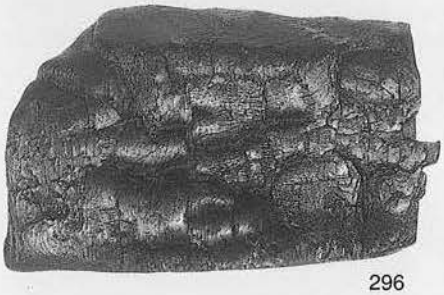
300

292

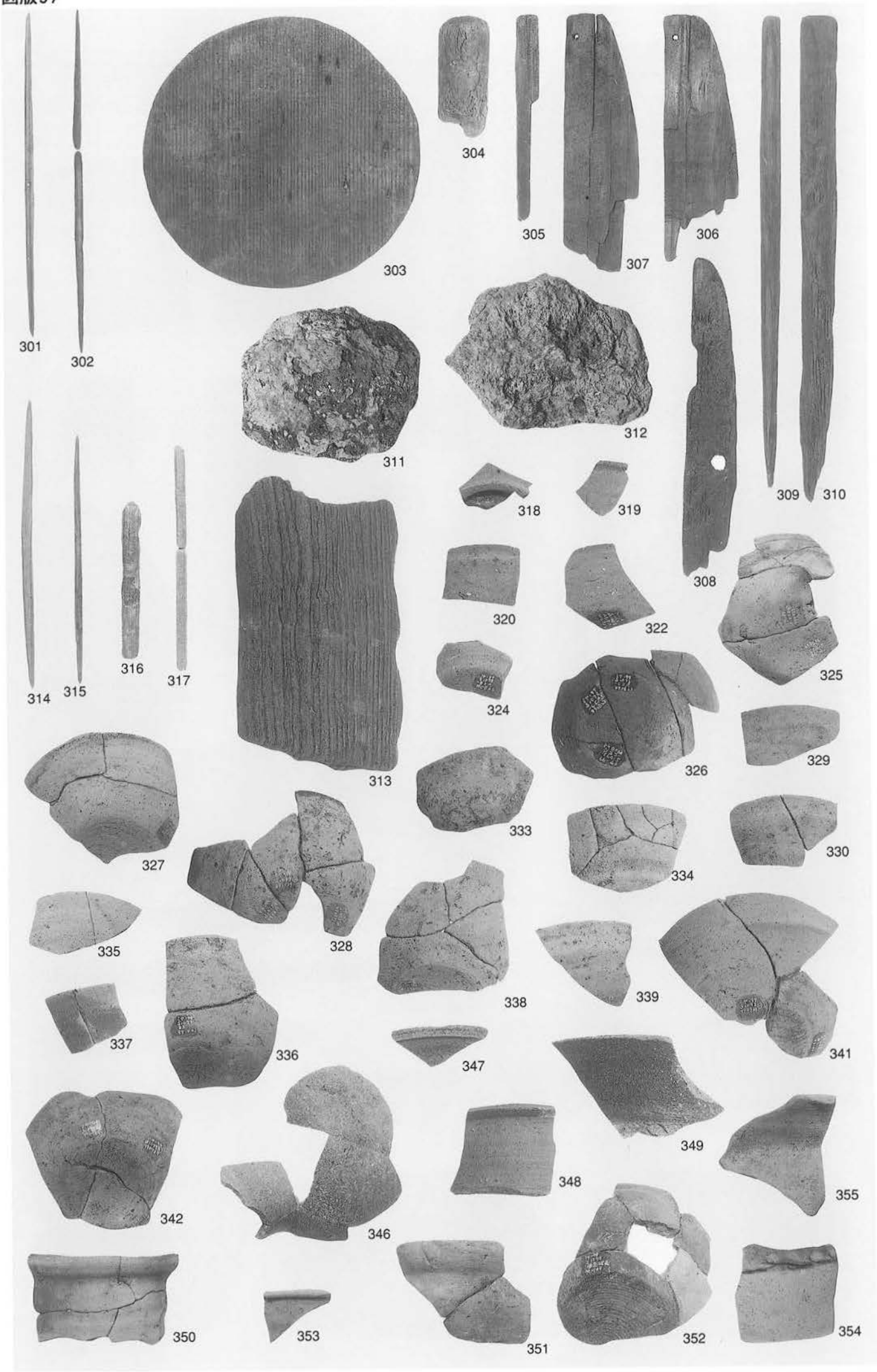

293

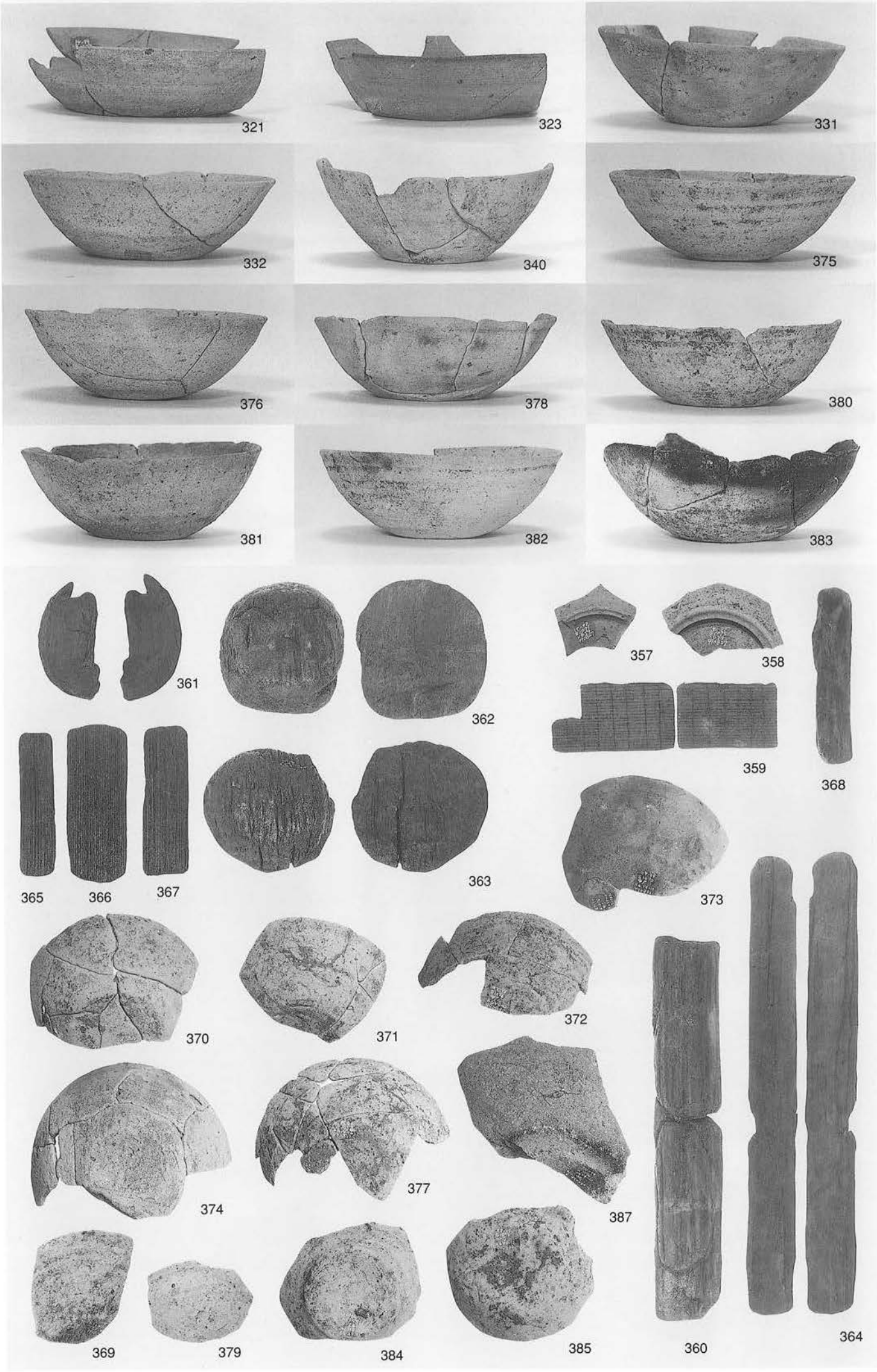

294

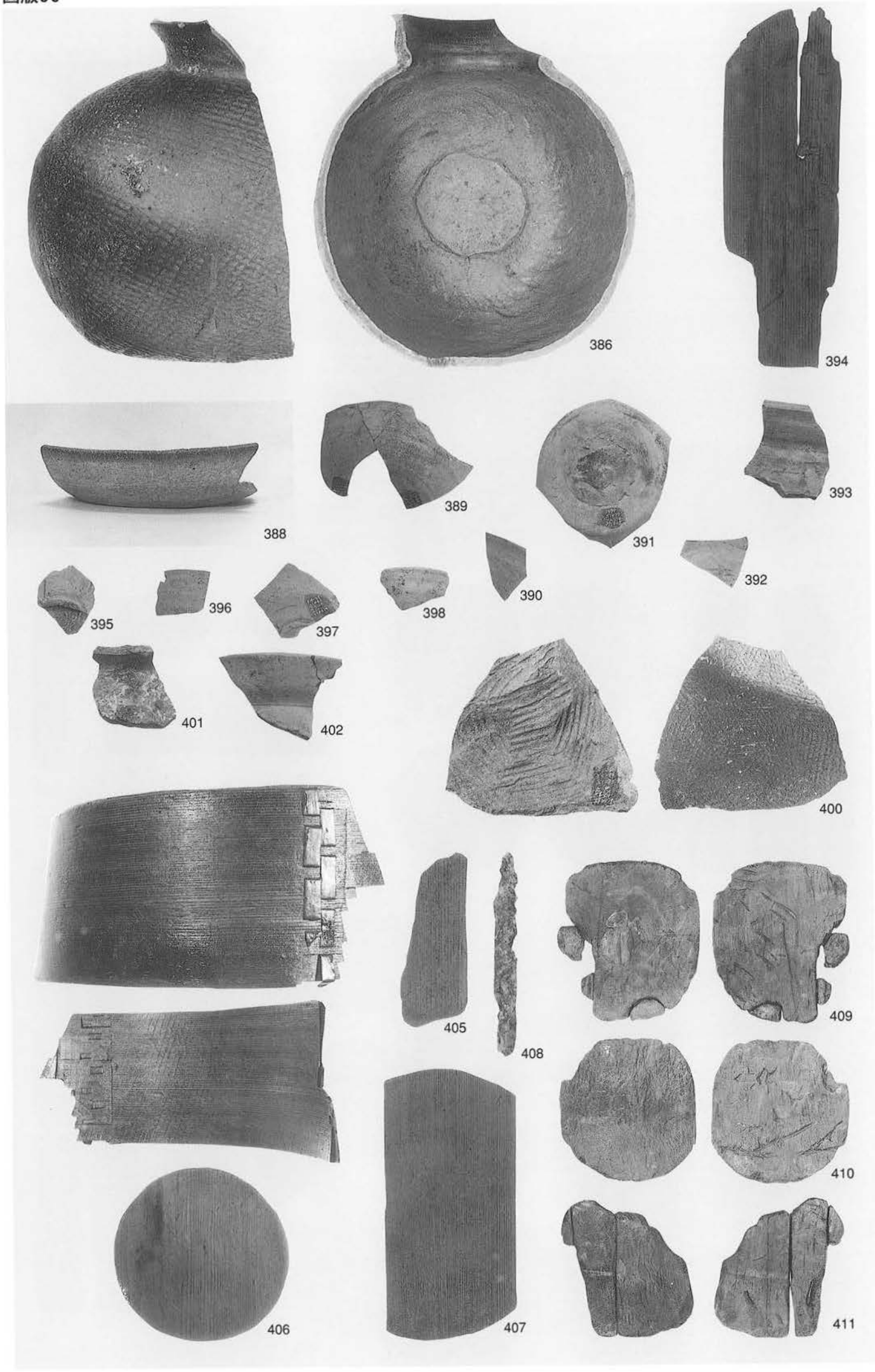


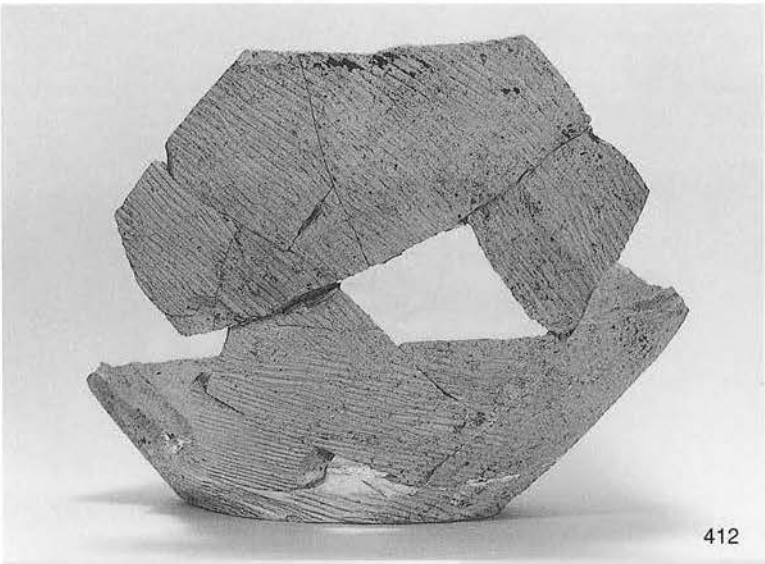

296

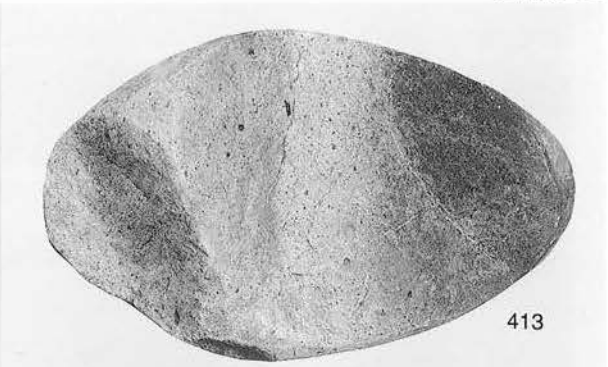
356


301
302
303
304
305
306
307
308
309
310
311
312
313
314
315
316
317
318
319
320
322
324
325
326
327
328
329
330
333
334
335
336
337
338
339
341
342
346
347
348
349
350
351
352
353
354
355


321
323
331
332
340
375
376
378
380
381
382
383
361
362
357
358
359
368
365
366
367
363
373
370
371
372
374
377
387
369
379
384
385
360
364

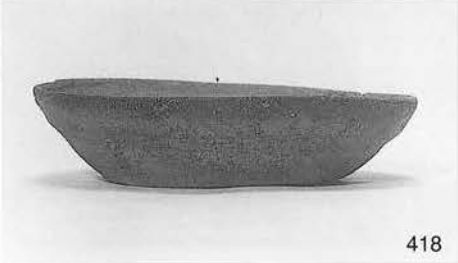

386
394
388
389
391
393
392
390
395
396
397
398
401
402
400
405
408
409
410
406
407
411


412


413

415

416


418

419

422

430

431

426

434

435

436

437

438

439

440

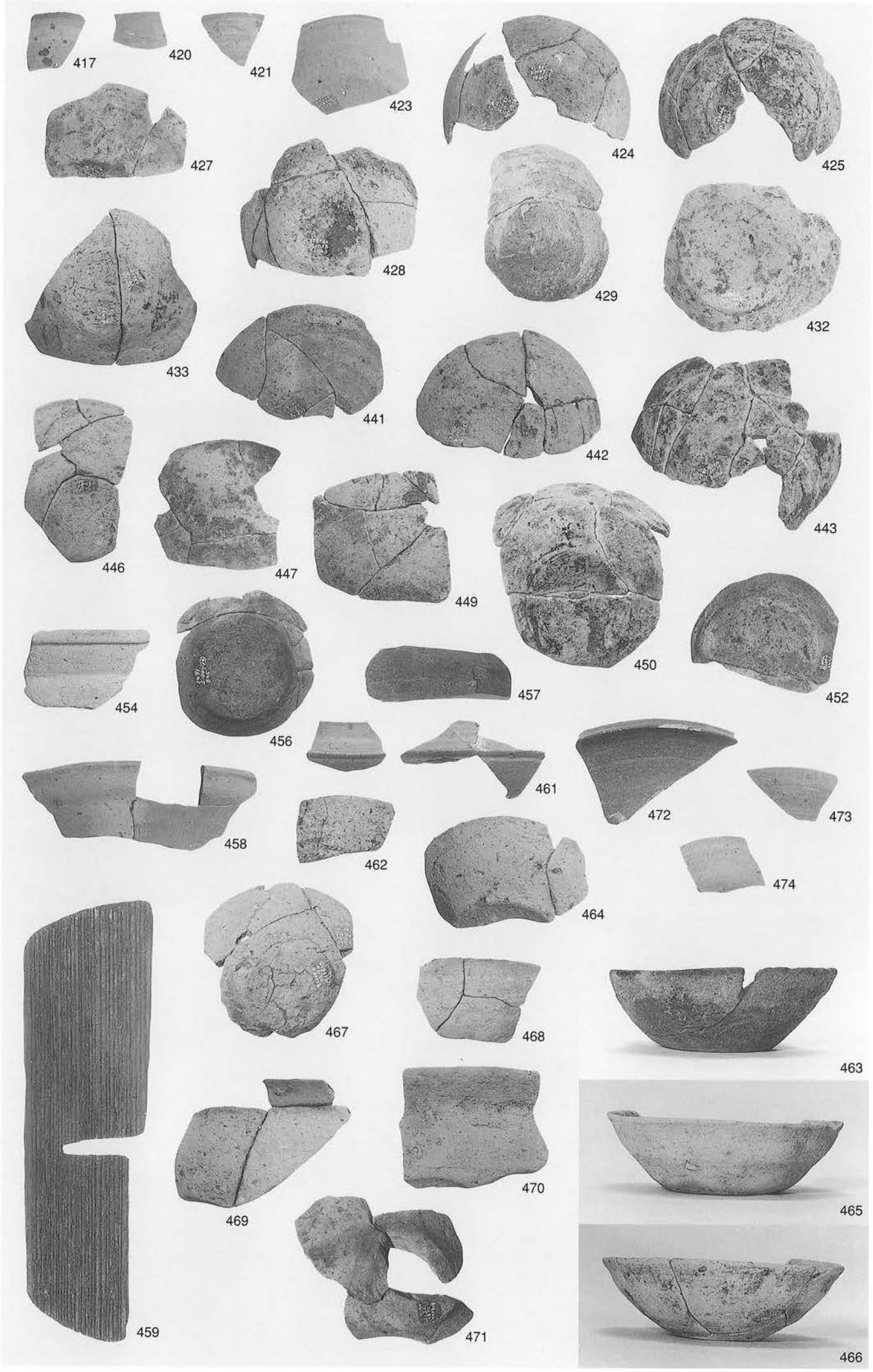
444

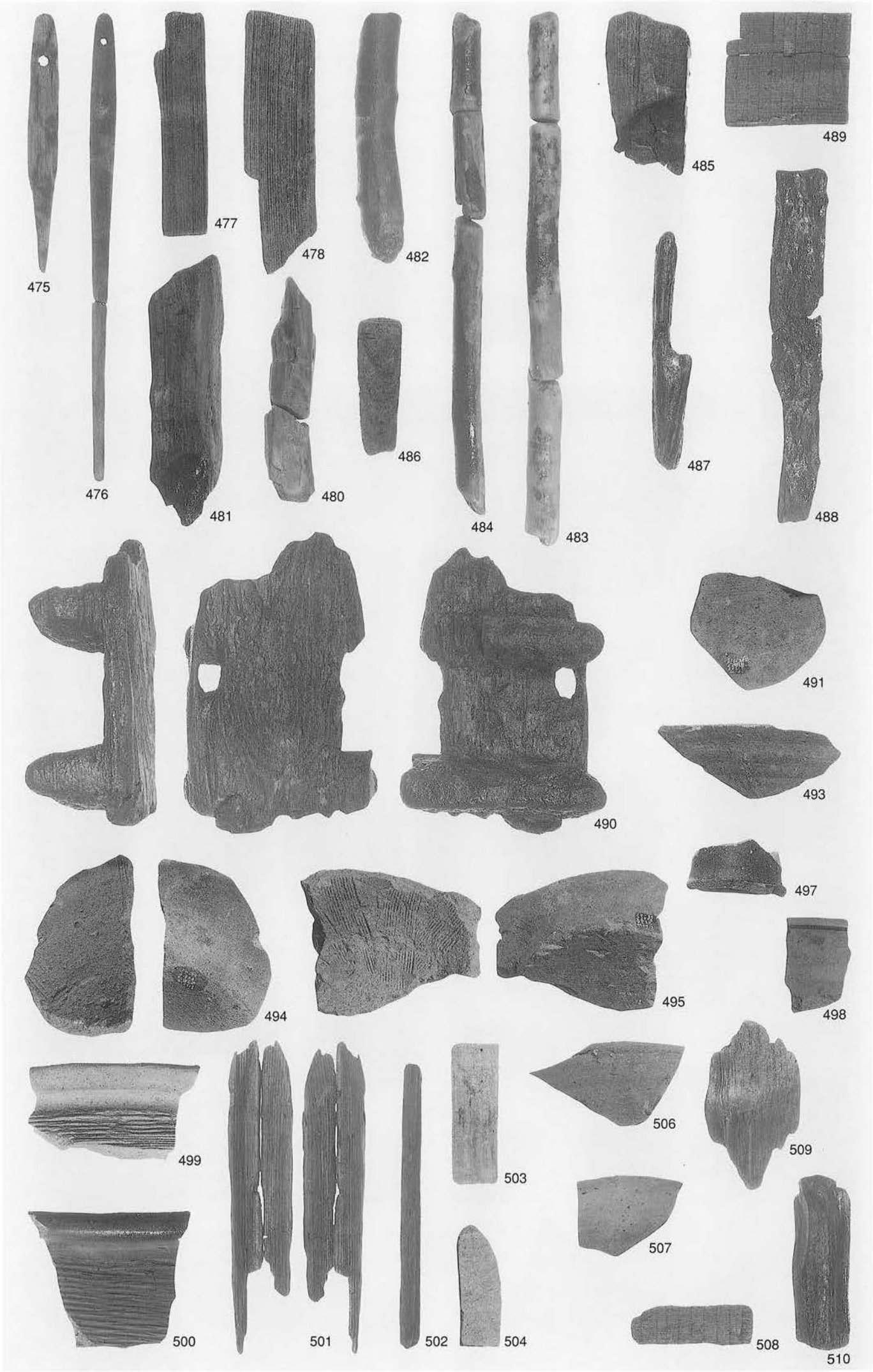
445

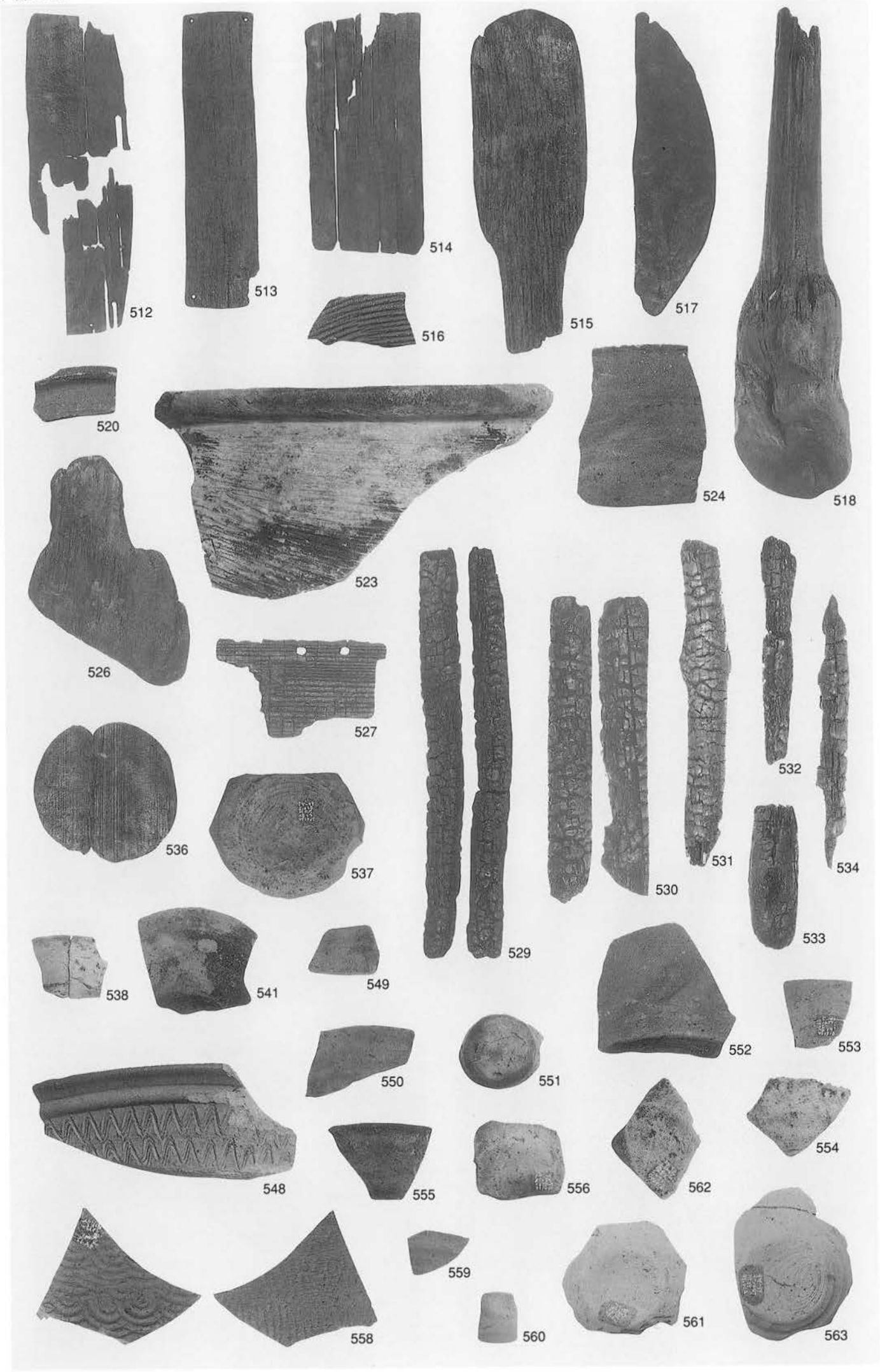
448

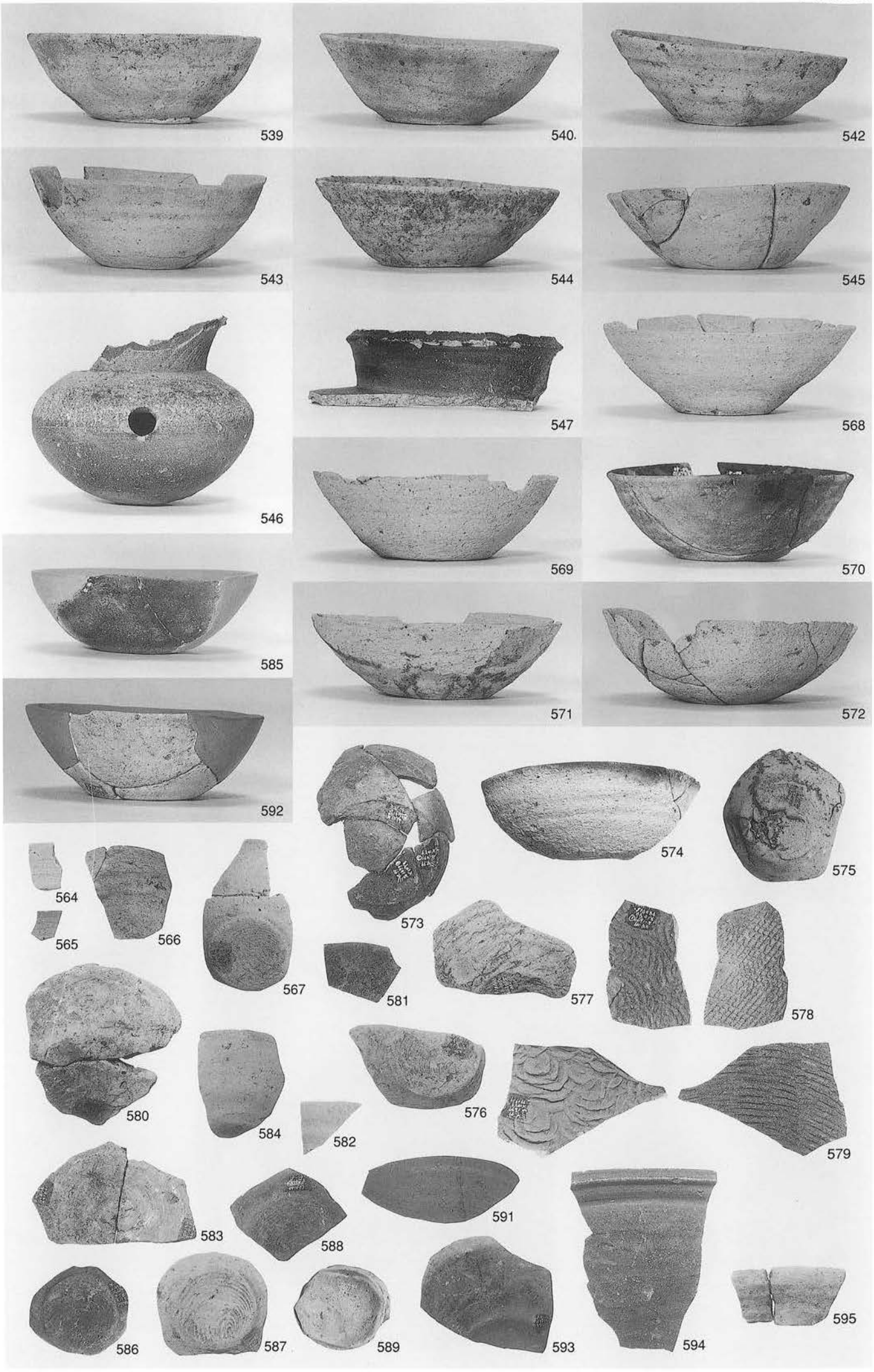
451

455


417
420
421
423
424
425
427
428
429
432
433
441
442
443
446
447
449
450
452
454
456
457
458
461
462
463
464
465
466
467
468
469
470
471
472
473
474
459


475
476
477
478
481
480
482
486
484
483
485
487
489
488
490
491
493
494
495
497
498
499
500
501
502
503
504
506
507
508
509
510

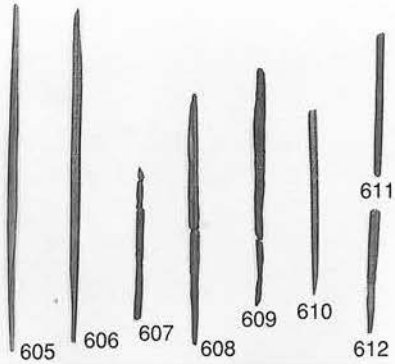

512
513
514
515
516
517
518
520
523
524
526
527
529
530
531
532
533
534
536
537
538
541
548
549
550
551
552
553
554
555
556
558
559
560
561
562
563

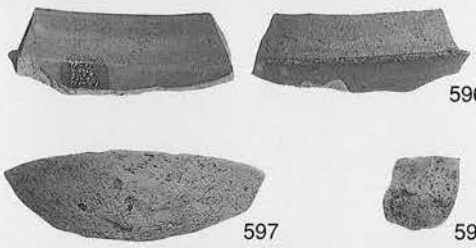

539
540.
542
543
544
545
546
547
568
569
570
571
572
585
592
564
565
566
567
573
574
575
576
577
578
579
580
581
582
583
584
586
587
588
589
591
593
594
595

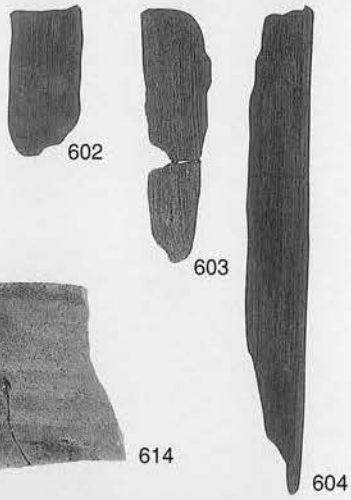
図版105

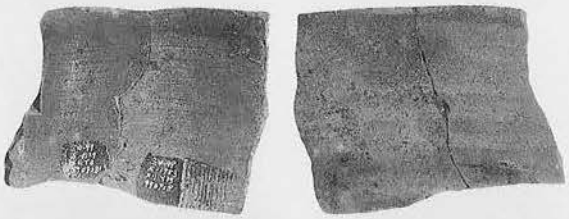
599

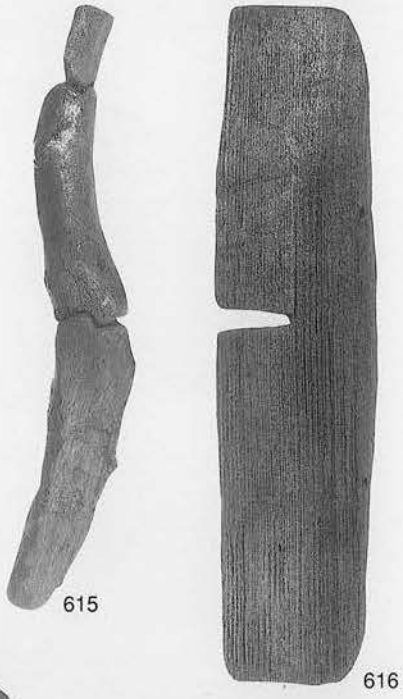
600

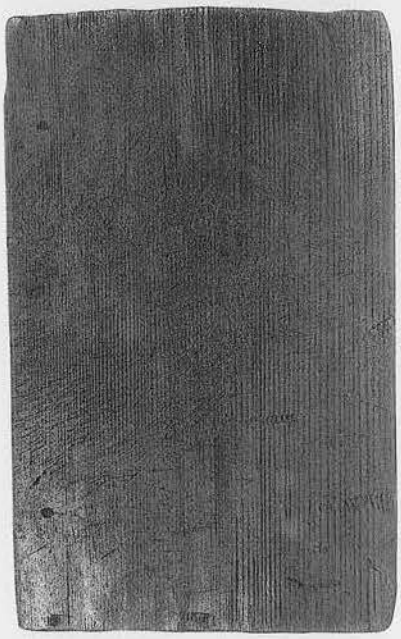

605 606 607 608 609 610 611 612

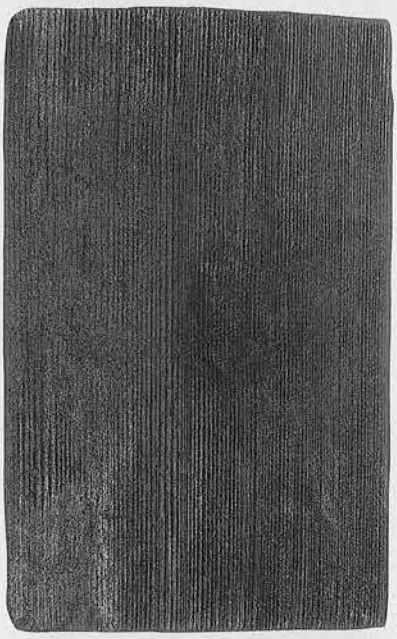

596 597 598


602 603 604


614


615 616

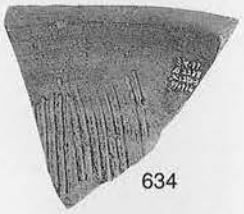


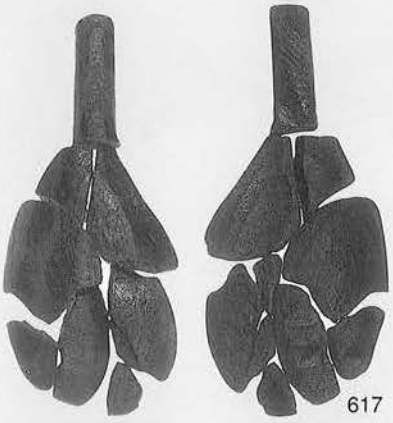

618

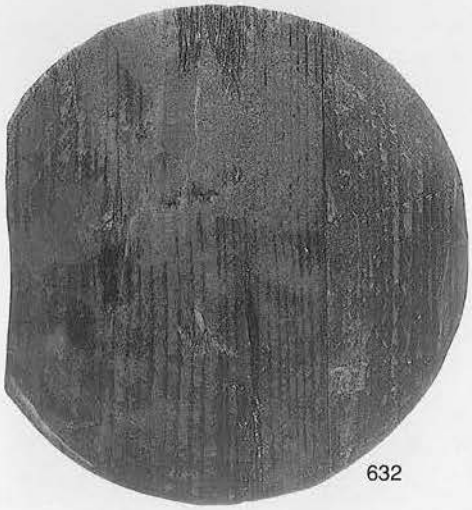
622

631

630


634


617


632

633

635

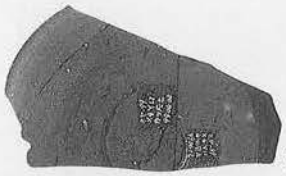
637

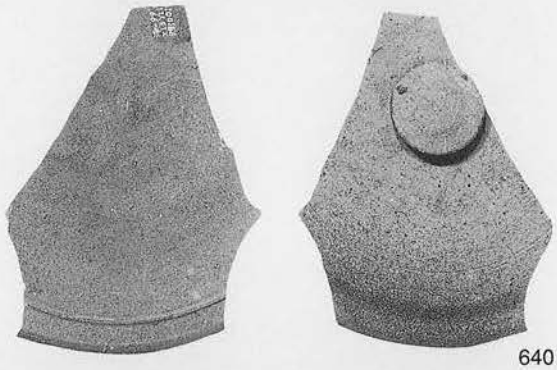
638

639

640

641


642


640

645

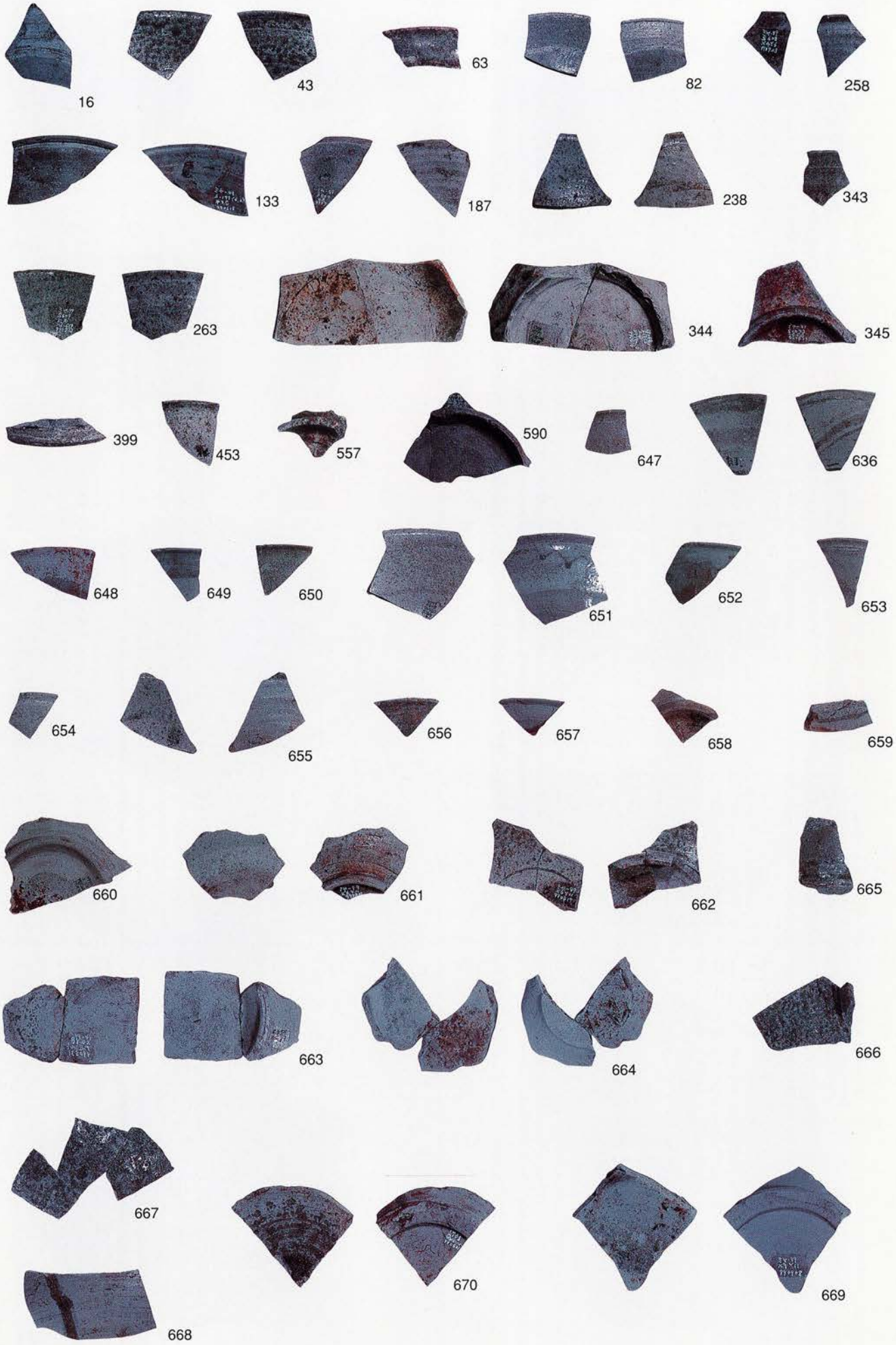
646

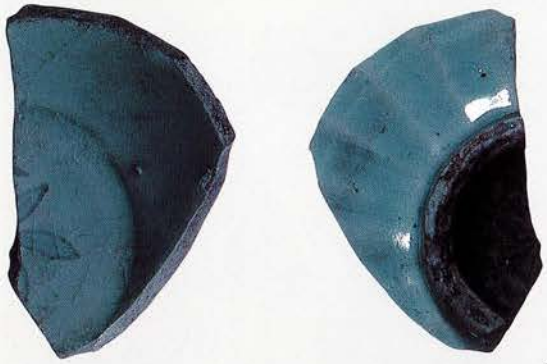
672

673

643

644


16
43
63
82
258
133
187
238
343
263
344
345
399
453
557
590
647
636
648
649
650
651
652
653
654
655
656
657
658
659
660
661
662
665
663
664
666
667
670
669
668



118

476

620

492

519

629

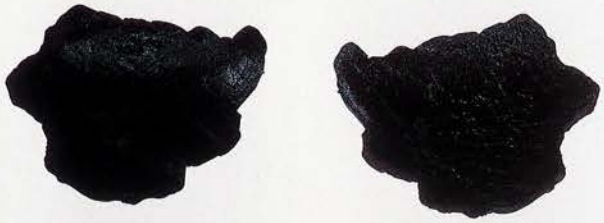
619 625 671

243 295 601

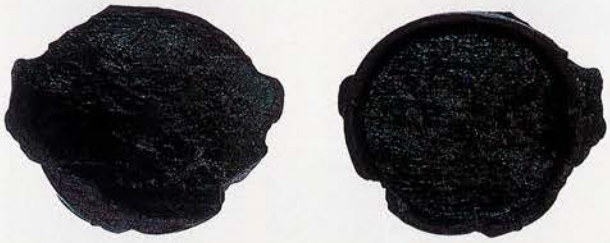
299 460 511

521 626

621



525



623

535

613

ふりがな	みやのまえいせきはっくつちょうさほうこくしょ
書　　名	宮ノ前遺跡発掘調査報告書
副 書 名	西山町文化財調査報告書
シリーズ名	第7集
編集者名	中島義人
編集機関	西山町教育委員会
所 在 地	〒949−4193　新潟県刈羽郡西山町大字池浦117−2　TEL(0257)47−4006
発行年月日	2003年3月14日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所　在　地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 ′　″　°	東経 ′　″　°	調査期間	調査面積 m²	調査原因
みやまえいせき 宮ノ前遺跡	にいがたけんかりわぐんにしやままちおおあざ 新潟県刈羽郡西山町大字 きたのあざみやまえ 北野字宮ノ前3014−1ほか	15505	172	37度 25分 56秒	138度 39分 5秒	19990419 〜 19991008	3,850	県営ほ場整備事業北野地区による

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
宮ノ前遺跡	散布地	古墳時代 平安時代 中世	掘立柱建物跡・井戸・土坑・溝	須恵器・土師器・灰釉陶器・珠洲焼き・瀬戸・青磁・漆器木器・木製品	古墳時代は畠田遺跡と強い関連・平安時代は掘立柱建物・溝が計画的に配置され、灰釉陶器が多数出土・中世は井戸などから多数の木製品が出土

西山町文化財調査報告書第7集

新潟県刈羽郡西山町

宮ノ前遺跡発掘調査報告書

−県営ほ場整備事業北野地区に伴う発掘調査−

2003年3月

発行　西山町教育委員会

印刷　北越印刷株式会社
長岡市福住1丁目6−27

宮ノ前遺跡遺構全体図（S=1：200）